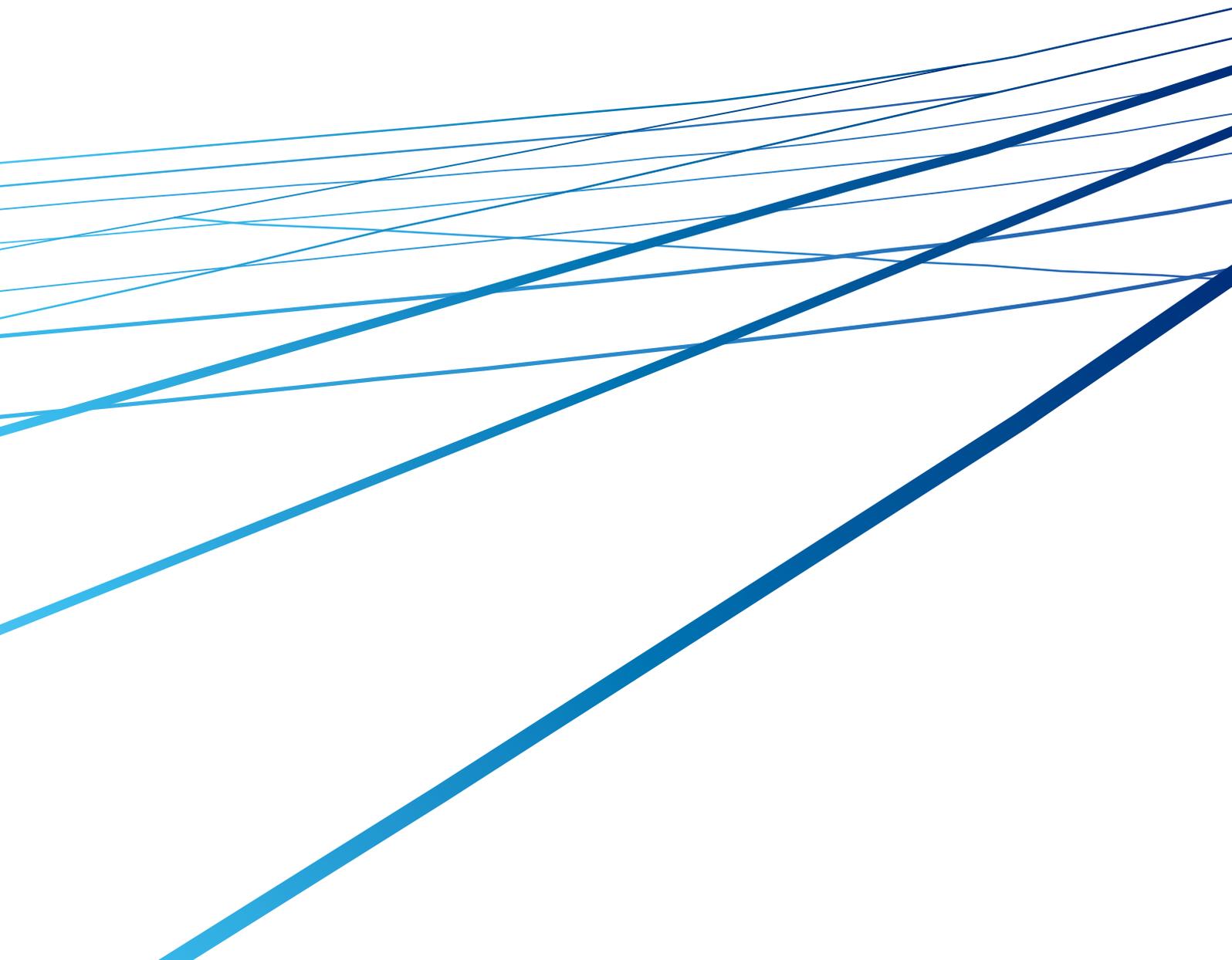


筑波大学体育系業績集

2014.1.1~2014.12.31



体育・スポーツ学分野

研究業績

1. 学会発表

Yoshinori Okade and Etsushi Hasegawa: Physical Education and PETE for Elementary School Teachers in Japan. AIESEP University of Auckland, 2014. 2.

2. 学術論文

北村政弘, 岡出美則, 近藤智靖, 内田祐三: 小学校中・高学年におけるネット型ゲームのゲームパフォーマンスに関する達成基準の事例的検討. 体育科教育学研究, 30 (1), 1-16, 2014.

菊池章人, 岡出美則, 坂入洋右, 征矢英昭: 東北被災地小学校体育への2分間垂直跳び体操支援の試み. 筑波大学体育系紀要, 37, 63-72, 2014.

荻原朋子, 岡出美則, 須甲理生, 四方田健二: 中学校体育授業における素朴概念修正のための学習指導方略の検討: バレーボール单元におけるオーバーハンドパスを対象として. 体育学研究, 59, 639-652, 2014.

3. その他論文

岡出美則: 学校体育に関わる人的資源. 笹川スポーツ財団. スポーツ白書～スポーツの使命と可能性～. 笹川スポーツ財団, 157-160, 2014.

4. 著 書

岡出美則: 学習指導要領で求められる子どもの身体. 澤江幸則, 木塚朝博, 中込四郎 (編) 身体性コンピテンスと未来の子どもの育ち. 明石書店, 東京, 141-159, 2014.

5. 受 賞

平成 26 年度日本水泳学会論文賞 水泳選手の技術に関する研究

社会貢献活動

日本体育学会理事 (平成 21 年～)

日本スポーツ教育学会理事長 (平成 21 年～)

日本体育科教育学会副会長 (平成 23 年～)

公益財団法人日本学校体育研究連合会理事長 (平成 26 年～)

公益財団法人日本フラグフットボール協会代表理事 (平成 25 年～)

公共機関, 企業等からの委託業務

「ミャンマー国初等教育カリキュラム改訂プロジェクト」

研究業績

1. 学会発表

菊 幸一：2020 東京オリンピック・パラリンピック大会に向けたスポーツ政策の動向－ポスト・オリンピックの憂鬱－. 台湾師範大学講演会, 台北, 2014. 10.

菊 幸一：日本におけるスポーツ政策の動向－「みんなのスポーツ」から「生涯スポーツ」へ－. 2014 年度全民運動及體育政策研討會特別講演 I, 台北, 2014. 11.

2. 学術論文

菊 幸一：体育カリキュラムの現代化と脱政治化の論理. 体育科教育学研究, 30 (2), 81-88, 2014.

3. その他論文

菊 幸一：これから求められる体育学習と適切な指導の在り方. 平成 25 年度長野県学校体育研究会・下伊那大会研究集録, 1-18, 資料 1-5, 2014.

舛本直文, 長登 健, 菊 幸一, 坂本拓弥, 林 洋輔：体育・スポーツ指導における体罰・暴力問題：人間の尊厳保持と豊かなスポーツ文化の発展に向けて. 体育・スポーツ哲学研究, 36 (1), 55-67, 2014.

Japan Society of Sport Sociology; INOUE Shun, KAMEYAMA Yoshiaki, KIKU Koichi, MORIKAWA Sadao, SAEKI Toshio, SUGIMOTO Atsuo, Lee THOMPSON: Message to Sociologists Around the World from the Japan Society of Sport Sociology. Japan Consortium for Sociological Societies, Editorial Committee for "Message to the World" (ed.), Message to the World from Japanese Sociological and Social Welfare Studies Societies, X VIII ISA World Congress of Sociology, Yokohama, Japan, 275-282, 2014.

菊 幸一：女性トップアスリートによるスポーツプロモーションの可能性～ポスト 2020 の行方～. 女子体育, 56 (8・9), 62-67, 2014.

4. 著 書

菊 幸一：「スポーツ宣言日本」の意義と総合型地域スポーツクラブの未来. 黒須充・水上博司編, スポーツ・コモンズ, 創文企画, 97-117, 2014.

菊 幸一：嘉納治五郎は日本の体育やスポーツをどのように考えていたのか. 現代スポーツを考えるために－嘉納治五郎の成果と課題から－. 嘉納治五郎に学ぶ日本のスポーツのこれから. あとがき. 日本体育協会監修, 菊 幸一編, 現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか－オリンピック・体育・柔道の新たなビジョン－, ミネルヴァ書房, 1-10, 277-300, 300-314, 315-317, 2014.

菊 幸一：現代社会の特徴から“みた”子どもの身体－私たちは子どもの身体をどのように“みる”べきか－. 澤江幸則・木塚朝博・中込四郎編, 身体性コンピテンスと未来の子どもの育ち, 明石書店, 118-140, 2014.

教育活動

2. 一般向け著書等

菊 幸一：第 58 回全国体育学習研究協議会下伊那大会を終えて－世代間格差を超えて－. 第 58 回全国体育学習研究協議会下伊那大会つみかさね, 1, 2014.

菊 幸一：プロ野球選手のセカンドキャリア問題を考える；野球界の特別な背景, スポーツゴジラ,

24, 19-26, 2014.

菊 幸一：運動・スポーツの楽しさや必要性を科学的に理解し、実生活において活用しようとする態度を養う体育学習，第52回全国学校体育研究大会東京大会「第13分科会墨田区立両国中学校」報告書，200-202，2014.

菊 幸一：編集後記．体育学研究，59(1)，397，2014.

菊 幸一：第23回日本体育・スポーツ政策学会報告：学会大会を終えて．日本体育・スポーツ政策学会会報，25，2，2014.

菊 幸一：あいさつ．第59回全国体育学習研究協議会佐賀大会，1，2014. 11.

3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

「茨城県高等学校体育主任研修会講演 豊かなスポーツライフの実現に向けた体育学習と適切な指導の在り方」(笠間市，1月27日)

「千葉県庁教育委員会小学校体育科・中学校保健体育科教科主任等研修会講演 学校におけるスポーツマンシップ学習の推進」(多古町，4月16日)

「船橋市立旭中学校教員研修会講演 今，授業に何が求められているのかー体育授業の研究を通じた現場からの発信の重要性ー」(船橋市，4月24日)

「船橋市教育委員会指定学校体育研究校『テーマ:武道(柔道)必修化に伴う中学校授業の実践』指導」(船橋市，2月14日，6月9日，7月10日，11月4日，11月19日)

「岩手県運動部活動指導者研修会講演 一人一人の生徒が輝く運動部活動をめざしてー『体罰』や『暴力』のない指導とは?ー」(盛岡市，5月8日)

神田外語大学・グローバルスポーツコミュニケーションセミナー2014「グローバル社会におけるこれからのスポーツー『スポーツ宣言日本』からー」(千葉市，5月21日)

「(公財)日本体育協会公認コーチ・教師・AT養成共通科目講習会講義 社会の中のスポーツ」(東京都，9月3日，10月8日，大阪市，11月8日)

「船橋市教育委員会指定保健体育科公開研究会講演 学校体育におけるこれからの授業を考えるー旭中学校公開授業への歩みを振り返りながらー」(船橋市，11月19日)

「岩手県高等学校保健体育研究大会講演 あなたは何のために運動部活動の指導をしますかー本当に強いチーム・強い選手を育てるための指導法ー」(雫石町，11月21日)

「熊本県中学校保健体育研究発表大会特別講演 体罰や暴力のない指導とは?ー一人ひとりの生徒が輝く体育・スポーツ指導をめざしてー」(宇土市，11月27日)

大阪体育大学・スポーツ科学セミナー(第11回)「スポーツの未来を考えるためにーポスト2020の行方ー」(熊取町，12月8日)

社会貢献活動

日本体育学会理事(2009年～，「体育学研究」編集長2013年～)

日本体育学会政策検討・諮問委員会副委員長(2014年～)

日本体育学会「体罰・暴力根絶特別委員会」体育科教育学専門領域選出協力委員(2014年～)

日本スポーツ社会学会理事(理事長2007年～2011年，2013年～)

日本体育科教育学会理事(2006年～)

日本体育・スポーツ政策学会理事(2005年～)

東京体育学会常任理事(2011年～)

全国体育学習研究会会長(2008年～)

文部科学省「体育の教育課程に関する調査研究」協力者（2013年～）
国立教育政策研究所「高等学校学習指導要領実施状況調査問題作成委員会・体育」委員長（2014年～）
日本体育協会スポーツ医・科学研究委員会委員（1999年～）
日本体育協会公認スポーツ指導者養成研修講座講師（2001年～，共通科目・科目別主任講師2010年～）
日本体育協会国民体育大会検討小委員会委員（2005年～）
日本体育協会国民体育大会委員会委員（2005年～）
日本体育協会秩父宮記念スポーツ医・科学賞選考委員会作業部会委員（2005年～）
全日本柔道連盟柔道MINDプロジェクト特別委員会委員（2014年～）
杉並区体育施設指定管理選定委員会委員長（2005年～）

教授 齋藤健司

研究業績

1. 学会発表

Kenji Saito: Level of Analysis on Sport Policy in Asia and Multi-level Governance of Mega-sporting Events, 2014 Incheon Asian Games International Sport Science Congress, Gyeongin National University of Education, 2014. 8. 21.

李 伯韜，齋藤健司：日本における法令用語に関する一考察－「競技者」，「アスリート」及び「選手」の概念を中心として－，日本スポーツ法学会第22回大会，東京学芸大学，2014. 12. 20.

2. 学術論文

Kenji Saito: Level of Analysis on Sport Policy in Asia and Multi-level Governance of Mega-sporting Events, Mutual Understanding, Trust, and Respect Among Asias: Can Sport Be the Answer?, Congress Proceeding, 2014 Incheon Asian Games International Sport Science Congress, Gyeongin National University of Education, 2014, 497-498.

3. その他の論文

齋藤健司：水辺活動におけるリスクマネジメント．水辺活動安全管理研究会編，カッター活動の現状と課題～確かな成果と安全を求めて～，152-212，2014.

齋藤健司：海外研究動向 韓国スポーツ法学会国際会議報告．日本スポーツ法学会年報第21号，230-231，2014.

4. 著書

齋藤健司：スポーツのリスクマネジメント．スポーツ推進委員ハンドブック，公益社団法人全国スポーツ推進委員連合，127-146，2014.

齋藤健司：諸外国におけるスポーツ振興に関する法律．スポーツ白書2014，笹川スポーツ財団，59-60，2014.

6. その他

新日本有限責任監査法人：「スポーツ政策調査研究（スポーツ基本計画の評価に関する調査研究）」報告書，2014年3月（文部科学省受託研究）（事業検討委員会委員）

Organisation des Nations Unies pour l'éducation, la science et la culture, Fonds pour l'Élimination du Dopage dans le Sport, Recherche comparée en sciences sociales pour l'évaluation des politiques antidopage, Demande n1287 (日本調査代表)

齋藤健司：大学における学生選手の学業基準. 慶應義塾大学体育研究所公開講演会, 慶應義塾大学日吉キャンパス, 2014. 1. 31.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

財団法人日本バドミントン協会平成 25 年度公認コーチ専門科目「バドミントンと法的な知識」(講師)
公益社団法人全国スポーツ推進委員連合平成 25 年度スポーツ推進委員リーダー養成講習会講義リスクマネジメント(講師)

国立青少年教育振興機構国立磐梯青少年交流の家, 自然体験活動指導者養成事業 NEAL リーダー養成講習会「自然体験活動の安全管理」(講師)

齋藤健司：明確な戦略が不可欠. 県人選手目指せ夢舞台 東京五輪へ県の強化策スタート, 新潟日報 2014 年 6 月 13 日, 28 面.

競技活動

筑波大学バドミントン部男子部長(2010～現在)

社会貢献活動

日本スポーツ法学会 理事(2006～現在) 事務局長(2013～現在)

日本体育・スポーツ政策学会 理事(2010～現在)

日本スポーツ仲裁機構 仲裁人候補者(2004～現在)

日本バドミントン指導者連盟 理事(2005～現在)

公益財団法人日本オリンピック委員会ゴールドプラン委員(2010～現在)

一般社団法人日本スポーツ法支援・研究センター 理事(2014～現在)

教授 酒井利信

研究業績

1. 学会発表

Toshinobu SAKAI: The heart and technique of Kendogu Craftsmen. Hungary Cup Kendo Seminar, Budapest HUNGARY, 2014. 7. 24.

小森敏也, 酒井利信：近世剣術における戦術に関する一考察. 身体運動文化学会第 19 回大会, 静岡, 2014. 12. 20.

軽米克尊, 酒井利信：直心影流のしない打ち込み稽古に関する一考察—十之形と他流試合の分析を通して—. 身体運動文化学会第 19 回大会, 静岡, 2014. 12. 20.

2. 学術論文

酒井利信：武道教育のこれから「刀剣から竹刀へ」. 体育の科学, 64, 602-607, 2014. 9.

4. 著 書

酒井利信：太刀・刀. 絵図と写真に見る剣道文化史, 全日本剣道連盟, 18-19, 2014.

Szakai Tosinobu: A japan kendō története. Forum for Budo Culture, 1-192, 2014. 3. 4 (ハンガリー語)

Toshinobu Sakai: Ideology of the Sword : A Spiritual History of Japanese Culture. Nippon Budokan, 1-252, 2014.
12.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

筑波大学公開講座 「剣道」(4～6月, 9～11月延べ16日間)

タンカプヤ仏教単科大学 (ハンガリー) 武道コース設置アドバイザー 2013～現在

エトヴェシュ・ロラード大学 (ハンガリー) 人文学部東アジア研究所日本文献学 Ph.D スタッフ 2012～現在

競技活動

第62回全日本剣道選手権大会, 優勝・竹ノ内佑也 (3年・福岡県代表). 副部長, 日本武道館, 2014. 11. 3.

第62回全日本学生剣道優勝大会, 第3位. 副部長, BODYMAKER コロシウム (大阪府立体育会館),
2014. 11. 16.

第33回全日本女子学生剣道優勝大会, 準優勝. 副部長, 春日井市総合体育館, 2014. 11. 9.

第63回関東学生剣道優勝大会, 優勝. 副部長, 日本武道館, 2014. 9. 14.

第60回関東学生剣道選手権大会, 優勝・林田匡平 (3年). 副部長, 日本武道館, 2014. 5. 11.

第40回関東女子学生剣道優勝大会, 準優勝. 副部長, 東京武道館, 2014. 9. 20.

社会貢献活動

日本武道学会理事 2011～現在

日本武道学会剣道専門文化会事務局長 2014～現在

身体運動文化学会 副理事長 2010～現在

全日本剣道連盟 総務・資料小委員会 委員 2003～現在

教 授 坂 入 洋 右

研究業績

1. 学会発表

坂入洋右：不安障害とマインドフルネス：自律訓練法における受動的注意. 第6回日本不安障害学会学術大会, 東京, 2014.2.

Kim, E. & Sakairi, Y.: A comparison of momentary mood states associated with high athletic performance in various of sports. 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress, Tokyo: Japan, 2014. 7.

坂入洋右:健康増進と能力発揮のポジティブ心理学. 日本心理医療諸学会連合第27回大会, 東京, 2014. 9.
谷内花恵, 金ウンビ, 稲垣和希, 坂入洋右:自律訓練法による気分調整効果の特徴-実施方法の違い及び軽運動との比較-. 日本自律訓練学会第37回大会, 福岡, 2014. 10.

雨宮 怜, 宣 輔瓊, 坂入洋右:自律訓練法の初回実施時における体験を予測する個人要因の検討. 日

本自律訓練学会第 37 回大会, 福岡, 2014. 10.

坂入洋右: スポーツ領域におけるマインドフルネス. 日本マインドフルネス学会第 1 回大会, 東京, 2014. 10.

雨宮 怜, 坂入洋右: バーンアウトの抑制に係るマインドフルネス・スキルの役割—スポーツ競技者におけるマインドフルネスモデルの構築—. 日本マインドフルネス学会第 1 回大会, 東京, 2014. 10.

稲垣和希, 坂入洋右, 金ウンビ, 雨宮 怜: パフォーマンス発揮に適した心理状態のスポーツタイプ別特徴. 日本健康心理学会第 27 回大会, 沖縄, 2014. 11.

雨宮 怜, 金ウンビ, 稲垣和希, 坂入洋右: アスリートにおけるマインドフルネスと心理的競技能力との関連性の検討. 日本健康心理学会第 27 回大会, 沖縄, 2014. 11.

2. 学術論文

伊東明宏, 金ウンビ, 清水 武, 元嶋菜美香, 坂入洋右: 剣道の構えにおける筋緊張部位の違いが反応動作に及ぼす影響. 人体科学会, 23 (1), 18-30, 2014.

金ウンビ, 伊東明宏, 中塚健太郎, 坂入洋右: 音楽と身体接触を活用した運動が心理状態と対人関係に及ぼす効果. スポーツ心理学研究, 41 (1), 19-34, 2014.

Kyeongho Byun, Kazuki Hyodo, Kazuya Suwabe, Genta Ochi, Yosuke Sakairi, Morimasa Kato, Ippeita Dan, Hideaki Soya: Positive effect of acute mild exercise on executive function via arousal-related prefrontal activations: An fNIRS study. *NeuroImage*, 98, 336-345, 2014.

伊藤佐陽子, 田角 勝, 坂入洋右, 長谷川勝一, 江原千恵, 相馬花恵, 玉城美波, 照屋祐司, 貞苺 玲, 比嘉佳代: 児童デイサービスでの「子どもヨーガ」—特別な配慮を必要とする子どもへの実践—. 沖縄女子短期大学紀要, 27, 71-90, 2014.

菊池章人, 岡出実則, 坂入洋右, 征矢英昭: 東北被災地小学校体育への 2 分間垂直跳び体操支援の試み. 筑波大学体育系紀要, 37, 63-72, 2014.

中塚健太郎, 清水 武, 金ウンビ, 坂入洋右: 練習前における心身の状態の違いが自律訓練法の心理的効果へ与える影響. 自律訓練研究, 34, 14-23, 2014.

教育活動

筑波大学心身統一合気道会 顧問

筑波大学卓球同好会 顧問

日本プロゴルフ協会 (A 級講習会 講師)

日本カウンセリングカレッジ (講習会 講師)

社会貢献活動

日本心理医療諸学会連合 理事長

日本心理学会 代議員

日本体育学会 茨城支部理事

日本スポーツ心理学会 理事

日本自律訓練学会 理事

日本健康心理学会 理事

日本交流分析学会 評議員

日本マインドフルネス学会 副理事長

研究業績

1. 学会発表

- Hisashi Sanada: The Olympic Education in the host country. 2014 Korea Winter Sports Forum, Korea, 2014. 2. 21.
- 真田 久：嘉納治五郎の視点から. 日本マス・コミュニケーション学会 2014 年度春季研究発表会シンポジウム 2「東京オリンピックの 80 年史」コメンテーター, 専修大学, 2014. 6. 1.
- 真田 久：東京オリンピック・パラリンピック競技大会と大学の関わり. 九州体育・スポーツ学会第 63 回大会特別講演, 別府大学, 2014. 9. 13.
- 真田 久：オリンピック・ムーブメントとオリンピック教育. 日本スポーツ教育学会第 34 回大会シンポジウム, オリンピック教育の展開と課題, 愛媛, 2014. 11. 26.
- 真田 久：オリンピズムの普及と浸透. 第 37 回 JOA セッションシンポジウム, 学習院女子大学, 2-14. 11. 30.

2. 学術論文

- H. Sanada, Z. Ubaidulloev, F. Nemoto, I. Egami, T. Obayashi: Olympic education programs related to the Sochi Olympics and Paralympics. Journal of Olympic Education 2: 9-12, Centre for Olympic Research & Education, Tsukuba, 2014.

3. その他論文

- 真田 久：カルチュラル・オリンピアド. 平成 25 年度スポーツ振興くじ助成事業報告, 嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センター, http://100yearlegacy.org/Olympic_Movement/education/pdf/culturalOlympiad.pdf, 2014.
- 真田 久：2020 年東京オリンピック大会に向けてのオリンピック教育. 保健体育ジャーナル 101, 1-5. 2014.
- 真田 久：オリンピック・ムーブメントと女性 - 歴史を振り返りながら -. 女子体育 8-9 月号, 2014.

4. 著書

- 真田 久：スポーツによる関東大震災直後の復興への試み, 嘉納治五郎の考えた国民体育. 日本体育協会監修, 現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか: オリンピック・体育・柔道の新たなビジョン. ミネルヴァ書房, 83-126, 2014.

教育活動

2. 一般向け著書等

- 真田 久：明治神宮外苑競技場と嘉納治五郎. 日本スポーツ振興センター, SAYONARA 国立競技場 56 年の奇跡 1958-2014, 日本スポーツ振興センター, 194-197, 2014.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

- 第 18 回茗溪つくばグランドフェスティバル「創ろう! 東京オリンピック・パラリンピック」(つくば市, 1 月 25 日)
- 筑波大学学長を囲む会「2020 東京オリンピック・パラリンピックへの展望」(2 月 5 日)
- 第 2 回大学体育研究フォーラムラウンドテーブル「オリンピック・パラリンピックと大学体育」(小平市,

2月22日)
第7回つくば産産学連携促進市 in アキバ「Tsukuba から展望するオリンピック・ムーブメント」(秋葉原,
3月26日)
つくばサンライズロータリークラブ講演会「2020年東京オリンピック・パラリンピックへの展望」(つ
くば市, 5月9日) 2014年度JOAセミナー「嘉納治五郎と国立競技場」(千代田区, 6月8日)
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会・大学連携協定記念シンポジウム「開催に向け
て大学ができること」(新宿区, 6月23日)
台東区オリンピック・パラリンピック区民講座「オリンピック・パラリンピックについて」(台東区, 6
月25日)
JOC 国際人養成アカデミー「オリンピック・ムーブメントの変遷」(北区, 7月13日)
筑波大学・AISTS 連携協定調印式及び国際スポーツアカデミー記念シンポジウム「つくば国際スポーツ
アカデミーについて」(千代田区, 7月26日)
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会勉強会「700 オリンピアドとオリンピック・ムー
ブメント」(新宿区, 9月2日)
乃村工藝社オリンピック開発センターシンポジウム「社会の中で果たすスポーツの役割」(港区, 9月
10日)
公開講座:東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを創る「オリンピックの歴史」(文京区, 9月
15日)
オリパラ・フォーラム 2014「1964年のオリンピック学習から展望する2020年のオリンピック教育」(千
代田区, 10月4日)
葛飾区シルバーカレッジ「震災復興とオリンピック」(葛飾区, 10月24日)
兵庫県中学校教育研究会保健体育部会中央研究発表大会「体育理論で教えるオリンピック教育について」
(香美町, 11月21日)
つくばエキスポセンター特別講演会「オリンピアの神々はスポーツ観戦が好きだった」(つくば市, 11
月1日)
宮城県茗溪会総会記念講演「2020東京オリンピック・パラリンピックと筑波大学」(仙台市, 11月22日)
桐蔭会館完成報告会記念講演「筑波大附属と嘉納治五郎」(文京区, 12月17日)
「世界にイバラキ PR (毎日新聞)」(1月1日掲載)
「貳仟貳拾年 111人の予想図 (産経新聞)」(1月3日掲載)
「ロシアの負の遺産一掃はかる (毎日新聞)」(2月9日掲載)
「五輪教育の推進 (読売新聞)」(5月8日掲載)
「New academy targets future sports leaders (THE JAPAN TIMES)」(8月13日掲載)

社会貢献活動

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与 (平成26年～)
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会大学連携検討会委員長 (平成26年～)
外務省スポーツ外交強化に関する有識者懇談会委員 (平成26年～)
東京都オリンピック・パラリンピック教育推進有識者会議座長 (平成26年～)
東京都オリンピック・パラリンピック教育読本編集委員会委員 (平成26年～)
台東区区長アドバイザー (平成25年～)
日本オリンピック・アカデミー理事 (平成25年～)
日本体育学会代議員 (平成25年～)

教 授 清 水 諭

研究業績

1. 学会発表

清水 諭：IOC の戦略・「正義」・文化産業の政治経済学：1984. 7. 28. ；2001. 9. 11. ；2009. 10. 2. ；2011. 6. 17. ；2020. 7. 26. , 日本マス・コミュニケーション学会春季研究発表会シンポジウム 2, 「東京オリンピックの 80 年史」とメディア:3・11 以降の現代を逆照射する, 専修大学生田校舎, 2014. 6. 1.

2. 学術論文

Shimizu, S.: Tokyo, Bidding for the Olympics and the Discrepancies of Nationalism. The International Journal of The History of Sport, Routledge, 31-6, 601-617, 2014.

3. その他論文

征矢英昭, 坂入洋佑, 遠藤卓郎, 軽米克尊, 長谷川聖修, 菊池章人, 高木英樹, 西保 岳, 清水 諭, 林 洋輔, 中込四郎：筑波大学開学 40+101 周年記念事業 第 3 回 BAMIS 国際フォーラム, いばらき健康・スポーツ科学, 31, 31-36, 茨城体育学会, 2014. 8. 30.

4. 著 書

清水 諭, 吉田美和子, 遠藤卓郎（編）：ボディワークと身心統合, 創文企画, 2014.

清水 諭：メガ・スポーツイベントの力学：オリンピックと都市東京. 井上俊（編）現代文化を学ぶ人のために, 世界思想社, 163-177, 2014.

清水 諭：なぜオリンピックを東京に招致しようとするのか：1940 年と 1964 年の東京大会. 菊幸一（編）現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか：オリンピック・体育・柔道の新たなビジョン, ミネルヴァ書房, 49-79. 2014.

清水 諭：スポーツを通じた国際開発学の位置. 清水諭（責任編集）現代スポーツ評論, 31, 8-17, 創文企画, 2014.

清水 諭：スポーツ社会学. 寒川恒夫・友添秀則（編）21 世紀スポーツ大事典, 大修館書店, 225-227, 2014.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

清水 諭：スポーツを通じた国際開発. 筑波大学人文社会系グローバル人材育成教育プログラム（GHRD）第 1 回市民公開セミナー, つくば国際会議場, 2014. 2. 23.

清水 諭：ナショナリズムと 1964 年東京オリンピックについて. NPO 法人アジア太平洋資料センター（PARC）（企画）谷口源太郎（監修）検証！オリンピック：華やかな舞台の裏で, OurPlanet-TV（25 分・DVD）, 2014. 2.

清水 諭：スポーツの国際大会とナショナリズム（インタビュー）. 公明新聞, 2014. 5. 31.

清水 諭, 前田清司：筑波大学体育系によるランキング指標作成の試み, 第 2 回学術シンポジウム「大学ランキング向上と, 世界を牽引する研究の発掘に向けて」トムソン・ロイター, 東京工業大学,

2014. 6. 19.

Shimizu, S.: Developing Ranking Index for Health and Sport Sciences, トムソン・ロイター, 赤坂 Biz タワー 30 階, 2014. 12 11.

社会貢献活動

日本体育学会代議員 (2013. 6. 8. ～ 2015. 6 月開催予定の社員総会終結日)

日本体育学会「International Journal of Sport and Health Science; IJSHS」

Sociology セクション編集委員 (2013. 4. 1. ～ 2015. 3. 31.)

日本体育学会体育社会学専門領域全国選出評議員 (2013. 4. 1. ～ 2015. 3. 31.)

日本スポーツ社会学会理事, 広報委員会委員長 (2013. 4. 1. ～ 2015. 3. 31.)

茨城体育学会副会長 (2013. 4. 1. ～ 2015. 3. 31.)

文部科学省委託事業「デュアルキャリアに関する調査研究」における協力者会議メンバー (2013. 7. 8. ～ 2014. 1. 31.)

Member of the academic editorial team for Asia in the International Journal of the History of Sport, Routledge. (2013. 10. ～)

教授 清水紀宏

研究業績

1. 学会発表

清水紀宏：総合型地域スポーツクラブの評価指標試案. 日本体育・スポーツ経営学会第 47 回研究集会, 東京, 2014. 1.

清水紀宏：格差・貧困・不平等とスポーツ経営. 日本体育・スポーツ経営学会第 37 回大会, 新潟, 2014. 3.

清水紀宏：保健体育教師への学際的アプローチ－保健体育教師の資質・力量とその質保障を考える－. 日本体育学会第 65 回大会専門領域合同企画シンポジウム, 岩手, 2014. 8.

横山貴春, 清水紀宏：体育教官室における教師の組織的社会化に関する研究. 日本体育・スポーツ経営学会第 37 回大会, 新潟, 2014. 3.

林田敏裕, 清水紀宏：運動部活動改革を主導する高校教師の持論に関する研究. 日本体育・スポーツ経営学会第 37 回大会, 新潟, 2014. 3.

朝倉雅史, 清水紀宏：保健体育科教員の研修の実態と課題. 日本スポーツ教育学会第 34 回大会, 愛媛, 2014. 10.

2. 学術論文

朝倉雅史, 清水紀宏：体育教師の信念が経験と成長に及ぼす影響－「教師イメージ」と「仕事の信念」の構造と機能. 体育学研究, 59-1, 2014.

6. その他

「総合型地域スポーツクラブに関する研究」(公益財団法人東京都スポーツ文化事業団)

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

「新学習指導要領と学校体育の再生」(茨城県高等学校教育研究会保健体育研究会, 茨城, 2月5日)
「トップアスリート育成に何が必要か他 (NHK 日曜討論)」(2月23日放送)

社会貢献活動

日本体育学会理事 (平成25年～)
日本体育・スポーツ経営学会理事長 (平成21年～)
茨城体育学会理事 (平成25年～)
日本体育協会マネジメント資格部会員 (平成19年～)

教授 藤 堂 良 明

研究業績

1. 学会発表

村田直樹, 藤堂良明: 形の技能評価原論(8) - 「水車」の理合いについて - . 日本武道学会第47回大会, 広島, 2014. 9.

2. 学術論文

藤堂良明: 柔術から柔道へ. 体育の科学 64 卷 9 号, 杏林書院, 622-625, 2014.

4. 著 書

藤堂良明: 柔道 その歴史と技法. 日本武道館, 1-312, 2014.

社会貢献活動

身体運動文化学会理事 (平成9年～)
日本武道学会理事 (平成9年～)
埼玉県柔道連盟常任理事 (平成22年～)
さいたま市柔道連盟会長 (平成22年～)

教授 中 込 四 郎

研究業績

1. 学会発表

Aiko Okuda and Shiro Nakagomi: The role of childhood experiences on subsequent involvement in high-level competitive sports: considering the proto-scenery and proto-experiences in sports of twin athletes. ASPASP 7th International Congress, Tokyo, 2014. 8.

Atsushi Suzuki and Shiro Nakagomi: Influence of social support on adherence to rehabilitation by injured athletes. ASPASP 7th International Congress, Tokyo, 2014. 8.

Tomoyuki Asano and Shiro Nakagomi: Features of experience acquiring kotsu in athletic history of former elite

athletes. ASPASP 7th International Congress, Tokyo, 2014. 8.

Yuta Oki, Masahiro Kokubu and Shiro Nakagomi: Influence of focus of attention on performance in track and field throwing events. ASPASP 7th International Congress, Tokyo, 2014. 8.

Hwoisook Choi and Shiro Nakagomi: The applied development of sport self-monitoring method. ASPASP 7th International Congress, Tokyo, 2014. 8.

中込四郎：認定スポーツカウンセラー資格の未来. 日本臨床心理身体運動学会・認定スポーツカウンセラー講習会, 東京, 2014.

中込四郎：術後アスリートの心理ケア. 第40回日本整形外科スポーツ医学会学術集会（シンポジウム）, 東京, 2014.

中込四郎：女性の部屋の“覗き”を繰り返した男子アスリートの事例－“覗く”ことのもつ内的意味－. 第1回臨床スポーツ心理学研究会, 岐阜, 2014.

中込四郎：「体罰・暴力なきスポーツ指導を実現するために」課題3：第三者相談窓口によるサポートシステム構築. 平成26年度日本スポーツ心理学会企画フォーラム, 大阪, 2014.

中込四郎：アスリートが来談するとき. 日本臨床心理身体運動学会第15回大会ワークショップ, 尼崎, 2014.

中込四郎：「自分を追い込んでしまう」女性アスリートとの面接・日本臨床心理身体運動学会第15回大会（指定討論者）, 尼崎, 2014.

2. 学術論文

奥田愛子, 中込四郎：アスリートのスポーツ原体験の特徴. びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部紀要, 5, 79-84, 2014.

崔 回淑, 中込四郎：心理的介入を取り入れた自己モニタリングトレーニングの効果－心理尺度による検討－. 環太平洋大学研究紀要, 8, 211-216, 2014.

浅野友之, 中込四郎：アスリートのコツ獲得におけるプロセスモデルの作成. スポーツ心理学研究, 41-1, 35-50, 2014.

中込四郎：競技期後半にさしかかったアスリートの「夢」を介した心理サポートの事例. スポーツ精神医学, 11, 7-17, 2014.

3. その他論文

中込四郎：スポーツカウンセリングの課題と展望. 体育の科学, 64-1, 37-41, 2014.

中込四郎：依田論文へのコメント：体からこころの充実への歩み. 学習院大学大学院臨床心理学研究, 9, 123-125, 2014.

中込四郎：スポーツカウンセラーの役割. 臨床スポーツ医学, 31-10, 976-980, 2014.

中込四郎：体育心理学専門領域（日本体育学会 体育・スポーツ科学情報コラム）, http://taiiku-gakkai.r.jp/wp-content/uploads/2014/06/column_01.pdf

中込四郎, 鈴木 敦：平成24年度国民体育大会茨城県監督・選手の心理サポート（調査結果へのコメント）. 茨城県スポーツ医・科学報告書（第19集）, 18-23, 2014.

中込四郎：巻頭言：体育心理学専門領域「会報」（第26号）の刊行によせて. 体育心理学専門領域会報, 26, 1, 2014.

4. 著書

中込四郎, 奥田愛子：原風景から見た幼少期の身体経験のもつ意味. 澤江幸則・木塚朝博・中込四郎（編

著) 身体性コンピテンスと未来の子ども育ち. 明石書店, 90-116, 2014.
中込四郎: あとがき. 澤江幸則・木塚朝博・中込四郎 (編著) 身体性コンピテンスと未来の子ども育ち.
明石書店, 246-249.

5. 受賞

ASPASP 2014 Excellent Poster Award Features of experience acquiring kotsu in athletic history of former elite athletes. (Tomoyuki Asano & Shiro Nakagomi)
平成 26 年度日本スポーツ心理学会優秀論文奨励賞 アスリートのコツ獲得におけるプロセスモデルの作成. (浅野友之・中込四郎)

教育活動

平成 26 年度強員免許状更新講習 (選択講習 C), 体育スポーツ指導における心理的問題・課題, 筑波大学, 6 月 21 日.

社会貢献活動

日本スポーツ心理学会会長
日本体育学会体育心理学専門領域会長
茨城県臨床心理士会会長
日本体育学会代議員
日本臨床心理身体運動学会副理事長, 資格認定会委員長
国立スポーツ科学センター客員研究員
茨城いのちの電話理事, 運営協議会議長
茨城県ひきこもり相談支援連絡協議会委員
スポーツを行う者を暴力から守るための第三者相談・調査制度構築に関する実践調査協力者会議委員 (文部科学省)
健康運動指導士養成校認定専門部会委員
茨城県体育協会スポーツ医・科委員会スポーツ科学委員会委員長

教授 松村和則

研究業績

1. 学会発表

Kazunori Matsumura: Life Environmentalism in Japan Encountering with 'Performative Practice': Beyond a Sustainability 'Battle' in Post-Fukushima. Association of American Geographers, 2014 Annual Meeting, April 8th, 2014, Tampa, Florida, USA.
Kazunori Matsumura: Local Community Perspective and Mega-Sport Events: From Nagano to Tokyo Olympic II, Social Science Seminar "Sustainable Livelihood in Asia", at Colgate University, April 17th, 2014, USA.
Kazunori Matsumura: Toward 'Down to Earth' Theorizing : From Nagano and Tokyo Olympic II to FUKUSHIMA, Policy Matters Seminar 2014, at University of Toronto, Canada, May 12th, 2014.
松村和則: 大地震が地域 NPO にもたらしたものは - 「開発主義」からの離脱は可能か -, 日本体育・スポーツ経営学会 第 48 回, 東北学院大学教養学部地域創成学科, 仙台市, 2014. 9. 15.

2. 学術論文

(原著論文)

松村和則：「フィールド」を持って研究するという事－二重の「負い目」と「大文字の学知」－，スポーツ社会学研究，第22巻第2号，9-21.

4. 著書

松村和則，石岡丈昇，村田周佑 編著 2014，「開発とスポーツ」の社会学－「開発主義」を超えて－，南窓社，1-310.

(執筆箇所)

第2部第1章，村田周佑，伊藤恵造，松村和則，手賀沼周辺の環境問題とレジャー・スポーツの展開，144-162.

第2部第3章，植田俊，松村和則，手賀沼における環境保全活動の生活化－Aヨットクラブの事例－，184-204.

第2部第4章，嘉門良亮，松村和則，「新しい公共」政策下における「自治」のあり方とスポーツの展開，205-241.

第3部第2章，松村和則，スポーツの現代化と生活化への視座－生活論からの展開をめざして－，281-304.

6. その他

(書評)

松村和則，中村麻里著：シンボル構造と集合行為をめぐるダイナミクス－「食育」とスローフード運動・JAの食育教育から－，村落社会研究ジャーナル，NO.40，59-60.

(執筆協力)

自治体のスタジアム建設，読売新聞，2014年7月20日.

社会貢献活動

日本スポーツ社会学会理事（H23～）

教授 柳 沢 和 雄

研究業績

1. 学会発表

朴 榮三，柳沢和雄：スポーツ用品メーカーの社会貢献活動に対するロイヤリティと購買意図に関する研究．日本体育・スポーツ経営学会第37回大会，新潟，2014.3.

古屋健人，柳沢和雄：総合型地域スポーツクラブ会員の運営参加過程に関する研究－正統的周辺参加論を用いて－．日本体育・スポーツ経営学会第37回大会，新潟，2014.3.

宮崎靖雄，柳沢和雄：民間テニスクラブのサービス選択行動に関する研究．日本体育・スポーツ経営学会第37回大会，新潟，2014.3.

石居雅仁，柳沢和雄：学校開放運営組織の組織変革をめぐる阻害の除去に関する研究．日本体育・スポーツ経営学会第37回大会，新潟，2014.3.

坪井明子，柳沢和雄：宮城県石巻市におけるスポーツ活動の諸相と変容に関する研究．日本体育・スポー

ツ経営学会第37回大会, 新潟, 2014. 3.

4. 著書

柳沢和雄:「地域におけるスポーツ振興の変遷」スポーツ推進委員ハンドブック. 公益社団法人全国スポーツ推進委員連合, 2-9, 2014.

教育活動

2. 一般向け著書等

柳沢和雄:生涯スポーツの変遷と法制度の現状. みんなのスポーツ, 402, 12-14, 2014.

柳沢和雄:コーチング. みんなのスポーツ, 404, 24, 2014.

柳沢和雄:ソーシャルキャピタル. みんなのスポーツ, 405, 24, 2014.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

「健康教育指導者養成研修」講師:独立行政法人教員研修センター(12月, 延べ3日間)

「長野県総合型地域スポーツクラブアシスタントマネージャー養成講習会」講師:(長野県, 11月, 延べ2日間)

社会貢献活動

一般社団法人日本体育学会代議員(平成15年~)

体育経営管理専門領域会長(平成20年~)

茨城体育学会理事長(平成25~)

日本体育・スポーツ経営学会会長(平成24~)

公共機関, 企業等からの委託業務

文部科学省「地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト」委員会委員

公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合理事

茨城県スポーツ推進審議会副委員長

第74回国民体育大会茨城県準備委員会施設整備専門委員会委員

千葉県広域スポーツセンター運営委員

目黒区体育施設運営評価委員会委員長

目黒区スポーツ推進計画策定委員会委員長

江東区スポーツ推進計画策定委員会委員長

准教授 大石純子

研究業績

3. その他論文

大石純子:日本武道史, TIAS & AISTS 短期プログラム実施報告書, 20, 2014.

教育活動

2. 一般向け著書等

入江康平, 大石純子, 大森宣昌, 数馬広二, 加藤純一, 酒井利信, 長尾 進, 矢部健太郎, 加藤 寛 編:
絵図と写真に見る剣道文化史. 一般財団法人全日本剣道連盟, 1-136, 2014.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

TIAS & AISTS 短期プログラム 第1部 TIAS セミナー日本武道史と文化「日本武道史」(平成26年10月1日)

身体運動文化学会大19回大会 一般研究発表A会場 座長 2014年12月20日 アクトシティ浜松研修交流センター 5F

競技活動

剣道教士 全日本剣道連盟 2014. 5. 6.

第46回関東女子学生剣道選手権大会 審判員, 2014. 5. 17.

The 22nd International Hungary Kendo Cup & Seminar. Official instructor for the participants of the Seminar, Referee for the International Hungary Kendo Cup, 2014. 7. 23-2014. 7. 27.

A Regional Team Coach of Hessen Ladies Team, performing occasional teaching as well as consulting Kendo with the background of Kendo studies, 2013. 4. 24-now.

第40回関東女子学生剣道優勝大会 審判員, 2014. 9. 20.

第15回関東学生女子新人戦大会 審判員, 2014. 11. 29.

筑波大学体育会剣道部副部長

第62回全日本剣道選手権大会, 優勝・竹ノ内佑也(3年・福岡県代表). 日本武道館, 2014. 11. 3.

第62回全日本学生剣道優勝大会, 第3位. BODYMAKER コロシウム(大阪府立体育会館), 2014. 11. 16.

第33回全日本女子学生剣道優勝大会, 準優勝. 春日井市総合体育館, 2014. 11. 9.

第63回関東学生剣道優勝大会, 優勝. 日本武道館, 2014. 9. 14.

第60回関東学生剣道選手権大会, 優勝・林田匡平(3年). 日本武道館, 2014. 5. 11.

第40回関東女子学生剣道優勝大会, 準優勝. 東京武道館, 2014. 9. 20.

社会貢献活動

財団法人全日本剣道連盟 総務・資料小委員会(東日本)委員 2009～現在

身体運動文化学会常任理事 2010～現在

日本武道学会剣道専門分科会 幹事 2014～現在

准教授 齊 藤 まゆみ

研究業績

1. 学会発表

齊藤まゆみ: 履修必修化に向けたロードマップの概略. 教員免許取得における「アダプテッド体育」履修必修化を目指して. アダプテッド・スポーツ科学専門領域シンポジウム. 日本体育学会第65回大会, 盛岡, 2014. 8.

- 犀川 桜, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 中学校におけるインクルーシブ体育に関する事例研究, 聴覚障害に起因する事象に着目して. 日本体育学会第 65 回大会, 盛岡, 2014. 8.
- 小澤菜緒美, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 小学校の体育における聴覚障害児とピア (仲間) の関わり合いに関する事例研究. 日本体育学会第 65 回大会, 盛岡, 2014. 8.
- 榎本優子, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 聴覚障害が陸上競技のパフォーマンスに及ぼす影響について, デフポールボルターを対象としたケーススタディ. 日本体育学会第 65 回大会, 盛岡, 2014. 8.
- 牧 舞美, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 日本における車椅子バスケットボールの現状. 日本体育学会第 65 回大会, 盛岡, 2014. 8.
- 三枝 巧, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 国内のパラリンピック指導者の現状と課題. 日本体育学会第 65 回大会, 盛岡, 2014. 8.
- 栗原浩一, 齊藤まゆみ, 澤江幸則, 及川 力, 天野和彦, 香田泰子, 中島幸則: 大学・短期大学における障害学生に対する体育実技指導の現状について. 日本体育学会第 65 回大会, 盛岡, 2014. 8.
- 齋藤宣子, 澤江幸則, 齊藤まゆみ: 広汎性発達障害児の運動意欲を高める支援に関する研究. 日本体育学会第 65 回大会, 盛岡, 2014. 8.
- 杉山文乃, 澤江幸則, 齊藤まゆみ: 自閉症スペクトラム障害のある人の生涯スポーツ実践の促進要因と阻害要因. 日本体育学会第 65 回大会, 盛岡, 2014. 8.
- 土井畑幸一郎, 澤江幸則, 齊藤まゆみ: 知的障害児者のトランポリン運動におけるサブスキル課題の研究. 日本体育学会第 65 回大会, 盛岡, 2014. 8.
- 齊藤まゆみ: 日本のパラリンピック選手強化の現状と課題. 大学の研究者という立場から. 第 35 回医療体育研究会/第 18 回アダプテッド体育・スポーツ学会第 16 回合同大会, 神戸, 2014. 12.
- 杉山文乃, 澤江幸則, 齊藤まゆみ: 自閉症スペクトラム障害のある人の生涯スポーツ実践における促進要因と阻害要因 (2) ~個別の事例をもとに~. 第 35 回医療体育研究会/第 18 回アダプテッド体育・スポーツ学会第 16 回合同大会, 神戸, 2014. 12.
- Saito Mayumi, Murayama Miu, Sawae Yukinori: Teachers should acquire a viewpoint of Adapted Physical Activity to achieve Inclusive Physical Education. 13th Asian Society of Adapted Physical Education and Exercise Symposium, Fujian, 2014. 8.
- Y. Sawae, Y. Murakami, A. Sugiyama, K. Doihata, M. Saito: Physical Imitation and Motor Difficulties in ASD: Increasing the Amount of Physical Exertion. 13th Asian Society of Adapted Physical Education and Exercise Symposium, Fujian, 2014. 8.
- K. Doihata, Y. Sawae, M. Saito: Questionnaire Survey on Trampoline at Special Education Schools in Japan. 13th Asian Society of Adapted Physical Education and Exercise Symposium, Fujian, 2014. 8.
- A. Sugiyama, Y. Sawae, M. Saito: PValues of physical activity for lifelong sport in adults with autism spectrum disorders. 13th Asian Society of Adapted Physical Education and Exercise Symposium, Fujian, 2014. 8.

2. 学術論文

- 齊藤まゆみ, 荒川歩美: 日本における成人聴覚障害者のスポーツ活動に対する意識とその現状. 筑波大学体育系紀要, 37, 93-99, 2014.
- 齊藤まゆみ, 犀川 桜: 聴覚障がい者を対象としたスポーツ教育のための教材開発. バイオメカニズム学会誌, 38 (2), 111-116, 2014.
- 齊藤まゆみ, : 特別支援学校の体育. 体育の科学, 64 (6), 402-405, 2014.
- Ikeda G, Tsukuba T: The effect of sprint training on junior swimmers. International journal of swimming, 12, 25-32, 2014.

3. その他論文

我が国のパラリンピアンを取りまくスポーツ環境調査. 公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団, ISBN 987-4-997079-1-0, 2014.

4. 著書

齊藤まゆみ：障害のある子どもの「身体」. 身体性コンピテンスと未来の子どもの育ち, 澤江幸則／木塚朝博／中込四郎編著. 明石書店, 184-194, 2014.

齊藤まゆみ：パラリンピック. 筑波大学スポーツペディア. Sportpedia.http://www.sportpedia.jp, 2014.

6. その他

マルチサポート事業（パラリンピック競技）研究開発サブプロジェクト主任.

教育活動

2. 一般向け著書等

齊藤まゆみ：聴覚障害者のスポーツと情報支援機器, スポーツ場面における情報支援機器の活用, ～視覚障害者, 聴覚障害者の場合～, 戸山サンライズ, 2013 秋号, 10-13, 2014.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

筑波大学公開講座「さまざまな障害の子どもたちの体育指導」(7月31日～8月2日)

三大学連携障がい者のためのスポーツイベント「つくりんピック 2014」(12月13日)

茨城県障害者スポーツ指導員養成講座(笠間市, 1月25日)

茨城県特別支援学校体育連盟スポーツ競技会(つくば市, 11月18日)

社会貢献活動

日本体育学会理事(平成24年～)

日本アダプテッド体育・スポーツ学会理事(平成18年～)

茨城県障害者スポーツ研究会幹事(平成16年～)

Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise Board Member(2012年～)

公共機関, 企業等からの委託業務

「我が国のパラリンピアンを取り巻くスポーツ環境調査」(ヤマハ発動機スポーツ振興財団)

准教授 嵯峨 寿

研究業績

1. 学会発表

嵯峨 寿：2020 東京オリンピック・パラリンピックへの道標～レジャー・レクリエーションが出来ること. 日本レジャー・レクリエーション学会第44回学会大会(シンポジウムコーディネーター), 埼玉, 2014. 12.

嵯峨 寿：オリンピズムの普及と浸透～1964 東京からの歩みと 2020TOKYO を見据えて. 日本オリンピック・アカデミー東京オリンピック 50 周年記念第 37 回 JOA セッション(シンポジウムコーディネーター)

ネーター), 東京, 2014. 11.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

平成 25 年度日本体育協会公認コーチ養成講習会 (バドミントン) (1 月 11 日)

平成 26 年度日本体育協会公認コーチ養成講習会 (バドミントン) (11 月 2 日)

競技活動

第 65 回全日本学生バドミントン選手権大会 女子団体優勝 女子部長

社会貢献活動

日本レジャー・レクリエーション学会常任理事 (1996 年～)

公益財団法人日本オリンピック委員会事業専門部会員 (2005 年～)

特定非営利活動法人日本オリンピック・アカデミー理事 (2006 年～)

公益社団法人全国大学体育連合常務理事 (2007 年～)

准教授 澤 江 幸 則

研究業績

1. 学会発表

K. Doihata, Y. Sawae and M. Saito: Questionnaire Survey on Trampoline at Special Education Schools in Japan. The 13th International Symposium of Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise, Fuzhou: CHN, 2014. Aug.

A. Sugiyama, Y. Sawae and M. Saito. Values of Physical Activity for Lifelong Sport in Adults with Autism Spectrum Disorders. The 13th International Symposium of Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise, Fuzhou: CHN, 2014. Aug.

Y. Sawae, Y. Murakami, A. Sugiyama, K. Doihata and M. Saito: Physical Imitation and Motor Difficulties in ASD: Increasing the Amount of Physical Exertion. The 13th International Symposium of Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise, Fuzhou: CHN, 2014. Aug.

Saito Mayumi, Murayama Miu, Sawae Yukinori: Teachers should acquire a viewpoint of Adapted Physical Activity to achieve Inclusive Physical Education. The 13th International Symposium of Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise, Fuzhou: CHN, 2014. Aug.

澤江幸則, 村上祐介, 杉山文乃, 土井畑幸一郎: 協調運動の困難さを示す ASD 児の運動特性について ~ Movement-ABC と動作分析の結果に着目した一事例調査~. 日本特殊教育学会第 52 回大会, 高知, 2014. 9.

土井畑幸一郎, 澤江幸則, 齊藤まゆみ: 知的障害児のトランポリン運動におけるサブスキル課題の研究. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

村上祐介, 澤江幸則, 杉山文乃, 土井畑幸一郎: 自閉症スペクトラム障害児の投捕スキルの向上に着目した運動指導事例. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

齊藤宣子, 澤江幸則, 齊藤まゆみ: 広汎性発達障害児の運動意欲を高める支援に関する研究. 日本体育

学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

杉山文乃, 澤江幸則, 齊藤まゆみ: 自閉症スペクトラム障害のある人の生涯スポーツ実践の促進要因と
障害要因～当事者インタビュー調査から～. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

三枝 巧, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 国内のパラリンピック指導者の現状と課題. 日本体育学会第 65 回
大会, 岩手, 2014. 8.

澤江幸則, 村上祐介, 杉山文乃, 土井畑幸一郎: 自閉症スペクトラム障害のある子どもにおける身体動
作模倣について～身体動作模倣時の特異的運動様式に着目して～. 日本体育学会第 65 回大会,
岩手, 2014. 8.

栗原浩一, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 大学・短期大学における障害学生に対する体育実技指導の現状につ
いて ～障害種別の指導事例報告～. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

犀川 桜, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 中学校におけるインクルーシブ体育に関する事例研究 ～聴覚障害
に起因する事象に着目して～. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

小澤菜緒美, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 小学校の体育における聴覚障害児とピア(仲間)の関わり合いに
関する事例研究. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

榎本優子, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 聴覚障害が陸上競技のパフォーマンスに及ぼす影響について ～デ
フポールボルダーを対象としたケーススタディ～. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

牧 舞美, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 日本における車椅子バスケットボールの現状. 日本体育学会第 65
回大会, 岩手, 2014. 8.

澤江幸則: ASD 児のボール運動に対する発達支援の可能性について (1) ～ Movement-ABC のアセスメ
ント結果と動作分析をもとに～. 日本発達心理学会第 25 回大会, 京都, 2014. 3.

2. 学術論文

宮原資英, 七木田敦, 澤江幸則: 発達性協調運動障害 (特集論文 DSM-5 対応 神経発達障害のすべて).
こころの科学増刊, 90-94, 2014.

3. その他論文

藤田紀昭, 内田若希, 大日向邦子, 加藤木紳克, 小久保信幸, 澤江幸則, 高山浩久, 水原由明, 渡邊一利:
健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業 (地域における障害者のスポー
ツ・レクリエーション活動に関する調査研究 報告書 笹川スポーツ財団, 2014.

4. 著 書

松原 豊 (編著), 阿部 崇, 松村汝京, 澤江幸則: 発達が気になる子の運動あそび 88. 学研, 2014.

澤江幸則, 鈴木智子, 川田 学: <身体>に関する発達支援のユニバーサルデザイン. 金子書房,
2014.

澤江幸則, 木塚朝博, 中込四郎: 身体性コンピテンスと未来の子どもの育ち. 明石書店, 2014.

6. その他

澤江幸則: 親子のできる運動あそび 走る. 発達教育. 33 (1), 23-25, 2014.

澤江幸則: 親子のできる運動あそび 長縄跳び. 発達教育. 33 (2), 23-25, 2014.

澤江幸則: 親子のできる運動あそび 親子のできる運動あそび. 発達教育. 33 (3), 23-25, 2014.

澤江幸則, 藤井彩乃: 親子のできる運動あそび 家族で楽しむ運動あそびの意義. 発達教育. 33 (4), 23-
25, 2014.

- 澤江幸則, 藤井彩乃: 親子でできる運動あそび 散策を楽しむ. 発達教育. 33(5), 23-25, 2014.
- 藤井彩乃, 澤江幸則: 親子でできる運動あそび 毛布・シーツあそび. 発達教育. 33(6), 23-25, 2014.
- 澤江幸則, 藤井彩乃: 親子でできる運動あそび 新聞紙をつかってあそぼう! バット編. 発達教育. 33(7), 23-25, 2014.
- 藤井彩乃, 澤江幸則: 親子でできる運動あそび うちわと風船をつかってあそぼう!. 発達教育. 33(8), 23-25, 2014.
- 澤江幸則, 藤井彩乃: 親子でできる運動あそび 家族でプール!. 発達教育. 33(9), 23-25, 2014.
- 藤井彩乃, 澤江幸則: 親子でできる運動あそび スポーツの秋だ, ミニ運動会!! . 発達教育. 33(10), 23-25, 2014
- 澤江幸則, 藤井彩乃: 親子でできる運動あそび 家族でキャンプ. 発達教育. 33(11), 23-25, 2014.
- 藤井彩乃, 澤江幸則: 親子でできる運動あそび 楽しく動く! すごろくあそび. 発達教育. 33(12), 23-25, 2014.

教育活動

- 初級障害者スポーツ指導員養成講習会 (茨城県) (1月)
- 初級障害者スポーツ指導員養成講習会 (東京都) (3月, 9月)
- 調布市社会教育課学習グループサポート事業「たんぼぼの会」公開講座「いつでも・どこでも・いつまでも たのしくからだを動かそう!」(3月)
- 三鷹市健康福祉部障がい者支援課主催「発達障がい児の運動特性と支援について」(4月)
- とくしま発達しあわせネット主催「運動における発達障がいのこどもの不器用さへの配慮と関わり」(7月)
- 公益財団法人発達協会主催「園で育てる運動発達-動きのバリエーションを広げる」(8月)
- 教員免許更新講習「特別支援教育における体育~障害のある子どもも“いきいき”できる体育活動をめざして~」(8月)
- 世田谷区手をつなぐ親の会主催「障害のあるこどもの運動の不器用さについて」(12月)

社会貢献活動

<学会関連>

- 日本発達心理学会査読
- 日本発達心理学会発達障害分科会世話人
- 日本体育学会アダプテッド・スポーツ科学専門領域評議委員
- 日本アダプテッド体育・スポーツ学会理事
- 日本アダプテッド体育・スポーツ学会査読

<学会以外の活動>

- 自閉症協会東京支部主催自閉症フレンドリーキャンププログラム 監修 (2006~)
- アインシュタイン (障害児のための地域活動団体) 主催「家族参加型スポーツ活動」指導 (2006~)
- 日本臨床発達心理士会埼玉支部役員 (2006~)
- 研究室主催障害児のための余暇活動 (2006~)
- 横浜市戸塚地域療育センター運営委員会会長 (2008~)
- 附属大塚特別支援学校 学校研究講師 (2009~)
- 日本臨床発達心理士会 NL 委員会委員長 (2010~)

障害者ディスクゴルフ協会会長（2011～）
筑波大学附属学校教育局 心理発達教育相談室 相談員（2012～）
研究室主催障害児のための運動発達支援活動（2013～）
つくば市立中学校 巡回相談（2014年：1月，2月）
品川区立小学校 巡回相談（2014年：1月）
附属大塚特別支援学校 授業改善（2014年2月，6月，10月）
みなかみ町立中学校全校研究発表会 助言者（2014年11月）
東京都立南花畑特別支援学校 授業改善（2014年2月，6月，10月，12月）
東京都立調布特別支援学校全校研究発表会助言者（2014年12月）
千葉県立野田特別支援学校 巡回相談（2014年6月，12月）

准教授 高橋 義 雄

研究業績

1. 学会発表

高橋義雄：魅せるスポーツイベントの環境設計. 2020 東京デザインフォーラム，東京，2014. 9.
高橋義雄：アスリートはどこへ行くのか？：「難民」なのか／自己実現なのか（指定討論者）. 日本スポーツ社会学会第23回大会，札幌，2014. 3.
高橋義雄：わが国におけるメガスポートイベントの社会文化的意義と課題（コーディネーター）. 日本体育学会第5回大会体育社会学領域シンポジウム，岩手，2014. 8.

2. 学術論文

高橋義雄・佐々木康：日本人エリートサッカー選手のアジアへの国際移籍とキャリア形成. 生涯学習・キャリア教育研究，10：25-34，2014.
高橋義雄：スポーツと地域経済. 家計経済研究，103：14-21，2014.
川西正博，高橋義雄：パラリンピアンへのスポーツキャリア. 体育の科学，64：406-410，2014.
Takahashi Y: Why Zico is called the 'God of Soccer' in Japan: the legacy of Zico to Japanese soccer. Soccer & Society, 15 (5), 794-803, 2014.

3. その他論文

高橋義雄：FIFA ワールドカップの社会・経済的影響. 東海体育学会会報，87：4-5，2014.

4. 著 書

高橋義雄：スポーツ. 社会調査事典. 丸善，360-361，2014.
Takahashi Y: Nadeshiko: International migration of Japanese women in world soccer. Women, Soccer and Transnational Migration. Routledge, 102-116, 2014.

6. その他

「2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける事前合宿等関連ビジネスに関する学術指導」（近畿日本ツーリスト株式会社）

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

日本ハンドボール協会編：競技団体の経営力とその課題<インタビュー>, ハンドボール. 548 : 26-27, 2014.

秋田ヲ叫べ！オールスターゲーム開催記念 前々夜祭 スポーツシンポジウム パネルディスカッション「秋田の未来～プロスポーツのある地域（まち）づくり～」(コーディネーター) 1月24日

鹿屋体育大学研究セミナー 「スポーツツーリズムの可能性」(講演) 2月20日

経済産業省 2020年を契機としたスポーツ産業の活性化シンポジウム 「2020年を契機としたスポーツ産業の活性化」(ファシリテータ) 3月14日

全日本ボウリング協会ボウリングの未来を考えるシンポジウム 「ボウリングの社会学」(講演) 3月20日

第1回アスリートフォーラム 「アスリートファーストって何だ？」(司会) 5月14日

プロスポーツ振興「栃木モデル」構築に関する研究会 “スポーツツーリズムによる新たな価値の創出” (講演) 7月24日

第2回アスリートフォーラム 「アスリートと企業, これからの新しい関係」(コーディネーター) 12月9日

静岡県スポーツ少年団創設50周年記念シンポジウム 「スポーツによる人材育成」(コーディネーター) 10月13日

一般社団法人日米アスリートライフ支援協会第1回勉強会 「アスリートにとってのセカンドキャリアとは」(講演) 10月21日

アリーナスポーツ協議会セミナー 「これからの街づくりとスポーツ環境デザインの可能性について～スポーツを通じたコミュニティ形成・街づくりという考え方～」(講演) 10月28日

ヤマハ発動機スポーツ振興財団シンポジウム 「日本のパラリンピック選手強化の現状と課題」(コーディネーター) 12月13日

社会貢献活動

日本卓球協会評議員

日本バレーボール協会理事会運営委員／戦略企画会議委員

日本スポーツツーリズム推進機構常任理事

アリーナスポーツ協議会理事

日本トップリーグ連携機構事業推進委員会アドバイザー

日本スポーツ産業学会理事

日本体育・スポーツ政策学会理事

准教授 仲 澤 眞

研究業績

2. 学術論文

仲澤 眞, 吉田政幸, 岩村 聡 (2014) Jリーグ観戦者の動機因子: Jリーグの導入期における二次的データの検証. スポーツマネジメント研究, 6(1), 17-35.

Yoshida, M., Gordon, B.S., Nakazawa, M, and Biscaia, R. (2014) Conceptualization and measurement of fan

engagement: Empirical evidence from a professional sport context. Journal of Sport Management, 28, 399-417.

3. その他論文

仲澤 眞(監修): Jリーグスタジアム観戦者調査2014サマリーレポート, 公益社団法人日本プロサッカーリーグ, 1-66, 2014.

仲澤 眞: 観戦者調査からみたJリーグの20年, 現代スポーツ評論, 30, 154-161, 2014.

5. 受賞

学会賞(日本スポーツマネジメント学会)

スポーツイベントにおける再観戦行動: 再観戦意図の先へ

6. その他

「プロサッカーの観戦行動に関する調査研究」((公社)日本プロサッカーリーグ) 仲澤 眞, 青山優香

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

(公財)日本体育協会・公認スポーツ指導者養成講師

(公財)東京都スポーツ文化事業団・クラブマネージャー養成講習会講師

(公財)港区スポーツふれあい文化健康財団, (財)日本ラグビーフットボール協会・みなとスポーツフォーラム講師

社会貢献活動

(独)日本スポーツ振興センタースポーツ 振興基金助成審査委員会委員

日本スポーツマネジメント学会 理事, ジャーナル編集委員長

日本フットボール学会 ジャーナル編集委員

(公財)笹川スポーツ財団 スポーツ白書編集委員会委員

(公財)笹川スポーツ財団 スポーツライフデータ編集委員会委員

准教授 長谷川 悦 示

研究業績

1. 学会発表

Hasegawa, E. & Okade, Y.: A 'lesson study' to create a tag-rugby modified game for elementary school in Japan. AIESEP 2014 World Congress, University of Auckland, Auckland, New Zealand, 2014. 2. 12.

Hasegawa, E., Okade, Y., Mizukoshi, W., Nagasawa, K., & Tachibana, K.: Study of an e-learning PE lesson evaluation system for PETE. International Symposium on Physical Education and Sport Studies, University of Canterbury, Christchurch, New Zealand, 2014. 2. 17.

長谷川悦示: わが国の学習指導法の展開と学習指導モデル論の概要. 日本体育科教育学専門領域シンポジウム「体育科教育学における教授・学習指導論の未来」, 日本体育学会第65回大会, 岩手大学, 岩手, 2014. 8. 27.

安倍健太郎, 長谷川悦示: 中学校体育の戦術学習アプローチによるハンドボール授業実践研究. 日本スポーツ教育学会第34回大会, 愛媛大学, 松山, 2014. 10. 25.

川崎 修, 長谷川悦示, 岡出美則, 三木ひろみ, 宮崎明世, 三田部勇: 体育模擬授業の授業計画・実施・省察段階における授業力量の評価指標と関連性. 日本スポーツ教育学会第34回大会, 愛媛大学, 松山, 2014. 10. 26.

岩波秀平, 長谷川悦示, 三木ひろみ: 小学校教員の体育科教授能力に与える校内授業研究の影響. 日本スポーツ教育学会第34回大会, 愛媛大学, 松山, 2014. 10. 26.

教育活動

2. 一般向け著書等

長谷川悦示: 体育科授業の組織的観察分析のすすめ. 東書Eネット, 指導資料, 2014, 9.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

東京都江東区立砂町小学校授業研究会講師 (1月30日)

東京都江東区立東砂小学校授業研究会講師 (5月28日, 6月25日, 9月17日, 11月19日, 11月26日)

東京都葛飾区立綾南小学校授業研究会講師 (2月28日, 10月8日, 11月5日, 12月11日)

東京都葛飾区立柴又小学校授業研究会講師 (10月31日, 11月21日, 12月3日)

埼玉県杉戸町立西小学校研究授業講師 (5月29日)

競技活動

男子・女子アイスホッケー部顧問

社会貢献活動

日本スポーツ教育学会理事 (2000年4月～現在)

日本体育科教育学会理事 (2010年4月～現在)

准教授 深 澤 浩 洋

研究業績

1. 学会発表

Fukasawa K.: An Attempt at Ideal of Educational Goal as one of the Olympic Legacy. 2014 Incheon Asian Games International Sport Science Congress, Seoul, 2014. 8.

Ueki Y., Fukasawa K.: Peculiarity of Bushido in Physical Education and Sports in Japan. 2014 Incheon Asian Games International Sport Science Congress, Seoul, 2014. 8.

深澤浩洋: 「体育・スポーツ学検定」(仮称)の創設. 日本体育学会・(公社)全国大学体育連合共催シンポジウム「大学体育教員の資質向上の新しい取り組み」. 日本体育学会第65回大会, 盛岡, 2014. 8.

Fukasawa K., Aramaki A.: Beyond the Border and Changing Public Attitudes: Olympic Education as Intangible Legacy. The 42th Annual Conference of International Association for the Philosophy of Sport, Natal, Brazil, 2014. 9.

Fukasawa K.: The Potentiality of Respect in Athletics and Limit of Imagination. 2014 International Conference on

the Philosophy of Sport, Taipei, 2014. 11.

2. 学術論文

Fukasawa K.: The Potentiality of Empathy with Others in Competitive Sport: A Suggestion from Nishida's 'Pure Experience' and 'I' and 'Thou'. *International Journal of Sport and Health Science*, 12, 47-52, 2014.

4. 著書

Ilundáin-Agurruza J., Fukasawa K., Takemura M.: *The Philosophy of Sport, Eastern Philosophy and Pragmatism*. Torres C.R. (ed.) *The Bloomsbury Companion to The Philosophy of Sport*, 66-79, 2014.

社会貢献活動

日本体育学会代議員（平成 25 年～）

日本体育学会 *International Journal of Sport and Health Science* 編集委員（平成 25 年～）

日本体育学会大学体育問題特別委員会委員（平成 25 年～）

日本体育学会体育哲学専門領域運営委員会委員長（平成 25 年～）

日本体育・スポーツ哲学会理事（平成 18 年～）

日本体育・スポーツ哲学会将来計画委員会委員長（平成 21 年～）

准教授 三木ひろみ

研究業績

1. 学会発表

三木ひろみ：体育学部の初年次スポーツキャリア形成－専門教育を通じてキー・コンピテンシーを高めることを学ぶ教材開発. 日本体育学会第 65 回大会, 盛岡, 2014. 8.

Miki H, Masumitsu A, Miyao N, Yanagi Y: Analysis of group discussion in PE class, Asian-South Pacific Association of Sport Psychology 7th International Congress, Tokyo, Japan, 2014. 8.

Miki H: Collaborative research planning program for international students at the Tsukuba Summer Institute for Physical Education and Sport. 第 9 回日独スポーツ科学会議, 横浜, 2014. 9.

三木ひろみ：体育専攻生のワークアビリティの育成－留学生との協働学習を通じて. 日本スポーツ教育学会第 34 回大会, 松山, 2014. 10.

宮尾夏姫, 三木ひろみ：体育科模擬授業における受講生の授業づくりに対する意識の変容とその要因の検討. 日本スポーツ教育学会第 34 回大会, 松山, 2014. 10.

荒川和樹, 三木ひろみ：中学校の体育授業における学習動機づけの低い生徒に対する手だての検討－体育嫌いに関する研究の課題を踏まえて－. 日本スポーツ教育学会第 34 回大会, 松山, 2014. 10.

藤田 瑤, 三木ひろみ：フラッグフットボールの授業における集団形成過程に関する研究－話し合いと役割分担に着目して. 日本スポーツ教育学会第 34 回大会, 松山, 2014. 10.

川崎 修, 長谷川悦示, 岡出美則, 三木ひろみ, 宮崎明世, 三田部勇：体育模擬授業の授業計画・実施・省察段階における授業力量の評価指標と関連性. 日本スポーツ教育学会第 34 回大会, 松山, 2014. 10.

3. その他論文

三木ひろみ：平成 23 年度に SS 評価された「教育／社会貢献・学内運営」について；筑波英検補習から Tsukuba Summer Institute まで。筑波大学体育系紀要，37，17-20，2014.

社会貢献活動

日本体育学会理事（平成 25 年～）

日本スポーツ教育学会理事（平成 24 年～）

日本体育科教育学会常任理事（平成 24 年～）

学習指導要実施状況調査委員会委員（平成 25 年～）

平成 26 年度全国体力・運動能力，運動習慣等調査検討委員会委員（平成 26 年～）

タレント発掘・育成コンソーシアム事業研究会委員（平成 25 年～）

准教授 三田部 勇

研究業績

2. 学術論文

三田部勇：教員採用選考試験の動向と今後の教職サポートの在り方の検討。筑波大学体育系紀要，37，113-122，2014.

6. その他

三田部勇：体づくり運動～効率よく組み合わせた運動で体力アップ～。女子体育，50-55，2014.

三田部勇：生徒の体力・運動能力，運動習慣と「体づくり運動」の授業づくり。大日本図書 教育フォーラム，36-37，2014.

三田部勇：「体育理論」の授業づくり。大日本図書 教育フォーラム，36-37，2014.

三田部勇：小学生の体力向上スキル。大日本図書 小学校体育教授用資料，1-17，2014.

教育活動

特色ある学校づくり支援事業研修会講師（下妻市立東部中学校 6 月 30 日）

5 年次研修講座講師「これからの健康教育とその進め方」（茨城県教育研修センター 7 月 3 日）

茨城県石岡市教育研究会体育研究部研修会講師「プレルボール」（石岡市立府中小学校 8 月 1 日）

茨城県学校体育実技指導者講習会講師「プレルボール」（茨城県武道館 8 月 5 日）

小学校体育科校内研修研究支援講師（笠間市立宍戸小学校 8 月 7 日）

茨城県体育授業・運動プログラムアドバイザー派遣事業講師（美浦村立大谷小学校 8 月 20 日）

茨城県体育授業・運動プログラムアドバイザー派遣事業講師（ひたちなか市立市毛小学校 8 月 21 日）

茨城県体育授業・運動プログラムアドバイザー派遣事業講師（石岡市立玉里北小学校 10 月 23 日）

中学校保健体育科授業研究会講師（土浦市立土浦第六中学校 10 月 27 日）

中学校保健体育科授業研究会講師（常総市立水海道中学校 11 月 5 日）

若手教員研修講師（つくば市立吾妻中学校 11 月 26 日）

土浦市教育研究会体育・保健体育研究部体育実技研修会講師「体づくり運動」（土浦市立中村小学校 11 月 26 日）

茨城県石岡市立林小学校学校保健安全委員会講師（石岡市林小学校 12 月 12 日）

社会貢献活動

つくばマラソン審判員（11月23日）

小学校体育授業いきいきプロジェクト（筑波大学社会貢献プロジェクト）（平成26年10月～）

公共機関、企業等からの委託業務

「学校体育活動における指導の在り方調査研究」（文部科学省）

准教授 宮崎明世

研究業績

1. 学会発表

宮崎明世：小学校体育授業における陸上運動・短距離走の成果の検討。日本体育学会第65回大会，岩手，2014.9.

宮崎明世：学校におけるオリンピック教育の可能性と展開。日本スポーツ教育学会第34回大会，愛媛，2014.10.

池田卓也，宮崎明世：高校生のバスケットボール授業における“得点しやすい空間の活用・創出”に関する学習成果。日本スポーツ教育学会第34回大会，愛媛，2014.10.

窪谷祥子，宮崎明世：小学校中学年の体育授業における「体づくり運動」の授業モデルの検討。日本スポーツ教育学会第34回大会，愛媛，2014.10.

西村三郎，宮崎明世：一般男子高校生の短距離疾走能力に応じた技術的課題とその相互関係－中間疾走における下肢の動きに着目して－。日本スポーツ教育学会第34回大会，愛媛，2014.10.

宮地智博，宮崎明世：小学校高学年のフラッグフットボールの授業における投・捕球技能の変容－パスプレーを中心とした単元を通して－。日本スポーツ教育学会第34回大会，愛媛，2014.10.

3. その他論文

宮崎明世：中高女子の投能力を高めるために。体育科教育，62巻2号，大修館書店，2014.

宮崎明世：教師教育としての筑波大学附属小・中・高等学校体育・保健体育科合同研究会。附属学校における卓越した教師力を活かした教師教育のカリキュラム開発，平成23～25年度筑波大学附属学校教育局プロジェクト研究成果最終年度報告書，35-40，2014.3.

宮崎明世：日本スポーツ教育学会第33回学会大会研究発表報告。Journal of Olympic Education vol.2, 8, 52, 2014.

宮崎明世：オリンピック教育プラットフォーム，ソチ・パラリンピック視察報告（全体概要）。ソチオリンピックにおける教育プログラム実践調査，嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センター，2014.

4. 著書

宮崎明世：平成26年度版現代高等保健体育授業用パワーポイントスライド集，(1) 02-05，(2) 02，06，大修館書店，2014.

宮崎明世：平成26年度版最新高等保健体育授業用パワーポイントスライド集，(1) 02-05，(2) 05，大修館書店，2014.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

JAAF アスリート発掘育成プロジェクト U-13 クリニック (陸上教室) 福島会場 9月
新潟体育学会 シンポジウム: オリンピック教育の可能性と学校における実践 10月
JAAF アスリート発掘育成プロジェクト U-16 クリニック (陸上教室) 新潟会場 11月

社会貢献活動

日本陸上競技連盟普及育成委員 (平成 10 年～)
日本スポーツ教育学会理事 (平成 23 年～)

助 教 國 部 雅 大

研究業績

1. 学会発表

Kokubu M: The relationship between eye dominance and eye position stability in binocular gaze control. 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress, Japan. 2014. 8.
Oki Y, Kokubu M, Nakagomi S: Influence of Focus of Attention on Performance in Track and Field Throwing Events. 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress, Japan. 2014. 8.
安藤創一, 小見山高明, 國部雅大, 須藤みず紀, 清永 明, 田中宏暁, 桧垣靖樹: 高強度運動中における周辺視野での反応の遅延は知覚能力の低下である. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
國部雅大: 両眼眼球運動の制御における聴覚フィードバック情報提示の効果. 第 35 回バイオメカニズム学術講演会, 岡山, 2014. 11.

2. 学術論文

Critchley K, Kokubu M, Iemitsu M, Fujita S, Isaka T: Age-related differences in the availability of visual feedback during bimanual pinch. *European Journal of Applied Physiology*, 114 (9), 1925-1932, 2014.

助 教 成 瀬 和 弥

研究業績

4. 著 書

成瀬和弥: 安全管理とスポーツ推進委員. スポーツ推進委員ハンドブック, 公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合, 140-146, 2014.

社会貢献活動

日本体育・スポーツ政策学会理事 (平成 21 年～)
日本オリンピック・アカデミー セッション・レクチャー委員会副委員長 (平成 23 年～)

公共機関, 企業等からの委託業務

「水泳選手のアミノサプリの効果」に対するコメント (味の素株式会社)

「着衣での泳法に関する解説」(防災科学研究所)

助 教 山 口 拓

研究業績

1. 学会発表

山口 拓：カンボジア王国における体育科教育の変遷Ⅱ，教育開発の展開・衰退期（1953～1975年）における体育・スポーツの歩み，第65回日本体育学会，岩手，2014.08.

山口 拓：日本が担う国際スポーツ貢献の課題と展望に関する一考察，スポーツ国際開発先進諸国の政策展開を中心に，日本運動・スポーツ科学学会，第12回国際健康・スポーツ分科会，広島，2014.08.

Taku. Y.: Keynote speech 2, Japanese Contribution to International Development through Sport, The 9th Japan German Sport Science Symposium, Kanagawa, Japan. 2014.09.

2. 学術論文

山口 拓：カンボジア王国における体育科教育の変遷Ⅰ，近代教育導入期（1863～1953年）における体育・スポーツの系譜，筑波大学体育系紀要(37)，53-62，2014.03.

4. 著 書

山口 拓：スポーツを通じた開発の実際，IDSの再考とカンボジアの事例からみる日本型支援の方向性 102-109，清水論編，スポーツを通じた国際貢献のいま，現代スポーツ評論31，創文企画，2014.11.

6. その他

「メコン流域諸国における障害者スポーツの現状とパラリンピック東京大会に向けた支援の可能性に関する委託調査（仮）」(日本財団パラリンピック研究会)

「青年海外協力隊 体育・スポーツ隊員のレガシーに関する共同研究調査（仮）」(笹川スポーツ財団)

「Social Impact Assessment of a Charity Sport Event in Cambodia」(University of Minnesota, Grant-in-Aid Research [Prof. Yuhei Inoue])

「Cambodian Sport History Studies」(National Swimming Federation of Cambodia [Mr. Hem Tong])

「Sport for Development and Peace in East and West: Structure, Actions and Education」(University of Tsukuba Loughborough University joint action research program [Prof. Giulianotti R., Prof. Howe D., Prof. Shimizu S.])

教育活動

3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

「スポーツが開発と平和構築に果たす役割，「開発と平和のためのスポーツの国際デー」記念イベント，東京，2014.04.04.

「スポーツ×国際開発＝社会貢献」型事業の可能性，第7回BOPビジネス勉強会，東京，2014.7.30.

「スポーツ国際開発学の研究視点と今後の研究課題」，スポーツによる平和構築と国際開発，ミニシンポジウム，岩手，2014.08.26.

「JICA 主催イベント・クロストーク 体育を通して子どもたちに笑顔を」, 東京 2014. 10. 09.

「Chair of Symposium II: Focus of IDS Study」, The 2nd International Symposium on International Development through Sport, Tokyo, 2014. 12. 13.

社会貢献活動

カンボジア王国 オリンピック委員会 アドバイザー (2012. 08. ～)

独立行政法人日本スポーツ振興センター, スポーツ国際協力プロジェクト, 外部メンバー (2013. 07. ～ 2014. 03.)

つくば市, つくばワールドフットサル実行委員会, 実行委員 (2013. 05. ～)

認定特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド, 顧問 (2014. 11. ～)

独立行政法人日本スポーツ振興センター, スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局, 外部アドバイザー (2014. 10. ～)

(ボランティア)

学生団体 WorldFut TSUKUBA, アドバイザー

学生団体 Crystal of Peace, 顧問

公共機関, 企業等からの委託業務

「開発と平和のためのスポーツの国際デー記念イベント」に対するコメント (国連広報センター 2014. 04)

「スポーツ国際貢献における運動会支援活動の役割」に対するコメント (朝日新聞 2014. 01)

「スポーツ国際開発学共同専攻 (仮)」に対するコメント (日経新聞, 常陽新聞, 朝日新聞, 2014. 11)

「体育による国際貢献の可能性と課題」に関するコメント (公明新聞 2014. 02)

「スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム」外部アドバイザー (JSC 2014. 10)

助 教 李 燦 雨

研究業績

1. 学会発表

李 燦雨: 日韓に跨る我が体育・スポーツ史考究への想像, 筑波大学体育史研究会平成 25 年度研究集会, 2014. 3.

李 燦雨, 村井友樹, 岡村 拓, 大熊廣明: アジア・太平洋戦争期日本予科練と航空体育の登場, 第 95 回全国体典記念第 52 回韓国体育学会, 2014. 10.

2. 学術論文

Lee, Chan-Woo: Korean Traditional Bows and Arrows as described in the "Kyudo Kouza". The Korean Journal of History for Physical Education, Sport, and Dance, 19 (2), 59-73, 2014.

Lee, Chan-Woo: The Korean Traditional Equestrian Feats that is handed down to Fujinomori Shrine in Japan. The Korean Journal of Physical Education, 53 (4), 17-27, 2014.

3. その他論文

李 燦雨: 日韓身体運動文化交流史に関する一考察－日本に伝承する朝鮮曲馬－. いばらき健康・スポー

ツ科学, 31, 43-46, 2014.

6. その他

大熊廣明, 李燦 雨, ほか 6 名: 日本と韓国の体育・スポーツ (身体運動文化) 交流史に関する共同研究, 公益財団法人韓昌祐・哲文化財団研究助成, 2013-2014.

李 燦雨: 朝鮮半島から日本に渡った「武」文化に関する研究 - 朝鮮通信使が伝えた馬上才と弓術 -, 公益財団法人三菱財団人文科学研究助成, 2013-2015.

李 燦雨: 日韓の身体運動文化交流史に関する研究 - 朝鮮通信使が伝えた武文化を中心に -, 公益財団法人 JFE21 世紀財団アジア歴史研究助成, 2014.

李 燦雨: アジア・太平洋戦争時における学校体育のミリタリズムに関する史的研究 - 千葉県市原市戸田小学校の体操と航空体育の展開に着目して -, 筑波大学体育系研究プロジェクト, 2014.

社会貢献活動

平成 26 年度日韓交流学生剣道親善試合 (関東学生剣道連盟) 通訳

公共機関, 企業等からの委託業務

「韓国体育・スポーツの状況」に関する取材 (読売新聞)

特任助教 荒 牧 亜 衣

研究業績

1. 学会発表

Ai Aramaki: The relationship between tangible legacies and intangible legacies: Focusing on Kasumigaoka National Stadium and Yoyogi National Stadium in Japan. 2014 Incheon Asian Games International Sport Science Congress, Incheon, 2014. 8.

荒牧亜衣: オリンピック・レガシー研究に対する哲学的アプローチの意義. 日本体育学会第 65 回大会 体育哲学専門領域企画シンポジウム B, 仙台, 2014. 8.

Koyo Fukasawa, Ai Aramaki: Beyond the border and changing public attitudes: Olympic education as intangible legacy. 2014 International Association for the Philosophy of Sport, Natal, 2014. 9.

Ai Aramaki: Relationship between tangible and intangible legacies: Focusing on the Games of the XVIII Olympiad in 1964. 2014 International Conference on Festivals, Sports, Confucianism and Culture, Body and Culture Society in Taiwan, Tainan, 2014. 9.

5. 受 賞

平成 26 年度日本体育学会浅田学術奨励賞 第 30 回オリンピック競技大会招致関連資料からみるオリンピック・レガシー

6. その他

「21 世紀の国際スポーツイベントのあり方に関する調査研究」(日本スポーツ振興センター文部科学省委託事業外部サポートメンバー)

研究業績

1. 学会発表

桐生習作：起倒流柔術の技法と稽古観に関する一考察：真田家文書を中心に。日本武道学会第47回大会，広島，2014.9.

Yamamoto S, Suzuki K, Tagami K, Komata K, Masuchi K, Kiryu S, Yamaguchi K, Okada H: Survival of staphylococcus aureus in tatami mats and judo-gi. 3rd World Scientific Congress of Combat Sport and Martial Arts, University of Rzeszow, Poland, 2014. 10. 15-17.

山本小百合，鈴木耕太郎，田神一美，桐生習作，増地克之，山口 香，小俣幸嗣，岡田弘隆：柔道衣及び畳に付着した黄色ブドウ球菌の生残性。第47回日本武道学会大会，福山市立大学，広島，2014.9.11.

2. 学術論文

金谷麻理子，小山宏之，富川理充，向後佑香，相羽美幸，吉松 梓，桐生習作，松田裕雄，吹田真士，吉岡利貢，宮下 憲：「大学体育」のカリキュラムの違いが長期的な教育的効果に及ぼす影響－T大学卒業生を対象としたアンケート調査に基づいて－。大学体育研究，36，17-28，2014.

3. その他論文

桐生習作，小林優希，中野勝司，藤田湧平，松元 剛，三木ひろみ：Tsukuba Summer Institute 2013 柔道実習報告。大学体育研究，36，63-72，2014.

桐生習作，鈴木王香，松倉啓太，小林勝法，遠藤卓郎：集中実技「合気道」新設。大学体育研究，36，73-78，2014.

5. 受賞

第28回筑波大学河本体育科学研究奨励賞 嘉納治五郎の「形」の普及戦略に関する研究

教育活動

2. 一般向け著書等

桐生習作：嘉納治五郎の「形」普及に関する一考察－「起倒流の形」から講道館「古式の形」への展開－。月刊武道，5月号，140-145，2014.

3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

University of Tsukuba Fair at Ho Chi Minn City University of Sport “Practice Judo: Jigoro Kano’s Thought and Practice” ベトナム ホーチミン市立体育大学（3月10・11日）

第34回東アジア研究型大学協会（AEARU）理事会（当番大学：筑波大学）における柔道演武（4月4日）

筑波大学重点公開講座 スポーツ科学の成果を指導・練習に活かそう！岩手県大船渡市での柔道教室（12月22・23日）

競技活動

2014 関東甲信越大学体育大会柔道競技 90kg級 第3位 林田幸之介 監督

2014 全日本柔道形競技大会 講道館 五の形 第4位 取：法兼真 受：桐生習作

2014 日本ベテランズ国際柔道大会 講道館 M1 90kg 級 第3位

2014 日本ベテランズ国際柔道大会 講道館 五の形 第2位 取：法兼真 受：桐生習作

社会貢献活動

公益財団法人全日本柔道連盟強化委員会科学研究部部員（2014年10月～現在）

日本武道学会評議員（2011年4月～現在）

日本武道学会柔道専門分科会事務局長（2011年4月～現在）

全国大学体育連合総務部委員（2014年4月～2015年3月）

特任助教 松 畑 尚 子

研究業績

1. 学会発表

松畑尚子：スポーツ活動の実態に関する一考察. 日本体育・スポーツ政策学会第24回大会, 東京, 2014. 12.

3. その他論文

松畑尚子：スポーツ活動の実態調査における調査項目に関する一考察. 筑波大学体育系紀要, 37, 155-157, 2014.

4. 著 書

松畑尚子：地方自治体のスポーツ行政機構. スポーツ白書2014～スポーツの使命と可能性～(笹川スポーツ財団編), 笹川スポーツ財団, 63-64, 2014.

松畑尚子：地方自治体のスポーツ振興への取り組み. スポーツ白書2014～スポーツの使命と可能性～(笹川スポーツ財団編), 笹川スポーツ財団, 67-69, 2014.

松畑尚子：運動・スポーツ実施状況に関する各種調査とその分析. スポーツ白書2014～スポーツの使命と可能性～(笹川スポーツ財団編), 笹川スポーツ財団, 78-80, 2014.

社会貢献活動

茨城体育学会幹事（平成25年～）

茨城体育学会「いばらき健康・スポーツ科学」編集委員会幹事（平成24年～）

特任助教 村 上 祐 介

研究業績

1. 学会発表

Sawae Y, Murakami Y, Sugiyama A, Doihata K & Saito M: Physical Imitation and Motor Difficulties in ASD: Increasing the Amount of Physical Exertion. The 13th International Symposium of Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise, Fuzhou: CHN, 2014. 8.

Saito M, Murakami Y & Sawae Y: Teachers should acquire a viewpoint of Adapted Physical Activity to achieve

Inclusive Physical Education. The 13th International Symposium of Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise, Fuzhou: CHN, 2014. 8.

村上祐介, 澤江幸則, 杉山文乃, 土井畑幸一郎: 自閉症スペクトラム障害児の投捕スキルの向上に着目した運動指導事例. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手大学, 2014. 8.

澤江幸則, 村上祐介, 杉山文乃, 土井畑幸一郎, 藤井彩乃: 自閉症スペクトラム障害のある子どもにおける身体動作模倣について 身体動作模倣時の特異的運動様式に着目して. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手大学, 2014. 8.

澤江幸則, 村上祐介, 杉山文乃, 土井畑幸一郎: 自閉症スペクトラム障害と身体動作模倣 ～青年期 3 事例をもとに～. 第 35 回医療体育研究会/第 18 回日本アダプテッド体育・スポーツ学会第 16 回合同大会, 神戸女学院大学, 2014. 12.

2. 学術論文

村上祐介: 自閉症スペクトラム障害児における長なわとび跳躍動作の効率性についての研究. 障害者スポーツ科学, 12 (1), 13-21, 2014.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

茨城県下妻市 親子サークル「ひまわり」運動指導 (下妻市, 月 1 回, 計 12 日)

東京都江東区 家族参加型スポーツ活動「アインげんきキッズ」運動指導 (江東区, 月 1 回, 計 12 日)

茨城県下妻市 「スイミーかるがも下妻」運動指導 (下妻市, 4 月～6 月, 計 10 日)

特任助教 笠野英弘

研究業績

1. 学会発表

笠野英弘: 日本におけるサッカー実施者の性格特性に関する一考察: ライフヒストリー分析を通して. 第 29 回日本保健医療行動科学学会学術大会, 東京, 2014. 6.

2. 学術論文

笠野英弘: 日本サッカー協会によって形成されてきた制度に関する一考察: 機関誌分析から. 体育・スポーツ経営学研究, 27 (1), 87-116, 2014.

笠野英弘: スポーツ行為者及びスポーツ組織の構造的連関に関する研究: 日本サッカーを中心として. 筑波大学体育系紀要, 37, 149-153. 2014.

社会貢献活動

日本体育学会編集委員会幹事 (平成 25 年～)

第 29 回日本保健医療行動科学学会学術大会事務局長 (平成 26 年)

日本フットボール学会 12th Congress 実行委員 (平成 26 年)

健康体力学分野

研究業績

1. 学会発表

- Ae M: Standard and individuality of sports techniques, Symposium lecture, Performance in Sport I, The 7th World Congress of Biomechanics, Boston, USA, 2014. 7.
- Hashizume J, Ae M, and Takanaka S: Biomechanical Study on a basketball dribble with a cutting motion, The 32nd International Congress of Biomechanics in Sport, Johnson City, USA, 2014. 7.
- Ishii T and Ae M: Biomechanical factors of effective Seoi-nage in Judo, The 32nd International Congress of Biomechanics in Sport, Johnson City, USA, 2014. 7.
- Kobayashi Y, Ae M, Miyazaki A, Fujii N, and Iiboshi A: A biomechanical study on improvement in the overarm throwing techniques of elementary school children, The 32nd International Congress of Biomechanics in Sport, Johnson City, USA, 2014. 7.
- Shimizu Y, Ae M, and Koike S: Contribution of the joint torque of the takeoff leg in the long jump, The 32nd International Congress of Biomechanics in Sport, Johnson City, USA, 2014. 7.
- Ae M: Congratulatory Speech, 2014 Incheon Asian Games International Sport Science Congress, Incheon, Korea, 2014. 8.
- 浅井 武, 藤井範久, 小池関也, 阿江通良: スキージャンプの数値流体解析を用いた流体力の検討. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 3. 8.
- 加藤謙一, 阿江通良, 森丘保典: 小学生における立ち幅跳びの観察評価の妥当性. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 3. 8.
- 清水 悠, 阿江通良, 小山宏之, 村木有也: 跳躍タイプが異なる走幅跳選手における踏切準備および踏切動作の kinetics 的特性. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 3. 8.
- 小林育斗, 阿江通良, 村田宗紀, 木下まどか, 大津卓也, 齋藤優輝: 標準動作モデルを用いた小学生の投動作改善の試み. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 3. 8.
- 橋爪 純, 阿江通良, 清水 悠, 阿江数通: バスケットボールの 1 対 1 におけるオフENSEスのフェイント動作の分析. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 3. 8.
- 石井孝法, 木下まどか, 近藤 俊, 阿江通良: 柔道背負投の指導指標に関するバイオメカニクス的研究. 第 23 回日本バイオメカニクス学会大会, 東京, 2014. 9.
- 加藤謙一, 阿江通良: 児童・生徒の疾走能力および疾走動作における発達バイオメカニクス. 第 23 回日本バイオメカニクス学会大会, 東京, 2014. 9.
- 門野洋介, 阿江通良, 榎本靖士: 800m レース中の疾走動作の特徴. 第 23 回日本バイオメカニクス学会大会, 東京, 2014. 9.
- 小林育斗, 阿江通良, 村田宗紀, 木下まどか, 大津卓也, 齋藤優輝: 標準動作モデルを用いた投動作練習による小学生の投球腕キネティクスの変化. 第 23 回日本バイオメカニクス学会大会, 東京, 2014. 9.
- 清水 悠, 阿江通良, 小山宏之, 村木有也: 一流男子走幅跳選手の踏切準備局面における支持脚の kinematics. 第 23 回日本バイオメカニクス学会大会, 東京, 2014. 9.
- 橋爪 純, 阿江通良, 清水 悠, 阿江数通: バスケットボールにおけるオフENSEスのフェイント動作に関する研究. 第 23 回日本バイオメカニクス学会大会, 東京, 2014. 9.

2. 学術論文

Suzuki Y, Ae M, Takanaka S and Fujii N: Comparison of support leg kinetics between side-step and cross-step cutting techniques, Sports Biomechanics, 13, 144-153, 2014.

加藤謙一, 川本 睦, 阿江通良, 森丘保典: 小学生における前転および後転動作の観察評価の妥当性. 発育発達研究, 64, 1-10, 2014.

3. その他論文

阿江通良: 動作を改善するために, 巻頭エッセイ. 体育科教育, 62-2, 9, 2014.

阿江通良: グローバル人材の養成に向けて筑波大学が推進する入試改革の内容に迫る. VIEW 21, ベネッセ教育総合研究所, 2014年10月号.

阿江通良: 筑波大学におけるグローバル人材育成を目指した取り組み. 月刊 経済連, 2014年12月号, 72-74.

4. 著 書

阿江通良: 第9章 子どもの身体性コンピテンスの発達に寄与するためにー体育・スポーツ学における課題と提案ー. 身体性コンピテンズと未来の子どもの育ち (澤江幸則, 木塚朝博, 中込四郎 編著), 明石書店, 232-245, 2014.

阿江通良: 序章 これからの運動科学の使命. 進化する運動科学の研究最前線. NTS, 2-8. 2014.

阿江通良: 第1章 第2節 走行動作. 進化する運動科学の研究最前線. NTS, 21-28. 2014.

教育活動

筑波大学副学長 (教育担当)・理事

平成26年年度筑波大学第5回FD研修会「筑波大学の教育改革」(1月13日)

社会貢献活動

日本体育学会会長 (平成25年～)

日本バイオメカニクス学会会長 (平成23年～)

国際スポーツバイオメカニクス学会編集委員 (2011年～)

日本学術会議 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会委員 (平成25年～)

日本陸上競技学会理事 (平成23年～)

日本コーチング学会理事 (平成23年～)

日本体育協会医科学委員会委員 (平成23年～)

独立行政法人日本学生支援機構 選考委員 (平成24年～)

日本オリンピック委員会医科学サポート部会委員 (平成24年～)

アスリートのキャリア形成支援方策の在り方に関する有識者会議 委員 (平成25年～)

つくば市総合運動公園基本計画策定委員会委員長 (平成25年1月～平成27年1月)

茗溪会理事 (平成25年～)

公共機関, 企業等からの委託業務

「マルチサポート事業: 研究開発プロジェクト」(文部科学省委託)

研究業績

1. 学会発表

- 大森 肇 (招待講演): 動物実験における運動負荷および運動効果の評価系, 協和発酵バイオ社内講演会, つくば, 2014. 2.
- Miyazaki T, Ishikura K, Honda A, Ra SG, Komine S, Ohmori H and Matsuzaki Y (Poster presentation): Increased N-acetyltaurine in serum and urine after endurance exercise in human. The 19th International Taurine Meeting, Krakow, Poland, 2014. 5.
- Ohmori H, Miyoshi T, Komine S, Matsui T, Ishikura K, Ra SG, Miyazaki T, Soya H and Miyakawa S (Oral presentation): Effects of taurine supplementation on change of blood glucose and liver glycogen during and after exhaustive running. The 19th International Taurine Meeting, Krakow, Poland, 2014. 5.
- Komine S, Miyoshi T, Matsui T, Ishikura K, Ra SG, Miyazaki T, Shoda J, Soya H and Ohmori H (Oral presentation): Taurine supplementation suppresses hypoglycemia and increases endurance running time in rats. The 19th International Taurine Meeting, Krakow, Poland, 2014. 5.
- Ra SG, Akazawa N, Choi Y, Matsubara T, Oikawa S, Tanahashi K, Kumagai H, Ohmori H and Maeda S (Poster presentation): Taurine supplementation decreases delayed onset muscle soreness but not muscle damage after eccentric exercise. The 19th International Taurine Meeting, Krakow, Poland, 2014. 5.
- Ra SG, Choi Y, Akazawa N, Ohmori H and Maeda S (Poster presentation): Taurine supplementation attenuates increase in arterial stiffness following high intense eccentric exercise. The 19th Annual Congress of the European College of Sport Science, Amsterdam, Netherlands, 2014. 7.
- Ohmori H (Invited speaker): Taurine supplementation inhibits hypoglycemia during prolonged exercise and extends exercise time to exhaustion in rats. Symposium of High Performance Foods and Beverages, Agricultural and Food Chemistry Division, the 248th American Chemical Society National Meeting & Exposition, San Francisco, USA, 2014. 8.
- 時野谷勝幸, 杉山康司, 大森 肇 (口頭発表): 相対強度を同一にしたノルディックウォーキングおよびウォーキングにおける主観的運動強度の比較. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 石倉恵介, 小峰昇一, 羅 成圭, 宮崎照雄, 宮川俊平, 大森 肇 (口頭発表): 分岐鎖アミノ酸投与がフルマラソン後の酸化ストレス・抗酸化力へ及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 羅 成圭, 崔 英珠, 赤澤暢彦, 大森 肇, 前田清司 (口頭発表): タウリン摂取は伸張性運動後の動脈スティフネスと酸化ストレスの増加を抑制する. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 宮崎照雄, 石倉恵介, 本多 彰, 宮川俊平, 大森 肇, 松崎靖司 (口頭発表): 長時間運動によるロイシン中間代謝産物 3-ヒドロキシイソ吉草酸 (3HMB) の血中濃度変化と分岐鎖アミノ酸 (BCAA) 摂取の影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

3. その他論文

- 大森 肇: マナーキッズ[®]. テニス教室は子供の感情を改善する < 5 研究報告 >. 公益財団法人マナーキッズ[®] プロジェクトについて 第 7 版, 5, 2014. 11.

6. その他

- 大森 肇: 運動後の筋痛・筋損傷に及ぼすアミノ酸投与の効果に関する研究 (2) < 奨学寄附金 >. (株)

生活文化舎：500,000 円，平成 22 年度受入（継続中）。

大森 肇：マナーキッズ®テニス教室における指導が中高年指導者自身の感情とストレスマーカーに及ぼす影響に関する研究〈奨学寄附金〉。認定 NPO 法人マナーキッズ®プロジェクト：390,600 円，平成 23 年度受入（継続中）。

大森 肇：運動に伴う筋痛・筋損傷に及ぼす分岐鎖アミノ酸摂取の効果に関する研究〈奨学寄附金〉。テルモ（株）：1,060,000 円，平成 24 年度受入（継続中）。

前田清司，鱒坂隆一，大森 肇，羅 成圭：TP-0121 がレジスタンス運動後の動脈ステイフネスに与える効果に関する研究〈共同研究〉。大正製薬（株）：1,400,000 円，平成 24 年度受入（平成 26 年 10 月 30 日まで）。

大森 肇：L-シトルリンおよび L-アルギニン摂取が運動パフォーマンスに及ぼす影響の検討〈共同研究〉。協和発酵バイオ（株）：1,188,000 円，平成 26 年度受入。

社会貢献活動

日本体力医学会評議員（平成 7 年～）

日本体力医学会学術委員・プロジェクト研究委員（平成 21 年～）

日本運動生理学会評議員（平成 5 年～）

日本健康行動科学会評議員（平成 14 年～）

日本体育学会学会賞選考委員（平成 26 年～）

認定 NPO マナーキッズ®プロジェクト理事（平成 22 年～ 26 年）

公益社団法人マナーキッズ®プロジェクト理事（平成 26 年～）

東京都杉並区三谷小学校学校運営協議会顧問（平成 25 年～）

国際タウリン研究会理事（平成 26 年～）

教授 木塚 朝 博

研究業績

1. 学会発表

速水達也，木塚朝博：力覚の精度を高める主観的運動強度の探索。長野体育学会第 49 回大会，長野，2014. 1.

柴山久美，山田 洋，小河原慶太，長尾秀行，天野 聡，中西英敏，木塚朝博：剣道における面打ち直前の後退動作が下肢の力発揮に及ぼす影響。日本体育学会第 65 回大会，岩手，2014. 8.

吉田雄大，大田 穂，木塚朝博：女子バスケットボール選手における一対一局面の守備能力と反応を伴う方向変換走能力との関係。日本体育学会第 65 回大会，岩手，2014. 8.

岡田宏祐，大田 穂，木塚朝博：投球速度とメディシンボール投げとの関係における投手と野手の相違。日本体育学会第 65 回大会，岩手，2014. 8.

大田 穂，岩間圭祐，岡田宏祐，木塚朝博：異なる介入プログラムが女子学生における遠投能力向上に及ぼす影響。日本体育学会第 65 回大会，岩手，2014. 8.

板谷 厚，木塚朝博：G ボールを用いたバランスエクササイズが姿勢制御に及ぼす即時効果。第 69 回日本体力医学会大会，長崎，2014. 9.

板谷 厚，高梨義弘，岩見雅人，木塚朝博：注意戦略の違いは視野制限下でのボールバウンス時の指位置変動に影響するか。東海体育学会第 62 回大会，岐阜，2014. 10.

岩間圭祐, 木塚朝博: 指標移動方向に対しての立ち位置が誤差に及ぼす影響. 第35回バイオメカニズム学術講演会, 岡山, 2014. 11.

大田 穂, 木塚朝博: ソフトボールのデュアルタスク状況下における視覚探索. 第35回バイオメカニズム学術講演会, 岡山, 2014. 11.

2. 学術論文

大田 穂, 木塚朝博: ソフトボールにおける状況判断を伴う捕送球技能の評価. 体育学研究, 59 (1), 17-28, 2014.

木塚朝博, 板谷 厚, 岩見雅人, 飯嶋裕美: 不安定面上で顕在化するボールリフティングの技能差. 体育学研究, 59 (1), 103-114, 2014.

速水達也, 金子文成, 横井孝志, 木塚朝博: ハプティクスデバイスを用いた下肢の体性感覚-運動関連機能の評価. バイオメカニズム, 22, 81-91, 2014.

岩見雅人, 田中秀幸, 木塚朝博: 速度変化を伴うボールバウンシング課題の動作円滑性の評価. バイオメカニズム, 22, 167-176, 2014.

大田 穂, 木塚朝博: 頭部回転に着目した状況判断を伴う捕送球技能の判別. バイオメカニズム, 22, 177-187, 2014.

Kaneko F, Hayami T, Aoyama T, Kizuka T: Motor imagery and electrical stimulation reproduce corticospinal excitability at levels similar to voluntary muscle contraction. Journal of NeuroEngineering and Rehabilitation, 11, 94-104, 2014.

3. その他論文

木塚朝博: スポーツカウンセリングが担うもの. 体育の科学, 64 (1), 2-4, 2014.

木塚朝博: 武道における「かたち」と動き. 体育の科学, 64 (9), 598-601, 2014.

6. その他

「未来の子ども育ち総合調査研究」(つくば市教育委員会)

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

27th FITNESS SESSION 2014 (日本Gボール協会主催講演)「重力から始まる動き ~豊かなGボールライフのススメ~」(5月3日)

ドルトンスクール教育講演会「子どもの体力・運動能力の発達停滞を防ぐために」(6月27日)

茨城県北相馬地区社会教育振興協議会総会講演「子どもの運動能力と学力」(7月4日)

つくば市体づくり運動研修講座「体育授業や部活動の導入に用いるデュアルタスク系運動遊び」(7月31日)

つくば市高崎しいのき学園教員研修講座「身体性コンピテンシーの評価と子どもの育ち」(8月6日)

茨城県総合健診協会健康運動研修会「子どもから高齢者まで楽しめるデュアルタスク運動遊び」(9月12日)

高大連携模擬講義(宮城県立石巻高等学校)「スポーツに必要な効率的な身体の動き」(10月21日)

特色ある学校づくり支援事業講座(茨城県立竹園高等学校)「筑波大学体育専門学群を知ろう」(11月6日)

生涯学習ネットワークフォーラム講演「運動と親子のコミュニケーション」(11月22日)

学生の意識と行動に関する研究会講演「体育会系学生の今」(11月26日)

つくば市春日学園教員研修講座「未来の子どもの育ちと身体性コンピテンシーの評価」(12月25日)

社会貢献活動

日本体力医学会評議員（2002～）
身体運動文化学会常任理事（2003～）
茨城体育学会理事（2003～）
日本体育学会代議員（2005～）
日本武道学会評議員（2011～）
バイオメカニズム学会常任理事（2012～）
体育の科学編集委員（2013～）
日本Gボール協会副理事長（2004～）
茨城県つくば市立吾妻小学校評議員（2010～）
社会福祉法人尚恵学園評議員（2011～）
茨城県つくば市立吾妻中学校評議員（2013～）

教授 久野 譜也

研究業績

1. 学会発表

- 田辺 解, 横山典子, 金 正訓, 千々木祥子, 吉澤裕世, 久野譜也: 高額なインセンティブを付与する健康運動教室における参加者の運動実施度と体力の変化－SWCプロジェクト(22)－. 日本体育学会第65回大会, 盛岡, 2014. 8.
- 金 正訓, 田辺 解, 横山典子, 千々木祥子, 吉澤裕世, 久野譜也: 運動プログラム実施度を向上させる効果的なインセンティブ付与方法の検討－SWCプロジェクト(23)－. 日本体育学会第65回大会, 盛岡, 2014. 8.
- 田辺 解, 金 正訓, 横山典子, 王チュウレイ, 吉澤裕世, 塚尾晶子, 久野譜也: 自治体共用型健康クラウドの開発－SWCプロジェクト(24)－. 日本体力医学会第69回大会, 長崎, 2014. 9.
- 王チュウレイ, 田辺 解, 金 正訓, 横山典子, 吉澤裕世, 塚尾晶子, 久野譜也: 健康クラウドによる医療費とライフスタイルとの関連性の地域間比較－SWCプロジェクト(25)－. 日本体力医学会第69回大会, 長崎, 2014. 9.
- 金 正訓, 田辺 解, 横山典子, 吉澤裕世, 塚尾晶子, 久野譜也: 「自治体共用型健康クラウド」を活用した地域住民のライフスタイル及び健康度評価の試み－SWCプロジェクト(26)－. 日本体力医学会第69回大会, 長崎, 2014. 9.
- 千々木祥子, 田辺 解, 横山典子, 金 正訓, 吉澤裕世, 塚尾晶子, 久野譜也: 中高齢者の運動実施を促進するためのインセンティブに反応しやすい住民の特徴－SWCプロジェクト(27)－. 日本体力医学会第69回大会, 長崎, 2014. 9.
- 吉澤裕世, 仲村紗由里, 千々木祥子, 横山典子, 金 正訓, 田辺 解, 久野譜也: 高齢者の自動車利用時間と居住地周辺の歩行環境及び移動手段への意識との関係－SWCプロジェクト(28)－. 日本体力医学会第69回大会, 長崎, 2014. 9.
- 横山典子, 齋藤直美, 鈴木桂林, 千々木祥子, 田辺 解, 久野譜也: 健康への関心の低い中高齢層をターゲットとした健康情報提供が健康行動変容へもたらす効果－SWCプロジェクト(29)－. 日本体力医学会第69回大会, 長崎, 2014. 9.
- 王シンチン, 田辺 解, 方 恩知, 津田瞳美, 齋藤 光, 齋藤直美, 久野譜也: サーキット運動プロ

- グラムが中高齢者の転倒不安及び歩行能力に及ぼす影響. 日本体力医学会第 69 回大会, 長崎, 2014. 9.
- 方 恩知, 田辺 解, 王シンチン, 津田瞳美, 齋藤 光, 齋藤直美, 久野譜也: 短時間のサーキット運動が中高齢女性の筋量, 筋力, 歩行能力に及ぼす影響. 日本体力医学会第 69 回大会, 長崎, 2014. 9.
- 田中弥生, 横山典子, 本川佳子, 中澤 優, 久野譜也: タブレット端末のセルフマネジメントプログラムが在宅酸素療養患者の重症化予防に及ぼす効果. 日本体力医学会第 69 回大会, 長崎, 2014. 9.
- 櫻井祐子, 田辺 解, 方 恩知, 王シンチン, 金 正訓, 横山典子, 久野譜也: 中高齢女性における歩容矯正による歩行トレーニングが足爪部形態と筋力に及ぼす影響. 日本体力医学会第 69 回大会, 長崎, 2014. 9.
- 江原義智, 田辺 解, 王チュウレイ, 王シンチン, 方 恩知, 千々木祥子, 久野譜也: 男子プロゴルファーにおける筋出力, 筋形態, 柔軟性とクラブヘッドスピードの関係性. 日本体力医学会第 69 回大会, 長崎, 2014. 9.
- 服部浩子, 金 正訓, 吉澤裕世, 田辺 解, 横山典子, 久野譜也: 高齢者におけるライフスタイルの相違がサルコペニアに及ぼす影響 - SWC プロジェクト(30) -. 第 73 回日本公衆衛生学会, 栃木, 2014. 11.
- 吉澤裕世, 金 正訓, 久野譜也: 自治体主導型運動教室がもたらす効果に関する研究 - 生活習慣病リスク減少と医療費抑制効果 -. 第 73 回日本公衆衛生学会, 栃木, 2014. 11.
- (招待講演)
- 久野譜也: 日本における「Smart Wellness City」の推進. BK21 + 運動の科学特化専門人材養成事業団 第 1 回海外碩学招待セミナー, ソウル, 2014. 1.
- 久野譜也: 日本における健康都市への取り組みの現状. 新年の運動学シンポジウム, ソウル, 2014. 1.
- 久野譜也: 健康都市の建設がなぜ必要か - Smart Wellness City project から考える -. 一般社団法人日本建設業連合会 都市・地域政策委員会 都市・地域政策部会, 東京, 2014. 1.
- 久野譜也: 健康長寿社会に向けた地域社会システム. 首都圏北部 4 大学連合主催 医工連携シンポジウム, 東京, 2014. 2.
- 久野譜也: 健康寿命延長と歩いて暮らせるまちづくり ~ Smart Wellness City の創造 ~. 大分市主催 まちづくり健康フォーラム, 大分, 2014. 2.
- 久野譜也: 「健幸」を核とした, 新しいまちづくり ~ スマートウエルネスシティ ~. 蕨市主催 わらび健康アップ計画推進のための講演会, 蕨, 2014. 2.
- 久野譜也: 人口減・高齢社会の処方箋としての Smart Wellness City. 第 4 回健幸長寿社会を創造するスマートウエルネスシティ首長研究会 in 南城市, 南城, 2014. 2.
- 久野譜也: アンチエイジングと運動. 日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会主催 研修用講習会, 大阪, 2014. 3.
- 久野譜也: 人もまちも健幸になろう. 豊岡市 SWC フォーラム, 豊岡, 2014. 3.
- 久野譜也: 健康寿命延長を可能とする先進型地域づくり - SWC の取り組み -. 一般財団法人浩志会主催 一三火会講演, 東京, 2014. 3.
- 久野譜也: 健幸長寿社会を実現する Smart Wellness City の創造. 直方市「住む人」と「まち」がともにげんきになるまちづくり計画作成事業ワークショップ, 直方, 2014. 3.
- 久野譜也: 人口減・高齢社会の処方箋としての Smart Wellness City. 第 5 回健幸長寿社会を創造するスマートウエルネスシティ首長フォーラム in さいたま市, さいたま, 2014. 3.
- 久野譜也: 健康的にやせたい! 生活習慣病にならないためにメタボ解消したい!! ~ いつまでも元気でい

たい！．丸大サクラキ薬局主催 第 22 回ハッピードラッグ健康づくり講演会，青森，2014. 4.

久野譜也：健康的にやせたい！生活習慣病にならないためにメタボ解消したい!!～いつまでも元気でいたい！．丸大サクラキ薬局主催 第 22 回ハッピードラッグ健康づくり講演会，八戸，2014. 4.

久野譜也：ヘルスケアデータを健康都市に活かす．TEP INNOVATION WEEK，柏，2014. 4.

久野譜也：人口減・超高齢化時代における健幸社会．平成 26 年度山梨県都市計画協会定期総会講演会，甲府，2014. 5.

久野譜也：地域における生活習慣病予防システムのあり方 - Smart Wellness City の創造 - ．HealthCare Innovation21 研究会主催 地域包括ケアシステムシンポジウム，東京，2014. 5.

久野譜也：エビデンスに基づく施策推進を可能とする自治体共用型健幸クラウドの開発とその成果．総務省九州総合通信局主催 スマート ICT 利活用セミナー，福岡，2014. 6.

久野譜也：超高齢社会と人口減に対応可能な Smart Wellness City の創造．国土交通省関東地方整備局平成 26 年度実践研修「地域づくり」，さいたま，2014. 6.

久野譜也：健康寿命を延長できる「まち」づくりの重要性 - Smart Wellness City の構築を目指して - ．第 8 回メディカルフィットネス・フォーラム，東京，2014. 6.

久野譜也：サルコペニア肥満予防のための簡単予防若返り筋トレ法．平成 26 年度関東甲信越診療放射線技師学術大会特別講演，つくば，2014. 6.

久野譜也：ボケない！寝たきりにならない！今から始めるからだづくり～後半人生をいきいき生きるヒント～．加須市健康づくり講演会，加須，2014. 7.

久野譜也：健康長寿社会を実現する Smart Wellness City のまちづくり．ぐんま“まちづくり”ビジョンシンポジウム，前橋，2014. 8.

久野譜也：いまなぜ健康都市づくりの推進が必要か - Smart Wellness City の創造 - ．第 9 回日本モビリティ・マネジメント会議，帯広，2014. 7.

久野譜也：超高齢社会対応の歩いて暮らせるまちづくり - Smart Wellness City の実現を目指して - ．平成 26 年度千葉県都市協会第 1 回講演会，千葉，2014. 8.

久野譜也：あなたのからだは若返る！～筋トレで健康づくり～．芳賀町健幸づくり講演会，芳賀，2014. 8.

久野譜也：健康長寿社会を実現するための「Smart Wellness City」プロジェクトの成果．Smart Wellness City Seminar in Korea 2014，昌原，2014. 8.

久野譜也：科学的根拠に基づく健康づくり．平成 26 年度北本市主催 筑波大学公開講座，北本，2014. 9.

久野譜也：健幸社会の実現を目指すスマートウエルネスシティ．地域問題研究所主催 第 42 次（平成 26 年度）市町村ゼミナール第 6 講，名古屋，2014. 9.

久野譜也：スマートウエルネスシティ実現へのステップとこれまでの効果．シルバー&ヘルスケア戦略特別セミナー，東京，2014. 9.

久野譜也：聞いてみたい！長く続けられる運動の秘訣！効果！．宇佐市市民公開運動講座，宇佐，2014. 9.

久野譜也：科学的根拠に基づく地域健康システムの構築法 - サルコペニア肥満予防からまちづくりによるポピュレーションアプローチ - ．第 42 回長野県保健補導員等研究大会，松本，2014. 10.

久野譜也：科学的根拠に基づく地域健康システムの構築法 - サルコペニア肥満予防からまちづくりによるポピュレーションアプローチ - ．第 42 回長野県保健補導員等研究大会，長野，2014. 10.

久野譜也：サルコペニア肥満を予防して健康寿命の延伸を目指そう．大和ハウス工業健康保険組合主催 シルバーエイジ健康管理セミナー，浜松，2014. 10.

久野譜也：「健幸」を核として新しいまちづくりとは～健康長寿社会を実現するスマートウエルネスシティ～．第 2 回健（康）幸（福）都市実現のための講演会，上田，2014. 10.

久野譜也：健幸社会の実現に向けて．「健康都市いたこ」記念式典講演，潮来，2014. 10.

久野譜也：目指せ健康長寿！今からはじめる・からだづくり．茨城県商工会連合会いばらきレディースカレッジセミナー，つくば，2014. 11.

久野譜也：健康寿命延伸のための国内制度及び健康サービス産業のあり方．経済同友会医療・福祉改革委員会第3回会合講演，東京，2014. 11.

久野譜也：寿命と健康寿命のギャップを小さくする秘訣．筑波大学退職準備セミナー，つくば，2014. 11.

久野譜也：スマートウエルネスシティの実践．厚生労働省 市町村職員対象セミナー，東京，2014. 12.

2. 学術論文

(原著論文)

Shimizu Kazuhiro, Hironori Sato, Yoko Suga, Satoko Yamahira, Masamichi Toba, Koji Hamuro, Keiji Kakumoto, Noriyuki Kohda, Takao Akama, Ichiro Kono, and Shinya Kuno: The effects of *Lactobacillus pentosus* strain b240 and appropriate physical training on salivary secretory IgA levels in elderly adults with low physical fitness: A randomized, double-blind, placebo-controlled trial. *J.Clin.Biochem. Nutr.*, 54, 61-66, 2014.

(総説)

吉澤裕世，久野譜也：健幸社会への処方箋「Smart Wellness City」．彩の国さいたま人づくり広域連合政策情報誌 5月号，12-16，2014.

吉澤裕世，久野譜也：歩いて暮らせる健康都市構築の必要性．新都市 5月号，9-13，2014.

千々木祥子，久野譜也：糖尿病における筋力の増強とサルコペニア肥満の関連性．べんちのーと，25，16-17，2014.

久野譜也：健康寿命延長のためのポピュレーションアプローチの考え方．介護福祉・健康づくり，1，10-16，2014.

田辺 解，久野譜也：サルコペニア肥満研究の最前線．介護福祉・健康づくり，1，56-59，2014.

吉澤裕世，久野譜也：地域環境と健康状態．介護福祉・健康づくり，1，44-46，2014.

塚尾晶子，久野譜也：健康都市政策を推進できる行政イノベータ育成．介護福祉・健康づくり，1，51-55，2014.

武田典子，横山典子，久野譜也：薬局薬剤師の身体活動指導に影響を及ぼす要因に関する横断的研究．健康支援，第16巻2号，29-37，2014.

福田佳奈子，久野譜也：個別健康支援プログラム提供システム～e-wellness システム～．次世代ヘルスケア機器の新製品開発，321-326，2014.

金 正訓，久野譜也：健康寿命延長のためのキーワード“サルコペニア肥満”．Kewpie News，479，1-9，2014.

久野譜也：ビックデータ活用による健康都市づくりの推進－Smart Wellness City の創造－．月刊ガバナンス 7月号，21-23，2014.

久野譜也：高齢化・人口減対策としての Smart Wellness City の可能性．自治体ソリューション 8月号，18-20，2014.

久野譜也：高齢化人口減対策としての健康都市－Smart Wellness City の創造－．月刊不動産流通 9月号，8-9，2014.

久野譜也：ビックデータ活用による健康都市づくりの推進－Smart Wellness City の創造－．自治体ソリューション 9月号，18-20，2014.

久野譜也：なぜ Smart Wellness City の実現には都市づくりが必要なのか？(1)．自治体ソリューション 10月号，18-20，2014.

久野譜也：なぜ Smart Wellness City の実現には都市づくりが必要なのか？(2)．自治体ソリューション
11月号，18-20，2014.

久野譜也：健康づくり無関心層の行動変容をもたらす新しいアプローチ－健康ポイント－．自治体ソ
リューション12月号，22-24，2014.

6. その他

平成26年度「スポーツを通じた地域コミュニティ活性化促進事業（健康づくり無関心層も含めた多くの
国民がスポーツライフ化を可能とするインセンティブ方法の検討（総合特別区域）」（文部科学省）
「特定のトレーニング効果に関する研究」（つくばウエルネスリサーチ）

教育活動

2. 一般向け著書等

病気になるしない背筋と腹筋の鍛え方（単著）．PHP 研究所，1-111，2014.

サルコペニア肥満解消ダイエット（単著）．朝日新聞出版，1-96，2014.

寝たきり老人になりたくないなら大腰筋を鍛えなさい（単著）．飛鳥新社，1-238，2014.

3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

TBS テレビ「駆け込みドクター！」.1月26日，2014.

TBS テレビ「はなまるマーケット」.1月15日，2014.

NHK 総合テレビ「クローズアップ現代」.1月28日，2014.

NHK 総合テレビ「あさいち」.5月13日，2014.

社会貢献活動

Smart Wellness City 首長研究会 事務局（平成21年～）

公益財団法人 国際交通安全学会「天下の公道」と生活道路に関する研究調査プロジェクト会員（平成
24年～）

公益社団法人 日本フィットネス協会理事（平成24年～）

独立行政法人 産業技術総合研究所 研究ユニット評価委員会（デジタルヒューマン工学研究センター）
委員（平成24年～26年）

総務省 ICT 超高齢社会構想会議ワーキンググループ 委員（平成25年～26年）

公益社団法人 日本フィットネス協会 理事（平成25年～28年）

内閣官房 環境未来都市推進委員会 委員（平成25年～26年）

奈良県 日本と東アジアの未来を考える委員会 委員（平成25年～26年）

独立行政法人 日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員（平成25
年～26年）

国土交通省 都市構造の評価手法に関する研究会 委員（平成25年～26年）

三菱総合研究所 超高齢社会対策に関する国際標準化フィージビリティスタディ調査委員会委員（平成
25年～26年）

内閣官房 IT 戦略本部・新戦略推進専門調査会 医療・健康分科会 委員（平成25年～28年）

奈良県 なら健康長寿基本計画推進戦略会議 委員（平成25年～27年）

奈良県 日本と東アジアの未来を考える委員会 委員（平成26年～28年）

独立行政法人 日本スポーツ振興センター情報・国際室外部専門員（平成26年～27年）

内閣官房 環境未来都市推進委員会 委員 (平成 26 年～ 27 年)
独立行政法人 産業技術総合研究所 研究ユニット評価委員会 (デジタルヒューマン工学研究センター)
委員 (平成 26 年～ 27 年)
奈良県トレーニングセンター構想検討委員会 委員 (平成 26 年～ 28 年)
国立スポーツ科学センター スポーツ科学研究部アドバイザーボード 委員 (平成 26 年～ 27 年)
経済産業省 健康サービス標準化委員会 及び 検討 WG 委員 (平成 26 年～ 27 年)
国土交通省 スマートウェルネス住宅等推進調査委員会 委員 (平成 26 年～ 27 年)
茨城県総合計画審議会 住みよいいばらきづくり専門部会 専門委員 (平成 27 年～ 28 年)

教授 白木 仁

研究業績

1. 学会発表

- 真下苑子, 藁科侑希, 白木 仁: 大学女子ハンドボール選手における疼痛発生の実態. 日本アスレティックトレーニング学会第 3 回学術集会, 愛知, 2014. 7.
- 秋山 圭, 高木斗希夫, 荒川裕志, 白木 仁: 国内トップレベルゴルフジュニア選手の体幹筋力の特徴について. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.
- 廣瀬文彦, 三瀬貴生, 齋藤武利, 白木 仁: 大学生の内科的疾患についてのアンケート調査 2014 年度入学生. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.
- 米原裕二, 中島亮一, 真下苑子, 白木 仁: 立位での股関節 Open Kinetic Chain Exercise が静的姿勢制御に及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 古川美幸, 下野俊彦, 竹村雅裕, 白木 仁, 向井直樹, 宮川俊平: 体幹トレーニングが身体に与える影響の安全性の検討. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 中島亮一, 功刀 峻, 前原 淳, 竹村雅裕, 向井直樹, 白木 仁, 宮川俊平: 短時間のスタビライゼーションエクササイズが閉眼片脚立位姿勢制御に及ぼす即時効果. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 真下苑子, 藁科侑希, 白木 仁: 大学女子ハンドボールチームにおける傷害発生の実態. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 永井 安, 吉田成仁, 竹村雅裕, 向井直樹, 白木 仁, 宮川俊平: 課題認知の付加が片脚着地時下肢筋活動に与える影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 藁科侑希, 白木 仁: バドミントンジュニアアスリートにおける肩関節特性と肩関節痛の特徴. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 菅藤俊樹, 真下苑子, 藁科侑希, 白木 仁: 大学男子柔道選手における傷害発生の実態. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 宮川俊平, 白木 仁, 竹村雅裕, 福田 崇: 筑波大学 (茨城県) におけるスポーツ医学拠点の構築. 第 25 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014. 11.
- 柵木聖也, 宮川俊平, 白木 仁, 金森章浩: 回転円盤形硬い回旋測定器 “RotorMeter” を用いた膝関節の回旋可動域の測定. 第 25 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014. 11.
- 目黒未来, 真下苑子, 藁科侑希, 白木 仁, 宮川俊平: 大学合気道部員における傷害調査. 第 25 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014. 11.
- 澤井朱美, 岡本嘉一, 白木 仁, 田中喜代次: NAFLD を有する肥満者に対する加速度トレーニングの

臨床的応用. 第 25 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014. 11.

2. 学術論文

(原著論文)

栖原弘和, 白木 仁, 宮川俊平: 腰割り動作のバイオメカニクスの分析. 日本臨床スポーツ医学会誌 22, 128-137, 2014.

村瀬陽介, 長岡裕理子, 橋富達也, 酒井 紳, 下門洋文, 安藤邦彬, 向後佑香, 竹田 剛, 鍋山隆弘, 白木 仁, 大高敏弘, 高木英樹: 集中実技「マリンスポーツ」における学習目標の達成度と授業満足度に影響を与える要因の検討～海への入水時間と学生の体調について～. 大学体育研究 36, 29-37, 2014.

4. 著 書

白木 仁: ジュニア (10～18 歳) ゴルファーのための“一流になれる”からだの作り方, 練習の仕方. 宝島社, 1-125, 2014.

白木 仁: 究極の体幹力が身につく股関節コアトレーニング. 永岡書店, 1-143, 2014.

白木 仁: カラダをつくるゴルフストレッチ. 新星出版社, 1-174, 2014.

教育活動

筑波大学公開講座 スポーツ教室「ゴルフ初級Ⅰ」(5月, 延べ7日間)

筑波大学公開講座 スポーツ教室「ゴルフ初級Ⅱ」(6月, 延べ7日間)

筑波大学公開講座 スポーツ教室「ゴルフ初級中級」(9月, 延べ7日間)

筑波大学公開講座 スポーツ教室「ゴルフ初級上級」(10月, 延べ7日間)

社会貢献活動

日本ゴルフ協会競技者育成強化推進本部 副本部長 (平成 23 年度～)

日本ゴルフ協会アンチドーピング普及委員 (平成 23 年度～)

日本オリンピック委員会強化スタッフ (ゴルフ) (平成 23 年度～)

日本ゴルフ協会競技者育成強化推進本部医科学 副会長 (平成 25 年度～)

日本ゴルフ協会オリンピックゴルフ競技対策本部強化委員会委員 (平成 25 年度～)

日本ゴルフ協会オリンピックゴルフ競技対策本部医科学部会 副本部長 (平成 25 年度～)

教 授 征 矢 英 昭

研究業績

1. 学会発表

征矢英昭: 運動時の脳は乳酸を利用する? 乳酸研究会, 2014. 2.

征矢英昭: 楽しいフリフリグッパで脳フィットネス, 徳島県精神福祉協会, 2014. 2.

征矢英昭: 身心統合科学のめざすもの, 第 3 回 BAMIS 国際フォーラム, シンポジスト, 2014. 3.

征矢英昭: 軽運動で高める認知機能, 第 3 回 BAMIS 国際フォーラム, 基調講演, 2014. 3.

Lee MC, Soya H: Voluntary resistance wheel running improves hippocampal development in adult rats. Korean Society for Exercise Nutrition, KOREA, Seoul, 2014. 4.

- Matsui T, Soya S, Kawanaka K, Soya H: Neuronal-activity-dependent hippocampal glycolysis mediated by dopamine. *Experimental Biology*, San Diego, CA, USA, 2014. 4.
- Soya M, Matsui T, Shima T, Omuro H, Soya H: Glycogen-Loading in Skeletal Muscles Synchronously Increases Hippocampal Glycogen-Evidence for Brain Glycogen-Loading-. The 61th Annual Meeting of American College of Sports Medicine, Orland, USA, 2014. 5.
- Shima T, Matsui T, Liu YF, Soya H: Chronic Moderate Exercise Improves Memory Dysfunction in Type 2 Diabetic Rats: Involvement of Hippocampal Glycogen. The 61th Annual Meeting of American College of Sports Medicine, Orland, USA, 2014. 5.
- 征矢英昭: シンポジウム 12 認知予備力を高める運動効果と脳機構. 第 14 回日本抗加齢医学会総会, 大阪, 2014. 6.
- Ochi G, Hyodo K, Suwabe K, Soya H: Influence of voluntary hyperventilation during hypoxia on executive function and prefrontal cortical activity: An experimental model for hypoxia central fatigue with exercise. The 19th European College of Sport Science, Amsterdam, the Netherlands, 2014. 7.
- Omuro H, Matsui T, Shima T, Soya M, Soya H: Inhibition of brain glycogenolysis suppresses endurance performance: a physiological role of brain glycogen. The 19th European College of Sport Science, Amsterdam, the Netherlands, 2014. 7.
- 征矢英昭: シンポジウム II 学校体育の復興と支援: 筑波大学の取り組み. 日本体育学会第 65 回大会, シンポジスト, 岩手, 2014. 8.
- Soya H: PLENARY SPEECH Sport and Exercise and Brain Function. ASEAN Fourum and International Conference on Sport Science and Technology(AFICSST), 基調講演, Grand Inna Kuta, Bali, Indonesia, 2014. 8.
- Soya H, Matsui T, Omuro H: Brain Glycogen As An Important Fuel During Prolonged Exercise. 2014 KAHPERD International Sport Science Congress, Congress Proceedings of Mutual Understanding, Trust, and respect Among Asians: Can Sport be the Answer, 基調講演, Incheon, South Korea, 2014. 8.
- 征矢英昭: シンポジウム 10 運動強度 - 神経活性相関と脳機構: 楽しい高強度インターバル運動効果. 日本体力医学会, シンポジスト, 長崎, 2014. 9.
- 征矢英昭, 根本清貴, 加藤守匡: シンポジウム 9 高齢者の認知機能を高める軽運動プログラム: 軽度認知障害 (MCI) にも有効. 日本体力医学会, シンポジスト, 長崎, 2014. 9.
- 越智元太, 兵頭和樹, 諏訪部和也, 邊ギョンホ, 征矢英昭: 低酸素運動時の認知疲労とその脳機構: fNIRS を用いた検討. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 兵頭和樹, 邊ギョンホ, 諏訪部和也, 越智元太, 征矢英昭: 前頭前野機能と関連の強い有酸素能力の同一換気性作業閾値に着目して-. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 諏訪部和也, 東 岳, 兵頭和樹, 邊ギョンホ, 征矢英昭: ポジションにより異なるサッカー選手の実行機能. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 松井 崇, 島 孟留, 大室秀樹, 征矢茉莉子, 川中健太郎, 征矢英昭: 運動時の神経活動依存的な海馬グリコゲン分解を担うドーパミン機構. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- イ ミンチョル, Randeep Rakwal, 柴藤淳子, 井上恒志郎, 岡本正洋, 征矢英昭: 負荷付き自発運動は海馬の炎症因子の発現を抑制する: マイクロアレイ解析による検討. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 陸 彰洙, 岡本正洋, 松井 崇, イ ミンチョル, 征矢英昭: 緑藻類由来アスタキサンチンによる海馬神経新生と空間学習能力の向上. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 島 孟留, 松井 崇, 大室秀樹, 征矢茉莉子, 征矢英昭: 2 型糖尿病の海馬グリコゲン高値の生理的意

- 義：運動適応能からの検討. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 大室秀樹, 松井 崇, 島 孟留, 征矢茉莉子, 征矢英昭：長時間運動における脳グリコゲン利用と疲労耐性：脂質代謝の関与. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 濱崎元直, 岡本正洋, 島 孟留, 征矢英昭：持久性トレーニング適応時の血中テストステロン枯渇の影響－骨格筋の代謝適応に着目して－. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 征矢茉莉子, 松井 崇, 島 孟留, 大室秀樹, 征矢英昭：運動は脳グリコゲンを高めるカーボローディングに必須である. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 征矢英昭：シンポジウム 29 海馬の活性化と可塑性を高める軽運動効果：新たな運動プログラムの開発をめざして. 第 36 回日本生物学的精神医学会 第 57 回日本精神化学会, 奈良, 2014. 10.
- Soya H, Okamoto M, Ochi G, Yook J: Hair cortisol as a chronic stress marker for endurance athletes to avoid overtraining. 2014 KNSU International Conference, シンポジスト, Seoul, South Korea, 2014. 11.
- Hyodo K, Dan I, Suwabe K, Byun K, Ochi G, Soya H: Elderly with high aerobic fitness maintain executive function predominantly by recruiting the primary hemisphere in the prefrontal cortex: A neuroimaging study with fNIRS. The 44th Society of Neuroscience, Washington DC, USA, 2014. 11.
- Soya H: Exercise-enhanced executive function and its brain mechanism: fNIRS study. International congress on sports psychology, 基調講演, Delhi University, 2014. 10.
- Soya H: How 10 minutes of mild exercise enhances cognitive performance and mood: potential role of Yogic breathing, 2nd Indo-Japan Conclave & Satellite Symposium at Manav Rachna International University, シンポジスト, 2014. 10.
- Yook J, Okamoto M, Matsui T, Lee MC, Soya H: Marine-plant-derived astaxanthin that enhances adult hippocampal neurogenesis and spatial memory in mice. The 44th Society of Neuroscience, Washington DC, USA, 2014. 11.
- Soya H: Functional near-infrared spectroscopy and Cognitive study. Faculty of Associated Medical Sciences Annual Conference 2014, 教育講演, Centara Duangtawan hotel, Chiang Mai, Thailand, 2014. 11.

2. 学術論文

- Byun K, Hyodo K, Suwabe K, Ochi G, Sakairi Y, Kato M, Dan I, Soya H: Positive Effect of acute mild exercise on executive function via arousal-related prefrontal activations: An fNIRS study. *NeuroImage*, 98:336-345, 2014.
- Byun K, Hyodo K, Suwabe K, Kujach S, Kato M, Soya H: Possible influences of Exercise-intensity-dependent increases in non-cortical hemodynamic variable on NIRS-based neuroimaging analysis during cognitive task: Technical note. *Jornal of Exercise Nutrition & Biochemistry*, Korea Society for Exercise Nutrition, 18: 327-332, 2014.
- Lee MC, Rakwal R, Shibato J, Inoue K, Chang HK, Soya H: DNA microarray-based analysis of voluntary resistance wheel running reveals novel transcriptome leading robust hippocampal plasticity. *Physiol Reps*, 2: e12206 1-16 November 2014 Vol. 2 no. e12206, 2014.

4. 著書

- 征矢英昭：IX 章 運動. リッピンコットシリーズ イラストレイテッド生理学（鯉淵典之，栗原敏監訳），丸善出版，553-564，2014.
- 征矢英昭，諏訪部和也：第 3 章 5，認知的能力の発達にも効果がある 幼児期運動指針実践ガイド（日本発育発達学会編），杏林書院，53-57，2014.

征矢英昭：特集 脳の10年：運動・スポーツの神経科学最前線 運動神経科学研究への期待. 体育の科学, vol 64, 杏林書院, 302-305, 2014. 5.

諏訪部和也, 征矢英昭：特集 脳の10年：運動・スポーツの神経科学最前線 前頭前野の実行機能と運動, 体育の科学, vol 64, 杏林書院, 339-344, 2014. 5.

邊ギョンホ, 諏訪部和也, 征矢英昭：特集 うつ病の早期介入, 予防 (I) 運動はうつ病の改善や予防に寄与するか. 精神医学, 第56巻, 第8号, 医学書院, 2014. 8.

岡本正洋, 征矢英昭：海馬の神経新生. ニュー運動生理学 (I). 真興交易医書出版部, 48-56, 2014.

5. 受賞

神経科学部門奨励賞：Matsui T, Soya S, Kawanaka K, Soya H: Neuronal-activity-dependent hippocampal glycolysis mediated by dopamine. Experimental Biology, San Diego, CA, USA, 2014. 4.

6. その他

「スローエアロビックの監修と身体効果の検証に関する学術指導」(公益社団法人日本エアロビック連盟)

「アスタキサンチンが脳フィットネスに及ぼす効果に関する研究」(アスタリール株式会社)

「脳内グリコーゲン等を指標とした運動パフォーマンスや集中力の向上に寄与する食品成分の有効性確認と作用機序の解明」(キリンビバレッジ株式会社)

「フルスルチアミン投与が運動時中枢疲労に及ぼす効果：脳グリコーゲン代謝に着目して」(武田薬品工業株式会社)

「ヒューマン・ハイ・パフォーマンスを実現する次世代健康スポーツ科学の国際研究教育拠点」(文科省特別経費研究教育プロジェクト)

「スポーツ神経科学の国際研究拠点」(学術振興会, 頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム, 2014-2016)

教育活動

2. 一般向け著書等 (翻訳書等を含む)

征矢英昭, 諏訪部和也：特別対談～後編～スローエアロビックでカロリーベースの運動から気分を明るくするための運動へ. 季刊スマイル, 日本エアロビック連盟, vol 64, 6-7, 2014. 4.

征矢英昭:脳と運動～低強度でストレスなく～. スタイルアサヒ7月号 第58号, 朝日新聞, 8-9, 2014. 7.

征矢英昭：脳フィットネスからみた軽運動の効果～わずか10分の軽運動でも認知機能は高まる. 季刊スマイル, 日本エアロビック連盟, vol 66, 4-7, 2014. 10.

征矢英昭：筋トレが“若い”体と心をつくる～効果3 脳を活性化 抗不安効果で心配性を改善 高齢者の認知機能改善も. 日経ヘルス12月号, 54-55, 2014. 11.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

征矢英昭：脳フィットネスを高める運動とその分子基盤. 第8回 ILSI Japan ライフサイエンス・シンポジウム, 東京, 2014. 2.

征矢英昭:平成25年度講演会 楽しいフリフリグッパで脳フィットネスを高めよう. 徳島精神保健会, 徳島, 2014. 2.

征矢英昭：短時間運動で被災児体力向上. NHK 茨城県ニュース水戸放送局, 2014. 2.

征矢英昭：2分間体操で体力向上効果被災地の小学生 筑波大が開発. 日本経済新聞, 2014. 2.

征矢英昭：利根町フリフリグッパ交流会 (講話及び実技指導). 利根町公民館, 茨城, 2014. 3.

- 征矢英昭：多世代交流が生み出す効果と地域に果たす役割。区民健康講演会（江戸川区医師会・コトニア吉祥寺主催），東京，2014. 4.
- 征矢英昭，菊池章人：征矢英昭教授らの研究 被災地児童に『新体操』運動不足などにも効果。筑波大学新聞 第313号1面，2014. 4.
- 征矢英昭：運動と脳の働き。仙台市上杉山通小学校 学校公開日，宮城，2014. 5.
- 征矢英昭：軽い運動でも脳の認知機能向上。おはよう日本 NHK 水戸放送局（VTR 出演），2014. 5.
- 征矢英昭：脳フィットネスからみた軽運動の効果～わずか10分の軽運動でも認知機能は高まる。日本エアロビクス連盟定時総会特別講演，東京，2014. 6.
- 征矢英昭：10分歩けば脳活発に 筑波大など発表 軽い運動でも効果。日本経済新聞 34面，2014. 6.
- 征矢英昭：ゴルフ生理学。日本ゴルフ協会 PGA ティーチングプロ B 級講習会 後期1学期，静岡，2014. 7.
- 征矢英昭：フリフリグッパ―体操 音楽に合わせて気分爽快。朝日新聞（神奈川県）28面，2014. 7.
- 征矢英昭：脳フィットネスを高める運動効果。国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 所内セミナー，東京，2014. 9.
- 征矢英昭：校庭の仮設撤去 0.6% 子どもの体力低下。毎日新聞（宮城県）1面，2014. 9.
- 征矢英昭：脳フィットネスの進め～心とからだに効く運動～。マツダ(株)安全健康防災推部 健康推進センター，広島，2014. 10.
- 征矢英昭，諏訪部和也：スローエアロビクスで脳フィットネス。平成26年度スローエアロビク講習会，群馬，2014. 10.
- 征矢英昭：アスタキサンチンと海馬の可塑性。アスタリール(株)東京支店社内勉強会講演，東京，2014. 11.
- 征矢英昭：走って脳を鍛える，記憶力や集中力UP，10分・ゆっくりでもOK。日本経済新聞 40面，2014. 11.
- 征矢英昭：脳フィットネスを高めるスローランニング効果とその脳神経基盤。花王(株)生命科学研究室内講演，花王(株)生命科学研究，栃木県芳賀郡市貝町，2014. 12.
- 征矢英昭：運動と脳。スキルアップ研修・認知機能低下予防運動指導者養成コース講義，東京，2014. 12.

社会貢献活動

「体育の科学」（日本体育学会編集）編集委員

「子どもの発育発達」（日本発育発達学会編集）編集委員

国際誌 Journal of Physiological Science, Editor

国際誌 J Exerc Nutr Biochem, Editor

国際誌 Baltic Journal of Health and Physical Activity, Editor

国際誌 Journal of Sports Science, Editor

国際誌 MR International Journal of Applied Health Sciences, Editor

筑波大学社会貢献プロジェクト「筑波大学発 SPARTS プログラムで東北被災地の子供たちを元気にする」

教授 田 神 一 美

研究業績

1. 学会発表

Kazumi Tagami: A histiostomatid attaches to the most common Dermaptera in Japan. 14th International Congress of Acarology, Japan (Kyoto), 2014. 7.

2. 学術論文

Kazumi Tagami, Izumi Nagata, Keisuke Sueki: Estimated environmental radionuclide transfer and deposition into outdoor swimming pools. Journal of Environmental Radioactivity 136, 30-35, 2014.

社会貢献活動

日本ダニ学会評議員（平成22年～）

Member of 14th International Congress Local Committee, General and Proceeding Assistant Editor.

教授 武 田 文

研究業績

1. 学会発表

Monma T, Takeda F, Tamiya N, Noguchi H: Activity of Daily Living (ADL) factors among Japanese Older Adults: Analyses of Age and Gender differences. The 1st International Conference on Global Aging Tsukuba, Ibaraki, Japan, 2014. 1.

朴峠周子, 武田 文, 門間貴史, 香田泰子: 知的障害者施設職員の精神健康と労働要因 - (第三報) 仕事満足感と職業性ストレス・ソーシャルサポートとの関連 -. 第15回日本健康支援学会年次学術大会, 東京, 2014. 3.

沈 健, 武田 文, 浅沼 徹, 門間貴史, 香田泰子, 鈴木淳子: 中国における高校教員のメンタルヘルスと心理社会的要因. 第15回日本健康支援学会年次学術大会, 東京, 2014. 3.

門間貴史, 武田 文, 香田泰子, 朴峠周子: 知的障害者施設職員の精神健康と労働要因 - (第二報) 抑うつと職業性ストレス・ソーシャルサポートとの関連 -. 第15回日本健康支援学会年次学術大会, 東京, 2014. 3.

鈴木淳子, 武田 文, 門間貴史, 香田泰子, 浅沼 徹, 沈 健: 中年期女性のストレスと精神健康に関する年齢層別検討. 第15回日本健康支援学会年次学術大会, 東京, 2014. 3.

香田泰子, 武田 文, 門間貴史, 朴峠周子: 知的障害者施設職員の精神健康と労働要因 - (第一報) 日常業務およびストレスの状況 -. 第15回日本健康支援学会年次学術大会, 東京, 2014. 3.

浅沼 徹, 武田 文, 門間貴史, 香田泰子, 鈴木淳子, 沈 健: 大学生運動部員のストレス対処力に関連する部活動経験とその要因. 第15回日本健康支援学会年次学術大会, 東京, 2014. 3.

山根真紀, 武田 文: マスターズアルペンスキー選手の特徴について (第2報) - 各県スキー連盟の取り組み -. 日本スキー学会第24回大会, 新潟, 2014. 3.

門間貴史, 武田 文, 設楽紗英子, 古谷紀子: 就労する初産妊婦の精神健康とソーシャルサポート. 第87回日本産業衛生学会, 岡山, 2014. 5.

設楽紗英子, 武田 文, 門間貴史, 古谷紀子: 日本における職場のハラスメント測定方法に関する文献

- 的考察. 第 87 回日本産業衛生学会, 岡山, 2014. 5.
- Shitara S, Takeda F, Monma T, Furutani N: Workplace bullying in Japan: A preliminary study. International Association on Workplace Bullying and Harassment, Milano, Italy, 2014. 6.
- Kishi K, Takeda F, Nagata Y, Suzuki J, Monma T, Asanuma T: The Relationship between Frequency of Incarceration and Psychosocial Factors among Male Japanese Criminals in Offender Rehabilitation Facilities. The 6th Annual Conference of the Asian Criminological Society, Osaka, Japan, 2014. 6.
- Kishi K, Takeda F, Hotoge S, Nagata Y: Frequency of Incarceration, Criminal Thinking, and Sense of Coherence Among Male Japanese Criminals in Offender Rehabilitation Facilities. XVIII ISA World Congress of Sociology, Kanagawa, Japan, 2014. 7.
- Monma T, Takeda F, Tamiya N, Noguchi H: Age and Gender Differences in Relationships Among Sociodemographics, Disease, Psychosocial Stressors, and Mental Health in Older Japanese Adults. XVIII ISA World Congress of Sociology, Kanagawa, Japan, 2014. 7.
- Shitara S, Takeda F, Monma T, Ozawa S, Furutani N: Relationships between Mental Health and Demographic Factors, Work Stressors and Social Supports among Working Pregnant Women. The 21st Asian Conference on Occupational Health, Fukuoka, Japan, 2014. 9.
- Monma T, Takeda F, Kohda Y: Relationships between Depression, Demographic Factors, and Sense of Coherence among the Caregivers in Nursing Homes for People with Intellectual Disabilities. The 21st Asian Conference on Occupational Health, Fukuoka, Japan, 2014. 9.
- Ozawa S, Takeda F, Abe M, Monma T, Watanabe Y: Relationship between Readiness for Return to Work and Usage of "Rework" Services among Unemployed People and Those on Sick Leave Due to Affective Disorders. The 21st Asian Conference on Occupational Health, Fukuoka, Japan, 2014. 9.
- Abe M, Takeda F, Monma T, Tsuruta M, Ozawa S, Furutani N: Smoking Status and Psychosocial Factors in Working Pregnant Women. The 21st Asian Conference on Occupational Health, Fukuoka, Japan, 2014. 9.
- Tsuruta M, Takeda F, Monma T, Abe M, Furutani N: Relationships between Mental Health and Demographic Factors, Work Stressors and Social Supports among Working Pregnant Women. The 21st Asian Conference on Occupational Health, Fukuoka, Japan, 2014. 9.
- Monma T, Takeda F, Noguchi H, Tamiya N: Activity limitation and the relation with health status. The 2nd International Conference on Global Aging Tsukuba, Ibaraki, Japan, 2014. 9.
- 浅沼 徹, 武田 文, 門間貴史, 木田春代, 鈴木淳子, 朴峠周子: 性別・競技タイプ別にみた大学生アスリートの競技ストレスの状況とその関連要因. 第 73 回日本公衆衛生学会総会, 栃木, 2014. 11.
- 鈴木淳子, 武田 文, 門間貴史, 浅沼 徹, 木田春代: 中年期女性のストレス対処力 (SOC) とストレス認知との関連. 第 73 回日本公衆衛生学会総会, 栃木, 2014. 11.
- 門間貴史, 武田 文, 角田憲治, 北濃成樹, 浅沼 徹, 朴峠周子, 大藏倫博: 地域高齢者における身体活動と Sense of Coherence (SOC) との因果関係. 第 73 回日本公衆衛生学会総会, 栃木, 2014. 11.
- 朴峠周子, 武田 文, 浅沼 徹, 門間貴史, 木田春代: 小学校高学年児童のストレス対処力 (SOC) 下位概念とストレス対処方略との関連. 第 73 回日本公衆衛生学会総会, 栃木, 2014. 11.
- 浅沼 徹, 武田 文, 門間貴史: 大学生アスリートにおける首尾一貫感覚とソーシャルサポートとの関連. 第 79 回日本民族衛生学会総会, 茨城, 2014. 11.
- 香田泰子, 武田 文, 門間貴史, 茨木尚子: 知的障害者施設職員における抑うつとの関連要因 - 年齢層別による検討 -. 第 79 回日本民族衛生学会総会, 茨城, 2014. 11.
- 門間貴史, 武田 文, 茨木尚子, 香田泰子: 知的障害者施設職員における仕事満足感と Sense of

Coherence, ソーシャルサポートとの関連. 第 79 回日本民族衛生学会総会, 茨城, 2014. 11.

沈 健, 武田 文, 浅沼 徹, 門間貴史: 中国の高校教員におけるメンタルヘルスと心理社会的要因との関連. 第 79 回日本民族衛生学会総会, 茨城, 2014. 11.

2. 学術論文

藤原愛子, 武田 文: 小学校低学年における幼若永久歯う蝕とフッ化物配合歯磨き剤使用方法との関連. 日本歯科衛生学会雑誌, 8 (2), 38-45, 2014.

Kishi K, Takeda F, Nagata Y, Suzuki J, Monma T, Asanuma T: The Japanese Criminal Thinking Inventory Development, Reliability, and Initial Validation of a New Scale for Assessing Criminal Thinking in a Japanese Offender Population. International Journal of Offender Therapy and Comparative Criminology, online publication. doi:10.1177/0306624X14533937

香田泰子, 武田 文, 門間貴史: 高齢化する知的障害者施設における職員の仕事満足感に関わる労働要因. 高齢者ケアリング学研究会誌, 5 (1), 24-33, 2014.

山根真紀, 武田 文: マスターズスキーの現状-参加者の人数・性・年代・地域別特徴と県スキー連盟の取り組み-. スキー研究, 11 (1), 43-50, 2014.

6. その他

「労働者の健康とパフォーマンスに関する研究」(株式会社クオレ・シー・キューブ), 2013～2015年
「人口構造・世帯構造の変化に伴う新たなニーズに対する社会保障政策の効果測定に関する理論的・実証的研究」(国立社会保障・人口問題研究所) 2012～2014年

教育活動

一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

筑波大学公開講座「家族の健康生活スキルアップ」(7月19日)

社会貢献活動

日本公衆衛生学会評議員 (2014年～)

日本健康教育学会評議員 (2014年～)

日本公衆衛生学会査読委員 (2012年～)

日本健康支援学会編集委員 (2012年～)

日本歯科衛生教育学会倫理審査委員 (2012年～)

国立社会保障・人口問題研究所研究プロジェクト委員 (2012年～)

日本口腔衛生学会査読委員 (2011年～)

教授 武政 徹

研究業績

1. 学会発表

武政 徹: テトラヒメナの分子生物学, 血管内皮細胞の細胞生物学, そして骨格筋の運動生理学-研究の変遷-. 2014年 生体運動合同班会議, 宮城, 2014. 1.

名嘉夏織, 武政 徹: 機能性ポリフェノール摂取による廃用性筋萎縮の抑制効果の検討. 第 160 回日本

体力医学会関東地方会, 東京, 2014. 3.

武政 徹: 大会企画シンポジウム「分子レベルで探る運動生理学の魅力」のイントロダクション. 第91回日本生理学会大会, 鹿児島, 2014. 3.

Kohei Takeda, Tohru Takemasa: Effects of 6weeks swimming training on ammonia metabolism in skeletal muscle in mice. 19th annual Congress of the European College of Sport Science, Amsterdam/The Netherlands, 2014. 7.

Shin Fujimaki, Ryo Hidaka, Makoto Asashima, Tohru Takemasa and Tomoko Kuwabara: Satellite Cell Activation in Adult and Aged Mice after Voluntary Wheel Running. 19th annual Congress of the European College of Sport Science, Amsterdam/The Netherlands, 2014. 7.

村上生馬, 武政 徹: 筋損傷後の早期運動介入が治癒過程に及ぼす影響. 第22回日本運動生理学会, 岡山, 2014. 7.

藤巻 慎, 桑原知子, 武政 徹: 運動による骨格筋衛星細胞活性化と Wnt の関与. 第22回日本運動生理学会, 岡山, 2014. 7.

武田紘平, 武政 徹: 骨格筋におけるアンモニアトランスポーターの発現動態の検討. 第22回日本運動生理学会, 岡山, 2014. 7.

武政 徹: シンポジウム「高強度運動が骨格筋の代謝に及ぼす影響」のイントロダクション. 日本体育学会第65回大会, 岩手, 2014. 8.

武田紘平, 阿部貴晃, 武政 徹: 6週間の水泳トレーニングが血中アンモニア代謝とパフォーマンスに与える影響. 2014 日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

2. 学術論文

Shin Fujimaki, Ryo Hidaka, Makoto Asashima, Tohru Takemasa, Tomoko Kuwabara: Wnt protein-mediated satellite cell conversion in adult and aged mice following voluntary wheel running. J Biol Chem., 289, 7399-7412, 2014. 3.

競技活動

2014 第28回スイムマラソン (ジョイフルアスレチッククラブ) 男子5000m の部 50歳以上部門
1時間25分02秒

社会貢献活動

日本運動生理学会・理事, 幹事 (2009年～現在)

日本体力医学会・理事 (2012年～現在)

日本体育学会・代議員 (2008年～現在)

教授 田中喜代次

研究業績

1. 学会発表

藪下典子, 大久保善郎, 根本みゆき, 田中喜代次: 東日本大震災被災高齢者における1年間の体力変化～福島県楢葉町を対象に～. 第15回日本健康支援学会, 東京, 2014. 3. (ポスター発表)

辻本健彦, 蘇 リナ, 金 甫建, 加藤千晶, 鈴木 駿, 太田康司, 田中喜代次: 肥満者における減量期

- 間中の身体活動が睡眠状況に及ぼす影響. 第15回健康支援学会学術集会, 東京, 2014. 3. (口頭発表)
- 根本みゆき, 藪下典子, 金 美芝, 清野 諭, 鄭 松伊, 大須賀洋祐, 大久保善郎, ラファエル フィゲロア, 田中喜代次: 虚弱指標の比較～Fried's frailty, 基本チェックリスト, サルコペニア, mobility limitation, ロコモティブシンドローム～. 第15回日本健康支援学会, 東京, 2014. 3. (ポスター発表)
- 蘇 リナ, 小林奈美, 辻本健彦, 江藤 幹, 金 甫建, 加藤千晶, 田中喜代次: 身体計測項目を用いた内臓脂肪量簡易推定式の提案. 第15回日本健康支援学会学術集会, 東京, 2014. 3. (ポスター発表)
- 鄭 松伊, 盧 昊成, 清野 諭, 大須賀洋祐, 朴 俊成, 大久保善郎, 藪下典子, 根本みゆき, 坂井智明, 田中喜代次: 高齢男性における身体機能の日韓比較: 13年前の測定値と比較して. 第15回健康支援学会学術集会, 東京, 2014. 3.
- Figueroa Rafael, 清野 諭, 藪下典子, 大久保善郎, 大須賀洋祐, 根本みゆき, 鄭 松伊, 田中喜代次: 後期高齢男女におけるADL年齢推定式作成の試み. 第14回日本健康支援学会学術集会, 東京, 2014. 3. (ポスター発表)
- 大久保善郎, 清野 諭, 藪下典子, 大須賀洋祐, 鄭 松伊, 根本みゆき, 金 美芝, フィゲロア ラファエル, 田中喜代次: 地域在住高齢者における運動習慣の種目特性と転倒の関係. 第15回日本健康支援学会年次学術大会, 東京, 2014. 3. (口頭発表)
- 小澤多賀子, 田中喜代次, 清野 諭, 重松良祐, 大森葉子, 大田仁史: 高齢者介護予防ボランティアによる体操普及活動プログラムの有効性の検討. 第15回日本健康支援学会学術集会, 東京, 2014. 3. (ポスター発表)
- 相羽達弥, 大久保善郎, 大須賀洋祐, 鄭 松伊, Rafael Figueroa, 金 甫建, 金 泰浩, 辻本健彦, 田中喜代次: 地域在住高齢者に対する下肢伸展動作時の低負荷筋機能測定. 第15回日本健康支援学会年次学術大会, 東京, 2014. 3. (口頭発表)
- 金 泰浩, 鄭 松伊, 大須賀洋祐, 大久保善郎, Rafael Figueroa, 藪下典子, 根本みゆき, 田中喜代次: 高齢者の主観的な痛みと移動能力, 高次生活機能との関連. 第15回日本健康支援学会学術集会, 東京, 2014. 3. (ポスター発表)
- 金 甫建, 辻本健彦, 蘇 リナ, 加藤千晶, 江藤 幹, 田中喜代次: 肥満男性における食習慣改善と運動実践を併用した減量が筋量及び筋力に及ぼす影響. 第15回日本健康支援学会, 東京, 2014. 3. (口頭発表)
- 加藤千晶, 辻本健彦, 呉 世昶, 江藤 幹, 蘇 リナ, 金 甫建, 鈴木 駿, 正田純一, 田中喜代次: 中高強度身体活動量の増加による非アルコール性脂肪性肝疾患の改善. 第15回日本健康支援学会学術集会, 東京, 2014. 3. (口頭発表)
- 住田有希恵, 藪下典子, 根本みゆき, 鄭 松伊, 大須賀洋祐, 大久保善郎, ラファエル フィゲロア, 沖直哉, 田中喜代次: 虚弱女性高齢者における認知機能と体力の関係. 第15回日本健康支援学会年次学術大会, 東京, 2014. 3. (口頭発表)
- 原奈都良, 大久保善郎, 大須賀洋祐, 鄭 松伊, フィゲロア ラファエル, 相羽達弥, 辻本健彦, 田中喜代次: 地域在住高齢者における歩行時身体動揺と歩行能力の: 頭部および腰部の3軸加速度計による検討. 第15回日本健康支援学会年次学術大会, 東京, 2014. 3. (ポスター発表)
- 呉 世昶, 田中喜代次, 正田純一: 非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) の治療に向けた最適な運動強度・時間の探索, 第100回日本消化器病学会総会, 東京, 2014. 4. (口頭発表, シンポジウム)
- 呉 世昶, 山岸良匡, 加藤千晶, 蘇 リナ, 志田隆史, 佐治朱美, 田中喜代次, 正田純一: NAFLD 肥満者に効果的な運動療法を実践するための中高強度身体活動量の検討, 第50回日本肝臓学会総会, 東京, 2014. 5. (口頭発表)

- 呉 世昶, 山岸良匡, 田中喜代次, 正田純一: 非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) の肝病態と運動強度との関連, 第 22 回肝病態生理学会, 東京, 2014. 5. (口頭発表)
- 小澤多賀子, 田中喜代次, 大森葉子, 大田仁史: 高齢者介護予防ボランティアによる体操普及活動が個人の介護予防へ与える効果. 第 51 回リハビリテーション医学会学術集会, 名古屋, 2014. 6. (ポスター発表)
- 小澤多賀子, 田中喜代次, 大森葉子, 大田仁史: 高齢者介護予防ボランティアの活力年齢および体操普及活動と地域の要介護認定状況との関連. 第 51 回リハビリテーション医学会学術集会, 名古屋, 2014. 6. (ポスター発表)
- 田中喜代次, 辻本健彦, 蘇 リナ: 内臓脂肪量と形態指標との関連: 男性における年代別の検討. 第 32 回日本肥満症治療学会学術集会, 滋賀, 2014. 7. (ポスター発表)
- 田中喜代次: Wellness IT 社会における高齢者のスマートな生き方支. 1st International Conference on Wellness IT (ICWIT2014), 2014. 7. (Keynote Lecture)
- 辻本健彦, 蘇 リナ, 金 甫建, 鈴木 駿, 呉 世昶, 田中喜代次: 低強度身体活動時間の増加がインスリン抵抗性に及ぼす影響 過体重・肥満の男性についての検討. 第 33 回日本臨床運動療法学会学術集会, 大阪, 2014. 9. (口頭発表)
- 呉 世昶, 田中喜代次, 蘇 リナ, 辻本健彦, 志田隆史, 正田純一: NAFLD 肥満成人男性の肝および代謝異常の改善を目指した適切な身体活動量の検討, 第 33 回日本臨床運動療法学会学術集会, 大阪, 2014. 9. (口頭発表)
- 田中喜代次, 正田純一: メディカルフィットネス: 過去, 現在, 未来を考える. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. (シンポジウム)
- 田中喜代次: EIM (Exercise is medicine) を考える. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. (シンポジウム指定発言)
- 大久保善郎, 大須賀洋祐, 鄭 松伊, Figueroa Rafael, 辻本健彦, 相羽達弥, 田中喜代次: 地域在住高齢者の認知機能に与える効果: 太極拳+筋力運動 vs 持久性運動. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. (口頭発表)
- 大久保善郎, 鄭 松伊, 大須賀洋祐, 重松良祐, 清野 諭, 田中喜代次: 介護予防教室終了後の郵送法による運動継続支援の有効性. 第 17 回日本運動疫学会学術総会, 長崎, 2014. 9. (口頭発表)
- 大須賀洋祐, 藪下典子, 大久保善郎, 根本みゆき, 鄭 松伊, 田中喜代次: 加速度計と質問紙から評価された身体活動量と歩数との関連-高齢者の身体活動基準値 (10 メッツ・時/週) に相当する 1 日あたりの歩数. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. (ポスター発表)
- 鄭 松伊, 藪下典子, 根本みゆき, 大須賀洋祐, 大久保善郎, 田中喜代次: 介護予防事業による運動実践が移動能力制限因子を有する高齢女性の身体機能に及ぼす効果. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. (ポスター発表)
- 金 甫建, 辻本健彦, 蘇 リナ, 鈴木 俊, 金 泰浩, 田中喜代次: 肥満者における筋骨格系の量的・質的特徴に関する検討. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. (口頭発表)
- 相羽達弥, 大須賀洋祐, 鄭 松伊, 大久保善郎, 金 泰浩, 田中喜代次: 高齢者の静的・動的バランスと下肢筋量との関連性. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. (ポスター発表)
- 金 泰浩, 鄭 松伊, 大須賀洋祐, 大久保善郎, 根本みゆき, 藪下典子, 田中喜代次: 高齢者における運動習慣と膝痛との関連性. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. (ポスター発表)
- 熊谷 仁, 膳法亜沙子, 吉川 徹, 辻本健彦, 田中喜代次, 前田清司: 生活習慣改善が肥満男性のテストステロンに及ぼす影響: 食習慣 vs 運動. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. (口頭発表)
- 正田純一, 呉 世昶, 田中喜代次: 肥満者の肝臓, 筋肉, インスリン抵抗性: 運動の効果, 第 69 回日

- 本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. (口頭発表)
- 蘇 リナ, 辻本健彦, 呉 世昶, 金 甫建, 蕨 栄治, 田中喜代次, 正田純一: 減量による血中 irisin 濃度の変動が肥満病態の改善に及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. (口頭発表)
- 新村由恵, 中垣内真樹, 重松良祐, 大藏倫博, 小森康加, 田中喜代次: スクエアステップエクササイズ介入による高齢者の体力向上に影響を及ぼす要因の検証. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. (口頭発表)
- 根本みゆき, 藪下典子, 田中喜代次: 東日本大震災地での運動による健康支援の効果 - 茨城県北茨城市の事例 -. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. (ポスター発表)
- 吉川 徹, 膳法亜沙子, 熊谷 仁, 蘇 リナ, 田中喜代次, 前田清司: 肥満男性における生活習慣改善が脈圧増幅に与える影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. (口頭発表)
- 田中喜代次: 健康運動看護師に向けたスマートダイエットとスマートエクササイズの勧め. 第 3 回日本健康運動看護学会, 京都, 2014. 9. (シンポジウム)
- 根本みゆき, 藪下典子, 金 美芝, 清野 諭, 鄭 松伊, 大須賀洋祐, 大久保善郎, ラファエル フィゲロア, 田中喜代次: Fried's frailty, Sarcopenia, Dynapenia, 基本チェックリストの特徴と要介護状態との関連. 第 1 回日本サルコペニア・フレイル研究会研究発表会. 伊藤国際学術研究センター (伊藤謝恩ホール). 2014. 10. (ポスター発表)
- 呉 世昶, 田中喜代次, 正田純一: 非アルコール性脂肪性肝疾患を有する肥満者における新しいレジスタンス運動の臨床的有用性, 第 22 回日本消化器関連学会週間 2014, 神戸, 2014. 10. (ポスター発表)
- 呉 世昶, 田中喜代次, 蘇 リナ, 加藤千晶, 佐治朱美, 正田純一: NAFLD 肥満者における中高強度身体活動量の増加が血中脂肪酸組成に及ぼす影響について, 第 22 回日本消化器関連学会週間 2014, 神戸, 2014. 10. (ポスター発表)
- 辻本健彦, 西連地利己, 入江ふじこ, 磯 博康, 山岸良匡, 渡辺 宏, 武藤孝司, 田中喜代次, 大田仁史: 余暇時間における運動・スポーツ活動と外来・入院医療費 との関連: 茨城県健康研究. 第 73 回日本公衆衛生学会総会, 栃木, 2014. 11. (口頭発表)
- 鈴木 駿, 辻本健彦, 田中喜代次: 客観的に評価した身体活動量と運動セルフエフィカシーの関連 - 成人男性における横断的検討 -. 第 2 回日本介護福祉・健康づくり学会. 東京. 2014. 11. (ポスター発表)
- 根本みゆき, 藪下典子, 田中喜代次: 虚弱高齢者における時計描画テストによる認知機能評価と身体機能との関連. 第 79 回日本民族衛生学会総会, 茨城, 2014. 11. (ポスター発表)
- 小澤多賀子, 田中喜代次, 大森葉子, 大田仁史: 高齢のボランティアによる介護予防体操普及活動 ~ 個人と地域へもたらせうる有益性 ~. リハビリテーション・ケア合同研究大会, 長崎, 2014. 11. (ポスター発表)
- 藪下典子, 田中喜代次: 虚弱高齢者を対象とした短期間運動教室終了後の運動を柱とした健康支援. 第 35 回医療体育研究会, 第 18 回アダプテッド体育・スポーツ学会, 第 16 回合同大会, 神戸, 2014. 12. (ポスター発表)
- Yoon J, Tsuji T, Soma Y, Abe T, Tanaka K, Okura T: The effect of whole-body vibration training on knee-function in Japanese woman with knee osteoarthritis, The 61st annual meeting of American College of Sports Medicine, 3207, Orlando, USA, 2014. 5. (Poster)
- Wakaba K, Katayama Y, Sasai H, Nagao Y, Kozawa T, Tanaka K: Common preferences for weight loss programs in Japanese adults: An internet-based survey. The 61st annual meeting of American College of Sports Medicine, Orlando, USA, 2014. 5. (Poster)

- Tanaka K: Towards successful aging. International Conference on Exercise Physiology and Fitness. Taiwan National University. 2014. 6 (Keynote Lecture)
- Okubo Y, Osuka Y, Jung S, Figueroa R, Tsujimoto T, Aiba T, Kim T, Tanaka K: The effects of walking on fall prevention in lower-risk community-dwelling older adults. 2014 ISPGR World Congress, Vancouver, Canada, 2014. 6. (Poster)
- Kim B, Tsujimoto T, So R, Tanaka K: Changes in lower extremity muscle mass and muscle strength after weight loss in obese men. 19th annual congress of the European College of Sport Science, Amsterdam, Netherlands, 2014. 7. (Mini oral Presentation)
- Oh S, Shida T, Sawai T, Eguchi K, Maruyama T, So R, Komine S, Horie M, Akiyama K, Tanaka K, and Shoda J, 2014 Incheon Asian Games International Sport Science Congress, Incheon, 2014. 8. (Poster)
- Park JS, Kim JK, Choi HM, Sung SC, Kim KA, Jung S, Tanaka K, Nho HS. Development of screening tools for frail elderly through physical fitness test. 2014 Incheon Asian Games International Sport Science Congress, Korea, 2014. 8. (oral)
- Nemoto M, Yabushita N, Miyake M, Tanaka K: Clock drawing test as a screening for cognitive impairment in community-dwelling older adults with exercise habits. New Zealand Association of Gerontology Conference, St David Lecture Theatre Complex, University of Otago, Dunedin, 2014. 9. (Poster)
- Tanaka K: Guidance to Successful Aging for Korean and Japanese people. 2014 Healthy Aging in Korea Forum. KHIDI, Seoul, 2014. 11. (Keynote Lecture)
- Oh S, Shida T, So R, Tsujimoto T, Tanaka K, Shoda J, Total Volume of Moderate-Vigorous Physical Activity a Week is an Important Factor for Management of Non-Alcoholic Fatty Liver Disease: A Retrospective Study, AASLD the liver meeting, Boston, 2014. 11. (Poster)
- Jung S, Kobayashi H, Yabushita N, Nemoto M, Osuka Y, Okubo Y, Figueroa R, Tanaka K. Combined association of body mass index and medications with mobility limitation in Community-Dwelling Older Women. The Gerontological Society of America's 67th Annual Scientific Meeting, Washington D. C., 2014. 11. (Poster)

2. 学術論文

- 大須賀洋祐, 藪下典子, 金 美芝, 清野 諭, 鄭 松伊, 根本みゆき, 大久保善郎, フィゲロア ラファエル, 田中喜代次: 高齢期における日常的な座位行動時間は中高強度身体活動時間から独立して下肢パフォーマンスと関連するか—1軸加速度計を用いた横断的検討—. 体力科学, 63 (1), 169-176, 2014-2.
- 真田樹義, 中山侑紀, 井門あゆみ, 栗原俊之, 後藤一成, 佐藤幸治, 大塚光雄, 藤田 聡, 家光素行, 海老久美子, 浜岡隆文, 田畑 泉, 笹井浩行, 蘇 リナ, 松尾知明, 田中喜代次: マルチスライスで見た内臓脂肪面積とメタボリックシンドロームリスク及び体力との関係. 体力科学, 63 (1), 72, 2014-2.
- 小林裕幸, 中田由夫, 田中喜代次: 運動療法の実際と改善効果. 体力科学, 63 (1), 39, 2014-2.
- 正田純一, 田中喜代次: 肥満・生活習慣病と肝胆道疾患, 運動療法による予防と治療. 体力科学, 63 (1), 158, 2014-2.
- 松尾知明, 五月女康作, 清野 諭, 江藤 幹, 下條信威, 松下 明, 家光素行, 大島 博, 田中喜代次, 向井千秋: 有酸素インターバル運動による時間節約効果: 体力低位者への活用. 体力科学, 63 (1), 138, 2014.
- 小澤多賀子, 田中喜代次, 清野 諭, 山田大輔, 大森葉子, 大田仁史: 地域在住高齢者による介護予防ボランティア活動と地域の要介護認定状況との関連. 健康支援, 16 (1), 7-13, 2014. 2.

- 膳法 (宮木) 亜沙子, 蘇 リナ, 熊谷 仁, 田中喜代次, 下條信威, 前田清司: 肥満男性における食事改善, 有酸素性運動, 食事改善と有酸素性運動の併用が中心および末梢動脈ステイフネスに与える影響. 体力科学, 63 (3), 333-341, 2014. 6.
- 本山輝幸, 藪下典子, 根本みゆき, 清野 諭, 田中喜代次, 朝田 隆: 簡易な軽度認知障害 (MCI) 診断ツール: 触圧覚を活用した“ス・マ・ヌ”法の提案. 厚生の指標, 61 (6), 6-11, 2014. 6.
- 辻本健彦, 蘇 リナ, 金 甫建, 加藤千晶, 小林奈美, 鈴木 駿, 田中喜代次: 肥満男性における生活習慣介入に伴う低強度身体活動時間の増加はインスリン抵抗性を改善させる. 体力科学, 63 (4), 415-423, 2014. 8.
- 尹 之恩, 辻 大士, 金森章浩, 田中喜代次, 大藏倫博: 全身振動 (whole-body vibration) トレーニングが変形性膝関節症および膝痛を有する中年・高齢女性の膝機能および身体機能に及ぼす影響. 体力科学, 63 (4), 371-382, 2014. 8.
- 大久保善郎, 清野 諭, 藪下典子, 大須賀洋祐, 鄭 松伊, 根本みゆき, 金 美芝, フィゲロア・ラファエル, 田中喜代次: 地域在住高齢者における運動習慣と転倒の関係. 体力科学, 63(4), 391-400, 2014. 8.
- 原奈都良, 大久保善郎, 大須賀洋祐, 鄭 松伊, 相羽達弥, フィゲロア・ラファエル, 辻本健彦, 田中喜代次: 地域在住高齢者の歩行時身体動揺と歩行能力の関係: 頭部および腰部の3軸加速度計による検討. いばらき健康・スポーツ科学, 31, 9-15, 2014. 8.
- 鄭 松伊, 藪下典子, 金 美芝, 清野 諭, 根本みゆき, 大須賀洋祐, 大久保善郎, 田中喜代次: 地域在住高齢女性の body mass index および併存疾患と移動能力制限との関連性. 健康支援, 16 (2), 13-20, 2014. 9.
- 小澤多賀子, 田中喜代次, 藪下典子, 清野 諭, 大森葉子, 大田仁史: 介護予防ボランティア活動に従事する地域在住高齢者の活力年齢. 健康支援, 16 (2), 21-28, 2014. 9.
- 田中喜代次: 平成21年度にSS評価された「教育/社会貢献・学内運営」について: 健幸華齢のための老年運動学を考える. 筑波大学体育系紀要, 37, 9-11, 2014.
- Okubo Y, Sairenchi T, Irie F, Yamagishi K, Iso H, Watanabe H, Muto T, Tanaka K, Ota H: Association of alcohol consumption with incident hypertension among middle-aged and older Japanese: The Ibaraki Prefectural Health Study (IPHS). Hypertension, 63(1), 41-47, 2014. 1.
- Osuka Y, Yabushita N, Kim M, Seino S, Nemoto M, Jung S, Okubo Y, Figueroa R, Tanaka K: Association between habitual light-intensity physical activity and lower extremity performance: A cross-sectional study of community-dwelling older Japanese adults. Geriatr Gerontol Int, DOI: 10.1111/ggi.12268, 2014. 3.
- Osuka Y, Yabushita N, Kim M, Seino S, Nemoto M, Jung S, Okubo Y, Figueroa R, Tanaka K: Association between objectively measured habitual physical activity levels and mobility limitation: A cross-sectional study of community-dwelling older Japanese women. J Phys Fitness Sports Med, 3(1), 131-137, 2014. 3.
- Oh S, Tanaka K, Tsujimoto T, So R, Shida T, Shoda J: Regular exercise coupled to diet regimen accelerates reduction of hepatic steatosis and associated pathological conditions in nonalcoholic fatty liver disease, Metab Syndr Relat Disord, 12(5), 290-98, 2014. 6.
- Oh S, Tanaka K, Noh J-W, Tsujimoto T, So R, Sasai H, Kim M, Shoda J: Abdominal obesity: causal factor or simply a symptom of obesity-related health risk, Diabetes Metab Syndr Obes, 7, 289-96, 2014. 7.
- Matsuo T, Saotome K, Seino S, Eto M, Shimojo N, Matsushita A, Iemitsu M, Ohshima H, Tanaka K, Mukai C: Low-volume, high-intensity, aerobic interval exercise for sedentary adults: VO₂max, cardiac mass, and heart rate recovery. European Journal of Applied Physiology, 114, 1963-1972, 2014. 9.
- Oh S, Shida T, Yamagishi K, Tanaka K, Tsujimoto T, So R, Shoda J: Moderate to vigorous physical activity volume is an important factor for managing non-alcoholic fatty liver disease: a retrospective study, Hepatology, doi:

10.1002/hep.27544, 2014. 10.

- Tsujimoto T, Sairenchi T, Iso H, Irie F, Yamagishi K, Watanabe H, Tanaka K, Muto T, Ota H: The dose-response relationship between body mass index and the risk of incident stage 3 chronic kidney disease in a general Japanese population: Ibaraki Prefectural Health Study (IPHS). *Journal of Epidemiology*, 24(6), 444-451, 2014. 11.
- Oh S, Shida T, Maruyama T, Eguchi K, Isobe T, Okamoto Y, Someya N, Tanaka K, Tozawa A, Arai E, Shoda J: Acceleration training for management of obese subjects with non-alcoholic fatty liver disease, *Ther Clin Risk Manag*, 10, 925-936, 2014. 11.
- Okubo Y, Osuka Y, Jung S, Figueroa R, Tsujimoto T, Aiba T, Kim T, Tanaka K: The Effects of Walking on Physical and Psychological Fall-Related Factors in Community-Dwelling Older Adults: A Walking versus Balance Program. *The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine*, 3 (5), 515-524, 2014. 11.
- Nakata Y, Okada M, Hashimoto K, Harada Y, Sone H, Tanaka K: Weight Loss Maintenance for 2 Years after a 6-Month Randomised Controlled Trial Comparing Education-Only and Group-Based Support in Japanese Adults. *Obesity Facts*, 7, 376-287, 2014. 11.
- Tsuji T, Yoon J, Aiba T, Kanamori A, Okura T, Tanaka K: Effects of whole-body vibration exercise on muscular strength and power, functional mobility and self-reported knee function in middle-aged and older Japanese women with knee pain. *The Knee*, 21 (6), 1088-1095, 2014. 12.
- Okubo Y, Osuka Y, Jung S, Figueroa R, Tsujimoto T, Aiba T, Kim T, Tanaka K: Walking can be more effective than balance training in fall prevention among community-dwelling older adults. *Geriatr Gerontol Int.* (In press)
- Kitano N, Tsunoda K, Tsuji T, Osuka Y, Jindo T, Tanaka K, Okura T: Association between difficulty initiating sleep in older adults and the combination of leisure-time physical activity and consumption of milk and milk products: a cross-sectional study. *BMC Geriatrics.* (in press)

3. その他論文

- 田中喜代次 (分担): 通所系介護サービス施設における口腔機能向上サービス及び栄養改善サービス提供のあり方に関する調査研究事業. 平成 25 年老人保健事業推進費等補助金, 老人保健健康増進等事業. (代表 高田和子)
- 田中喜代次, 大藏倫博, 北濃成樹, 大須賀洋祐, 神藤隆志: 平成 25 年度 牛乳・乳製品摂取および運動実践が睡眠にもたらす影響に関する研究. 牛乳乳製品健康科学学術研究・研究報告書. 牛乳乳製品健康科学会議. 288-306, 2014. 9.
- 田中喜代次, 根本みゆき, 辻本健彦: 高齢者の肥満. *医学のあゆみ*, 250 (9), 647-651, 2014. 8.
- 田中喜代次, 松尾知明: 高強度運動としてのランニングの効用 (特集 ランニングのスポーツ医学). *臨床スポーツ医学*, 31 (9), 818-822, 2014. 9.
- 田中喜代次: 健康支援における多職種連携を考える. *介護福祉・健康づくり*, 25-29, 2014.
- 染谷典子, 沖田祐蔵, 鈴木玲子, 高橋靖彦, 大久保善郎, 長谷川聖修, 田中喜代次: 被災地在住高齢者の健康づくりを目指したソフトジム体操の検討. *日本体操学会抄録*
- 田中喜代次: 97 歳で 1 年に 100 回以上ゴルフをプレイした北村正子氏 (100 歳) の健康体力. *日本体育学会大会予稿集*, 65, 61, 2014. 8.
- 田中喜代次: 高齢者の体力を追跡するための評価指標. *日本体育学会大会予稿集*, 65, 45-46, 2014. 8.
- 田中喜代次, 小林大介, 藤本浩也: 県談 メディカルフィットネスによる市場創造の可能性とは (特集 医療・介護から予防へ 健康市場のニューウェーブ). *レジャー産業資料*, 47 (7), 56-60, 2014. 7.
- 田中喜代次: 体力年齢を算出することの意義. 支援士だより 第 38 号 Column <健康づくりの今>. 高

齢者体力づくり支援士事務局, 2014. 9.

田中喜代次: 地域住民の要介護化予防支援体系の構築. 筑波大学社会貢献プロジェクト 2013-2014. 筑波大学企画室, 52-53, 2014. 9.

田中喜代次 (監): 日本メディカルフィットネス協会 (編). メディカルフィットネス Q & A. 社会保険研究所, 2014. 4.

5. 受賞

第 15 回日本健康支援学会学術集会口頭発表優秀賞 虚弱女性高齢者における認知機能と体力の関係
New Zealand Association of Gerontology Conference, Prize for the Best Poster. Clock drawing test as a screening for cognitive impairment in community-dwelling older adults with exercise habits

6. その他

「地域住民を対象とした生活習慣病の一次予防に関する研究」(受託研究)

「内臓脂肪体積に基づく内臓脂肪型肥満の新基準策定」(日本体力医学会 プロジェクト研究)

「介護予防教室終了後の運動継続に対する郵送支援の有効性」(学術研究助成基金助成金)

「筋由来の新規生理活性物質イリシンの活性化に着目した肥満改善運動プログラムの確立」(科学研究費補助金)

「住民主導による健康減量教室の運営支援とその成果検証」(受託研究)

「通所型介護予防事業」(受託研究)

「乳清タンパク質とコラーゲンペプチド混合物摂取が軽運動を実践する高齢者に与える影響を評価する試験」(受託研究)

教育活動

2. 一般向け著書等

田中喜代次: 運動と健幸華齢. ヘザー・ヒル (著). ダンスコミュニケーション 認知症の人とつながる力: クリエイツかもがわ, 54-55, 2014. 6.

田中喜代次, 藪下典子: 大人の体力測定. 株式会社メディカルトリビューン, 2014.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

第 5 回日本健康運動看護学会学術集会. シンポジウム「健康運動のマネジメントと評価」(京都府, 9月 21 日)

第 2 回幸齢協会「サクセスフル・エイジング」講演会 (茨城県, 9月 23 日)

大子町主催講演会「スマートな生き方で達老人生を達成」(茨城県, 9月 28 日)

スミセイさわやか介護セミナー「健幸華齢のためのスマートな生き方」(茨城県, 11月 8 日)

社会貢献活動

日本肥満学会	国内	評議員, 監事
日本体力医学会	国内	理事
日本体育学会	国内	評議員
日本生理人類学会	国内	評議員
日本教育医学会	国内	常任理事
日本健康支援学会	国内	常任理事, 理事長

日本民族衛生学会	国内	評議員
医療体育研究会	国内	監事
臨床運動療法研究会	国内	幹事
国際スポーツロジック学会	国外	評議員
アメリカスポーツ医学会	国外	評議員
国際老年運動学会	国外	理事

茨城県立健康プラザ スーパーバイザー
茨城県循環器系疾患予防対策委員会 委員
日立市 健康づくりスーパーバイザー
行方市 健康づくりアドバイザー
袖ヶ浦市 健康づくり運営委員会 委員
大子町 健康づくり運営委員会 委員
筑西市 生活習慣改善指導運営委員会 委員
(公財)日本体育協会 医・科学委員会 委員
(公財)健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成検討委員会 委員
(公財)体力づくり指導協会 理事
(公社)日本プロボウリング協会 理事
日本学術振興会 審査委員
学術誌編集委員 国際誌2件 国内誌4件
メディア解説多数
公益社団法人日本体育協会. スポーツ医・科学委員会プロジェクト研究. 「高齢者の元気長寿支援プログラム開発に関する研究」に関し, 論文や書籍を執筆.
茨城県行方市. 行方市健康づくり計画「なめがたメディカルフィットネスまちづくり」. 委員長として活動.
宮城県山元町にて被災地支援を継続中.
福島県会津美里町にて被災地支援(楢葉町より避難している住民を対象に)を継続中.
茨城県つくば市, 取手市, 八千代町, 土浦市, 福島県会津美里町, 千葉県袖ヶ浦市にて, 中高齢者を対象に肥満や介護予防関連の健康支援活動を継続中.

教授 徳山 薫 平

研究業績

2. 学術論文

- Kobayashi F, H.Ogata, N.Omi, S.Nagasaka, S.Yamaguchi, M.Hibi, K.Tokuyama: Effect of breakfast skipping on diurnal variation of energy metabolism and blood glucose. *Obesity Research & Clinical Practice* 8, e249-e257, 2014.
- Yajima K., T.Seya, K.Iwayama, M.Hibi, S.Hari, Y.Nakashima, H.Ogata, N.Omi, M.Satoh, K.Tokuyama: Effects of nutrient composition of dinner on sleep architecture and energy metabolism during sleep. *J.Nutr.Sci. Vitaminol.* 60, 114-121, 2014.
- Nishida Y., K.Tokuyama, S.Nagasaka, A.Kiyonaga, Y.Higaki, M.Hara, K.Tanaka, H.Tanaka: Association of IL-15 with peripheral and hepatic insulin sensitivity in healthy middle-aged men. *Open Journal of Endocrine and*

Metabolic Diseases. 4, 59-67, 2014.

Kato K., T.Takamura, Y.Takeshita, Y.Ryu, H.Misu, T.Ota, K.Tokuyama, S.Nagasaka, M.Matsuhisa, O.Matsui, S.Kaneko: Ectopic fat accumulation and distant organ-specific insulin resistance in Japanese people with nonalcoholic fatty liver disease. PLOS ONE 9 (3), e92170, 2014.

Sengoku, Y., K.Nakamura, H.Ogata, Y.Nabekura, S.Nagasaka, K.Tokuyama: Continuous glucose monitoring during a 100 km race - A case study in an elite ultra-marathon runner. Int J Sports Physiol. Perform. 2014.

Lan F, Misu H, Chikamoto K, Takayama H, Kikuchi A, Mohri K, Takata N, Hayashi H, Matsuzawa-Nagata N, Takeshita Y, Noda H, Matsumoto Y, Ota T, Nagano T, Nakagen M, Miyamoto K, Takatsuki K, Seo T, Iwayama K, Tokuyama K, Matsugo S, Tang H, Saito Y, Yamagoe S, Kaneko S, Takamura T: LECT2 functions as a hepatokine that links obesity to skeletal muscle insulin resistance. Diabetes 63, 1649-1664, 2014.

Kayaba M, Iwayama K, Ogata H, Seya Y, Kiyono K, Satoh M, Tokuyama K: The effect of nocturnal blue light exposure from light-emitting diodes on wakefulness and energy metabolism the following morning. Environ Health Prev Med. 19, 354-361, 2014.

Iwayama K, Kawabuchi R, Park I, Kurihara R, Kobayashi M, Hibi M, Oishi S, Yasunaga K, Ogata H, Nabekura Y, Tokuyama K: Transient energy deficit induced by exercise increases 24-h fat oxidation in young trained men. J Appl Physiol. 118, 80-85, 2015.

教授 鍋倉賢治

研究業績

1. 学会発表

丹治史弥, 小林優史, 河合謙一, 鈴木健太, 鍋倉賢治: 高強度走行におけるランニングエコノミーの評価. 第26回ランニング学会, 大阪体育大, 2014. 3.

藤牧利昭, 井筒紫乃, 赤木一恵, 雨宮輝也, 有吉正博, 宇佐美彰朗, 串間敦郎, 坂本温子, 三本木温, 豊岡示朗, 鍋倉賢治, 野口勝宏, 山内 武, 渡邊望帆, 河合美香, 吉岡利貢: ランニングクラブに関する研究－クラブ参加者アンケート調査第8報－. 第26回ランニング学会, 大阪体育大, 2014. 3.

河合美香, 藤牧利昭, 赤木一恵, 雨宮輝也, 有吉正博, 宇佐美彰朗, 串間敦郎, 坂本温子, 三本木温, 豊岡示朗, 鍋倉賢治, 野口勝宏, 山内 武, 渡邊望帆, 井筒紫乃, 吉岡利貢: ランニングクラブに関する研究－クラブ参加者アンケート調査 第8報－ ランニングの実施状況と健康状態, および生活状況との関連. 第26回ランニング学会, 大阪体育大, 2014. 3.

柴田啓介, 吉岡利貢, 藤牧利昭, 井筒紫乃, 赤木一恵, 雨宮輝也, 有吉正博, 宇佐美彰朗, 串間敦郎, 坂本温子, 三本木温, 豊岡示朗, 鍋倉賢治, 野口勝宏, 山内 武, 渡邊望帆, 河合美香, 瀧澤一騎: ランニングクラブに関する研究－クラブ参加者アンケート調査 第8報－ ランニングの実践が健康状態および健康への意識に及ぼす影響. 第26回ランニング学会, 大阪体育大, 2014. 3.

鈴木美沙都, 鍋倉賢治: ランニングクラブにおけるクラブ運営の現状と課題－全国展開するアミノバリューランニングクラブを事例として－. 第26回ランニング学会, 大阪体育大, 2014. 3.

河合謙一, 山地啓司, 鈴木健太, 黒川 心, 鍋倉賢治: 単独走と複数走にみられる1,500mタイムトライアルへの影響. 第26回ランニング学会, 大阪体育大, 2014. 3.

鍋倉賢治: 運動と脂肪代謝－脂質酸化を高めるランニングとその評価－ (パネルディスカッション).

第 26 回ランニング学会, 大阪体育大, 2014. 3.

鍋倉賢治: マラソンの負荷と市民マラソンの現状, マラソンイベントの最新情報発表会 (招待講演), 沖縄, 2014. 5.

Tanji F, Shirai Y, Kurokawa K, Kawai K, Nabekura Y: The Evaluation of Running Economy in above LT Intensity Running 19th annual Congress of the European College of Sport Science, アムステルダム, オランダ, 2014. 7.

丹治史弥, 白井祐介, 黒川 心, 鍋倉賢治: 中長距離ランナーの走パフォーマンスおよび生理的パラメーターの相互関係の変化. 第 65 回日本体育学会, 岩手大学, 2014. 8.

森 寿仁, 鍋倉賢治, 山本正嘉: フルマラソン大会に参加する男性市民ランナーの特徴 フルマラソンの出場回数に着目した検討. 第 65 回日本体育学会, 岩手大学, 2014. 8.

丹治史弥, 白井祐介, 黒川 心, 河合謙一, 鈴木健太, 鍋倉賢治: 無酸素性エネルギー代謝を考慮した走の経済性と走パフォーマンスの関係 - 女子大学生ランナーを対象として -. 第 69 回日本体力医学会, 長崎大学, 2014. 9.

森 寿仁, 鍋倉賢治, 山本正嘉: フルマラソン大会に参加する男性市民ランナーの特徴 参加者の年齢に着目した検討. 第 69 回日本体力医学会, 長崎大学, 2014. 9.

榎本靖士, 門野洋介, 丹治史弥, 鍋倉賢治: 大学女子 800m トップ選手の体力とレースパターンの縦断的变化. 日本陸上競技学会第 13 回大会, 北翔大学, 2014. 11.

2. 学術論文

白井祐介, 品田貴恵子, 吉岡利貢, 鍋倉賢治: ローイング時のストロークレートの相違がエネルギー消費量に及ぼす影響. 体育学研究, 59, 263-274, 2014.

3. その他論文

鍋倉賢治: トレイルの科学: トレイルランニングの身体負荷と走り方. ランニングの世界, 18, 106-113, 2014.

4. 著 書

鍋倉賢治: 行動を続ける体力の加齢変化, 持久力を高める体力トレーニング. はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ 5 体力学 (中谷敏昭編), 化学同人, 京都, 123-130, 171-184, 2014.

教育活動

2. 一般向け著書等

鍋倉賢治: Q & A 50 歳, 記録が伸びません, ランニング学会レポート 2014, 毎日走るのと, 1 日おきに走るのは, どちらがいいの?, 続けて走るのと, 2 回に分けて走るのはどっちがいいの?, まだまだ少ない日本の女性ランナー, 楽しく走ってステップアップ講座. JogNote, <http://www.jognote.com/>, 2014.

鍋倉賢治: リタイアクセ フルマラソン快走を阻む××クセを撃退!!, ランナーズ, 503, 32, 2014.

鍋倉賢治: 川内優輝 自己ベスト 10 の平均記録 2 時間 9 分 22 秒は日本最高!, ランナーズ, 507, 9, 2014.

鍋倉賢治: スピードで遊ぼう!, ランナーズ, 509, 10-11, 2014.

鍋倉賢治: ウチの朝ごはん, ランナーズ, 510, 7, 2014.

鍋倉賢治: ランニングで超回復, Tarzan, 657, 36-43, 2014.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

鍋倉賢治：木村仁美の Run with ～勝田マラソンに向けて～, IBS 茨城放送, 2014. 1. 8, 1. 15.

鍋倉賢治：フルマラソンの大会に出てみたい?, 朝日新聞, 2014. 5. 17.

鍋倉賢治：マラソンのトレーニングとレースへの準備, ランニング講習会, FINE, 2014. 10.

「つくば市スポーツ教室 トレイルランニング」指導 (つくば市, 5～6月, 延べ3日間)

「つくばマラソン大会 つくばマラソン練習会」指導 (つくば市, 9～11月, 延べ4日間)

春日小学校 持久走授業, 2014. 11.

「明日のレースに向けたワンポイントアドバイス」, つくばマラソン 2014 マラソン祭り, つくば市, 2014. 11.

社会貢献活動

日本体力医学会評議員 (平成 5 年～)

ランニング学会理事 (平成 15 年～, 同副理事長:平成 23 年～)

つくばマラソン大会組織委員・実行委員 (平成 23 年～)

つくばリレーカーニバル実行委員 (平成 25 年～)

NPO 法人 日本ノルディックウォーキング協会 理事 (平成 24 年～)

教授 西嶋尚彦

研究業績

1. 学会発表

徐 広孝, 横尾智治, 安藤 梢, 西嶋尚彦, 熊谷紗希, 猶本 光, 鈴木宏哉, 山田 庸, 中野貴博, 齋藤健治: Jリーグにおける選手とチームの攻撃力指標, 第8回日本統計学会春季集会, 同志社大学今出川キャンパス, 2014. 3. 8.

徐 広孝, 鈴木宏哉, 横尾智治, 安藤 梢, 西嶋尚彦: Jリーグにおける選手とチームの攻撃特性尺度の開発, 日本体育学会第65回大会, 岩手大学, 2014. 8. 27.

2. 学術論文

Chuman K, Jo H, Yamada D, Mishio S, Ando K, Nishijima T: Influence of intermittent endurance on individual playing time in games for U-18 soccer players. *Football Science* 11, 1-6, 2014.

Chuman K, Yoshioka K, Jo H, Yamada D, Mishio S, Ando K, Nishijima T: Reference values for the 3200-m run test on soccer pitch for pubescent soccer players. *Football Science* 11, 39-47, 2014.

4. 著 書

西嶋尚彦: 現代の子どもの運動生活習慣と体力・運動能力, 新体制コンピテンスと未来の子どもの育ち, (編著) 澤江幸則, 木塚朝博, 中込四郎, 明石書店, 12-49, 2014.

5. 受 賞

日本統計学会第3回スポーツデータ解析コンペティション特別賞 (データスタジアム賞), Jリーグにおける選手とチームの攻撃力指標.

6. その他

「運動学習のための ICT 活用に関する研究」(ペンギンシステム株式会社)

競技活動

第 17 回アジア競技大会 2014 韓国仁川, サッカー女子, 準優勝 (銀メダル), 2014 年 10 月 1 日, 猶本光 指導.

AFC (アジアサッカー連盟) 女子アジアカップ 2014 ベトナム, 優勝, 2014 年 5 月 25 日, 猶本光 指導.
日本女子サッカーリーグ (プレナスなでしこリーグ) 2014, 優勝, 2014 年 11 月 24 日, 猶本光 指導.
日本女子サッカーリーグ (プレナスなでしこリーグ) 2014, 優秀選手賞 (ベストイレブン) 受賞, 2014 年 11 月 25 日, 猶本光 指導.

社会貢献活動

文部科学省スポーツ・青少年局「全国体力・運動能力, 運動習慣等調査に関する検討会」委員: 平成 25 年 5 月 15 日~平成 26 年 3 月 31 日.

教授 西平賀昭

研究業績

1. 学会発表

- 福本寛之, 西平賀昭: 二重課題の遂行が皮質脊髄路の興奮性に及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 酒本夏輝, 西平賀昭, 福本寛之, 岡部秀平: サッカー PK 時のシュート方向予測に伴う P300 の特徴. 第 22 回日本運動生理学会大会, 岡山, 2014. 7.
- 岡部秀平, 西平賀昭, 八田有洋, 福本寛之, 酒本夏輝, 香田郡秀: スポーツ競技者の感覚-運動処理系について-長期剣道競技者を対象にして-. 第 22 回日本運動生理学会大会, 岡山, 2014. 7.
- 福本寛之, 西平賀昭, 酒本夏輝, 岡部秀平: 二重課題遂行時の皮質脊髄路の興奮性の変化. 第 22 回日本運動生理学会大会, 岡山, 2014. 7.
- 金田健史, 木田哲夫, 東浦拓郎, 野間明紀, 西平賀昭: 二重課題遂行時にみられる児童の注意処理機能とパフォーマンスに関する検討. 第 22 回日本運動生理学会大会, 岡山, 2014. 7.

2. 学術論文

- Hatta A, Nishihira Y, Akiyama-Ogawa S: Central Sensorimotor Processing Preceding Voluntary Movement. *Advances in Exercise and Sports Physiology*, 20 (2), 29-33, 2014.
- Fukumoto H, Sakemoto N, Nishihira Y: Changes in Corticospinal Excitability during Dual Task. *Advances in Exercise and Sports Physiology*, 20 (2), 45-50, 2014.
- Hayashi Y, Nishihira Y, Higashiura T: The effects of different intensities of exercise on night sleep. *Advances in Exercise and Sports Physiology*, 20 (1), 19-24, 2014.
- 河原靖典, 西平賀昭, 福本寛之, 八田有洋, 碓井外幸: 随意的な筋弛緩動作に先行する運動関連脳電位の変化. *臨床神経生理学*, 42 (1), 1-10, 2014.

4. 著 書

宮村実晴, 西平賀昭 他: ニュー運動生理学 I: 真興交易 (株) 医書出版部, 38-47, 2014. 9.

社会貢献活動

日本運動生理学会 理事長 (2012 年~)

日本臨床神経生理学会 評議員 (2005 年~)

日本体力医学会 理事・評議員 (2008 年~)

教 授 西 保 岳

研究業績

1. 学会発表

Sasaki Y, Takagi H, Tsuji B, Watanabe K, Murase Y, Tsubakimoto S, Nishiyasu T: Effects of breathing pattern during submaximal eggbeater kick on oxygen uptake at constant workload in competitive water polo players, XIIth International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming, オーストラリア, 2014. 4. 29.

Tsuji B, Davide F, Fujii N, Hayashi K, Eguchi T, Kondo N, Nishiyasu T: Effect of CO₂ on ventilatory and cerebrovascular responses during passive heating in humans, 19th annual congress of the european college of sport science, オランダ, 2014. 7. 3.

渡邊 和仁, 一之瀬真志, 西保 岳: 静的ハンドグリップ運動時における血圧上昇要因の個人差: 運動中の経時的変化に着目して. 第 22 回日本運動生理学会大会, 岡山, 2014. 7. 20.

辻 文, Davide Filingeri, 本田 靖, 江口 翼, 藤井直人, 近藤徳彦, 西保 岳: 運動に対する循環反応の個人差に関する研究: 筋代謝受容器反射と動脈圧受容器反射の関与. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. 20.

杉原 輝, 辻 文, 西保 岳: 糖電解質飲料摂取が換気充進時の脳血流量および呼吸代謝反応に及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. 19.

佐々木洋輔, 高木英樹, 辻 文, 渡邊和仁, 村瀬陽介, 椿本昇三, 西保 岳: 水中巻き足運動時の呼吸による浮力変化の推定. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. 19.

藤本知臣, 佐々木洋輔, 仙石泰雄, 椿本昇三, 西保 岳: 水温の違いが水中での漸増負荷運動時の呼吸循環応答及び体温・パフォーマンスに及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. 19.

一之瀬真志, 一之瀬智子, 西保 岳: 動的運動時における活動肢血流量の増加が持久性運動能力と循環および呼吸反応に及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. 19.

天野達郎, 井上芳光, 西保 岳, 近藤徳彦: 局所発汗量と皮膚コンダクタンス関係から汗腺の塩分再吸収能力を評価する試み. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9. 19.

2. 学術論文

Ichinose M, Maeda S, Kondo N, Nishiyasu T: Blood pressure regulation II: what happens when one system must serve two masters-oxygen delivery and pressure regulation? Eur J Appl Physiol, 114 (3), 451-65. 2014.

Watanabe K, Ichinose M, Tahara R, Nishiyasu T: Individual differences in cardiac and vascular components of the pressor response to isometric handgrip exercise in humans. Am J Physiol Heart Circ Physiol. 306 (2), H251-

60. 2014.

Amano T, Ichinose M, Nishiyasu T, Inoue Y, Koga S, Miwa M, Kondo N: Sweating response to passive stretch of the calf muscle during activation of forearm muscle metaboreceptors in heated humans. *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol.* 306 (10), R728-34. 2014.

Sugihara A1, Fujii N, Tsuji B, Watanabe K, Niwa T, Nishiyasu T: Hypervolemia induced by fluid ingestion at rest: effect of sodium concentration. *Eur J Appl Physiol.* 2014.

競技活動

筑波大学カヌークラブ（レーシング）部長

社会貢献活動

European Journal of Applied Physiology, Editorial Board

Frontiers in Exercise physiology, Associate Editor

体力科学 編集員

Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine, Associate Editor

トヨタ車体ラリーチーム低酸素講習（11月26日）

教授 野津有司

研究業績

1. 学会発表

谷口志緒里, 野津有司, 片岡千恵, 工藤晶子, 岩田英樹, 久保元芳: ヘルスリテラシーの概念規定及び測定方法に関する検討. 日本体育学会第65回大会, 岩手, 2014. 8.

久保元芳, 野津有司, 片岡千恵, 工藤晶子, 河原しおり, 中山直子, 佐藤 幸, 渡部 基, 岩田英樹: 青少年の危険行動の重篤な状況とレジリエンスとの関連. 第23回日本健康教育学会学術大会, 札幌, 2014. 7.

久保元芳, 野津有司, 片岡千恵, 工藤晶子, 谷口志緒里, 中山直子, 佐藤 幸, 渡部 基, 岩田英樹: 我が国の高校生における「電子たばこ」の使用と喫煙との関連 - 「日本青少年危険行動調査2011」の結果より -. 第61回一般社団法人日本学校保健学会学術大会, 金沢, 2014. 11.

野津有司, 瀧澤利行: 保健学習の改善・充実のための鍵は何か - 学習指導要領の次期改訂を視野に入れて - (2). 第61回一般社団法人日本学校保健学会学術大会シンポジウム①, 金沢, 2014. 11.

2. 学術論文

片岡千恵, 野津有司, 工藤晶子, 佐藤 幸, 久保元芳, 中山直子, 岩田英樹, 渡部 基: 我が国の高校生における危険行動と睡眠時間との関連. *日本公衆衛生雑誌*, 61, 535-544, 2014.

工藤晶子, 野津有司, 片岡千恵: 中学生のストレスマネジメントに関する Transtheoretical Model の構成概念間およびストレス反応との関連. *学校保健研究*, 56, 3-10, 2014.

4. 著 書

西岡伸紀, 野津有司ほか (文部科学省編): 「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き. 2014.

野津有司: 改正された学校保健安全法. 学校保健ハンドブック第6次改訂 (教員養成系大学保健協議会

編), ぎょうせい, 5-7, 2014.

野津有司: 育成すべき保健の学力. 学校保健ハンドブック第6次改訂(教員養成系大学保健協議会編), ぎょうせい, 36-37, 2014.

野津有司: 学習指導要領の平成20年・21年改訂の基本的な考え方. 学校保健ハンドブック第6次改訂(教員養成系大学保健協議会編), ぎょうせい, 47-49, 2014.

野津有司: 研究課題の設定. 学校保健ハンドブック第6次改訂(教員養成系大学保健協議会編), ぎょうせい, 280-281, 2014.

教育活動

2. 一般向け著書等

野津有司: 保健学習における防災教育. 「教室の窓」特別号(小学校体育, 中学校・保健体育) vol.3, 2, 東京書籍, 2014.

野津有司: 喫煙, 飲酒, 薬物乱用防止に関する指導. 「教室の窓」特別号(小学校体育, 中学校・保健体育) vol.4, 2, 東京書籍, 2014.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

平成26年度全国養護教諭研究大会「豊かな人間性を育む性に関する指導の進め方」(文部科学省 他, 大分市, 8月8日)

平成26年度全国学校保健研究大会「性に関する指導の考え方と進め方」(文部科学省 他, 金沢市, 11月7日)

平成26年度健康教育指導者養成研修(健康コース) 独立行政法人教員研修センター, つくば市, 12月16~18日)

日本の青少年における危険行動の動向とレジリエンスに関する研究－喫煙防止を中心として－(Asia University, Taizhong, Oct.24-25)

社会貢献活動

中央教育審議会臨時委員(スポーツ・青少年分科会)

文部科学省「がん教育に関する検討委員会」委員

国立教育政策研究所「高等学校学習指導要領実施状況調査委員会(保健)」委員

公益財団法人日本学校保健会「保健学習推進委員会」委員長

公益財団法人日本学校保健会「保健学習授業推進委員会」委員長

教授 藤井 範久

研究業績

1. 学会発表

井上恭輔, 古茂田和馬, 我妻広明, 橘 香織, 小林育斗, 藤井範久, 阿江通良: 車いすバスケットにおけるシュートタイミング・投球軌道・床反力との関係に注目した身体動作解析. 電子情報通信学会ニューロコンピューティング研究会, 福岡, 2014. 1.

井上恭輔, 古茂田和馬, 我妻広明, 橘 香織, 小林育斗, 藤井範久, 阿江通良: 車椅子バスケット競技のシュート動作に注目した三次元動作解析・床反力計同時計測データからの脳内身体イメージ可視化のて

- がかり. 人工知能学会全国大会 2014, 愛媛, 2014. 5.
- Takenaka S, Fujii N, Suzuki Y: Minimum time trajectories during the curve in long track speed skating. European Conference in Sports Science 2014, Netherland, 2014. 7.
- Kinoshita M, Fujii N: Biomechanical analysis of taekwondo roundhouse kick focused on phase before toe off. The 32nd Conference of the International Society of Biomechanics in Sport. USA, 2014. 7.
- Miyazaki S, Fujii N: Biomechanical analysis of rotation strategy of backward somersault in artistic gymnastics. The 32nd Conference of the International Society of Biomechanics in Sport. USA, 2014. 7.
- Ohshima Y, Fujii N: Three-dimensional analysis of sprint running in the maximal velocity phase. The 32nd Conference of the International Society of Biomechanics in Sport. USA, 2014. 7.
- Otsuka E, Fujii N: Biomechanical case study on toss up in tennis serve. The 32nd Conference of the International Society of Biomechanics in Sport. USA, 2014. 7.
- Murata M, Fujii N: Mechanical energy flow of the trunk in tennis serve. The 32nd Conference of the International Society of Biomechanics in Sport. USA, 2014. 7.
- Kobayashi Y, Ae M, Miyazaki A, Fujii N, Iiboshi A: A biomechanical study on improvement in the overarm throwing technique of elementary school children. The 32nd Conference of the International Society of Biomechanics in Sport. USA, 2014. 7.
- 浅井 武, 藤井範久, 小池関也, 阿江通良: スキージャンプの数値流体解析を用いた流体力の検討. 第 65 回日本体育学会大会, 岩手, 2014. 8.
- 沼津直樹, 藤井範久, 中山雅雄, 松倉啓太: 準備動作後の股関節外転動作がゴールキーパーのセービング動作に与える影響. 第 65 回日本体育学会大会, 岩手, 2014. 8.
- 村田宗紀, 藤井範久: 硬式テニスサーブにおける力学的エネルギーからみた非ラケット保持腕の役割. 第 65 回日本体育学会大会, 岩手, 2014. 8.
- 大橋祐二, 門野洋介, 藤井範久: 110m ハードル走のトレーニング手段に関するバイオメカニクス的研究. 第 65 回日本体育学会大会, 岩手, 2014. 8.
- 大島雄治, 藤井範久: 最大疾走速度局面の支持期後半における股関節内転トルクの役割について. 第 65 回日本体育学会大会, 岩手, 2014. 8.
- 船橋祐美子, 藤井範久, 清水 悠: 膝サポーターがストップジャンプ動作に与える影響 – ストップ局面に着目して –. 第 65 回日本体育学会大会, 岩手, 2014. 8.
- 大塚絵梨奈, 藤井範久: テニスサーブにおけるトスのばらつきと対応動作. 第 65 回日本体育学会大会, 岩手, 2014. 8.
- 宮崎彰吾, 藤井範久: 体操競技における後方宙返りの着地動作に関するバイオメカニクス的研究. 第 65 回日本体育学会大会, 岩手, 2014. 8.
- 木下まどか, 藤井範久: テコンドーの連続した前回し蹴り動作に関するバイオメカニクス的研究. 第 65 回日本体育学会大会, 岩手, 2014. 8.
- 広野泰子, 清水 悠, 藤井範久: 陸上競技 200m 走におけるレースパターン分析 – 曲走路出口地点前後のスピード変化に着目して –. 第 65 回日本体育学会大会, 岩手, 2014. 8.
- Hirono Y, Fujii N: The transition of step parameters from the curve to the straight during 200m sprinting race. The 5th Conference of the Asian Society of Sports Biomechanics. Taiwan, 2014. 9.
- Kinoshita M, Fujii N: Study on Taekwondo roundhouse kick in phase before toe off focused on the ground reaction forces. The 5th Conference of the Asian Society of Sports Biomechanics. Taiwan, 2014. 9.
- 広野泰子, 藤井範久: 陸上競技男子 200m 走における曲走路出口付近の移動経路とステップ変数との関係. 第 23 回日本バイオメカニクス学会, 東京, 2014. 9.

- 木下まどか, 藤井範久: テコンドーの連続した前回し蹴り動作に関するバイオメカニクスの研究-蹴り足を下ろす技術に着目して-. 第23回日本バイオメカニクス学会, 東京, 2014. 9.
- 村田宗紀, 藤井範久: テニスサーブにおける力学的エネルギーの形態毎の流れ. 第23回日本バイオメカニクス学会, 東京, 2014. 9.
- 沼津直樹, 藤井範久: 準備動作がゴールキーパーのセービング動作に与える影響-下肢関節伸展トルクパワーに着目して-. 第23回日本バイオメカニクス学会, 東京, 2014. 9.
- 大島雄治, 藤井範久: 最大疾走速度局面の支持期における骨盤の挙動-前額面に着目して-. 第23回日本バイオメカニクス学会, 東京, 2014. 9.
- 宮崎彰吾, 藤井範久: 体操競技における後方宙返りの着地動作のバイオメカニクスの研究. 第23回日本バイオメカニクス学会, 東京, 2014. 9.
- 船橋祐美子, 藤井範久: 膝サポーターがストップジャンプ動作に与える影響-着地局面に着目して-. 第23回日本バイオメカニクス学会, 東京, 2014. 9.
- 三浦康二, 阿江通良, 横澤俊治, 藤井範久: 3次元倒立振子モデルによる男子20kmW公認レースにおける歩行速度の分析. 日本陸上競技学会第13回大会, 北海道, 2014. 11.
- 木下まどか, 藤井範久: テコンドーの連続した前回し蹴り動作に関するバイオメカニクスの研究-つなぎの技術に着目して-. 第35回バイオメカニズム学術講演会, 岡山, 2014. 11.
- 大塚絵梨奈, 藤井範久: 硬式テニスサーブにおけるトスに関する研究. 第35回バイオメカニズム学術講演会, 岡山, 2014. 11.
- 藤井範久: Early Birds Workshop: 動きの意味を知る. 第35回バイオメカニズム学術講演会, 岡山, 2014. 11.
- 村田宗紀, 藤井範久: Energetics 観点からみた硬式テニスサーブの指導に対する示唆. 第26回日本テニス学会, 東京, 2014. 12.
- 大塚絵梨奈, 藤井範久: 硬式テニスサーブにおけるトスに関するバイオメカニクスの研究-トスのばらつきに着目して-. 第26回日本テニス学会, 東京, 2014. 12.

2. 学術論文

- 柴山一仁, 藤井範久, 門野洋介, 阿江通良: 国内外110mハードル走選手のハードリング動作に関する3次元キネマティクスの研究. 陸上競技学会誌, 12, 45-53, 2014.
- 佐渡夏紀, 藤井範久: 片脚踏切型跳運動における体幹運動による跳躍高獲得の定量化-骨盤挙上下制運動に着目して-. 陸上競技研究, 97, 27-40, 2014.
- 木下まどか, 藤井範久: テコンドーの前回し蹴りに関するバイオメカニクスの研究. バイオメカニズム22, バイオメカニズム学会編, 慶応義塾大学出版会, 143-154, 2014.
- 村田宗紀, 藤井範久: 下肢および胴部に着目した硬式テニスサーブにおける回転の打ち分け. バイオメカニズム22, バイオメカニズム学会編, 慶応義塾大学出版会, 155-166, 2014.
- Suzuki Y, Ae M, Takenaka S, Fujii N: Comparison of support leg kinetics between side-step and cross-step cutting techniques. Sports Biomechanics, 13 (2), 144-153, 2014.
- 宮崎彰吾, 藤井範久: 体操競技の後方宙返りに関する空中局面の回転コントロール-角運動量による検討-. バイオメカニズム学会誌, 38 (4), 269-276, 2014.
- 村田宗紀, 藤井範久: 上肢および上腕に着目したテニスサーブにおける回転の打ち分け. 体育学研究, 59 (2), 413-430, 2014.
- 佐渡夏紀, 藤井範久: 片脚踏切型跳動作における体幹筋群の役割-骨盤挙上下制運動に着目して-. バイオメカニクス研究, 18 (3), 132-145, 2014.

3. その他論文

井上恭輔, 古茂田和馬, 我妻広明, 橋 香織, 小林育斗, 藤井範久, 阿江通良:車いすバスケットにおけるシュー
トタイミング・打球軌道・床反力の関係に注目した身体動作解析. 信学技報 (IEICE Technical
Report), 95-100, 2014.

木下まどか, 藤井範久:茨城体育学会研究助成事業報告「テコンドローのバイオメカニクス」. いばらき
健康・スポーツ科学, 31, 59-62, 2014.

社会貢献活動

バイオメカニクス学会理事 (平成 17 年～)

日本体育学会理事 (平成 23 年～)

日本オリンピック委員会選手強化本部委員 (平成 25 年～)

日本オリエンテーリング協会理事 (平成 17 年～), 業務執行理事 (平成 24 年～)

公共機関, 企業等からの委託業務

文部科学省委託事業マルチサポート事業 (B) 研究開発「競技・用具に関する研究開発」プロジェクト
主任 (平成 22 年～)

教 授 本 田 靖

研究業績

1. 学会発表

萱場桃子, 近藤正英, 橋爪真弘, 古尾谷法子, 本田 靖:埼玉県A市における高齢者の熱中症予防行動
と居住環境. 第 24 回日本疫学会総会, 仙台, 1 月, 2014.

本田 靖, 近藤正英, 橋爪真弘:呼吸器疾患死亡はインフルエンザ流行の代理変数となるか? 第 84
回日本衛生学会総会, 岡山, 2014. 5.

萱場桃子, 近藤正英, 本田 靖:埼玉県A市における高齢者の熱中症予防に向けた介入の試み 第一報.
第 84 回日本衛生学会総会, 岡山, 2014. 5.

萱場桃子, 本田 靖:夏季の朝日が差し込む時刻と起床時刻との関連. 第 84 回日本衛生学会総会, 岡山,
2014. 5.

Yasushi Honda, Masahiro Hashizume, Ho Kim, Haidong Kan, Yue-Liang L Guo, Kayo Ueda, Michelle Bell:
Relation of external causes with temperature and climate. Twenty-sixth Conference of the International
Society for Environmental Epidemiology, Seattle, USA, August 2014.

Xerxes Seposo, Yasushi Honda: A Distributed Lag Non-Linear Time Series Analysis of the Relationship between
Temperature and Mortality in the National Capital Region in the Philippines, 2006-2010. Twenty-sixth
Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Seattle, USA, August 2014.

Masahiro Hashizume, Yuji Nishiwaki, Ho Kim, Haidong Kan, Yue-Liang L Guo, Chang-fu Wu, Kayo Ueda,
Yasushi Honda, Michelle Bell: Health effects of Asian dust: A systematic review. Twenty-sixth Conference
of the International Society for Environmental Epidemiology, Seattle, USA, August 2014.

Momoko Kayaba, Tomohiko Ihara, Hiroyuki Kusaka, Satoru Iizuka, Kenji, Miyamoto, Yasushi Honda: Measuring
the prevalence of difficulty initiating sleep and difficulty maintaining sleep in the summertime using
Pittsburgh Sleep Quality Index and their association with air conditioner installation. The IEA World

Congress of Epidemiology 2014, Anchorage, USA, August 2014.

東 朋美, 神林康弘, 早川和一, 西條清史, 小林史尚, 道上義正, 人見嘉哲, 中村裕之, 藤村政樹, 杉本伸夫, 中井里史, 本田 靖: 越境大気汚染の慢性咳嗽への影響評価. 第 55 回大気環境学会年会, 高松, 2014. 9.

本田 靖: 地球温暖化の健康影響. 第 79 回日本民族衛生学会総会, つくば, 11. (学会長講演)

近藤正英, 高橋法子, 星 淑玲, 中尾理恵子, 上田佳代, 小野雅司, 本田 靖, 橋爪真弘. 地域における熱中症予防介入の費用対効果. 第 79 回日本民族衛生学会総会, つくば, 11.

階堂武郎, 鈴木幸子, 本田 靖, 本城綾子, 前倉亮治: 呼吸器疾患患者の増悪および QOL 低下に関連する気象要因. 第 79 回日本民族衛生学会総会, つくば, 11.

本田 靖: 温暖化の健康リスク - 世界保健機関の報告から. 日本リスク研究学会第 27 回大会, 京都, 11. (招待講演)

本田 靖: 健康影響と適応策. 土木学会第 42 回環境システムシンポジウム, 東京, 12. (招待講演)

2. 学術論文

Yasushi Honda, Masahide Kondo, Glenn McGregor, Ho Kim, Yue-Leon Guo, Yasuaki Hijioka, Minoru Yoshikawa, Kazutaka Oka, Saneyuki Takano, Simon Hales and R Sari Kovats: Heat-related mortality risk model for climate change impact projection. *Environmental Health and Preventive Medicine* 2014; 19 (1), 56-63.

Bing-Yu Chen, H. Jasmine Chao, Chang-fu Wu, Ho Kim, Yasushi Honda, Yue Leon Guo: High ambient Cladosporium spores were associated with reduced lung function in schoolchildren in a longitudinal study. *Science of the Total Environment* 2014; 481, 370-376.

Zbigniew W. Kundzewicz, Shinjiro Kanae, Sonia I. Seneviratne, John Handmer, Neville Nicholls, Pascal Peduzzi, Reinhard Mechler, Laurens M. Bouwer, Nigel Arnell, Katharine Mach, Robert Muir-Wood, G. Robert Brakenridge, Wolfgang Kron, Gerardo Benito, Yasushi Honda, Kiyoshi Takahashi, Boris Sherstyukov: Flood risk and climate change - global and regional perspectives. *Hydrological Sciences Journal* 2014; 59, 1, 1-28.

Hyewon Lee, Yasushi Honda, Youn-Hee Lim Yue Leon Guo, Masahiro Hashizume, Ho Kim: Effect of Asian dust storms on mortality in three Asian cities. *Atmospheric Environment* 2014; 89, 309-317.

Momoko Kayaba, Tomohiko Ihara, Hiroyuki Kusaka, Satoru Iizuka, Kenji Miyamoto, Yasushi Honda: Association between sleep and residential environments in the summertime in Japan. *Sleep Medicine* 2014; 15, 556-564.

水口恵美子, 中澤浩一, 萱場桃子, 近藤正英, 本田 靖: 夏季における高齢者の冷房装置使用の調査: 2010-2011 の比較. *日本生気象学会誌* 2014; 50 (1), 9-21.

Tomomi Higashi, Yasuhiro Kambayashi, Noriyuki Ohkura, Masaki Fujimura, Satoshi Nakai, Yasushi Honda, Kiyofumi Saijoh, Kazuichi Hayakawa, Fumihisa Kobayashi, Yoshimasa Michigami, Anyenda Enoch Olando, Yoshiaki Hitomi, Hiroyuki Nakamura: Effects of Asian dust on daily cough occurrence in patients with chronic cough: a panel study. *Atmospheric Environment* 2014; 92, 506-513.

Hiroyuki Ishida, Shota Kobayashi, Shinjiro Kanae, Tomoko Hasegawa, Shinichiro Fujimori, Yonghee Shin, Kiyoshi Takahashi, Toshihiko Masui, Akemi Tanaka, Yasushi Honda: Assessment of the Future Health Burden Attributable to Undernutrition under the Latest Scenario Framework for Climate Change Research. *Environmental Research Letters*, 2014; 9, 9.

Chen R, Cai J, Meng X, Kim H, Honda Y, Guo YL, Samoli E, Yang X, Kan H: Ozone and Daily Mortality Rate in 21 Cities of East Asia: How Does Season Modify the Association? *Am J Epidemiol.* 2014; 180 (7), 729-36.

Guo Y, Gasparrini A, Armstrong B, Li S, Tawatsupa B, Tobias A, Lavigne E, de Sousa Zanotti Stagliorio Coelho

M, Leone M, Pan X, Tong S, Tian L, Kim H, Hashizume M, Honda Y, Guo YL, Wu CF, Punnasiri K, Yi SM, Michelozzi P, Saldiva PH, Williams G: Global Variation in the Effects of Ambient Temperature on Mortality: A Systematic Evaluation. *Epidemiology* 2014; 25, 781-789.

緒方 剛, 中村好一, 圓藤吟史, 林 朝茂, 本田 靖: 飲用井戸水にジフェニルアルシン酸曝露後の自覚症状と流産. *日本公衆衛生雑誌*, 2014; 61 (9), 556-564.

Fujii N, Honda Y, Komura K, Tsuji B, Sugihara A, Watanabe K, Kondo N, Nishiyasu T: Effect of voluntary hypocapnic hyperventilation on the relationship between core temperature and heat loss responses in exercising humans. *J Appl Physiol* 2014; 117 (11), 1317-1324.

Alistair Woodward, Kirk R Smith, Diarmid Campbell-Lendrum, Dave D Chadee, Yasushi Honda, Qiyong Liu, Jane Olwoch, Boris Revich, Rainer Sauerborn, Zoë Chafe, Ulisses Confalonieri, Andy Haines: Climate change and health: on the latest IPCC report. *The Lancet*, 2104; 383 (9924), 1185-1189. (Invited Commentary, peer-reviewed)

本田 靖, 中井里史, 小野雅司, 田村憲治, 新田裕史, 上田佳代: 東アジア・東南アジアの大気汚染による健康影響の評価. *エアロゾル研究* 2014; 29 (S1), 183-189. (査読付き総説)

3. その他論文

本田 靖: エアロゾルの健康影響の解明. *クリーンテクノロジー* 2月号, 40-43, 2014.

4. 著 書

Honda Y, Oki T, Kanae S, Butler CD: Chapter 6. Climate Extremes, Disasters and Health. In: Butler CD ed. *Climate Change and Global Health*. CAB International, 54-64, 2014.

Honda Y, Kondo M, McGregor G, Kim H, Guo YL, Hales S, Kovats S: Chapter 2 Heat-related mortality. In: Kovats S, Hales S and Lloyd S eds. *Quantitative risk assessment of the effects of climate change on selected causes of death, 2030s and 2050s*. World Health Organization, 17-25, 2014.

Smith, K.R., A. Woodward, D. Campbell-Lendrum, D.D. Chadee, Y. Honda, Q. Liu, J.M. Olwoch, B. Revich, and R. Sauerborn: Human health: impacts, adaptation, and co-benefits. In: *Climate Change 2014: Impacts, Adaptation, and Vulnerability. Part A: Global and Sectoral Aspects. Contribution of Working Group II to the Fifth Assessment Report of the Intergovernmental Panel on Climate Change* [Field, C.B., V.R. Barros, D.J. Dokken, K.J. Mach, M.D. Mastrandrea, T.E. Bilir, M. Chatterjee, K.L. Ebi, Y.O. Estrada, R.C. Genova, B. Girma, E.S. Kissel, A.N. Levy, S. MacCracken, P.R. Mastrandrea, and L.L. White (eds.)]. Cambridge University Press, Cambridge, United Kingdom and New York, NY, USA, 709-754, 2014.

6. その他

環境研究総合推進費 S-8 (環境省)

環境研究総合推進費 S-10 (環境省)

Health risk assessment of climate change and air pollution (Ministry of Education, Science and Technology, Republic of Korea)

環境保健サーベイランス解析手法に関する研究 (環境情報科学センター)

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

本田 靖: 気候変動が熱関連死亡に与える影響. 地球温暖化に関する国際シンポジウム - 変化する気候

への適応と未来の姿－. 東京, 11. (主催: RECCA, S-8 (環境省 温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究), 共催: UNU-IAS (国連大学サステナビリティ高等研究所))

社会貢献活動

Lead Author of the Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) Working Group 2, fifth Assessment Report (上記著書 Climate Change 2014: Impacts, Adaptation, and Vulnerability のための会合などに参加) .

Co-chair, Policy Committee of the International Society for Environmental Epidemiology (2012 年～)

環境省委託 環境保健サーベイランス調査検討会委員 (1996 年～)

環境省委託 環境保健サーベイランス・局地的大気汚染健康影響検討会委員 (1996 年～)

環境省委託ジフェニルアルシン酸等のリスク評価に係るワーキンググループ委員 (2010 年～)

IPCC AR5 WG2 国内幹事会メンバー (2011 年～)

Editorial Board member, International Journal of Biometeorology (2014 年～)

Editorial Board member, Weather and Climate Extreme (2012 年～)

Editorial Board member, Environmental Health and Toxicology (2010 年～)

第 79 回日本民族衛生学会総会 会長 (つくば, 2014 年)

日本民族衛生学会幹事 (2014 年～)

教授 前田清司

研究業績

1. 学会発表

前田清司 (招待講演): 運動とクルクミン – 動脈硬化と筋疲労に対する効果 –. 第 19 回国際食品素材 / 添加物展・会議, 東京, 2014. 5.

前田清司 (招待講演): 血管をやわらかくして元気になろう. 東京セルフ研究会, 東京, 2014. 5.

前田清司 (シンポジスト): スポーツ医学分野でのクルクミンのアンチエイジング: 運動とクルクミンによる抗動脈硬化作用. 第 14 回日本抗加齢医学会総会, 大阪, 2014. 6.

前田清司 (キーノートレクチャー): 運動と動脈硬化度. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

前田清司 (招待講演): 運動とクルクミン – 動脈硬化と筋疲労に対する効果 –. 食品開発展 2014, 東京, 2014. 10.

Tanaka H, Miyachi M, Murakami H, Maeda S, Sugawara J: Accelerated age-related increases in arterial stiffness in US vs. Japanese women. World Congress of Cardiology Scientific Sessions 2014, Australia, 2014. 5.

Sugawara J, Tomoto T, Maeda S: Influence of central artery compliance on carotid artery blood flow profile. World Congress of Cardiology Scientific Sessions 2014, Australia, 2014. 5.

Ra SG, Akazawa N, Choi Y, Matsubara T, Oikawa S, Tanahashi K, Kumagai H, Ohmori H, Maeda S: Taurine supplementation decreases delayed onset muscle soreness but not muscle damage induced by high intense eccentric exercise. 19th International Taurine Meeting, Poland, 2014. 5.

Tomoto T, Sugawara J, Hirasawa A, Imai T, Sakai T, Maeda S, Ogoh S: Effects of short-term vigorous endurance training on central arterial stiffness in endurance athletes. The 61th Annual Meeting of the American College of Sports Medicine, USA, 2014. 5.

Oikawa S, Tsutsumi Y, Akazawa N, Tanahashi K, Maeda S: Acute aerobic exercise increases serum estradiol concentrations in young healthy men. The 61th Annual Meeting of the American College of Sports

Medicine, USA, 2014. 5.

Akazawa N, Ra SG, Matsubara T, Choi Y, Tanahashi K, Zempo-Miyaki A, Kumagai H, Oikawa S, Sugawara J, Maeda S: Aerobic exercise training decreases aortic pulse pressure and augmentation pressure after acute aerobic exercise in middle-aged and older women. The Pulse of Asia 2014, Greece, 2014. 6.

Kosaki K, Sugawara J, Akazawa N, Oikawa S, Tanahashi K, Kumagai H, Ajisaka R, Maeda S: Effects of acute warm footbath on central arterial blood pressure in young men. The Pulse of Asia 2014, Greece, 2014. 6.

Kumagai H, Zempo-Miyaki A, Yoshikawa T, Tsujimoto T, So R, Tanaka K, Maeda S: Effect of lifestyle modification on serum testosterone level and central blood pressure in obese men. The Pulse of Asia 2014, Greece, 2014. 6.

Ra SG, Choi Y, Akazawa N, Ohmori H, Maeda S: Taurine supplementation attenuates increase in arterial stiffness following high intense eccentric exercise. 19th Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS), Netherlands, 2014. 7.

小崎恵生, 赤澤暢彦, 及川哲志, 棚橋嵩一郎, 熊谷 仁, 菅原 順, 鯉坂隆一, 前田清司: 若年男性における足湯が動脈ステイフネスに及ぼす影響: 大動脈ステイフネスと下肢動脈ステイフネスの検討. 第 14 回臨床血圧脈波研究会, 東京, 2014. 6.

東本 翼, 菅原 順, 平澤 愛, 今井智子, 前田清司, 小河繁彦: 持久系アスリートにおける短期間の高強度持久性トレーニングが中心動脈伸展性に及ぼす影響. 第 14 回臨床血圧脈波研究会, 東京, 2014. 6.

羅 成圭, 崔 英珠, 赤澤暢彦, 大森 肇, 前田清司: 運動誘発性の動脈ステイフネス増加に対する抗酸化サプリメント摂取の効果. 2014 年運動と循環研究会, 岡山, 2014. 7.

中田由夫, 前田清司: 30 ヶ月間の体重変化が動脈ステイフネスに及ぼす影響: 集団型減量支援の効果を検証したランダム化比較試験. 第 22 回日本運動生理学会大会, 岡山, 2014. 7.

吉川 徹, 田中喜代次, 前田清司: 生活習慣改善が肥満男性の中心脈圧に与える影響. 第 22 回日本運動生理学会大会, 岡山, 2014. 7.

羅 成圭, 前田清司, 今井智子, 宮川俊平: 運動誘発性疲労に伴い唾液中タウリン濃度は増加する. 第 22 回日本運動生理学会大会, 岡山, 2014. 7.

小崎恵生, 赤澤暢彦, 前田清司: 一過性の有酸素性運動が中心血圧に及ぼす影響. 第 22 回日本運動生理学会大会, 岡山, 2014. 7.

吉川 徹, 膳法亜沙子, 熊谷 仁, 蘇 リナ, 田中喜代次, 前田清司: 肥満男性における生活習慣改善が脈圧増幅に与える影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

羅 成圭, 崔 英珠, 赤澤暢彦, 大森 肇, 前田清司: タウリン摂取は伸張性運動後の動脈ステイフネスと酸化ストレスの増加を抑制する. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

東本 翼, 平澤 愛, 今井智子, 前田清司, 小河繁彦, 菅原 順: 短期間の高強度持久性トレーニングが中心動脈伸展性および心機能に及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

小崎恵生, 膳法亜沙子, 赤澤暢彦, 松原朋子, 菅原 順, 前田清司: 下肢温熱刺激が中高齢女性の動脈ステイフネスに及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

小松美保, 棚橋嵩一郎, 熊谷 仁, 吉川 徹, 小崎恵生, 膳法亜沙子, 前田清司: 中高齢者における中心血圧と体幹の柔軟性の関連. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

赤澤暢彦, 佐藤香穂, 羅 成圭, 棚橋嵩一郎, 熊谷 仁, 前田清司: 剣道選手における強化合宿中のクルクミン摂取が分泌型免疫グロブリン A と心理的コンディションに及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

崔 英珠, 定宗隆一郎, 中村優希, 赤澤暢彦, 羅 成圭, 熊谷 仁, 前田清司: ジュニアアスリートに

おける睡眠が新しい運動技能の獲得に及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

菅原 順, 東本 翼, 前田清司: 有酸素性持久力が安静時頸動脈シェアレイトに与える影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

熊谷 仁, 膳法亜沙子, 吉川 徹, 辻本健彦, 田中喜代次, 前田清司: 生活習慣改善が肥満男性のテストステロンに及ぼす影響: 食習慣 vs 運動. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

栃木悠里子, 宮川俊平, 前田清司, 福田 崇: 月経の有無が骨格筋および腱の硬度に与える影響 ~ デジタル超音波診断装置による検討~. 第 25 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014. 11.

2. 学術論文

Matsubara T, Miyaki A, Akazawa N, Choi Y, Ra SG, Tanahashi K, Kumagai H, Oikawa S, Maeda S: Aerobic exercise training increases plasma Klotho levels and reduces arterial stiffness in postmenopausal women. *American Journal of Physiology Heart and Circulatory Physiology* 306, H348-H355, 2014.

Tanahashi K, Akazawa N, Miyaki A, Choi Y, Ra SG, Matsubara T, Kumagai H, Oikawa S, Maeda S: Aerobic exercise training decreases plasma asymmetric dimethylarginine concentrations with increase in arterial compliance in postmenopausal women. *American Journal of Hypertension* 27, 415-421, 2014.

Miyaki A, Choi Y, Maeda S: Pentraxin 3 production in the adipose tissue and the skeletal muscle in diabetic-obese mice. *American Journal of Medical Sciences* 347, 228-233, 2014.

Sugawara J, Saito Y, Maeda S, Yoshizawa M, Komine H, Nakamura M, Ajisaka R, Tanaka H: Lack of changes in carotid artery compliance with systemic nitric oxide synthase inhibition. *Journal of Human Hypertension* 28, 494-499, 2014.

Park JH, Aizawa K, Akimoto T, Iemitsu M, Agata U, Maeda S, Kiwon L, Omi N: Dehydroepiandrosterone administration increased trabecular mass and dihydrotestosterone levels in the cancellous region of the tibia in young female rats. *Hormone and Metabolic Research* 46, 651-655, 2014.

Kumagai H, Miyaki A, Higashino R, Akazawa N, Choi Y, Ra SG, Eto M, Tanaka K, Ajisaka R, Maeda S: Lifestyle modification-induced increase in serum testosterone and SHBG decreases arterial stiffness in overweight and obese men. *Artery Research* 8, 80-87, 2014.

Ra SG, Maeda S, Higashino R, Imai T, Miyakawa S: Metabolomics of salivary fatigue markers in soccer players after consecutive games. *Applied Physiology, Nutrition, and Metabolism* 39, 1120-1126, 2014.

Tanahashi K, Akazawa N, Miyaki A, Choi Y, Ra SG, Matsubara T, Kumagai H, Oikawa S, Miyauchi T, Maeda S: Plasma ADMA concentrations associate with aerobic fitness in postmenopausal women. *Life Sciences* 108, 30-33, 2014.

Shimojo N, Jesmin S, Sakai S, Maeda S, Miyauchi T, Mizutani T, Aonuma K, Kawano S: Fish oil constituent eicosapentaenoic acid inhibits endothelin-induced cardiomyocyte hypertrophy via PPAR- α . *Life Sciences* 118, 173-178, 2014.

Matsubara T, Zempo-Miyaki A, Akazawa N, Choi Y, Ra SG, Tanahashi K, Kumagai H, Oikawa S, Yoshikawa T, Maeda S: Aerobic exercise training improves vascular endothelial function with an increase in circulating Klotho levels in postmenopausal women. *Advances in Exercise and Sports Physiology* 20, 61-66, 2014.

Miyauchi Y, Jesmin S, Sakai S, Kamiyama J, Shimojo N, Rahman A, Islam M, Zaedi S, Maeda S, Maruyama H, Mizutani T, Homma S, Aonuma K, Miyauchi T: Effects of selective endothelin (ET)-A receptor antagonist versus dual ET-A/B receptor antagonist on hearts of streptozotocin-treated diabetic rats. *Life Sciences* 111, 6-11, 2014.

Ichinose M, Maeda S, Kondo N, Nishiyasu T: Blood pressure regulation II: what happens when one system must serve two masters-oxygen delivery and pressure regulation? *European Journal of Applied Physiology* 114, 451-465, 2014.

羅 成圭, 崔 英珠, 赤澤暢彦, 膳法 (宮木) 亜沙子, 大森 肇, 前田清司: 若年男性における血漿タウリン濃度と血管内皮機能に関する横断研究. *健康支援* 16, 15-22, 2014.

膳法 (宮木) 亜沙子, 蘇 リナ, 熊谷 仁, 田中喜代次, 下條信威, 前田清司: 肥満男性における食事改善, 有酸素性運動, 食事改善と有酸素性運動の併用が中心および末梢動脈ステイフネスに与える影響. *体力科学* 63, 333-341, 2014.

羅 成圭, 前田清司, 今井智子, 宮川俊平: 男子大学サッカー選手における試合合宿前後の唾液中タウリン濃度の変動. *体力科学* 63, 409-414, 2014.

前田清司: 循環器系と運動. *健康づくり* 433, 12-15, 2014.

前田清司: 運動と動脈硬化度 –クルクミンの可能性を探る–. *FOOD STYLE* 21 18, 51-53, 2014.

3. その他論文

Tanahashi K, Akazawa N, Maeda S: Response to “Other factors ought to be kept in mind when analyzing plasma asymmetric dimethylarginine levels”. *American Journal of Hypertension* 27, 501, 2014.

Miyaki A, Maeda S: Response to “arterial stiffness and pentraxin 3 levels in obese patients”. *American Journal of Hypertension* 27, 882, 2014.

Tanahashi K, Akazawa N, Maeda S: Response to “Aerobic Exercise and Endothelial Function in Pre- and Post-Menopausal Women”. *American Journal of Hypertension* 27, 990, 2014.

前田清司, 東野亮太, 宮木亜沙子, 熊谷 仁, 赤澤暢彦, 羅 成圭, 田名辺陽子, 江藤 幹, 蘇 リナ, 田中喜代次, 鯉坂隆一: 英文原著論文紹介: 肥満男性における生活習慣改善が中心血圧に及ぼす影響. *Arterial Stiffness* 20, 64-65, 2014.

4. 著 書

赤澤暢彦, 前田清司: メディカルフィットネス Q&A (運動中は血圧はどのくらい上昇するのでしょうか). *社会保険研究所*, 98-99, 2014.

赤澤暢彦, 前田清司: メディカルフィットネス Q&A (なぜ運動後には血圧が下がるのでしょうか). *社会保険研究所*, 100-101, 2014.

赤澤暢彦, 前田清司: メディカルフィットネス Q&A (有酸素性トレーニングの継続によって心拍数が下がる (除脈化する) のはなぜですか). *社会保険研究所*, 102-103, 2014.

崔 英珠, 前田清司: メディカルフィットネス Q&A (高血圧の人でも運動によって血管は軟らかくなりますか). *社会保険研究所*, 104-105, 2014.

膳法亜沙子, 前田清司: メディカルフィットネス Q&A (高血圧の改善に及ぼす運動の効果はどの程度なのでしょうか). *社会保険研究所*, 106-107, 2014.

膳法亜沙子, 前田清司: メディカルフィットネス Q&A (高血圧の人が塩分摂取を控えて運動を習慣化しても, 血圧が下がらない場合があるのはなぜでしょうか). *社会保険研究所*, 108-109, 2014.

6. その他

前田清司: 運動トレーニングおよびラクトトリペプチド (LTP) 摂取が血管機能に及ぼす影響に関する研究 (共同研究). *カルピス株式会社*, 2014.

前田清司: ラクトトリペプチド摂取がレジスタンス運動後の血管機能および骨格筋機能に及ぼす影響 (共

同研究〉. カルピス株式会社, 2014.

社会貢献活動

日本体力医学会評議員 (平成 12 年～)

日本運動生理学会評議員 (平成 21 年～)

日本運動生理学会理事 (平成 24 年～)

International Journal of Sport and Health Science 編集委員会委員 (平成 25 年～)

教授 水上勝義

研究業績

1. 学会発表

水上勝義：レビー小体型認知症の初期症状, 第 29 回日本老年精神医学会, 東京, 2014. 6.

水上勝義：認知症治療における漢方の臨床面への期待, 第 65 回日本東洋医学会, 東京, 2014. 6.

水上勝義：認知症患者の夜間にみられる行動・心理症状, 第 19 回認知神経科学会, 東京, 2014. 7.

水上勝義：漢方薬を用いた認知症患者のトータルケア, 第 33 回日本認知症学会学術集会, 横浜, 2014.

11.

水上勝義：認知症の治療とケアの最前線 ～アルツハイマー病と漢方薬～. 第 23 回日本脳神経外科漢方医学会, 東京, 2014. 11.

2. 学術論文

Mizukami K, Abrahamson EE, Mi Z, Ishikawa M, Watanabe K, Kinoshita S, Asada T: Ionomycin immunohistochemical analysis of ubiquitin-1 in the human hippocampus: association with neurofibrillary tangle pathology. *Neuropathology* 34, 11-18, 2014.

神戸泰紀, 織茂智之, 安田朝子, 木之下徹, 河野禎之, 川瀬康裕, 森田昌宏, 奥村 歩, 長光 勉, 榊原隆次, 水上勝義, 朝田 隆, 小阪憲司: DLB の自律神経障害および睡眠 - 多施設共同観察研究 -. *老年精神医学雑誌*, 25 (11), 1243-1253, 2014.

河野禎之, 永田真吾, 安田朝子, 木之下徹, 神戸泰紀, 川瀬康裕, 森田昌宏, 奥村 歩, 長光 勉, 水上勝義, 織茂智之, 朝田 隆, 小阪憲司: レビー小体型認知症の人の生活のしづらさに関する調査票 (the Subjective Difficulty Inventory in the daily living of people with DLB: SDI-DLB) の開発と信頼性, 妥当性及び有用性の検討. *老年精神医学雑誌*, 25 (10), 1139-1152, 2014.

Tamura M, Nemoto K, Kawaguchi A, Kato M, Arai T, Kakuma T, Mizukami K, Matsuda H, Soya H, Asada T: Long-term mild-intensity exercise regimen preserves prefrontal cortical volume against aging. *Int J Geriatr Psychiatry*. 2014 Oct 29. [Epub ahead of print]

Mizukami K: Kampo therapy and behavioral and psychological symptoms of dementia. *Traditional & Kampo Medicine* 1, 11-18, 2014.

水上勝義：DLB の早期診断. *認知症学会*, 28 (2), 176-181, 2014.

水上勝義：抗認知症薬による薬物療法の基本的な考え方. *総合診療のGノート*, 1 (2), 211-218, 2014.

水上勝義：認知症疾患の行動・心理症状の漢方治療. *漢方と最新治療*, 23 (3), 207-212, 2014.

水上勝義：認知症の行動心理症状 (BPSD), 不眠症, うつ病. *Geriatr Med*, 52 (8), 905-907, 2014.

3. その他論文

水上勝義：認知症のBPSD治療. Phil 漢方 47, 26-27, 2014.

4. 著書

水上勝義：その他の診断マーカー, レビー小体型認知症の診断と治療, harunosora, 神奈川, 77-90, 2014. 11. 15.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学公開講座

「認知症の予防」1月20日

「ものわすれと認知症」11月22日

筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学FD「認知症治療の最前線」10月15日

社会連携研究事業. 認知症国際フォーラム「認知症と漢方治療」10月31日

日本ダンス・セラピー協会 第23回研修講座精神身体医学論:「精神医学概論」「ストレスマネジメント」
11月15日

朝日新聞 身体とこころの通信簿「高齢者のうつ」2月3日

読売新聞 こころ「体動かしうつ・認知症防ぐ」6月19日

日本経済新聞 「認知症 ともに歩む」9月22日

ラジオ NIKKEI「物忘れ症候群における漢方治療」12月2日

読売新聞 こころ「ダンスセラピー」2015年1月15日

講演会

平成26年度 労働衛生週間講演会「ストレスマネジメント, こころの健康支援」森林総合研究所 10月6日

つくば地域連携の会「不眠症治療の新たな治療戦略」つくば学園病院, 11月25日

市民公開講座 毎日がアルツハイマー「認知症とは」友部公民館, 11月29日

平成26年度介護予防フォーラム「認知症を予防するテクニック」古河市生涯学習センター, 平成27年
1月17日

社会貢献活動

日本認知症学会評議員 (平成2年～)

日本うつ病学会評議員 (平成18年～)

日本老年精神医学会 (平成20年～)

教授 宮川俊平

研究業績

1. 学会発表

高原 亮, 宮川俊平:若年期サッカー選手を対象とした骨成熟度調査. 第25回日本臨床スポーツ医学会, 東京, 2014, 11.

柵木聖也, 宮川俊平, 白木 仁, 金森章浩:回転円盤型下腿回旋測定器"RotorMeter"を用いた膝関節の

- 回旋可動域の測定. 第 25 回日本臨床スポーツ医学会, 東京, 2014, 11.
- 目黒未来, 眞下苑子, 藁科侑己, 白木 仁, 宮川俊平: 大学合気道部員における傷害調査. 第 25 回日本臨床スポーツ医学会, 東京, 2014, 11.
- 榎本光裕, 柳下和慶, 下田 学, 堀江正樹, 小柳津卓哉, 相澤純也, 大路駿介, 加地真也, 中村智祐, 宮川俊平: 短時間高強度運動負荷後の運動疲労に対する高気圧酸素の効果. 第 25 回日本臨床スポーツ医学会, 東京, 2014, 11.
- 栃木悠里子, 宮川俊平, 前田清司, 福田 崇: 月経の有無が骨格筋および腱の硬度に与える影響～デジタル超音波診断装置による検討～. 第 25 回日本臨床スポーツ医学会, 東京, 2014, 11.
- 小田桂吾, 村上憲治, 山口貴久, 大垣 亮, 宮川俊平: 大学女子スポーツ選手の足関節捻挫の既往とパフォーマンステストの関連性について. 第 25 回日本臨床スポーツ医学会, 東京, 2014, 11.
- 宮川俊平, 向井直樹, 白木 仁, 竹村雅裕, 福田 崇: 筑波大学(茨城県)におけるスポーツ医学拠点の構築(シンポジウム: スポーツ医学拠点の充実と増加に向けて). 第 25 回日本臨床スポーツ医学会, 東京, 2014, 11.
- 泉 悟, 宮川俊平, 福田 崇: 骨盤傾斜角度の変化におけるハムストリングスの筋機能. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014, 9.
- 西田 智, 春名 純, 廣野準一, 宮川俊平: ストレッチングが筋疲労後の筋硬度に及ぼす影響の検討ー超音波エラストグラフィを用いてー. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014, 9.
- 中根聡子, 大垣 亮, 竹村雅裕, 宮川俊平: Functional Movement Screen を用いた分類によるカッティング動作時の下肢 Kinematics・Kinetics の検討. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014, 9.
- 鈴木啓太, 竹村雅裕, 永井 智, 大垣 亮, 熊崎 昌, 古川拓生, 宮川俊平: 大学ラグビー選手における脳震盪・脳震盪疑いの受傷機転. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014, 9.
- 功刀 峻, 増成暁彦, 吉田成仁, 宮川俊平: Cumberland ankle instability tool による足関節機能的不安定症の選別. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014, 9.
- 増成暁彦, 功刀 峻, 吉田成仁, 小林直行, 宮川俊平: 足関節不安定症がリバウンドドロップジャンプに及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014, 9.
- 大垣 亮, 竹村雅裕, 永井 智, 芋生祥之, 高木 祥, 宮本芳明, 宮川俊平: 大学ラグビー選手の肩関節傷害に関する縦断的な疫学調査. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014, 9.
- 小田圭吾, 村上憲治, 山口貴久, 大垣 亮, 黒澤 尚, 宮川俊平: 大学サッカー選手の足関節捻挫とフィジカルテストとの関連性について. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014, 9.
- 永井 安, 吉田成仁, 竹村雅裕, 向井直樹, 白木 仁, 宮川俊平: 認知課題の付加が片脚着地時筋活動に与える影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014, 9.
- 新井宏隆, 下野俊彦, 武内孝祐, 宮川俊平, 竹村雅裕: 大学野球投手の投球障害発生前の肩関節 ROM. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014, 9.
- 廬 炳周, 増成暁彦, 宮川俊平: シンスプリント既往を持つ大学サッカー選手の 3 次元動作特性ーシューズ着用有無によるランニング動作の比較ー. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014, 9.
- 有吉晃平, 辰見康剛, 宮川俊平: ダイナミックストレッチングにおける伸張強度の違いがパワー・柔軟性に与える影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014, 9.
- 古川美幸, 下野俊彦, 竹村雅裕, 白木 仁, 向井直樹, 宮川俊平: 体幹エクササイズが身体に与える影響の安全性の検討. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014, 9.
- 遠江朋子, 下野俊彦, 永井 智, 宮川俊平, 竹村雅裕: Slump test の坐骨神経の動態についてー計測方法の信頼性の検討ー. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014, 9.
- 石倉恵介, 小峰昇一, 羅 成圭, 宮崎照雄, 宮川俊平, 大森 肇: 分岐鎖アミノ酸投与がフルマラソン

後の酸化ストレス，抗酸化力へ及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会，長崎，2014，9.

宮崎照雄，石倉恵介，本多 彰，宮川俊平，大森 肇，松崎靖司：長時間運動によるロイシン中間代謝物 3- ヒドロキシイソ吉草酸（3HMB）の血中濃度変化と分岐鎖アミノ酸（BCAA）摂取の影響. 第 69 回日本体力医学会大会，長崎，2014，9.

2. 学術論文

Masaki Horie, Mitsuhiro Enomoto, Manabu Shimoda, Atsushi Okawa, Shumpei Miyakawa, Kazuyoshi Yagishita: Enhancement of satellite cell differentiation and functional recovery in injured skeletal muscle by hyperbaric oxygen treatment. JOURNAL OF APPLIED PHYSIOLOGY, 116 (2), 149-155, 2014.

Takaya Narita, Koji Kaneoka, Masahiro Takemura, Yoshihiro Sakata, Takamichi Nomura, Miyakawa Shumpei: Critical factors for the prevention of low back pain in elite junior divers Critical factors for the prevention of low back pain in elite junior divers. BRITISH JOURNAL OF SPORTS MEDICINE, 48, 919-923, 2014.

村上憲治，宮川俊平：育成年代サッカー選手の鼠径部周囲の疼痛発症状況と発症後行動に関するアンケート調査. 日本整形外科スポーツ医学会雑誌. 第 34 巻 1 号，2014.

大垣 亮，竹村雅裕，岩井浩一，宮本芳明，芋生祥之，永井 智，宮川俊平：大学ラグビー選手における肩関節外傷の初回受傷及び再受傷の危険因子. 体力科学. 63, 189-196, 2014.

芋生祥之，金岡恒治，竹村雅裕，宮川俊平：【スポーツ現場での頭頸部外傷】現場でのケアのヒント・指針 頭部直接衝突時の頸椎損傷 ラグビーにおける受傷機序と損傷予防に関する知見. 臨床スポーツ医学, 31 (3), 258-262, 2014.

大垣 亮，竹村雅裕，岩井浩一，宮川俊平：運動後の冷却が組織温度及び血行動態に及ぼす影響. 筑波大学体育系紀要, 37, 123-127, 2014.

KONDO Hiroshi, MIYAMOTO Toshikazu, MIYAKAWA Shumpei: Electro-acupuncture significantly delayed multifidus muscle reaction time in athletes with lower back pain. JAM, 8-13, 2014.

KONDO Hiroshi, MORIYAMA Tomomasa, USUI Nagao, MIYAKAWA Shumpei: Effects of Electro-acupuncture stimulation on the left-right asymmetry of lumbar erector spinae muscle EMG activity in subjects with lower back pain. JAM, 1, 1-7, 2014.

松元 剛，春山圭祐，福田 崇，森慎太郎，宮川俊平：騎手のフィジカルトレーニングおよびコンディショニングに関する研究. 日本臨床スポーツ医学会誌, 第 22 巻 1 号, 152-159-96, 2014.

栖原弘和，白木 仁，宮川俊平：腰割り動作のバイオメカニクスの分析. 日本臨床スポーツ医学会雑誌. 第 22 巻 1 号, 128-137, 2014.

中條智志，小林久文，宮川俊平：大学女子サッカー選手における超音波検査を用いた前距腓靭帯の動態評価とストレス X 線検査との関連性. 日本臨床スポーツ医学会誌, 第 22 巻 1 号, 97-102, 2014.

増成暁彦，小林直行，山本 純，吉田成仁，功刀 峻，宮川俊平：足関節不安定性を有する選手に対する不安定性トレーニングの姿勢制御能改善効果持続期間の検討. 日本臨床スポーツ医学会誌, 第 22 巻 1 号, 90-96, 2014.

准教授 足立和隆

研究業績

1. 学会発表

足立和隆, 石本明生, 本多信夫, 吉岡松太郎: 標点を使用しない三次元動作計測システム (Anakin System) の精度検証. 第 68 回日本人類学会大会, 浜松, 2014. 11.

2. 学術論文

足立和隆, 遠藤萬里, 川田順造: 日本人とマリ人の歩行パラメータの比較. 筑波大学体育系紀要, 37, 73-83, 2014.

6. その他

保温, 発汗効果をもつウェアの着用が運動の効果に与える影響の研究. 株式会社グズマンとの共同研究.

競技活動

男子ラクロス部 (顧問), 女子ラクロス部 (顧問), roots (顧問)

社会貢献活動

国際標準化機構 (ISO) TC159/SC3 国内委員
ラヂオつくば相談役

准教授 榎本靖士

研究業績

1. 学会発表

榎本靖士: 東アフリカランナーの走動作のバイオメカニクス的特徴. LSD シンポジウム「東アフリカランナーの強さの秘密を再考する」, 第 26 回ランニング学会大会, 大阪, 2014. 3.

榎本靖士, 門野洋介, 丹治史弥, 鍋倉賢治: 大学女子 800m トップ選手の体力とレースパターンの縦断的变化. 日本陸上競技学会第 13 回大会, 北海道, 2014.12.

鈴木雄太, 竹中俊輔, 榎本靖士: やり投助走路上の特徴点を利用した DLT パラメータ算出法. 第 23 回日本バイオメカニクス学会大会, 東京, 2014. 9.

山中 亮, 松林武生, 山本真帆, 佐伯徹郎, 榎本靖士, 杉田正明: 日本における高校トップレベル男子長距離走者の身体組成および体力. 第 27 回日本トレーニング科学学会大会, 東京, 2014. 11.

2. 学術論文

平田 海, 阿江通良, 榎本靖士: 標準動作モデルによる長距離走フォームの改善に関するバイオメカニクス研究. ランニング学研究, 25, 25-32, 2014.

3. その他論文

榎本靖士: 高地トレーニング再考 (特集 自然環境とトレーニング). トレーニング科学, 25, 183-188,

2014.

6. その他

「ランニングパフォーマンスに関する研究」(カシオ計算機株式会社)

教育活動

2. 一般向け著書等

- 榎本靖士：T&F3 分クリニック. 中距離. 陸上競技マガジン 2月号. 206. 2014. 1.
榎本靖士：T&F3 分クリニック. 中距離. 陸上競技マガジン 3月号. 163. 2014. 2.
榎本靖士：T&F3 分クリニック. 中距離. 陸上競技マガジン 4月号. 143. 2014. 3.
榎本靖士：T&F3 分クリニック. 中距離. 陸上競技マガジン 5月号. 171. 2014. 4.
榎本靖士：T&F3 分クリニック. 中距離. 陸上競技マガジン 6月号. 151. 2014. 5.
榎本靖士：T&F3 分クリニック. 中距離. 陸上競技マガジン 7月号. 210. 2014. 6.
榎本靖士：T&F3 分クリニック. 中距離. 陸上競技マガジン 8月号. 135. 2014. 7.
榎本靖士：T&F3 分クリニック. 中距離. 陸上競技マガジン 10月号. 170. 2014. 9.
榎本靖士：T&F3 分クリニック. 中距離. 陸上競技マガジン 11月号. 143. 2014. 10.
榎本靖士：T&F3 分クリニック. 中距離. 陸上競技マガジン 12月号. 156. 2014. 11.
榎本靖士：T&F3 分クリニック. 中距離. 陸上競技マガジン 1月号. 134. 2014. 12.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

- 公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会, 大阪会場, 共通科目Ⅲ, 「身体の仕組みと働き① 運動器の仕組みと働き」講師, 2014. 11. 10.
日本陸上競技連盟公認コーチ養成講習会, 「陸上競技のバイオメカニクス」, 「中長距離走指導の理論と実践」講師, 2014. 12. 25.
TSA つくば AC 小学生陸上競技教室

競技活動

- 第 16 回アジアジュニア陸上競技選手権大会 (台北・台湾) 女子 800m 優勝 平野綾子 (コーチ)
第 15 回世界ジュニア陸上競技選手権大会 (ユージーン・アメリカ) 女子 800m 出場 平野綾子 (コーチ)
第 83 回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子 3000mSC 優勝 津田修也 (コーチ)
第 82 回日本陸上競技選手権大会 女子 3000mSC 2 位 中村真悠子 9:53.87 (学生新記録) (コーチ)
第 17 回アジア大会 (仁川・韓国) 女子 3000mSC 7 位 中村真悠子 10:08.67 (コーチ)

社会貢献活動

- 日本陸上競技連盟科学委員会副委員長
日本陸上競技連盟強化委員会女子中距離担当
ランニング学会理事
公共機関, 企業等からの委託業務
「陸上競技女子中距離選手のパフォーマンス向上に関する学術指導」(株式会社セレスポ)

研究業績

1. 学会発表

- 大藏倫博：転倒予防と認知機能の向上を企図した新しいエクササイズ：スクエアステップの効果。壮年期から高齢期のヘルスプロモーション。シンポジウム，日本ヘルスプロモーション学会第12回学術大会，順天堂大学浦安キャンパス，千葉県浦安市，2014. 11.
- 大藏倫博：運動を柱とした人と地域を活性化させるサクセスフルエイジング社会の構築。特別講演，日本女子体育大学附属基礎体力研究所 第25回公開研究フォーラム，日本女子体育大学，東京，2014. 11.
- 阿部 巧，神藤隆志，大藏倫博：基本チェックリストからみた認知機能水準と介護予防事業への参加関連因子との関連性。日本介護福祉・健康づくり学会 第2回大会，東京都，2014. 11.
- 神藤隆志，佐藤文音，阿部 巧，大藏倫博：自主運動サークル参加者の運動実践状況と運動継続の理由。日本介護福祉・健康づくり学会 第2回大会，東京都，2014. 11.
- Tsuji T, Miyama T, Shiokawa T, Okura T: Peak reaction force in a chair rising predicts incident mobility limitation: 3-years follow-up study. The Gerontological Society of America's 67th Annual Scientific Meeting, Washington DC, USA, 2014. 11.
- Kitano N, Jindo T, Abe T, Sato A, Tsuji T, Tsunoda K, Okura T. Physical activity in combination with sleep duration and the risk of long-term care in older adults. The Gerontological Society of America's 67th Annual Scientific Meeting, Washington DC, USA, 2014. 11.
- Jindo T, Kitano N, Saghazadeh M, Tsuji T, Sato A, Abe T, Tsunoda K, Okura T. Progression in level of a novel falls-prevention exercise and physical fitness. The Gerontological Society of America's 67th Annual Scientific Meeting, Washington DC, USA, 2014. 11.
- Saghazadeh M, Kitano N, Okura T. Gender differences in older adults' foot shapes using 3D foot scanner : Implication for shoe design. The Gerontological Society of America's 67th Annual Scientific Meeting, Washington DC, USA, 2014. 11.
- 慎 少帥，辻 大士，北濃成樹，阿部 巧，大藏倫博：要支援・要介護高齢者の椅子立ち上がり動作時の地面反力評価。第73回日本公衆衛生学会，栃木，2014. 11.
- 藤井啓介，神藤隆志，相馬優樹，角田憲治，大藏倫博：歯の状態による身体機能の違い・転倒経験との関連。第73回日本公衆衛生学会，栃木，2014. 11.
- 國香想子，神藤隆志，大藏倫博：対象者を男性高齢者に限定した運動教室の有効性－参加の促進要因に着目して－。第73回日本公衆衛生学会，栃木，2014. 11.
- 阿部 巧，大藏倫博：認知症予防を目的とした運動介入における適切な年齢の検討。第4回日本認知症予防学会学術集会，東京，2014. 9.
- 角田憲治，甲斐裕子，北濃成樹，内田 賢，朽木 勤，大藏倫博，永松俊哉：身体活動の種類と睡眠の質との関連性。第69回日本体力医学会大会，長崎，2014. 9.
- 阿部 巧，佐藤文音，大藏倫博：運動介入に伴う主観的な認知機能向上感と客観的な認知機能スコアとの比較。第69回日本体力医学会大会，長崎，2014. 9.
- 相馬優樹，尹 之恩，大藏倫博：足圧中心動揺課題を活用した中高齢者の総合的な体力を評価する測定機器の開発に関する検討。第69回日本体力医学会大会，長崎，2014. 9.
- 北濃成樹，角田憲治，相馬優樹，菅原明香，大藏倫博：高齢者の身体活動と睡眠効率との関連性。第69回日本体力医学会大会，長崎，2014. 9.

- 新村由恵, 中垣内真樹, 重松良祐, 大藏倫博, 小森康加, 田中喜代次: スクエアステップエクササイズ介入による高齢者の体力向上に影響を及ぼす要因の検証. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 金 美珍, 北濃成樹, 辻 大士, 大藏倫博: 高齢者における Sarcopenia, Dynapenia と身体活動量との関連性. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 神藤隆志, 角田憲治, 尹 之恩, 阿部 巧, 佐藤文音, 大藏倫博: スクエアステップを中心とした運動教室参加が地域在住高齢者の抑うつ度, 社会交流状況に与える状況. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 尹 之恩, 阿部 巧, 佐藤文音, 大藏倫博: 低強度ダンベル体操を含めた複合運動プログラムが地域在住高齢者の筋力に及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 矢野未来, 相馬優樹, 大藏倫博: 高齢者の体力からみた将来的な認知機能低下リスクに関する検討. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 國香想子, 神藤隆志, 菅原明香, 大藏倫博: 参加者を男性に限定した高齢者運動教室の出席状況及び体力への効果. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 菅原明香, 北濃成樹, 矢野未来, 大藏倫博: 高齢者の認知機能が介護予防運動教室の効果に及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- 佐藤文音, 神藤隆志, 北濃成樹, 大藏倫博: 高齢者において継続的な運動によって得られる効果に年齢の影響はあるか. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
- Yoon J, Tsuji T, Hotta K, Sagahazadeh M, Tanaka K, Okura T: Effects of intensive whole-body-vibration training on physical performance in adults with paralysis: pilot-study, 19th annual congress of the European College of Sport Science, Amsterdam, Netherlands, 2014. 7.
- Kitano N, Jindo T, Tsunoda K, Soma Y, Sato A, Abe T, Okura T: Intensity and volume of physical activity are associated with good sleep quality in older adults. 19th annual congress of the European college of sport science, Amsterdam, Netherlands, 2014. 7.
- Jindo T, Tsunoda K, Kitano N, Soma Y, Tsuji T, Abe T, Okura T: Pedometers affect physical fitness changes during a fall-prevention program in older Japanese adults. 19th annual congress of the European college of sport science, Amsterdam, Nederland, 2014. 7.
- Abe T, Jindo T, Sato A, Yoon J, Soma Y, Kitano N, Okura T: Effects of square-stepping exercise on physical function in older women with and without cognitive decline. 19th annual congress of the European College of Sport Science, Amsterdam, Nederland, 2014. 7.
- Sato A, Jindo T, Tsunoda K, Sagahazadeh M, Kitano N, Soma Y, Yoon J, Abe T, Okura T: Facilitators and barriers to continuing group exercise activities in older Japanese adults. 19th annual congress of the European college of sport science, Amsterdam, Netherlands, 2014. 6.
- Sagahazadeh M, Sato A, Okura T: Foot arch height and rigidity index associated with balance in elderly men. The 61th Annual Meeting of American College of Sports Medicine, Orlando, Florida, USA, 2014, 5.
- Yoon J, Tsuji T, Soma Y, Abe T, Tanaka K, Okura T: The effect of whole-body vibration training on knee-function in Japanese woman with knee osteoarthritis, The 61st annual meeting of American College of Sports Medicine, 3207, Orlando, USA, 2014. 5.
- Okura T, Kitano N, Sagahazadeh M, Tsunoda K, Tsuji T, Mitsuishi Y, Yoon JE, Yoon JY, Suzuki R: Square-stepping Exercise And Physical And Cognitive Function In Older Adults: A 3-year Follow-up. The 61th Annual Meeting of American College of Sports Medicine, Orlando, Florida, USA, 2014, 5.
- 大藏倫博, 辻 大士, 阿部 巧, 尹 之恩: A novel field performance tests for evaluating lower-limb muscle

function and cognitive function in older adults. 基調講演, 韓国発育発達学会, 韓国, 水原, 2014. 2.

2. 学術論文

Tsuji T, Kitano N, Tsunoda K, Himori E, Okura T, Tanaka K: Acute Effects of Whole-Body Vibration on Functional Mobility and Flexibility in Healthy, Older Adults: A Randomized Crossover Study. *Journal of Geriatric Physical Therapy*. 37, 58-64, 2014.

Tsuji T, Yoon J, Aiba T, Kanamori A, Okura T, Tanaka K: Effects of whole-body vibration exercise on muscular strength and power, functional mobility and self-reported knee function in middle-aged and older Japanese women with knee pain. *The Knee* 21, 1088-1095, 2014.

相馬優樹, 角田憲治, 立山紀恵, 大藏倫博: 通所型二次予防事業実施状況の地域格差に関連する要因の検討－施設立地状況とマンパワーに着目して－. *厚生*の指標, 61, 31-38, 2014.

尹 之恩, 辻 大士, 金森章浩, 田中喜代次, 大藏倫博: 全身振動 (whole-body vibration) トレーニングが変形性膝関節症および膝痛を有する中年・高齢女性の膝機能および身体機能に及ぼす影響. *体力科学*, 63, 371-382, 2014.

神藤隆志, 角田憲治, 相馬優樹, 北濃成樹, 辻 大士, 村木敏明, 堀田和司, 大藏倫博: 地域在住女性高齢者のスクエアステップを中心とした運動教室参加による体力への効果の規定要因. *日本老年医学会雑誌*, 51, 251-257, 2014.

角田憲治, 甲斐裕子, 北濃成樹, 内田 賢, 朽木 勤, 大藏倫博, 永松俊哉: 身体活動が睡眠時間および睡眠の質に与える影響: 縦断研究に基づく検討. *体力研究*, 112, 8-17, 2014.

Shigematsu R, Okura T, Nakagaichi M, Nakata Y: Effects of Exercise Program Requiring Attention, Memory and Imitation on Cognitive Function in Elderly Persons: A Non-Randomized Pilot Study. *J Gerontol Geriatr Res*, 3, 147, 2014.

4. 著 書

大藏倫博: 認知機能向上プログラム「スクエアステップ」の開発. アンチ・エイジングシリーズ No.4 進化する運動科学の研究最前線. 株式会社エヌ・ティー・エス, 東京, 339-346, 2014.

辻 大士, 大藏倫博: 静的なアクセラレーショントレーニング法の開発. アンチ・エイジングシリーズ No.4 進化する運動科学の研究最前線. 株式会社エヌ・ティー・エス, 東京, 329-338, 2014.

大藏倫博: サルコペニアに対する運動療法のあり方. 特集: サルコペニア～医療職間連携による多角的アプローチ～. *CLINICAL CALCIUM*, 24, 1519-1526, 2014.

大藏倫博: 認知機能の低下を防止するための効果的な運動 (編) 日本メディカルフィットネス研究会. *メディカルフィットネス Q & A*. 社会保険研究所, 東京, 176-177, 2014.

大藏倫博, 辻 大士: サルコペニア予防のための効果的な運動とは? (編) 荒井秀典. 特集: サルコペニアとフレイル－臨床と研究の最前線－. *Geriatric Medicine*, 52, 377-380, 2014.

大藏倫博: 調査用紙の作成方法に関するスキル. (編) 山下秋二, 佐藤進. *健康・スポーツ科学のための調査研究法*. 杏林書院, 東京, 51-69, 2014.

5. 受 賞

日本体育測定評価学会第 13 回「優秀発表」 地域在住高齢者における Sarcopenia, Dynapenia と身体機能との関連性. 日本体育測定評価学会第 13 回大会, 奈良, 2014. 3.

6. その他

「健康度評価システムを内蔵する家庭用体重計の開発」(株式会社タニタ)

「高齢者のロコモティブシンドローム予防に関する共同研究」(アルケア株式会社)

「女性高齢者の足形データを元に設計した木型の妥当性の検討、並びに女性高齢者の歩行中の重心移動と歩行能力及びバランス能力との関係に関する研究」(ピジョン株式会社)

「身体・認知機能を総合評価するための機器の開発」(株式会社安川電機)

「軽度要介護高齢者の身体・認知機能改善プログラム及びその評価法の開発」(株式会社元気広場)

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

「転倒予防・認知機能向上に役立つ一歩前へ踏み出すためのスクエアステップ (茨城県在宅保健師の会)」(3月6日)

「歩く脳トレ運動で認知症予防と健康づくり (茨城県郷土文化振興財団)」(4月24日)

「平成26年度第1回生涯スポーツリーダー研修会 (埼玉県教育委員会 公益財団法人埼玉県体育協会)」(5月11日)

「高齢者の successful aging につながる運動のあり方 (ヘルス&フィットネスジャパン2014)」(6月17日)

「歩く脳トレ体操で心と体のリフレッシュ (パーキンソン病友の会神奈川県支部)」(7月25日)

「平成26年度第2回日本健康運動指導士会山形県支部研修会 (日本健康運動指導士会山形県支部)」(12月7日)

「日本介護支援専門員協会北関東ブロック研修大会 in いばらき 市民公開講座 (茨城県ケアマネージャー協会)」(12月14日)

社会貢献活動

日本体育測定評価学会常任理事 (平成24年～)

日本健康支援学会理事 (平成25年～)

NPO 法人スクエアステップ協会理事長 (平成18年～)

株式会社 THF 取締役 (平成17年～)

筑波大学東日本大震災復興・再生支援プログラム 代表者 (平成24年～)

BMC Geriatrics 編集委員 (平成25年～)

筑波大学社会貢献プロジェクト 代表者 (平成25年～)

茨城県笠間市地域クラウドモデル推進協議会 委員 (平成25年～)

茨城県笠間市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定 委員長 (平成26年～)

准教授 麻見直美

研究業績

1. 学会発表

Hattori S, Park JH, Agata U, Higano M, Oda M, Omi N: Influence of food restriction combined with voluntary running on bone morphology and strength in young and mature male rats. International Osteoporosis Foundation (IOF)-International Society for Clinical Densitometry (ISCD) skeletal health, Orland, 2014. 2.

神家さおり, 角谷雄哉, 張シヨウ, 小山友紀, 麻見直美: 小中学生における望ましい食行動に関するセ

- ルフエフィカシーと主観的健康状態の関連－茨城県神栖市の児童生徒を対象として－. 日本発育発達学会第12回大会, 大阪, 2014. 3.
- 角谷雄哉, 神家さおり, 小山友紀, 張シヨウ, 麻見直美: 中学生における運動習慣と間食選択動機との関連－茨城県神栖市の生徒を対象として－. 日本発育発達学会第12回大会, 大阪, 2014. 3.
- 赤野史典, 佐藤憲司, 玄海嗣生, 緒形ひとみ, 麻見直美: 大規模災害発生時の隊員の効果的な活動食の摂取方策に関する検証. 平成26年度日本火災学会研究発表会, 東京, 2014. 5.
- 緒形ひとみ, 小林勇紀, 棟田裕一, 椎名康彦, 麻見直美: 魚肉ソーセージの補食としての摂取効果の検討. 日本栄養食糧学会第68回大会, 札幌, 2014. 6.
- Yuichi N, Umon A, Naomi O: The analysis of mineral crystallinity in cortical area of tibia using ovariectomized rat. European College of Sport Science, Amsterdam, 2014. 7.
- Kato S, Ogata H, Tsukahara H, Aoshima Y, Omi N: Effect of anserine-containing fish-sausage supplementation on high-intensity exercise. European College of Sport Science, Amsterdam, 2014. 7.
- Hikihara Y, Watanabe M, Wakabayashi H, Hnawa S, Aoyama T, Omi N, Tanaka S: Acquisition of physical fitness and motor skills promotes physical activity in elementary school children: a one-year follow-up study. European College of Sport Science, Amsterdam, 2014. 7.
- Watanabe M, Hikihara Y, Wakabayashi H, Hanawa S, Aoyama Y, The Nguven Hoang, Tsurumi T, Omi N, Tanaka S: Relation between physical activity and motor skills in young children. European College of Sport Science, Amsterdam, 2014. 7.
- Aikawa Y, Agata U, Kakutani Y, Higano M, Satoshi H, Ogata H, Omi N: Preventive effects of calcium and/or glucose supplementation on reducing bone fragility in rat model of the female athlete triad. European College of Sport Science, Amsterdam, 2014. 7.
- 角谷雄哉, 神家さおり, 麻見直美: 若年成人における, 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事と, 栄養素および食品群摂取量との関連. 日本健康教育学会第23回学術大会, 札幌, 2014. 7.
- 津吉哲士, 麻見直美: 部活動指導者による高校生スポーツ選手への栄養指導. 日本スポーツ栄養学会第2回大会, 東京, 2014. 7.
- 赤野史典, 佐藤憲司, 玄海嗣生, 緒形ひとみ, 麻見直美: 大規模災害時における消防隊員向け活動食の有効性に関する調査. 日本災害食学会第2回研究発表会, 東京, 2014. 7.
- Kato S, Ogata H, Tsukahara H, Aoshima Y, Omi N: Effect of anserine-containing fish-sausage supplementation on high-intensity exercise. International Congress on Carnosine and Anserine (ICCA), Japan, 2014. 8.
- 武田哲子, 伊藤 慧, 神家さおり, 角谷雄哉, 麻見直美: 高校サッカー選手が自覚している食生活に関する問題点の報告: 自由記述回答を対象とした質的研究. 日本栄養改善学会第61回学術総会, 横浜, 2014. 8.
- 前原千佳, 遠藤祐紀, 緒形ひとみ, 麻見直美: アラニン・プロリンの慢性投与がラットの筋グリコーゲン蓄積に与える影響. 日本体力医学会第69回大会, 長崎, 2014. 9.
- 麻見直美: シンポジウム11「日本体育医学会新評議委員の研究・キャリア」. 日本体力医学会第69回大会, 長崎, 2014. 9.
- 奥本 正, 前田美裕紀, 相川悠貴, 川島紫乃, 麻見直美, 勝田 茂: 高高齢者エリートアスリートの食生活の実態～運動習慣のない同年代の高高齢者と比較して～. 日本体力医学会第69回大会, 長崎, 2014. 9.
- Iwayama K, Kawabuchi R, Park I, Kurihara R, Nakamura K, Kobayashi M, Oishi S, Hibi M, Yasunaga K, Ogata H, Nabekura Y, Omi N, Tokuyama K: Exercise increases 24 h fat oxidation if performed before breakfast.. RACMEM, Japan, 2014. 10.

赤野史典, 佐藤憲司, 玄海嗣生, 熊野裕二, 緒形ひとみ, 麻見直美: 当庁が備蓄している非常食糧 (職員用) に関する検証. 消防技術安全所検証 / 研究成果発表会, 東京, 2014. 9.

2. 学術論文

Jonghoon Park, Naomi Omi: DHEA administration has limited effect on intestinal Ca absorption in ovariectomized rats. *J Exerc Nutr Biochem*, 18, 333-337, 2014.

相川悠貴, 川島紫乃, 麻見直美, 勝田 茂: 高齢者エリートアスリートの食事摂取状況: 10年後の追跡調査. *いばらき健康・スポーツ科学*, 31, 23-29, 2014.

J.Park, K.Aizawa, T.Akimoto, M.Lemitsu, U.Agata, S. Maeda, K.Lim., N.Omi: Dehydroepiandrosterone Administration Increased Trabecular Mass and Dihydrotestosterone Levels in the Cancellous Region of Tibia in Young Female Rats. *Horm Metab Res*, 46, 651-655, 2014.

Jonghoon Park, Naomi Omi: The effects of different exercise modes for preventing endothelial dysfunction of arteries and bone loss in ovariectomized rats. *J Exerc Nutr Biochem*, 18, 133-139, 2014.

Iimura Y, Agata U, Takeda S, Yobayashi Y, Yoshida S, Ezawa I, Omi N: The protective effect of lycopene intake on bone loss in ovariectomized rats. *J Bone Miner Metab* Jul 5 [Epub ahead of print]

Satoshi Hattori, Umon Agata, Jong-Hoon Park, Yuki Iimura, Shuji Tokuda, Ikuko Ezawa, Naomi Omi: The Relationship between Salivary Calcium Concentration and Differences in Bone Mineral Density Level in Female Rats. *J Nutr Sci Vitaminol*, 60, 152-158, 2014.

Fumi Kobayashi, Hitomi Ogata, Naomi Omi, Shoichiro Nagasaka, Sachiko Yamaguchi, Masanobu Hibi, Kumpei Tokuyama: Effect of breakfast skipping on diurnal variation of energy metabolism and blood glucose. *Obesity Research & Clinical Practice*, 8, 249-257, 2014.

Naomi Omi: Influence of exercise and sports on bone. *J Phys Fitness Sports Med*, 3, 241-248, 2014.

緒形ひとみ, 麻見直美, 徳山薫平: 食事誘発性熱産生方法の検討. *筑波大学体育系紀要*, 37, 169-171, 2014.

麻見直美, 緒形ひとみ: 大規模災害発生時における消防隊員の活動食と補給食の検討. *筑波大学体育系紀要*, 37, 165-168, 2014.

角谷雄哉, 中野 瞳, 小泉秀登, 麻見直美: ホエイ, カゼイン, およびその等量混合物摂取後の血中アミノ酸動態牛乳由来タンパク質摂取後の血中アミノ酸. *日本運動生理学会雑誌*, 21, 1-8, 2014.

Yuki Iimura, Umon Agata, Satoko Takeda, Yuki Kobayashi, Shigeki Yoshida, Ikuko Ezawa, Naomi Omi: Lycopene intake facilitates the increase of bone mineral density in growing female rats. *J Nutr Sci Vitaminol*, 60, 101-107, 2014.

Katsuhiko Yajima, Tomomi Seya, Kaito Iwayama, Masanobu Hibi, Sayaka Hari, Yu Nakashima, Hitomi Ogata, Naomi Omi, Makoto Satoh, Kumpei Tokuyama: Effects of Nutrient Composition of Dinner on Sleep Architecture and Energy Metabolism during Sleep. *J Nutr Sci Vitaminol*, 60, 114-121, 2014.

Hattori S, Park JH, Agata U, Oda M, Higano M, Aikawa Y, Akimoto T, Nabekura Y, Yamato H, Ezawa I, Omi N: Food restriction cause low bone strength and unusual bone morphology in exercised growing male rats. *J Nutr Sci Vitaminol*, 60, 35-42, 2014.

3. その他論文

神家さおり, 角谷雄哉, 麻見直美: 筑波大学社会貢献プロジェクト 2013-14 ばらんすあっぷ大作戦〜デジタルデバイスを活用した小中学生への食育〜. *筑波大学社会貢献プロジェクト 2013-14*, 14, 2014.

赤野史典, 佐藤建司, 玄海嗣生, 熊野裕二, 緒形ひとみ, 麻見直美: 当庁が備蓄している非常用食糧 (職員用) に関する検証, 消防技術安全所報 51 号, 46-54, 2014.

麻見直美: 救急活動と管理 交代制勤務を考慮した食生活. プレホスピタル・ケア, 27, 22-27, 2014.

4. 著書

麻見直美: ニュー運動生理学 I / Section6 5 骨退行. (宮村実晴 (編集)). 真興交易株医書出版部, 297-308, 2014.

麻見直美: Nブックス 改訂運動生理・栄養学 / 第 2 章 運動・トレーニングと身体の応答 3 運動・トレーニングによる生体内代謝の変化 3.5 ビタミン, 3.6 無機質. 第 3 章 トレーニングと食生活 2 食生活の基本的考え方. (高松 薫, 山田哲雄 (編集)). 建帛社, 東京, 82-86, 86-90, 102-110, 2014.

麻見直美: 体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学 / 7 章 スポーツ選手の骨の健康と栄養摂取. (田中素子, 樋口満 編著). 市村出版, 89-102, 2014.

6. その他

共同研究: 発育期における効果的な栄養サポートプログラムに関する研究. (~ 26. 3. 31)

共同研究: 魚肉ソーセージ摂取が運動後の筋肉疲労に及ぼす効果に関する研究. (~ 26. 3. 31)

共同研究: イソマルチュロースの運動機能に対する評価研究. (~ 26. 3. 31)

共同研究: 摂取タンパク源の違いによる, ヒト血中アミノ酸濃度の経時変化の比較検討. (~ 26. 3. 31)

共同研究: 「アラニン・プロリン転化糖質食摂取が肝臓及び筋グリコーゲン蓄積に及ぼす効果」に関する研究. (~ 27. 6. 30)

共同研究: 運動部に所属する学生のコンディショニング・栄養摂取状況の実態調査 (~ 27. 2. 28)

共同研究: イソマルチュロースの運動パフォーマンスに対する評価研究 (~ 28. 3. 31)

共同研究: サケに含まれる栄養成分の摂取が筋肉疲労に及ぼす効果に関する研究 (~ 27. 3. 31)

共同研究: プロテイン摂取がアスリートのからだづくりに及ぼす効果 (~ 28. 3. 31)

共同研究: メープルシロップのスポーツ現場での有用性の検討 (~ 28. 3. 31)

共同研究: 発育期スポーツ選手における効果的な栄養サポートプログラムに関する研究 (~ 29. 3. 31)

共同研究: 大規模災害時の隊員の効果的な活動食の摂取方策について (東京消防庁)

研究助成: 「地域のスポーツクラブに通う小中学生への食育を通じたコミュニティーの活性化」事業に対する研究助成

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

大江戸食事療法研究会「運動とたんぱく質の摂取～運動栄養学の視点から～」(2014 年 3 月 1 日)

つくば市立竹園東中学校 家庭教育学級講演会「いつ, 何を, どう食べるか, どう飲むか～子どもたちの食の自立のためのサポート～」(つくば市立竹園東中学校, 2014 年 6 月 30 日)

第 8 回バスケットボールトレーナー研修会 (公益財団法人日本バスケットボール協会スポーツ医科学委員会)「骨代謝と運動」(味の素ナショナルトレーニングセンター, 2014 年 6 月 1 日)

アスレティックトレーナー養成講習会 (学校法人杏文学園東京柔道整復専門学校)「スポーツ栄養学」(杏文学園東京柔道整復専門学校, 2014 年 7 月 6 日)

自立教科等担当教員講習会: 理学療法士 (筑波大学附属視覚特別支援学校)「運動栄養学」(筑波大学附属視覚特別支援学校, 2014 年 8 月 4 日)

スポーツ・遊びで見つける本気の自分 in Toyota (特別非営利活動法人スポーツ指導者支援協会)「『骨』のある選手を育てる～指導者・保護者のかかわり方を考える」(豊田市民文化会館, 2014年8月9日)
平成26年度第2回TSAコーチフォーラム(TSA実行委員会)「勝つための栄養セミナー 試合期に向けた栄養摂取について」(2014年9月29日)
新宿区家庭教育学級講座(新宿区四谷第六小学校課程教育学級)「食べることは生きること～体力・知力・見た目も大事, 骨あるヒトになるために～(四谷第六小学校, 2014年9月30日)
墨田区私立保育園協会研修会「保育園における食育」(曳舟文化センター, 2014年10月23日)
つくば私立谷田部東中学校家庭教育学級講演会「運動栄養学 スポーツ食育講座『成長メシ』」(つくば市谷田部東中学校, 2014年10月15日)
取材協力:「研究所たちの毎日弁当 スポーツ栄養学の専門家に聞く「賢いお弁当」の栄養学(つくばスタイル)」(no.19 2014年9月10日)

社会貢献活動

文部科学省(スポーツ振興財団)食に関する指導支援委員会委員(2007年～)
日本栄養改善学会 評議員(2010年～)
中学生の食生活に関する調査委員会委員(2011年～)
日本体力医学会 男女共同参画推進委員会委員(2012年～)
日本体力医学会 評議委員(2013年～)
チームいばらきサポート事業準備委員会委員(茨城県競技力向上対策本部)(2013年9月～)

公共機関, 企業等からの委託業務

委託研究: 神栖市ばらんすあっぷ大作戦. 神栖市(～26.3.31)
学術指導: 水分補給, スポーツ栄養およびスポーツ科学に関わる学術指導.(～26.12.31)
H26年筑波大学社会貢献プロジェクト: いばらきばらんすあっぷ大作戦! 子どもたち1人ひとりの食の自律を目指した食育

准教授 小池 関也

研究業績

1. 学会発表

Sekiya KOIKE and Yuhei HARADA: Dynamic Contribution Analysis of Tennis-serve-motion in Consideration of Torque Generating Mode, The 2014 Conference of the International Sports Association, Sheffield, UK, 2014. 7.
Sekiya KOIKE and Tomohiro HASHIGUCHI: Dynamic Contribution Analysis of Badminton-smash- motion with Consideration of Racket Shaft Deformation (A Model Consisted of Racket-side Upper Limb and a Racket), The 2014 Conference of the International Sports Association, Sheffield, UK, 2014. 7.
Yutaka SHIMIZU, Michiyoshi AE and Sekiya KOIKE: Contribution of the Joint Torque of the Takeoff Leg, The 32nd Conference of International Society of Biomechanics in Sport, Johnson City, USA, 2014. 7.
永井悠樹, 小池関也, 仲谷政剛: クラウチングスタートにおける四肢関節の動力的分析～関節機能の定式化～. 日本体育学会第64回大会, 盛岡, 2014. 8.
橋口友洋, 小池関也: シャフトのしなりを考慮したバドミントン・スウィング動作の動力的分析(ラケット

- トヘッドスピード獲得メカニズムにおけるスマッシュ動作とドライブ動作との違い). 第 23 回日本バイオメカニクス学会大会, 東京, 2014. 9.
- 原田悠平, 小池関也, 井上喜雄, 芝田京子:慣性センサー情報に基づくスイング動作の動力的分析 (センサー情報を用いた動作データの構築について). 第 23 回日本バイオメカニクス学会大会, 東京, 2014. 9.
- 永井悠樹, 小池関也:シューズソールの屈曲剛性を考慮したスプリント加速局面における支持脚関節機能の評価. 第 23 回日本バイオメカニクス学会大会, 東京, 2014. 9.
- 小池関也:系の運動方程式に基づく身体動作の動力的分析. シンポジウム 1「精度とどう向き合うか」, 第 23 回日本バイオメカニクス学会大会, 東京, 2014. 9. (シンポジスト)
- 橋口友洋, 小池関也:バドミントンにおけるジャンピング・スマッシュ動作の動力的分析 (全身の角運動量に対する各関節軸トルクの貢献). 日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2014 講演会, 東京, 2014. 8.
- 小池関也, 仲谷政剛:定速走動作における支持脚関節トルクの膝関節負荷に対する動力的貢献. 日本機械学会 2014 年度年次大会, 東京, 2014. 9.
- 小池関也, 原田悠平, 芝田京子, 井上喜雄:慣性センサー情報に基づくスイング動作の動力的分析 (ヘッドスピード獲得メカニズムの定量化). 日本機械学会シンポジウム:スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス 2014 講演会, 長岡, 2014. 10.
- 原田悠平, 小池関也:筋の張力発揮特性を考慮したラケットスピード獲得メカニズム. 日本機械学会シンポジウム:スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス 2014 講演会, 長岡, 2014. 10.
- 橋口友洋, 小池関也:バドミントン・スマッシュ動作におけるラケット姿勢制御メカニズム. 日本機械学会シンポジウム:スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス 2014 講演会, 長岡, 2014. 10.
- 小池関也, 永井悠樹:スプリント加速局面における支持脚関節トルクの機能および機序. 日本機械学会シンポジウム:スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス 2014 講演会, 長岡, 2014. 10.
- 仲谷政剛, 小池関也:走速度の変化が支持脚関節の動力的機能に及ぼす影響. 日本機械学会シンポジウム:スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス 2014 講演会, 長岡, 2014. 10.

2. 学術論文

- 仲谷政剛, 小池関也:収縮様式を考慮した定速走動作における支持脚筋群の動力的な役割. バイオメカニクス学会誌, 38(1), 61-73, 2014.
- 仲谷政剛, 小池関也:筋張力の動力的変換率および発揮負担度からみた定速走における支持脚筋群の動的特徴. バイオメカニクス学会誌, 38(3), 207-217, 2014.
- 阿江数通, 小池関也, 川村 卓:打点高の異なる野球ティー打撃動作における左右上肢のキネティクスの分析. 体育学研究, 59, 431-452, 2014.
- Sekiya KOIKE and Yuhei HARADA: Dynamic Contribution Analysis of Tennis-serve-motion in Consideration of Torque Generating Mode, *Procedia Engineering*, Vol.72, 97-102, 2014.
- Sekiya KOIKE and Tomohiro HASHIGUCHI: Dynamic Contribution Analysis of Badminton-smash- motion with Consideration of Racket Shaft Deformation (A Model Consisted of Racket-side Upper Limb and a Racket), *Procedia Engineering*, Vol.72, 496-501, 2014.

3. その他論文

- 橋口友洋, 小池関也:バドミントンにおけるジャンピング・スマッシュ動作の動力的分析 (全身の角

運動量に対する各関節軸トルクの貢献). 日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2014 講演論文集 USB, 2014.

小池関也, 仲谷政剛: 定速走動作における支持脚関節トルクの膝関節負荷に対する動力的貢献. 日本機械学会 2014 年度年次大会講演論文集 USB, 2014.

小池関也, 原田悠平, 芝田京子, 井上喜雄: 慣性センサー情報に基づくスイング動作の動力的分析 (ヘッドスピード獲得メカニズムの定量化). 日本機械学会シンポジウム: スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス 2014 講演論文集 USB, 2014.

原田悠平, 小池関也: 筋の張力発揮特性を考慮したラケットスピード獲得メカニズム, 日本機械学会シンポジウム: スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス 2014 講演論文集 USB, 2014.

橋口友洋, 小池関也: バドミントン・スマッシュ動作におけるラケット姿勢制御メカニズム. 日本機械学会シンポジウム: スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス 2014 講演論文集 USB, 2014.

小池関也, 永井悠樹: スプリント加速局面における支持脚関節トルクの機能および機序, 日本機械学会シンポジウム: スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス 2014 講演論文集 USB, 2014.

仲谷政剛, 小池関也: 走速度の変化が支持脚関節の動力的機能に及ぼす影響. 日本機械学会シンポジウム: スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス 2014 講演論文集 USB, 2014.

4. 著 書

高田 一, 有川敬輔, 石綿良三, 神谷敬輔, 井上卓見, 梶原逸郎, 高原弘樹, 吉田和哉, 木村弘之, 小池関也, 木村康二, 武田行生: JSME テキストシリーズ 機械工学のための力学, 日本機械学会, 2014. 1.

5. 受 賞

バイオメカニクス学会 学会賞・論文賞: 仲谷政剛, 小池関也: 収縮様式を考慮した定速走動作における支持脚筋群の動力的な役割. バイオメカニクス学会誌, 38 (1), 61-73, 2014. に対して, 2014. 11.

教育活動

橋口友洋 (MC 指導院生, 現ミズノ): 日本バイオメカニクス学会奨励賞 受賞, シャフトのしなりを考慮したバドミントン・スウィング動作の動力的分析 (ラケットヘッドスピード獲得メカニズムにおけるスマッシュ動作とドライブ動作との違い), 第 23 回日本バイオメカニクス学会大会の研究発表に対して, 東京, 2014. 9.

橋口友洋 (MC 指導院生, 現ミズノ): 日本機械学会優秀講演フェロー賞 受賞, バドミントン・スマッシュ動作のヘッドスピード獲得メカニズムにおけるラケットシャフト部のしなりの影響. 日本機械学会シンポジウム: スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス 2013 の研究発表に対して, 長岡, 2014. 10.

仲谷政剛 (DC 指導院生, 現アシックス): バイオメカニクス学会 学会賞・論文賞 受賞, 収縮様式を考慮した定速走動作における支持脚筋群の動力的な役割. バイオメカニクス学会誌, 38(1), 61-73, 2014. に対して, 岡山, 2014. 11.

社会貢献活動

日本体育学会 代議委員

日本バイオメカニクス学会 理事

バイオメカニクス学会 編集委員

公共機関，企業等からの委託業務

文部科学省「スポーツ R&D コアプロジェクト事業」運営委員

准教授 柴田 愛

研究業績

1. 学会発表

Shibata A, Ishii K, Oka K: Neighborhood environmental attributes and screen time among middle-aged Japanese adults: Cross-sectional and prospective associations. The 5th International Congress on Physical Activity and Public Health, Brazil, 2014. 4.

柴田 愛, 石井香織, 仲貴 子, 岡浩一郎: 地域在住高齢者における客観的に評価した座位行動パターンと骨格筋量との関連. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

柴田 愛, 石井香織, 岡浩一郎: 自記式質問紙評価による日本人成人の座位行動パターンの特徴. 第 17 回 運動疫学会学術集会, 長崎, 2014. 9.

2. 学術論文

Sugiyama T, Shibata A, Koohsari MJ, Tanamas SK, Oka K, Salmon J, Dunstan DW, Owen N: Neighborhood environmental attributes and adults' maintenance of regular walking. *Medicine and Science in Sports and Exercise*, 2015 (in press).

Harada K, Shibata A, Lee E, Oka K, Nakamura Y: Sources of strength-training information and strength-training behavior among Japanese older adults. *Health promotion international*, 2015 (in press).

Harada K, Shibata A, Oka K, Nakamura Y: Association of muscle-strengthening activity with knee and low back pain, falls, and health-related quality of life among Japanese older adults: A cross-sectional survey. *Journal of Aging and Physical Activity*, 23 (1), 1-8, 2015.

青柳健隆, 石井香織, 柴田 愛, 荒井弘和, 深町花子, 岡浩一郎: 運動部活動での外部指導者活用推進に向けた組織の取り組み事例. *体育学研究*, 2015 (印刷中).

Ishii K, Shibata A, Sato M, Oka K: Recess physical activity and perceived school environment among elementary school children. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 11 (7), 7195-7206, 2014.

Harada K, Shibata A, Ishii K, Liao Y, Oka K: Perceived and objectively measured access to strength-training facilities and strength-training behavior. *Annals of Behavioral Medicine*, 48 (1), 120-124, 2014.

Harada K, Shibata A, Lee E, Oka K, Nakamura Y: Associations between perceived health benefits and barriers to strength training, and stages of change for strength-training behavior among older Japanese adults. *Journal of Physical Activity and Health*, 11 (4), 801-809, 2014.

Miyawaki R, Shibata A, Ishii K, Oka K: Awareness and correlates of the role of physical activity in breast cancer prevention among Japanese women: results from an Internet-based cross-sectional survey. *BMC women's health*, 14:80, 2014.

Aoyagi K, Ishii K, Shibata A, Arai H, Oka K: How to outsource coaching in school-based extracurricular sports activities: Evaluating perceptions of external coaches. *International Journal of Education*, 6 (3), 101-118,

2014.

Aoyagi K, Ishii K, Shibata A, Arai H, Hibi C, Oka K: Quantitative assessment of facilitators and barriers to using external coaches in school-based extracurricular sports activities. *Journal of Physical Education and Sport Management*, 5 (4), 45-53, 2014.

柴田 愛, 石井香織, 井上 茂, 岡浩一郎: 成人を対象にした座位時間を減らすための介入研究のシステムティックレビュー. *運動疫学研究*, 16 (1), 9-23, 2014.

宮脇梨奈, 柴田 愛, 石井香織, 岡浩一郎: 身体活動・運動実施による大腸がん予防効果の認知とその関連要因. *日本健康教育学会誌*, 22 (4), 297-305, 2014.

中楚友一郎, 柴田 愛, 石井香織, 中村菜々子, 松永美希, 岡浩一郎: 慢性膝痛の自己管理介入への認知行動療法の応用: 高齢者を対象にしたランダム化比較試験のシステムティックレビュー. *日本老年医学会雑誌*, 51 (5), 401-410, 2014.

青柳健隆, 石井香織, 柴田 愛, 荒井弘和, 岡浩一郎: 運動部活動における潜在的な外部指導者の社会人口統計学的特徴. *スポーツ産業学研究*, 24 (2), 185-193, 2014.

4. 著 書

柴田 愛: 運動・身体活動のエビデンス 82: 健康増進に効果的なレベルの身体活動の実施には, 個人的, 心理社会的, 環境的な関連要因が認められる. 月刊「健康づくり」4月号, 23, 2014.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

平成 26 年度 第 1 回 産業保健指導・産業栄養指導専門研修 講師「行動科学理論を活かした健康支援」(中央労働災害防止協会, 11 月 26 日)

社会貢献活動

日本体力医学会評議員 (2013 年～)

日本行動医学会評議員 (2010 年～)

准教授 竹 村 雅 裕

研究業績

1. 学会発表

Shibata S, Takemura M, Ha D, Miyakawa S: Understanding gender differences in anterior cruciate ligament injury mechanisms using kinematic analysis of single leg landing. *Northeast Asian Conference on Kinesiology 2014, Taiwan*, 2014, 11.

Ha D., Cheon W, Miyakawa S, Shibata S, Noh B-L, Takemura M: The relationship between batting average and batting-related factors of collegiate baseball players. *Northeast Asian Conference on Kinesiology 2014, Taiwan*, 2014, 11.

磯あすか, 平井晴子, 田崎 篤, 田中彩乃, 竹村雅裕, 石山修盟, 田島卓也: 女子 7 人制ラグビー日本代表チームにおける傷害発生の現状 (第 4 報). 第 23 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014. 11.

宮川俊平, 白木 仁, 向井直樹, 竹村雅裕, 福田 崇: 筑波大学 (茨城県) におけるスポーツ医学拠点

の構築, 第 23 回日本臨床スポーツ医学会学術集会 シンポジウム 9: スポーツ医学拠点の充実と増加に向けて, 東京, 2014. 11.

花岡裕吉, 清水和弘, 鷺谷浩輔, 田村 明, 竹村雅裕, 古川拓生, 宮本俊和, 渡部厚一, 赤間高雄: MG2809 乳酸菌の摂取が強化練習期間におけるアスリートの唾液中の分泌型免疫グロブリン A に及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

鈴木啓太, 永井 智, 大垣 亮, 嶋崎達也, 古川拓生, 宮川俊平, 竹村雅裕: 大学ラグビー選手における脳振盪・脳振盪疑いの受傷機転. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

中根聡子, 竹村雅裕, 大垣 亮: Functional Movement Screen を用いた分類によるカッティング動作時の下肢 Kinematics・Kinetics の検討. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

古川美幸, 下野俊彦, 竹村雅裕, 向井直樹, 白木 仁, 宮川俊平: 体幹トレーニングが身体に与える影響の安全性の検討. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

柴田 麗, 清水和弘, 赤間高雄, 竹村雅裕, 古川拓生, 鷺谷浩輔, 花岡裕吉: 学生アスリートにおける栄養介入のコンディション維持への有用性. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

中島亮一, 功刀 駿, 前原 淳, 竹村雅裕, 向井直樹, 白木 仁, 宮川俊平: 短時間のスタビライゼーションエクササイズが閉眼片脚立位姿勢制御に及ぼす即時効果. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

大垣 亮, 竹村雅裕, 永井 智, 芋生祥之, 高木 祥, 宮川俊平: 大学ラグビー選手の肩関節傷害に関する縦断的疫学調査. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

永井 安, 吉田成仁, 竹村雅裕, 向井直樹, 白木 仁, 宮川俊平: 認知課題の付加が片脚着地時下肢筋活動に与える影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

新井宏隆, 下野俊彦, 武内孝祐, 宮川俊平, 竹村雅裕: 大学野球投手の投球障害発生前の肩関節 ROM. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

遠江朋子, 下野俊彦, 永井 智, 宮川俊平, 竹村雅裕: Slump test 中の坐骨神経の動態について - 計測方法の信頼性の検討 -. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

竹村雅裕: アスレティックトレーニング学研究の基礎 (入門編). 第 3 回日本アスレティックトレーニング学会学術集会教育講演 1, 愛知, 2014. 7.

竹村雅裕, 永井 智, 大垣 亮, 芋生祥之, 宮本芳明, 岩井浩一, 宮川俊平: スポーツ復帰に向けての客観的な理学療法評価 - 疫学調査結果の活用 - (シンポジスト). 第 49 回日本理学療法学術大会運動器理学療法研究部会シンポジウム, 神奈川, 2014. 5.

武内孝祐, 下野俊彦, 柴田 聡, 竹村雅裕: 対象者の柔軟性の違いが筋腱の伸長に与える影響. 第 49 回日本理学療法学術大会, 神奈川, 2014. 5.

2. 学術論文

大垣 亮, 竹村雅裕, 岩井浩一, 宮川俊平: 運動後の冷却が組織温度及び血行動態に及ぼす影響. 筑波大学体育系紀要, 37: 123-12, 2014.

大垣 亮, 竹村雅裕, 岩井浩一, 宮本芳明, 芋生祥之, 永井 智, 宮川俊平: ラグビー選手における肩関節外傷の初回受傷及び再受傷の危険因子. 体力科学, 63 (1): 189-196, 2014.

芋生祥之, 金岡恒治, 竹村雅裕, 宮川俊平: 【スポーツ現場での頭頸部外傷】現場でのケアのヒント・指針 頭部直接衝突時の頸椎損傷 ラグビーにおける受傷機序と損傷予防に関する知見. 臨床スポーツ医学, 31 (3): 63-67, 2014.

3. その他論文

- 大垣 亮, 竹村雅裕, 芋生祥之, 高木 祥, 永井 智, 岩井浩一, 宮川俊平: 大学ラグビー選手の膝靭帯損傷に関わる内的危険因子. いばらき健康・スポーツ科学, 31, 189-196, 2014.
- 山田睦雄, 古谷正博, 竹村雅裕: ジュニア期におけるスポーツ外傷・障害への取り組み-第1報-, 2. 各競技におけるスポーツ外傷・障害予防プログラムの検証, 2-4. ラグビー, 平成 25 年度 日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 I, 51-54, 2014.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

- 筑波大学スポーツ医学運動教室「股関節教室」総合研究棟 D・6F 体力トレーニング室 (年間, 2 回/月)
- 筑波大学 Tsukuba Sports Association 「TSA トレーナー養成チーム」リーダー (年間)
- 筑波大学 Tsukuba Summer Institute 「Lab workshop」コーディネーター (7 月 18 日~25 日)
- 公益社団法人全国大学体育連合 第 5 回大学体育指導者養成研修会「ラグビー」講師 (3 月 9 日~11 日)
- 株式会社つくばウェルネスリサーチ ウェルネスマネジメント研修会「整形外科的疾患を考慮した運動指導」講師 (7 月 5 日)
- (公財) 日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成講習会 第 4 期集合講習「コンデショニングの方法と実際」講師 (8 月 21 日)
- 公益社団法人日本理学療法士協会 理学療法士講習会 (基本編・理論)「スポーツ理学療法に必要な関節の解剖・運動学と代表的疾患の理学療法の展開 スポーツ障害・外傷 (頸部・体幹) の理学療法」講師 (10 月 19 日)
- 株式会社つくばウェルネスリサーチ 筋トレマスター研修会「整形外科的疾患を考慮した運動指導」講師 (11 月 14 日)

競技活動

- 筑波大学ラグビーフットボールクラブ 副部長兼アスレティックトレーナー
- 2013-14 シーズン 全国大学選手権ベスト 4
- 2014-15 シーズン 全国大学選手権準優勝

社会貢献活動

- 日本理学療法士協会 (1993 年~)
- 日本体育学会 (2004 年~)
- 日本体力医学会 (2004 年~)
- 日本臨床スポーツ医学会 (2005 年~)
- 日本フットボール学会 (2008 年~)
- 日本整形外科スポーツ医学会 (2013 年~)
- 日本アスレティックトレーニング学会 評議員 (2012 年~)
- 日本スポーツ理学療法学会 (2014 年~)
- 日本ラグビーフットボール協会メディカル委員会トレーナー部門委員 (2004 年~)
- 日本体育協会公認アスレティックトレーナー連絡協議会茨城県代表委員 (2009 年~)
- 日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目検定試験委員 (2011 年~)
- 日本ラグビーフットボール協会トップリーグ事業部メディカルコントロール部会委員 (2012 年~)
- 日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会研究班員 (2013 年~2015 年)

茨城県体育協会スポーツ医・科学委員会委員（2013年～2015年）

公共機関、企業等からの委託業務

「ジャパンラグビートップリーグ外傷・障害調査及び分析」（日本ラグビーフットボール協会）（2004年～）

「マルチサポート事業」（文部科学省、日本オリンピック委員会）（2013年～）

「ジュニア期におけるスポーツ外傷・障害の予防への取り組み」（日本体育協会）（2013年～）

准教授 橋本 佐由理

研究業績

1. 学会発表

橋本佐由理：シンポジウム ファシリテーター 親子で見つけたあるがままの生き方，第21回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2014.09.

小林好信，松田基子，樋口倫子，山口 香，橋本佐由理：口頭発表 大学柔道選手のスポーツ障害経験による心理的成長の可能性，第21回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2014.09.

仁部ゆかり，橋本佐由理：口頭発表 女子大学生の精神的健康状態に関連する心理社会的要因の検討，第21回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2014.09.

橋本佐由理，樋口倫子，向笠京子：口頭発表 糖尿病患者の血糖コントロールと心理特性の関連，第21回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2014.09.

眞崎由香，橋本佐由理：口頭発表 SAT 気質コーチングとイメージ療法を用いた子育て支援，第21回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2014.09.

村上 真，橋本佐由理：口頭発表 ヨーガ療法および SAT 宇宙自己イメージ法介入によるストレスマネジメント効果－勤労者のストレス反応に対する短期的効果の検討－，第21回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2014.09.

窪田辰政，亀川かすみ，山口桃香，神田玲奈，橋本佐由理，宗像恒次：ポスター発表 SAT 自己カウンセリングシートを導入した要約・発表能力育成の心理教育指導－体育・スポーツ系学生への新たな教育指導法の試み－，第21回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2014.09.

山口 豊，窪田辰政，橋本佐由理，宗像恒次：ポスター発表 思春期自傷行為の心理的要因に効果的に働きかける SAT イメージ療法，第21回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2014.09.

樋口倫子，杉浦雄策，星野伸明，稲場夢有，橋本佐由理：ポスター発表 大学生のレジリエンス促進のため電子自己学習プログラム－試験運用の結果から－，第21回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2014.09.

相木彩子，橋本佐由理：ポスター発表 心臓カテーテル検査室に従事する看護師のストレス要因のパイロット調査，第21回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2014.09.

カイサルサテ，村上 真，橋本佐由理：ポスター発表 在日ウイグル人留学生の生活習慣と精神健康に関する調査，第21回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2014.09.

稲場夢有，樋口倫子，橋本佐由理：ポスター発表 自己イメージと抑うつに関する研究－首都圏の大学に通う学生を対象として－，第21回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2014.09.

岩崎 靖，橋本佐由理：ポスター発表 中小企業における経営陣のストレスとメンタルヘルスに関する研究，第21回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2014.09.

林 哲也，橋本佐由理：ポスター発表 ボランティア活動に参加した不登校生，高校中退者の気づきと

学び－東日本大震災における被災地支援を通して－，第21回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2014.09.

橋本佐由理，小林好信，松田基子，山口 香：口頭発表 柔道選手の自己イメージやレジリエンスが心理的競技能力やスポーツ競技特性不安に与える影響，日本体育学会第65回大会，岩手，2014.08.

小林好信，山口 香，松田基子，橋本佐由理：口頭発表 柔道選手のスポーツ傷害に関する心理的要因と心理的成長の可能性について，日本体育学会第65回大会，岩手，2014.08.

山口 香，松田基子，小林好信，高野 修，橋本佐由理：口頭発表 柔道選手の競技成績の変化と自己イメージや心理的競技能力との関連，日本体育学会第65回大会，岩手，2014.08.

村上 真，橋本佐由理：口頭発表 就労者に対するヨガ療法のストレスマネジメント効果検討，日本体育学会第65回大会，岩手，2014.08.

仁部ゆかり，橋本佐由理：口頭発表 女子大学生の健康状態と自覚的ストレス及び大学の居心地に関する一考察，日本体育学会第65回大会，岩手，2014.08.

山口 豊，窪田辰政，松本俊彦，橋本佐由理：口頭発表 思春期「健康を害する行為」と心理特性との関連について－喫煙・飲酒・ダイエット・過食・嘔吐・過量服薬・自傷行為－，第33回日本思春期学会総会・学術集会，茨城，2014.08.

橋本佐由理：基調講演 ライフサイクルと行動科学研究，第29回日本保健医療行動科学学会学術大会，東京，2014.06.

山内恵子，樋口倫子，眞崎由香，橋本佐由理：口頭発表 被災地における心の支援ボランティア活動－SAT イメージセラピーや笑いによるストレス緩和－，第29回日本保健医療行動科学学会学術大会，東京，2014.06.

浜本幸江，鈴木美和子，井上美保，中島 茂，樋口倫子，橋本佐由理：口頭発表 糖尿病患者への料理教室を通じた食行動および血糖値改善への支援，第29回日本保健医療行動科学学会学術大会，東京，2014.06.

鈴木美和子，浜本幸江，井上美保，中島 茂，樋口倫子，橋本佐由理：口頭発表 糖尿病患者の血糖指標や骨量と健康習慣との関連，第29回日本保健医療行動科学学会学術大会，東京，2014.06.

眞崎由香，橋本佐由理：口頭発表 妊娠期の母親のウェルビーイング・愛着形成支援－気質コーチングとイメージ療法による予備的介入－，第29回日本保健医療行動科学学会学術大会，東京，2014.06.

田村知栄子，眞崎由香，橋本佐由理：口頭発表 自然分娩を選択した母親と帝王切開で出産した母親の自己イメージ，育児体験認知および出産時の気持ちについての比較検討，第29回日本保健医療行動科学学会学術大会，東京，2014.06.

蓮井貴子，橋本佐由理：口頭発表 成人女性の月経随伴症状と自己イメージスクリプト及び環境認知の関連の検討，第29回日本保健医療行動科学学会学術大会，東京，2014.06.

村上 真，橋本佐由理：口頭発表 就労者へのヨガ療法介入のストレスマネジメント効果，第29回日本保健医療行動科学学会学術大会，東京，2014.06.

伊藤千春，橋本佐由理：口頭発表 労働者のストレスマネジメント支援に向けての因果モデル構築，第29回日本保健医療行動科学学会学術大会，東京，2014.06.

小林好信，北島信哉，橋本佐由理：口頭発表 高校野球選手の自己イメージとレジリエンスや心理競技能力に関する研究，第29回日本保健医療行動科学学会学術大会，東京，2014.06.

笠野英弘，橋本佐由理：口頭発表 日本におけるサッカー実施者の性格特性に関する一考察 ライフヒストリー分析を通して，第29回日本保健医療行動科学学会学術大会，東京，2014.06.

- 仁部ゆかり, 橋本佐由理: 口頭発表 女子大学生の精神健康に関する検討, 第29回日本保健医療行動科学会学術大会, 東京, 2014. 06.
- 樋口倫子, 杉浦雄策, 星野申明, 橋本佐由理: ポスター発表 大学生のレジリエンス促進 Web-Based Psychoeducation プログラムの開発-予備介入の有効性について-, 第29回日本保健医療行動科学会学術大会, 東京, 2014. 06.
- 北島信哉, 久野譜也, 田辺 解, 橋本佐由理: ポスター発表 幼児期における足と靴の適合性が足部変形に及ぼす影響, 第29回日本保健医療行動科学会学術大会, 東京, 2014. 06.
- 岩崎 靖, 橋本佐由理, 宗像恒次: ポスター発表 中小企業における経営陣のメンタルヘルスに関する研究-経営者と経営パートナーの自己イメージとストレスの比較-, 第29回日本保健医療行動科学会学術大会, 東京, 2014. 06.
- 松本敦子, 橋本佐由理: ポスター発表 女性経営者の心的葛藤に関する質的研究-ストレスによって病を経験した女性経営者の語りから-, 第29回日本保健医療行動科学会学術大会, 東京, 2014. 06.
- 橋本佐由理, 大葉ナナコ, 眞崎由香: 体験学習ワークショップ 子育てワークショップ, 第29回日本保健医療行動科学会学術大会, 東京, 2014. 06.
- 橋本佐由理: 特別講演 心に元気の種をまく, 第10回すこやかキッズ支援全国セミナー, 東京, 2014. 03.

2. 学術論文

- 樋口倫子, 杉浦雄策, 星野申明, 橋本佐由理: 大学生のレジリエンス促進のための Web-Based Psychoeducation プログラム, ヘルスカウンセリング学会年報, Vol.20, 1-8, 2014. 09.
- 伊藤千春, 橋本佐由理: SAT 気質コーチング法を用いた労働者のストレスマネジメント支援, ヘルスカウンセリング学会年報, Vol.20, 1-8, 2014. 09.
- 山口 豊, 窪田辰政, 橋本佐由理, 宗像恒次: 思春期自傷行為の心理的要因に効果的に働きかける SAT イメージ療法, ヘルスカウンセリング学会年報, Vol.20, 1-8, 2014. 09.
- 樋口倫子, 橋本佐由理, 眞崎由香, 山内恵子: 宮城県亘理郡山元町における被災者へのこころの支援活動-セラピストとしての学びと課題-, 日本保健医療行動科学会雑誌, Vol. 29 No.1, 65-72, 2014. 06.
- 橋本佐由理, 眞崎由香, 樋口倫子: 宮城県亘理郡山元町における被災者へのこころの支援活動-傾聴ボランティア養成と被災者支援ボランティア活動の教育効果-, 日本保健医療行動科学会雑誌, Vol.29 No.1, 56-64, 2014. 06.
- 眞崎由香, 橋本佐由理, 樋口倫子, 山内恵子: 宮城県亘理郡山元町における被災者へのこころの支援活動-東日本大震災からの歩みと課題-, 日本保健医療行動科学会雑誌, Vol.29 No.1, 48-55, 2014. 06.
- 山口 豊, 窪田辰政, 杉山三七男, 橋本佐由理, 松本俊彦, 宗像恒次: 総説 自傷行為研究における課題, 思春期学, Vol.32 No.1, 197-206, 2014. 03.

3. その他論文

- 山口 豊, 中村結美花, 窪田辰政, 橋本佐由理, 松本俊彦, 宗像恒次: 自傷行為と心理特性との関連についての予備研究, 東京情報大学研究論集, Vol.17 No.2, 13-20, 2014. 03.

教育活動

2. 一般向け著書等

橋本佐由理：2015年度えんじょいらいふぷろぐらむ ～「あるがままの自分を大切にしたいワーク・ライフ・バランス」を目指して～. ニチイ学館労働組合 えんじょいらいふ通信, vol. 26, 2014. 12.

橋本佐由理：2014年度えんじょいらいふぷろぐらむ 自分の生き方は自分で変えられる！“ストレスサイン”を知って、気づいて、愉しんで生きる. ニチイ学館労働組合 えんじょいらいふ通信, vol. 25, 2014. 08.

橋本佐由理：インタビュー カウンセリングについて. 月刊ジャパンフィットネス, 9月号 No. 335 22-23, 2014. 08.

橋本佐由理：インタビュー 聞き上手になるための4つのヒント. 日経ドラッグインフォメーション, 4月号 通巻198号, 18-22, 2014. 04.

橋本佐由理：2014年度えんじょいらいふぷろぐらむ 自分の生き方は自分で変えられる！“ストレスサイン”を知って、気づいて、愉しんで生きる. ニチイ学館労働組合 えんじょいらいふ通信, vol. 24, 2014. 04.

橋本佐由理：2014年度えんじょいらいふぷろぐらむ 自分の生き方は自分で変えられる！“ストレスサイン”を知って、気づいて、愉しんで生きる. ニチイ学館労働組合 えんじょいらいふ通信, vol. 23, 2014. 02.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

Costco Wholesale (株) 女性管理職へのセミナー「女性管理職としてのコミュニケーション能力」(つくば市1月10日)

松代小学校家庭教育学級講演「こころが軽くなるファミリー円満のコツ」(つくば市1月24日)

高齢者体力づくり支援士資格検定講習会「高齢者の心理と運動」(横浜市2月4日, 7月13日)

八潮市こころの健康講座「子どもの笑顔が輝く条件～生きるエネルギーを支える魔法のスキル～」(八潮市2月17日)

横浜市病院協会看護専門学校特別講演会「学生のメンタルヘルス～安心・安全, 健康な愉しむ毎日を～」(横浜市3月5日)

ニチイ学館労働組合 えんじょいらいふセミナー2014「管理職のためのストレスマネジメント研修」(石川市4月12日, 東京6月7日, 函館市6月14日, 大阪市7月12日)

武蔵野市立0123 吉祥寺講演 「心の健康アップ～なんとかしたい私のストレス～」(武蔵野市5月27日, 6月5日)

教員免許状更新講習「ストレスマネジメント」(つくば市6月15日)

水戸地方・家庭裁判所管理職員研修「管理職員に期待されるコミュニケーション・スキル」(水戸市6月27日)

心と体の健康教育研修講座「心と体の健康づくり～コミュニケーション能力の向上を目指して～」(横浜市7月30日)

ピア・カウンセラー研修講座「ヘルスカウンセリングについて」(宇都宮市8月2日)

三重県保健師助産師看護師実習指導者講習会「教育方法2 コーチング法について」(津市9月2日)

三重県看護協会訪問看護師養成研修会「訪問看護技術:ナースの「聴いて伝える」コミュニケーション術」(津市9月3日)

二の宮幼稚園家庭教育学級講演「生きるエネルギーを支える魔法のスキル」(つくば市9月11日)

子育て支援講座 『遊びの広場』 「子どもの笑顔と笑い声を守るために」(春日部市10月28日)

傾聴ボランティア養成講座（つくば市 10 月 31 日, 11 月 21 日）
星野学園中学校職業講演会「将来の職業に関して考える～自分のエネルギーの向く道を進む～（川越市 11 月 6 日）
ホームビジタースキルアップ研修「乳幼児・児童を持つ母親へのイメージ療法」（野田市 11 月 15 日, 12 月 6 日）
つくば市手代木南小学校家庭教育学級「こころが軽くなるファミリー円満のコツ」（つくば市 11 月 19 日）
つくば市立吾妻小学校家庭教育学級「子どもともっと仲良くなりたい!」（つくば市 11 月 26 日）
県民大学後期講座「健康と癒しを求めて～心と体をリフレッシュ～」(行方市 12 月 7 日, 12 月 14 日)

社会貢献活動

日本保健医療行動科学会 理事（平成 12 年～）
ヘルスカウンセリング学会 副理事長（平成 18 年～）
未病システム学会評議員（平成 18 年～）
日本幼少児健康教育学会 理事（平成 19 年～）
横浜市立中高一貫教育校教育顧問 教育支援アドバイザー（平成 23 年～）
震災復興・日本再生支援事業「傾聴ボランティア活動を通じた心身の健康づくりに関する活動」（平成 25 年～）

准教授 向井直樹

研究業績

1. 学会発表

菅澤威仁, 向井直樹, 森慎太郎, 半田貴志, 熊木優子, 田村京子, 丹波泰子, 大城 聡: 異なる温度刺激が細胞の代謝活性に及ぼす影響－ヒト横紋筋肉腫細胞を用いた細胞生物学的解析－, 第 63 日本理学療法学会, 青森, 2014. 5.
菅澤威仁, 向井直樹, 森慎太郎, 半田貴志, 熊木優子, 田村京子, 丹波泰子, 大城 聡: 異なる温度刺激が細胞の代謝活性に及ぼす影響－ヒト脂肪肉腫細胞を用いた細胞生物学的解析－, 第 63 日本理学療法学会, 青森, 2014. 5.
中島亮一, 功刀 峻, 前原 淳, 竹村雅裕, 向井直樹, 白木 仁, 宮川俊平: 短時間のスタビライゼーションエクササイズが閉眼片脚立位姿勢制御に及ぼす即時効果. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
永井 安, 吉田成仁, 竹村雅裕, 向井直樹, 白木 仁, 宮川俊平: 認知課題の付加が片脚着地時下肢筋活動に与える影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
古川美幸, 下野俊彦, 竹村雅裕, 白木 仁, 向井直樹, 宮川俊平: 体幹エクササイズが身体に与える影響の安全性の検討. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.
Takehito Sugawara, Kazuhiro Takekoshi, Taiko Tanba, Kyoko Tamura, Takafumi Handa, Yuko Kumaki, Norihiko Moriyama, Naoki Mukai: The effects of cold stimulations of various temperatures on cell growth and metabolism activity for human cultured cells, 第 87 回日本生化学会大会 (英文ポスター発表), 京都, 2014.10.
菅澤威仁, 竹越一博, 向井直樹, 森山紀彦: 異なる冷却刺激が細胞の代謝活性および増殖に及ぼす影響－ラット褐色細胞腫脂肪 (PC12 cell) を用いた検討－, 関東甲信越理学療法学会, 佐久平, 2014.

11.

鎌田浩史, 山澤文裕, 鳥居 俊, 向井直樹, 桜庭景植, 前澤克彦, 高橋敏明, 横江清司, 菅原 誠, 馬場礼三: 全国高等学校総合体育大会・陸上競技出場選手における障害調査. 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014. 11.

社会貢献活動

日本オリンピック委員会情報・医・科学専門部会医学サポート部門員 (2004年～)

日本体育協会国民体育大会委員会医事部会員 (2004年～)

日本体育協会ドーピング防止部会ドーピングデータベース作業班員 (2012年～)

日本陸上競技連盟医事委員会副委員長 (2011年～)

准教授 渡 部 厚 一

研究業績

1. 学会発表

今井智子, 曾根良太, 渡部厚一: 一過性レジスタンス運動における呼気一酸化窒素の応答. 第69回日本体力医学会大会.

村瀬陽介, 渡部厚一: 唾液 Heat Shock Protein70 の一過性高強度運動に対する応答. 第69回日本体力医学会大会.

花岡裕吉, 清水和弘, 鷲谷浩輔, 田村 明, 柴田 麗, 石原真由美, 竹村雅裕, 古川拓生, 宮本俊和, 渡部厚一, 赤間高雄: MG2809 乳酸菌の摂取が強化練習期間におけるアスリートの唾液中の分泌型免疫グロブリン A に及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大会.

鳴海絵美, 土肥美智子, 岩原康こ, 田名辺陽子, 山澤文裕, 渡部厚一, 赤間高雄, 太田 健, 川原 貴: 冬季競技トップアスリートの呼吸機能の加齢性変化は非アスリートより強いのか? 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014. 11.

小原尚子, 渡部厚一: 産後1年未満の女性の主観的健康度と子育て環境への認識に関する研究. 日本ヘルスプロモーション学会第12回学術大会, 千葉, 2014. 11.

桐原あずみ, 植村珠枝, 渡部厚一: ワクチン接種開始後世代である女子大学生の子宮頸がんに関する教育の有無と知識の差. 日本ヘルスプロモーション学会第12回学術大会, 千葉, 2014. 11.

4. 著 書

渡部厚一: 第2編3章 呼吸器疾患, スポーツにおける薬物治療-処方と服薬指導-, オーム社, 東京, 73-91, 2014. 12.

渡部厚一, 金岡恒治, 加藤知生ほか: 第1章1水泳基礎理論6水泳の医学, 水泳コーチ教本第3版, 大修館書店, 東京, 86-158, 2014. 11.

渡部厚一: 【アスリートのアレルギー疾患に対するケア】アスリートにおける気管支喘息の診断と対策. 臨床スポーツ医学 31 (8), 文光堂, 754-759, 2014. 8.

渡部厚一: 日本メディカルフィットネス研究会編: Q55 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の運動療法とは, どういったものですか. メディカルフィットネス Q&A, 社会保険研究所, 東京, 120-121, 2014. 4.

渡部厚一: 4章 呼吸器系, はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ8 スポーツ医学【内科】, 化学同人, 京都, 43-54, 2014. 3.

渡部厚一：7章 腎・泌尿器系, はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ 8 スポーツ医学【内科】, 化学同人, 京都, 81-88, 2014. 3.

6. その他

渡部厚一：広がる運動・スポーツの可能性－高まる心身の健康づくりへの期待－医療現場と「運動・スポーツ」. Sports Japan vol. 11 2-3, 日本体育協会, 2014. 1. 2.

渡部厚一：治療におけるドーピング違反のヒヤリ・ハット. Medical ASAHI 2014 (6), 38-40, 朝日新聞社, 2014. 6. 1.

教育活動

渡部厚一：整形外科医のための帯同に必要な内科的知識. 第40回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014. 9.

社会貢献活動

日本オリンピック委員会 アンチ・ドーピング委員, 情報医・科学委員会医学サポート部員

日本水泳連盟 医事委員, アンチ・ドーピング委員, 日本水泳連盟 国際委員

茨城県体育協会 スポーツ医・科学委員会アンチ・ドーピング委員長

日本臨床スポーツ医学会 評議員

日本結核病学会 代議員

熱中症予防声かけプロジェクト 実行委員

助 教 岡 本 正 洋

研究業績

1. 学会発表

岡本正洋：低強度運動が海馬の可塑性を高める分子機構：海馬アンドロゲンの役割. 第6回分子骨格筋代謝研究会, 京都, 2014. 5.

イ ミンチョル, Randeep Rakwal, 柴藤淳子, 井上恒志郎, 岡本正洋, 征矢英昭：負荷付き自発運動は海馬の炎症因子の発現を抑制する：マイクロアレイ解析による検討. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

陸 彰洙, 岡本正洋, 松井 崇, イ ミンチョル, 征矢英昭：緑藻類由来アスタキサンチンによる海馬神経新生と空間学習能力の向上. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

濱崎元直, 岡本正洋, 島 孟留, 征矢英昭：持久性トレーニング適応時の血中テストステロン枯渇の影響－骨格筋の代謝適応に着目して－. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 9.

Soya H, Okamoto M, Ochi G, Yook J: Hair cortisol as a chronic stress marker for endurance athletes to avoid overtraining. 2014 KNSU International Conference, Seoul, South Korea, 2014. 11.

Yook J, Okamoto M, Matsui T, Lee MC, Soya H: Marine-plant-derived astaxanthin that enhances adult hippocampal neurogenesis and spatial memory in mice. The 44th Society of Neuroscience, Washington DC, USA, 2014. 11.

2. 学術論文

Inoue K, Hanaoka Y, Nishijima T, Okamoto M, Chang H, Saito T, Soya H: Long-term mild exercise training enhances hippocampus-dependent memory in rats. *Int J Sports Med*, in press, 2014.

Hoyo Y, Okamoto M, Kato A, Higo S, Sakai S, Soya H, Yamazaki Y, Kawato S: Neurosteroid synthesis in adult female rat hippocampus, including androgens and allopregnanolone. *J. Steroids and Hormon Sci*, in press, 2014.

4. 著書

岡本正洋, 征矢英昭: 海馬の神経新生. *ニュー運動生理学 (I)*. 真興交易医書出版部, 48-56, 2014.

岡本正洋: 脳と運動-動と体の不思議を探るプロ知識・プロ技術-. *健康づくり (8)*, 公益財団法人健康・体力づくり事業財団 436, 12-15, 2014.

助教 赤澤暢彦

研究業績

1. 学会発表

赤澤暢彦, 佐藤香穂, 羅 成圭, 棚橋嵩一郎, 熊谷 仁, 前田清司: 剣道選手における強化合宿中のクルクミン摂取が分泌型免疫グロブリン A と心理的コンディションに及ぼす影響. *体力医学会*, 長崎, 2014, 9.

小崎恵生, 膳法 (宮木) 亜沙子, 赤澤暢彦, 松原朋子, 菅原 順, 前田清司: 中高齢女性における下肢温熱が動脈ステイフネスに及ぼす影響. *体力医学会*, 長崎, 2014, 9.

羅 成圭, 崔 英珠, 赤澤暢彦, 大森 肇, 前田清司: タウリン摂取は伸張性運動後の動脈ステイフネスと酸化ストレスの増加を抑制する. *体力医学会*, 長崎, 2014, 9.

崔 英珠, 定宗 隆一郎, 中村優希, 赤澤暢彦, 羅 成圭, 熊谷 仁, 前田清司: ジュニアアスリートにおける睡眠が新しい運動技能の獲得に及ぼす影響. *体力医学会*, 長崎, 2014, 9.

小崎恵生, 赤澤暢彦, 前田清司: 一過性の有酸素性運動が中心血圧に及ぼす影響. *日本運動生理学会大会*, 岡山, 2014, 7.

Ra SG, Choi Y, Akazawa N, Ohmori H, Maeda S: Taurine supplementation attenuates increase in arterial stiffness following high intense eccentric exercise. 19th Annual Congress of the European College of Sports Science. Netherland, 2014, 7.

Akazawa N, Ra SG, Matsubara T, Choi Y, Tanahashi K, Zempo-Miyaki A, Kumagai H, Oikawa S, Sugawara J, Maeda S: Aerobic exercise training decreases aortic pulse pressure and augmentation pressure after acute aerobic exercise in middle-aged and older women. *Pulse of Asia 2014*, Greece, 2014, 6.

Kosaki K, Sugawara J, Akazawa N, Oikawa S, Tanahashi K, Kumagai H, Ajisaka R, Maeda S: Effects of acute warm footbath on central arterial blood pressure in young men. *Pulse of Asia 2014*, Greece, 2014, 6.

小崎恵生, 赤澤暢彦, 及川哲志, 棚橋嵩一郎, 熊谷 仁, 菅原 順, 鱒坂隆一, 前田清司: 若年男性における足湯が動脈ステイフネスに及ぼす影響: 大動脈ステイフネスと下肢動脈ステイフネスの検討. *臨床血圧脈波研究会*. 品川, 2012, 6.

Ra SG, Akazawa N, Choi Y, Matsubara T, Oikawa S, Tanahashi K, Kumagai H, Ohmori H, Maeda S: Taurine supplementation decreases delayed onset muscle soreness but not muscle damage induced by high intense eccentric exercise. *The 19th International Taurine Meeting*, Poland 2014, 6.

2. 学術論文

- Choi Y, Akazawa N, Miyaki A, Ra SG, Shiraki H, Ajisaka R, Maeda S: Acute effect of high-intensity eccentric exercise on vascular endothelial function in young men. *J Strength Cond Res.* (in press)
- Tanahashi K, Akazawa N, Miyaki A, Choi Y, Ra SG, Matsubara T, Kumagai H, Oikawa S, Miyauchi T, Maeda S: Plasma ADMA concentrations associate with aerobic fitness in postmenopausal women. *Life Sci.* 108(1), 30-33, 2014.
- Kumagai H, Miyaki A, Higashino R, Akazawa N, Choi Y, Ra SG, Eto M, Tanaka K, Ajisaka R, Maeda S: Lifestyle modification-induced increase in serum testosterone and SHBG decreases arterial stiffness in overweight and obese men. *Artery Res.* 8, 80-87, 2014.
- Tanahashi K, Akazawa N, Miyaki A, Youngju C, Ra SG, Matsubara T, Kumagai H, Oikawa S, Maeda S: Aerobic exercise training decreases plasma asymmetric dimethylarginine concentrations with increase in arterial compliance in postmenopausal women. *Am J Hypertens.* 27, 415-421, 2014.
- Matsubara T, Miyaki A, Akazawa N, Choi Y, Ra SG, Tanahashi K, Kumagai H, Oikawa S, Maeda S: Aerobic exercise training increases plasma Klotho levels and reduces arterial stiffness in postmenopausal women. *Am J Physiol Heart Circ Physiol.* 306, H348-H355, 2014.
- 羅 成圭, 崔 英珠, 赤澤暢彦, 膳法 (宮木) 亜沙子, 大森 肇, 前田清司: 若年男性における血漿タウリン濃度と血管内皮機能に関する横断研究. *健康支援* 16, 15-22, 2014

4. 著 書

- 赤澤暢彦, 前田清司「高血圧症」: メディカルフィットネス Q&A. メディカルフィットネス研究会, 98-103, 2014

6. その他

- 「若手のための健康科学研究助成」(明治安田厚生事業団)

助 教 片 岡 千 恵

研究業績

1. 学会発表

- 谷口志緒里, 野津有司, 片岡千恵, 工藤晶子, 岩田英樹, 久保元芳: ヘルスリテラシーの概念規定及び測定方法に関する検討. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.
- 久保元芳, 野津有司, 片岡千恵, 工藤晶子, 河原しおり, 中山直子, 佐藤 幸, 渡部 基, 岩田英樹: 青少年の危険行動の重篤な状況とレジリエンスとの関連. 第 23 回日本健康教育学会学術大会, 札幌, 2014. 7.
- 久保元芳, 野津有司, 片岡千恵, 工藤晶子, 谷口志緒里, 中山直子, 佐藤 幸, 渡部 基, 岩田英樹: 我が国の高校生における「電子たばこ」の使用と喫煙との関連 - 「日本青少年危険行動調査 2011」の結果より -. 第 61 回一般社団法人日本学校保健学会学術大会, 金沢, 2014. 11.

2. 学術論文

- 片岡千恵, 野津有司, 工藤晶子, 佐藤 幸, 久保元芳, 中山直子, 岩田英樹, 渡部 基: 我が国の高校生における危険行動と睡眠時間との関連. *日本公衆衛生雑誌*, 61, 535-544, 2014.

工藤晶子, 野津有司, 片岡千恵: 中学生のストレスマネジメントに関する Transtheoretical Model の構成概念間およびストレス反応との関連. 学校保健研究, 56, 3-10, 2014.

4. 著書

片岡千恵: 教育課程に基づく性に関する指導. 学校保健ハンドブック第6次改訂(教員養成系大学保健協議会編), ぎょうせい, 96-99, 2014.

片岡千恵: 調査票の作成. 学校保健ハンドブック第6次改訂(教員養成系大学保健協議会編), ぎょうせい, 281-284, 2014.

社会貢献活動

国立教育政策研究所小学校学習指導要領実施状況調査結果分析委員会(保健)委員(平成26年度)

助教 福田 崇

研究業績

1. 学会発表

泉 悟, 栃木悠里子, 福田 崇, 宮川俊平: 骨盤傾斜角度の変化におけるハムストリングスの筋機能の違いの検討. 第69回日本体力医学会, 長崎, 2014. 9.

鍛冶亮輔, 村上憲治, 森 利雄, 増成暁彦, 福田 崇, 宮川俊平: サッカーインサイドキック動作から見た Groin pain 発症要因の検討. 第3回日本アスレティックトレーニング学会, 愛知, 2014. 7.

福田 崇: カナダのトレーナー制度～トレーナー資格制度の現状と問題点～. 第5回スポーツメディスンフォーラム, 神奈川, 2014. 3.

栃木悠里子, 宮川俊平, 前田清司, 福田 崇: 月経の有無が骨格筋および腱の硬度に与える影響～デジタル超音波診断装置による検討～. 日本臨床スポーツ医学会, 東京, 2014. 11.

中山晴雄, 藤谷博人, 月村泰規, 立石智彦, 本杉直哉, 反町武史, 福田 崇, 麻生 敬, 岩渕 聡, 川原 貴: 近年の高校アメリカンフットボールにおける重症頭部外傷の実際. 日本臨床スポーツ医学会, 東京, 2014. 11.

宮川俊平, 向井直樹, 白木 仁, 竹村雅裕, 福田 崇: 筑波大学(茨城県)におけるスポーツ医学拠点の構築. 日本臨床スポーツ医学会, 東京, 2014. 11.

2. 学術論文

松元 剛, 春山圭佑, 福田 崇, 森慎太郎, 宮川俊平: 騎手のフィジカルトレーニングおよびコンディショニングに関する研究. 日本臨床スポーツ医学会誌, 22(1), 152-159, 2014.

6. その他

福田 崇: Trainer's Method No.25. 月刊 IRONMAN, 290, 128-129, 2014.

福田 崇: ソチ五輪 全力支援. 茨城新聞, 2014.

福田 崇: 世界で戦える肉体指導. 読売新聞, 2014.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

TSA トレーナーセミナー「ソチオリンピック スピードスケート帯同報告」(5月6日)

関東大学アメリカンフットボール協会安全対策クリニック「夏合宿・夏季練習におけるコンディショニング」(7月13日)

日本トレーニング指導者協会養成講習会「傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム作成」(8月23日)

茨城スポーツ医学セミナー「ソチオリンピック スピードスケート帯同報告」(8月23日)

茨城県スポーツ指導者研修会「アスリートに必要なコンディショニング」(11月16日)

社会貢献活動

日本スケート連盟医事委員 (2004年～)

JOC 強化スタッフ (医・科学スタッフ) (2004年～)

関東大学アメリカンフットボール協会医学委員 (2004年～)

2013-2014 世界オールラウンド選手権大会アジア地区予選会・アジア距離別選手権大会 (帯広) 帯同 (スピードスケート日本代表)

2014 ソチオリンピック スピードスケート日本代表トレーナー (ロシア) 帯同

2013-2014 ワールドカップ (オランダ) 帯同 (スピードスケート日本代表)

2014-2015 ワールドカップ (ドイツ・オランダ) 帯同 (スピードスケート日本代表)

特任助教 久保大輔

研究業績

1. 学会発表

久保大輔, 河内眞紀子, 持丸正明, 萩原直道, 海部陽介: 統計学的手法を用いた欠損のある原人頭骨の脳容量推定. 第68回日本人類学会大会, 浜松, 2014. 11.

Kubo D, Tanabe H, Kondo O, Amano H, Yogi A, Murayama S, Ishida H, Ogihara N: Estimating the cerebral and cerebellar volumes of Neanderthals and Middle and Upper Paleolithic *Homo sapiens*. RNMH2014: The Second International Conference on Replacement of Neanderthals by Modern Humans: Testing Evolutionary Models of Learning, Japan 2014. 11-12.

Kondo O, Kubo D, Suzuki H, Ogihara N: Reconstruction of Qafzeh 9 braincase and its endocast morphology. RNMH2014: The Second International Conference on Replacement of Neanderthals by Modern Humans: Testing Evolutionary Models of Learning, Japan 2014. 11-12.

Ogihara N, Amano H, Morita Y, Kondo O, Kubo D, Suzuki H, Michikawa T, Moriguchi M, Ishida H, Nakatsukasa M: Endocasts of Neanderthals and early modern humans: Virtual reconstruction and geometric morphometric analyses. RNMH2014: The Second International Conference on Replacement of Neanderthals by Modern Humans: Testing Evolutionary Models of Learning, Japan 2014. 11-12.

研究業績

1. 学会発表

- 鈴木耕太郎, 嶋崎達也, 古川拓生, 中川 昭, 田神一美: 大学ラグビー部における創傷感染の要因. 第69回日本体力医学学術集会, 長崎大学, 長崎, 2014. 9. 20.
- 山本小百合, 鈴木耕太郎, 田神一美, 桐生習作, 増地克之, 山口 香, 小俣幸嗣, 岡田弘隆: 柔道衣及び畳に付着した黄色ブドウ球菌の生残性. 第47回日本武道学会大会, 福山市立大学, 広島, 2014. 9. 11.
- Suzuki K, Arai N, Shimazaki T, Furukawa T, Nakagawa A, Tagami K: *Staphylococcus aureus* outbreak associated with nasal carriers and perspiration among rugby players. 4th NSCA International Conference. Murcia, Spain. 2014. 6. 25.
- Suzuki K, Tagami K: *Staphylococcus aureus* transmission associated with nasal carrier of sweaty skin surface in rugby football. 5th International Conference on Sport and Exercise, Pattaya, Thailand, 2014. 7. 6.
- Yamamoto S, Suzuki K, Tagami K, Komata K, Masuchi K, Kiryu S, Yamaguchi K, Okada H: Survival of *staphylococcus aureus* in tatami mats and judo-gi. 3rd World Scientific Congress of Combat Sport and Martial Arts, University of Rzeszow, Poland, 2014. 10. 15-17.

2. 学術論文

- Okada H, Suzuki K, Tsukamoto K, Itoh T: Applicability of Wireless Activity Sensor Network to Avian Influenza Monitoring System in Poultry Farms. *Journal of Sensor Technology*, 4, 18-23. 2014.
- Suzuki K., Tagami K. *Staphylococcus aureus* transmission associated with nasal carrier of sweaty skin surface in rugby football. *International Conference on Sport and Exercise Science*, 127-133. 2014.

3. その他論文

- Suzuki K, Shiba H, Arai N, Gochi K, Matsumoto T, Tagami K. Association between persistent *Staphylococcus aureus* nasal carriers with high frequency of skin abscesses among American football players. *Bull. Facul. Health & Sci., Univ. of Tsukuba*, 37, 173-178. 2014.

特許

- 塚本健司, 真瀬昌司, 鈴木耕太郎: 鳥インフルエンザウイルスのNA亜型判定用プライマーセット. 特許第5561708号, 日本国特許庁, 登録日平成26年6月20日(2014. 6. 20).

研究業績

1. 学会発表

- 田中健太, 金森章浩, 西野衆文, 原 友紀, 山元勇樹, 山崎正志, 宮川俊平: 成長期野球選手の肘関節周囲骨折に対して体外衝撃波治療が有効であった2例. 第40回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014. 9.

2. 学術論文

津賀裕喜, 山元勇樹, 加藤 基, 吉田成仁, 宮川俊平: 野球選手の肩関節外旋筋群における外乱刺激時の筋反応時間. 日本臨床スポーツ医学会誌 22 (2), 318-324, 2014.

コーチング学分野

研究業績

1. 学会発表

- 田代智紀, 會田 宏: ハンドボール指導者の熟達化に関する研究－立ち上げたチームを全国大会常連校に育てた若手指導者の語りを手がかりに－. 日本ハンドボール学会第2回大会, 東京, 2014. 2. (日本ハンドボール学会大会賞受賞)
- 會田 宏, 出村直嗣: 大学男子ハンドボール選手において優先的に養成すべき体力要因は投能力である. 日本ハンドボール学会第2回大会, 東京, 2014. 2.
- Nakahara M, Aida H: Characteristics of the center back player's attacking-play in Handball. The 21st International Congress on Sports Sciences for Students. Budapest, Hungary, 2014. 4.
- 會田 宏: 実践に活用できる戦術研究の方向性. 日本体育学会第65回大会 専門領域(体育方法)企画シンポジウム「戦術研究を実践に活かすには」, 岩手, 2014. 8.
- 永野翔大, Nemes Roland, 藤本 元, 會田 宏: ハンガリーにおけるハンドボールの一貫指導プログラム: 13歳から16歳までのフィジカル, コーディネーション, 人格形成指導プログラムに着目して. 日本体育学会第65回大会, 岩手, 2014. 8.
- 田代智紀, 會田 宏: ハンドボール指導者の指導観の変化に関する事例研究: 指導の転機を迎えた監督の指導を受けた選手の語りを手がかりに. 日本体育学会第65回大会, 岩手, 2014. 8.

2. 学術論文

- Yamada E, Aida H, Fujimoto H, Nakagawa A: Comparison of Game Performance among European National Women's Handball Teams. *International Journal of Sport and Health Science*, 12, 1-10, 2014.
- 金堀哲也, 山田幸雄, 會田 宏, 島田一志, 川村 卓: 野球の打撃における指導者の主観的評価に対するキネマティクスの研究: 下肢および体幹部に着目して. *体育学研究*, 59(1), 133-147, 2014.
- 船木浩斗, 會田 宏: ハンドボール競技のセットディフェンスにおける1対1のプレー方法に関する研究. *体育学研究*, 59(1), 329-343, 2014.
- 會田 宏: コーチの学びに役立つ実践報告と事例研究のまとめ方. *コーチング学研究*, 27(2), 163-167, 2014.
- 藤本 元, 山田永子, 會田 宏: ハンドボール競技者における高校時代の練習時間と競技力との関係に対する意識: 男女差に着目して. *いばらき健康・スポーツ科学*, 31, 17-21, 2014.
- 船木浩斗, 會田 宏: ハンドボールにおける1対1の突破阻止に関する動きのコツ: 卓越した防御プレーヤーの語りを手がかりに. *ハンドボールリサーチ*, 3, 1-8, 2014.
- 田代智紀, 會田 宏: ハンドボール指導者の熟達化に関する事例研究: 新たなチームを立ち上げ全国大会常連校に育てた若手指導者の語りを手がかりに. *ハンドボールリサーチ*, 3, 9-16, 2014.

5. 受 賞

日本ハンドボール学会賞

- 和田 拓, 藤本 元, 山田永子, 會田 宏: ハンドボール日本代表男子チームにおける攻撃の現状と課題: 同一監督が指揮した2008年から2012年までの公式試合の分析から. *ハンドボールリサーチ*, 2, 9-20, 2013.

日本ハンドボール学会大会賞

- 田代智紀, 會田 宏: ハンドボール指導者の熟達化に関する研究－立ち上げたチームを全国大会常連

校に育てた若手指導者の語りを手がかりに－. 日本ハンドボール学会第2回大会, 東京, 2014. 2.

教育活動

2. 一般向け著書等

- 會田 宏：チームにマッチしたDFを見つけよう part 1. スポーツイベント ハンドボール 2014年2月号 ((株)スポーツイベント 編), 65-85, 2014.
- 會田 宏：チームにマッチしたDFを見つけよう part 2. スポーツイベント ハンドボール 2014年3月号 ((株)スポーツイベント 編), 71-93, 2014.
- 會田 宏：コーチングの現場から 第6回 コーチングにおける目標と目的. JATI EXPRESS, 39, 12-13, 2014.
- 會田 宏：コーチングの現場から 第7回 ゲームプランの作成と実践. JATI EXPRESS, 40, 16-17, 2014.
- 會田 宏：コーチングの現場から 第8回 指導の転機. JATI EXPRESS, 41, 20-21, 2014.
- 會田 宏：コーチングの現場から 第9回 高校生の練習時間. JATI EXPRESS, 42, 26-27, 2014.
- 會田 宏：コーチングの現場から 第10回 攻撃戦術のマニュアル化と自動化. JATI EXPRESS, 43, 18-19, 2014.
- 會田 宏：コーチングの現場から 第11回 1対1の守り方. JATI EXPRESS, 44, 20-21, 2014.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

- 日本ハンドボール学会平成26年度研究セミナー「実践研究におけるインタビュー調査の可能性と手続き」・講師 (東京, 7月5日)
- 公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会共通科目Ⅱ・Ⅲ集合講習会・講師 (大阪, 8月9日; 広島, 10月29日)
- 茨城県教育委員会, 茨城県中学校体育連盟, 茨城県高等学校体育連盟平成26年度運動部活動指導者研修会「実技指導法『ハンドボール』部活動の運営と基本的な指導のポイント」・講師 (茨城, 10月9日)
- 千葉県総合スポーツセンター平成26年度第3回健康づくり県民講座「わかりやすいスポーツ科学に基づく健康づくり運動入門1」・講師 (千葉, 11月16日)

競技活動

- 関東学生ハンドボール春季リーグ戦 第2位 (男子ハンドボール部部長)
- 関東学生ハンドボール春季リーグ戦 優勝 (女子ハンドボール部部長)
- 関東学生ハンドボール秋季リーグ戦 第3位 (男子ハンドボール部部長)
- 関東学生ハンドボール秋季リーグ戦 第3位 (女子ハンドボール部部長)
- 全日本学生ハンドボール選手権大会 第3位 (女子ハンドボール部部長)

社会貢献活動

- つくば市ハンドボール協会 理事 (2010年4月～)
- 日本スポーツ運動学会 常任理事 (1998年4月～)
- 日本ハンドボール学会 理事長 (2012年11月～)
- 日本コーチング学会 理事 (2013年4月～)
- 日本体育学会「体育学研究」編集委員 (2013年4月～)

教授 浅井 武

研究業績

2. 学術論文

- 坂本慶子, 清水 悠, 浅井 武: 女子サッカー選手のインステップキックにおけるスイング動作特性, 体育学研究, 59 (2), 771-788, 2014.
- 平嶋裕輔, 中山雅雄, 内藤清志, 浅井 武: サッカーにおけるゴールキーパーのシュートストップ難易度の定量化. 体育学研究, 59 (2), 805-816, 2014.
- Asai, T. & Kamemoto, K.: Flow Visualisation of a Soccer Ball in Flight, Proceedings of the 6th International Conference on Vortex Flows and Vortex Models, ICVFM, (in CD). 2014.
- Matsukura, K., Asai, T. & Sakamoto, K.: Characteristics of movement and force exerted by soccer goalkeepers during diving motion, Procedia Engineering, 72, 44-49, 2014.
- Sakamoto, K., Sasaki R., Hong, S., Matsukura, K. & Asai, T. (2014) Comparison of kicking speed between female and male soccer players, Procedia Engineering, 72, 50-55.
- Koizumi, A., Hong, S., Sakamoto, K., Sasaki, R. & Asai, T.: A study of impact force on modern soccer balls, *Procedia Engineering*, 72, 423-428, 2014.
- Sasaki, R., Hong, S., Sakamoto, K., Nakayama, M. & Asai, T.: The friction force between the soccer ball and the goalkeeper glove material, Procedia Engineering, 72, 654-669, 2014.
- Hong, S., Sakamoto, K., Washida, Y., Nakayama, M. & Asai, T.: The influence of panel orientation on the aerodynamics of soccer balls, Procedia Engineering, 72, 786-791, 2014.
- Hong, S., Seo, K., & Asai, T.: Flow visualization around panel orientations of football using a PIV, Proceedings of the International Symposium on Flow Visualization 16, 1153 (1-8), 2014.
- Hong, S. and Asai, T. (2014) Effect of panel shape of soccer ball on its flight characteristics, Scientific Reports, 4, 5068, 1-7.
- Goff, J. E., Asai, T., Hong, S.: A Comparison of Jabulani and Brazuca Non-Spin Aerodynamics, Proceedings of the Institution of Mechanical Engineers, Part P: J Sports Engineering and Technology, IMechE, 23, 1-7, 2014.

4. 著 書

- Asai, T.: Chapter 14 Use of the Finite Element Method and Computational Fluid Dynamics in Motion Analysis of Complex Shapes, With Examples from Sports Using Technology Tools to Innovate Assessment, Reporting, and Teaching Practices in Engineering Education (Alam, F. ed), Engineering Science Reference, IGI Global, 178-189, 2013.

教授 井村 仁

研究業績

1. 学会発表

- 坂谷 充, 井村 仁: バックカントリースキーツアーの安全対策と今後の課題, 日本野外教育学会第17回大会, 東京, 2014. 6.

2. 学術論文

坂谷 充, 井村 仁: バックカントリースキーツアーの安全対策の現状について—ツアー提供者の視点からの検討—, スキー研究, 11-1, 103-111, 2014.

3. その他論文

藤田花子, 井村 仁, 渡邊 仁: 国際ワークキャンプ参加報告と参加動機に関する調査, 第18回日本キャンプ会議抄録集, 2014.

4. 著書

井村 仁: 書評 冒険教育の理論と実際, 体育の科学, 64-7, 515, 2014.

社会貢献活動

日本野外教育学会副理事長 (平成24年～)

日本スキー学会監事 (平成24年～)

日本登山医学研究会会員 (平成4年)

日本山岳文化学会会員 (平成20年～)

公共機関, 企業等からの委託業務

独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金審査委員会委員

教授 内山 治 樹

研究業績

1. 学会発表

内山治樹: チームにおける「感性」究明のための予備的考察: 戦い方の是非にかかわる前提要件の検討. 日本体育・スポーツ哲学会, つくば, 2014. 8.

池田英治, 吉田健司, 内山治樹, 岩井浩一: バスケットボール版“Collective Efficacy”尺度と凝集性および楽観性尺度との関係. 日本体育学会, 盛岡, 2014, 8.

Ikeda, E., Iwai, K., Yoshida, K. and Uchiyama, H.: Longitudinal validation on factors affecting the collective efficacy scale for basketball. 1st Asia-Pacific Conference on Coaching Science, Sapporo (Hokkaido University), 2014. 7. (awarded 'Young Coaching Scientist's Award')

池田英治, 岩井浩一, 吉田健司, 内山治樹: バスケットボール版“Collective Efficacy”尺度の変容に影響を及ぼす要因の縦断的検証. 日本コーチング学会, つくば, 2014. 4.

大西茉莉奈, 内山治樹: バスケットボールにおける一貫指導システムの検討: その予備的考察. 日本コーチング学会, つくば, 2014. 4.

佐々木三美, 内山治樹: 中高生女子チームにおける有効なバスケットボールの練習法に関する研究—アウトナンバー・プレイの検証を通して—. 日本コーチング学会, つくば, 2014. 4.

韓 超, 内山治樹: バスケットボール競技における長身の有利性についての再検討. 日本コーチング学会, つくば, 2014. 4.

北村麻衣, 内山治樹: バスケットボール競技におけるパフォーマンス向上に影響を与えるコーディネーショントレーニングプログラムの構築に向けた予備的考察—大学女子選手を対象として—. 日本

コーチング学会, つくば, 2014. 4.

2. 学術論文

内山治樹: チームスポーツにおける競技者のプレイを支える規範の探究: マイケル・ジョーダンの「威光」に着目して. 体育学研究, 59 (2), 591-608, 2014.

Ikeda, E., Uchiyama, H., Yoshida, K. and Iwai, K.: Development and validation of the collective efficacy scale for basketball. Japan Society of Physical Education, Health and Sport Sciences, 12 (2), 61-73, 2014.

3. その他論文

内山治樹: 体育哲学考. 日本体育学会体育哲学専門領域会報, 18 (2), 2-3, 2014.

社会貢献活動

日本コーチング学会理事 (平成 25 年～)

教授 大高敏弘

研究業績

2. 学術論文

村瀬陽介, 長岡裕里子, 橋富達也, 酒井 紳, 下門洋文, 安藤邦彬, 向後佑香, 武田 剛, 鍋山隆弘, 白木 仁, 大高敏弘, 高木英樹: 集中実技「マリンスポーツ」における学習目標の達成度と授業満足度に与える要因の検討～海への入水時間と体調について～. 大学体育研究, 36, 29-37, 2014.

競技活動

指導業績 (監督として)

全日本大学バスケットボール選手権 7 位

社会貢献活動

茨城県バスケットボール協会副理事長 (平成 25 年～)

日本バスケットボール学会会長 (平成 26 年～)

教授 尾縣 貢

研究業績

1. 学会発表

山元康平, 内藤 景, 関慶太郎, 木越清信, 大山下圭悟, 尾縣 貢: 陸上競技男子 400m 走におけるパフォーマンス向上に伴うレースパターンの変化. 日本コーチング学会第 25 回大会, 茨城, 2014. 3.

池袋晴彦, 尾縣 貢: 卓球競技のパフォーマンスに影響を与える質的要因と量的要因の関係. 日本コーチング学会第 25 回大会. 茨城, 2014. 3.

Takahashi K, Ogata M: The effects of changing hurdle height and intervals on leg kinematics during double-leg hurdle jump. 1st Asia-Pacific Conference on Coaching, Hokkaido, 2014, July.

- 清野 隼, 尾縣 貢: トップスポーツ現場における栄養サポートの必要性. 第1回日本スポーツ栄養学会, 東京, 2014. 7.
- 清野 隼, 尾縣 貢: トップスポーツ現場が求めるスポーツ栄養士の資質・能力. NSCA ジャパンカンファレンス, 東京, 2014. 12.
- 山元康平, 内藤 景, 関慶太郎, 上田美鈴, 木越清信, 尾縣 貢: 陸上競技女子 400m 走競技者のパフォーマンス変化に伴うレースパターンの変化に関する事例的研究. 日本スプリント学会第 25 回大会, 岡山, 2014. 11.
- 山元康平, 内藤 景, 関慶太郎, 上田美鈴, 木越清信, 尾縣 貢: 男女 400m 走競技者におけるレースパターンの個人内変化およびそのパフォーマンスとの関係. 日本陸上競技学会第 13 回大会, 北海道, 2014. 11.
- 廣瀬健一, 大山卞圭悟, 尾縣 貢: ハンマー投におけるレジスティッドトレーニングの有効性の検討. 日本体育学会第 65 回大会, 北海道, 2014. 11.
- 廣瀬健一, 大山卞圭悟, 尾縣 貢: ハンマー投における高重量ハンマーによる投てきの負荷特性. 日本陸上競技学会第 13 回大会, 北海道, 2014. 11.
- 高橋和将, 尾縣 貢: 運動における踏切時の姿勢と下肢関節 Kinetics との関係. 日本陸上競技学会第 13 回大会, 北海道, 2014. 11.
- 尾縣 貢: ジョイントシンポジウム 東京五輪に向けて日本陸上競技学会は何ができるのか?. 日本陸上競技学会第 13 回大会, 北海道, 2014. 11.

2. 学術論文

- 山元康平, 宮代賢治, 内藤 景, 木越清信, 谷川 聡, 大山卞圭悟, 宮下 憲, 尾縣 貢: 陸上競技男子 400m 走におけるレースパターンとパフォーマンスとの関係. 体育学研究, 59, 159-173, 2014.
- 渡邊將司, 森丘保典, 伊藤静夫, 三宅 聡, 森 泰夫, 繁田 進, 尾縣 貢: オリンピック・世界選手権代表選手における青少年期の競技レベル-日本代表選手に対する軌跡調査-. 陸上競技紀要, 9, 1-6, 2014.
- 比留間浩介, 森 健一, 尾縣 貢: 体育授業で利用可能なバッティング動作の観察ポイントに関する研究-高等専門学校生におけるティーバッティング動作を対象に-. スポーツ教育研究, 34, 23-32, 2014.
- 尾縣 貢: 2020 東京オリンピックへの道. 陸上競技学会誌, 12, 71-76, 2014.
- 尾縣 貢: トレーニングの基礎・原理を考える. 陸上競技学会誌, 12, 77-88, 2014.
- 中野美沙, 大山卞圭悟, 尾縣 貢: 女子やり投げ競技者における下肢のトレーニングが跳躍運動の遂行能力に与える影響. いばらき健康・スポーツ科学, 31, 55-58, 2014.

3. その他論文

- 尾縣 貢: 新年を迎えて. 陸連時報, No.3, 182, 2014.
- 尾縣 貢: アジア競技大会に臨む. 陸連時報, No.10, 214, 2014.
- 尾縣 貢: 仁川アジア競技大会を終えて. 陸連時報, No.12, 166, 2014.

教育活動

2. 一般向け著書等

- 尾縣 貢: 教育の扉 アスリート・ファーストの心で. 初等教育資料, 12, 40-44, 2014.

尾縣 貢：ふるさとを語る. ふるさとひょうご 120号, 2014.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

「ジュニアトップ選手・指導者育成研修会講師(ふるさと岐阜トップコーチ育成事業)」(岐阜市, 2月16日)

「いわき市中学校研修 中学生年代の部活動指導の在り方について～生涯スポーツの基礎を養うために～」(いわき市, 2月17日)

「第53回全国学校体育大会研究会岐阜大会研究授業アドバイザー」(岐阜市, 11月7日)

競技活動

筑波大学陸上競技部部長(平成23年～)

アジア大会仁川大会陸上競技日本選手団団長(平成26年)

社会貢献活動

Association of International Marathons and Distance Races, Board Member

公益財団法人日本陸上競技連盟専務理事(平成23年～)

公益財団法人日本オリンピック委員会理事(平成25年～)

公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団理事(平成23年～)

一般法人東京マラソン財団理事(平成23年～)

公益財団法人日本サッカー協会裁定委員会委員(平成26年～)

公益財団法人日本オリンピック委員会アンチドーピング委員会委員長(平成25年～)

公益財団法人日本体育協会指導者育成委員会委員(平成23年～)

公益財団法人日本体育協会アスレティックトレーナー部会委員(平成23年～)

超党派スポーツ議連今後のスポーツ政策のあり方検討とスポーツ庁創設に向けたプロジェクト有識者会議委員(平成25～26年)

文部科学省コーチング推進コンソーシアム委員(平成26年)

独立行政法人日本スポーツ振興センターコーチング・イノベーション推進事業プロジェクト会議委員(平成26年)

独立行政法人日本スポーツ振興センターハイパフォーマンス連携推進会議委員(平成25年～)

公益財団法人日本体育協会公認体力テスト員及び体力テストの普及・活用の今後の方向性に関する検討会委員(平成26年)

日本陸上競技学会副会長(平成22年～)

日本スポーツ運動学会理事(平成15年～)

日本コーチング学会理事(平成25年～)

教授 木内敦詞

研究業績

1. 学会発表

西脇雅人, 木内敦詞, 中村友浩: 過去10年間にわたる歩数の低下とその理由に関する検討. 体力医学会第28回近畿地方会, 兵庫, 2014. 1.

西脇雅人, 木内敦詞, 中村友浩: 大学体育授業時間内の歩数を効果的に増大させる方法の検討－無作為

割り付け介入試験－第2回大学体育研究フォーラム，東京，2014. 2.

Kiuchi A, Nishiwaki M, Nakamura T, Shimamoto K, Hashimoto K: Documented self-evaluations for sport-related experiences in P.E. class and its effect on life skills in college students. The 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress. Tokyo, 2014. 8.

2. 学術論文

西脇雅人，木内敦詞，中村友浩：過去10年間にわたる歩数の低下とその理由に関する検討－男子大学生を対象とした連続横断研究－. 体力科学, 63 (1), 231-242, 2014.

西脇雅人，木内敦詞，中村友浩：ワークブックを用いた大学体育授業はFDアンケートのスコアをより効果的に高め得る. 大学体育学, 11, 84-90, 2014.

西脇雅人，木内敦詞，中村友浩：大学体育授業時間内における身体活動量を効果的に増大させる方法の検討. 大学体育学, 11, 35-43, 2014.

小林勝法，木内敦詞：FD診断シート（個人版）による大学教養体育教員の実態調査. 文教大学国際学部紀要, 25 (1), 1-10, 2014.

西脇雅人，木内敦詞，中村友浩：インターネット依存と歩数の関係－男子大学1年生を対象とした横断研究－. 体力科学, 63 (5), 445-453, 2014.

Nishiwaki M, Kurobe K, Kiuchi A; Nakamura T, Matsumoto N: Sex Differences in Flexibility-Arterial Stiffness Relationship and Its Application for Diagnosis of Arterial Stiffening: A Cross-Sectional Observational Study. PLoS ONE, 9 (11), e113646, 2014.

3. その他論文

小林勝法，北徹朗，木内敦詞：英語で行う大学体育の授業に関する実態調査報告. 大学体育, 41 (2), 72-73, 2014.

4. 著書

小林勝法，木内敦詞：大学教養体育FDプログラムIII「大学教養体育の戦略的マネジメント」. E-Learning教材 <http://pefd.edusalon.jp/course/view.php?id=7>, 2014. 4.

小林勝法，木内敦詞：大学教養体育FDプログラムII「構造図を用いた授業デザイン」. E-Learning教材 <http://pefd.edusalon.jp/course/view.php?id=7>, 2014. 7.

教育活動

3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

木内敦詞：教養体育の現状. 体育・スポーツ系の大学院生と修了者のための大学教員就職セミナー in Tokyo (1月25日)

木内敦詞：大学生の心身の健康と社会性を育む大学体育授業－OIT styleの大学教養体育論－. 平成25年度名桜大学FD研修会 (1月29日)

木内敦詞：大学体育の論と証拠と満足度. 慶應義塾大学体育研究所・全国大学体育連合関東支部共催シンポジウム (大学生をどう育てるか：教養体育からの発信) (11月29日)

社会貢献活動

日本体力医学会評議員 (1999年～)

大学体育学編集委員 (2011年～)

全国大学体育連合 総務部委員，大学体育関連情報調査チーム研究員（2011年～）
第2回大学体育研究フォーラム実行委員

教授 香田郡秀

研究業績

1. 学会発表

木村悠生，香田郡秀，鍋山隆弘，有田祐二：剣道選手の標準的3次元動作モデルを用いた打突動作に関する一考察 - 実践的な正面打突動作に着目して - . 日本武道学会第47回大会，福山，2014.9.

2. 学術論文

島居奈緒美，今井七重，熊谷佳代，上田寛子，香田郡秀，福富真智子，福富 悌，今井 一：中学校剣道の授業・部活動における呼吸器感染予防に関する検討. 岐阜大学教育学部研究報告 38, 103-112, 2014.

教育活動

2. 一般向け著書等

香田郡秀：身体操作シリーズ第一弾「膝」膝で攻め膝で打つ - 膝によって導かれる上虚下実の構え - 充実した状態で一本を打つ. 剣道時代，2014.

香田郡秀：剣道昇段審査対策プログラム. 株式会社トレンドケア. 全5巻. 2014.

3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

筑波大学公開講座 スポーツ教室「剣道」（春季・秋季，延べ16日間）

国際剣道連盟剣道講習会講師（北京）（6月19日～6月22日）

中国剣道連盟 剣道国際セミナー講師（11月20日～11月24日）

ギリシア剣道連盟 剣道国際セミナー講師（9月25日～10月1日）

世界剣道選手権男子強化合宿講師（1月3月5月7月9月11月延べ24日）

世界剣道選手権女子強化合宿講師（2月4月6月8月10月12月延べ24日）

全日本剣道連盟審判講習会講師（延べ6日）

全日本社会体育指導員講習会講師（6月13日～6月15日）

長崎国体アドバイザーコーチ（延べ20日）

高知国体アドバイザーコーチ（延べ6日）

競技活動

第62回全日本東西対抗剣道大会 優秀試合者賞

第12回全日本選抜剣道八段選手権大会 出場

第14回寛仁親王杯剣道八段選抜大会 出場

指導業績（筑波大学剣道部・部長）

第62回全日本剣道選手権大会，優勝・竹ノ内佑也（3年・福岡県代表）. 日本武道館，2014.11.3.

第62回全日本学生剣道優勝大会，第3位. BODYMAKER コロシウム（大阪府立体育会館），2014.11.16.

第 33 回全日本女子学生剣道優勝大会, 準優勝. 春日井市総合体育館, 2014. 11. 9.
第 63 回関東学生剣道優勝大会, 優勝. 日本武道館, 2014. 9. 14.
第 60 回関東学生剣道選手権大会, 優勝・林田匡平 (3 年). 日本武道館, 2014. 5. 11.
第 40 回関東女子学生剣道優勝大会, 準優勝. 東京武道館, 2014. 9. 20.
長崎がんばらんば国体剣道競技 4 種目完全優勝 五島市体育館, 2014. 10. 19-21.

社会貢献活動

日本オリンピック委員会強化スタッフ (平成 22 年～)
全日本剣道連盟強化委員会委員 (平成 25 ～)
全日本剣道連盟試合・審判委員会委員 (平成 22 年～)
全日本学校剣道連盟常務理事 (平成 19 年～)
全日本学生剣道連盟理事 (平成 24 ～)
全日本学生剣道連盟審判委員会委員 (平成 24 年～)
関東学生剣道連盟副幹事長 (平成 24 ～)
関東学生剣道連盟審判委員会委員長 (平成 24 年～)
茨城県剣道連盟常任理事 (平成 18 年～)

教授 小 俣 幸 嗣

研究業績

1. 学会発表

山本小百合, 鈴木耕太郎, 田神一美, 桐生習作, 増地克之, 山口 香, 小俣幸嗣, 岡田弘隆: 柔道衣及び畳に付着した黄色ブドウ球菌の生残性. 第 47 回日本武道学会大会, 福山市立大学, 広島, 2014. 9. 11.

Yamamoto S, Suzuki K, Tagami K, Komata K, Masuchi K, Kiryu S, Yamaguchi K, Okada H: Survival of staphylococcus aureus in tatami mats and judo-gi. 3rd World Scientific Congress of Combat Sport and Martial Arts, University of Rzeszow, Poland, 2014. 10. 15-17.

4. 著 書

小俣幸嗣: 体育・スポーツ事故責任安全対策質疑応答集. ぎょうせい, 1659・39, 77-78, 2014.

教育活動

公益財団法人全日本柔道連盟形審査員試験 審査員 (東京, 2 月 16 日)
オランダ柔道連盟形講習会 講師 (オランダ 3 月 19-26 日)
公益財団法人全日本柔道連盟形審査員試験 審査員 (大阪市, 6 月 8 日)
公益財団法人講道館夏期講習会 1 部 講師 (東京, 7 月 18 日)
ドイツ柔道連盟形講習会 講師 (ドイツ 8 月 2-12 日)
公益財団法人全日本柔道連盟形審査員試験 審査員 (東京, 11 月 16 日)

競技活動

世界柔道形選手権大会運営 スペイン (国際柔道連盟形委員 9 月 18-23 日)

アジア柔道形選手権大会運営 タイ（アジア柔道連盟形委員長 11月3日）

社会貢献活動

公益財団法人全日本柔道連盟形委員長（2014年）

公益財団法人全日本柔道連盟参与（2014年～）

公益財団法人講道館評議員（2007年～）

一般社団法人全日本学生柔道連盟顧問（2013年～）

関東学生柔道連盟会長（2012年～）

教授 坂本昭裕

研究業績

1. 学会発表

坂本昭裕, 向後佑香, 渡邊 仁, 吉松 梓, 杉岡品子: 野外教育における心理臨床的アプローチ－事例に学ぶⅤ－. 日本野外教育学会第17回大会, 東京, 2014. 6.

黒田拓史, 坂本昭裕: 統合型キャンプが不登校児童生徒の自己イメージに与える影響－受容感との関連からの検討－. 日本野外教育学会第17回大会, 東京, 2014. 6.

向後佑香, 坂本昭裕: キャンプにおける自己概念の変容に関するメタ分析. 日本野外教育学会第17回大会, 東京, 2014. 6.

大友あかね, 坂本昭裕, 澤江幸則: 発達障害児におけるキャンプが及ぼす効果について－自尊感情に着目して－. 日本野外教育学会第17回大会, 東京, 2014. 6.

Akihiro Sakamoto, Yuka Kogo: Characteristics of the Landscape Montage Technique used by adolescents with developmental disorders who took part in outdoor experiential therapy. 42rd Annual International AEE Conference, USA, 2014. 10.

4. 著書

坂本昭裕: 不適應の子どもの身体－＜私＞の身体を生きることのむずかしさ－. 身体性コンピテンスと未来の子どもの育ち, 明石書店, 160-183, 2014.

6. その他

「平成25年度プログラム開発事業課題を抱える青少年を対象とした体験活動プログラムの展開」中部北陸ブロック次長プロジェクト, 独立行政法人国立青少年教育振興機構.

教育活動

2. 一般向け著書等

坂本昭裕: プロジェクトのゆくえに期待する. 課題を抱える青少年を対象とした体験活動プログラムの展開, 4, 2014.

坂本昭裕: ‘YES, I CAN’ という体験の学び舎. 平成25年度プログラム開発事業報告書 YES I CAN IN 信濃川2013－この夏で会える輝く自分－, 1-2, 2014.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

<実践・ワークショップ>

株式会社アスリートクラブ, 「ロアッソ熊本グループワーク研修」講師, (1月31日)

学校法人酪農学園大学とわの森三愛高等学校, 「軟式庭球部グループワーク研修」講師, (3月22日)

北海道立函館工業高校, 「サッカー部グループワーク」講師, (3月26日)

日本サッカー協会, 「JFA アカデミー福島グループワーク」講師, (4月12日)

クーバー・コーチング・ジャパン, 「ASE研修」講師, (4月20日)

日本オリンピック委員会, 「ナショナルコーチアカデミー野外研修」講師, (6月11日)

筑波大学人間総合科学研究科, 「学生の集い」講師, (7月16日)

NECラグビーフットボール部, 「NECグリーンロケッツチームビルド」講師, (7月18日)

独立行政法人青少年教育振興機構: 国立妙高青少年自然の家, 「不登校児童生徒及び一般の児童生徒対象の長期キャンプ YES, I CAN! IN 信濃川 2014」講師, (7月31日~8月12日)

学校法人酪農学園とわの森三愛高等学校, スポーツ科「グループワーク研修」講師, (10月9日)

<講義・講演等>

独立行政法人国立青少年教育振興機構, 中部北陸ブロック次長プロジェクト「課題を抱える青少年の評価-みたてと効果測定-」講師, (5月8日)

つくば市谷田部幼稚園家庭教育学級, 「スクールカウンセリングの現場から」講師, (6月4日)

独立行政法人青少年教育振興機構: 国立妙高青少年自然の家, 自然体験活動指導者養成研修試行事業-新たなナショナルスタンダードによる指導者養成カリキュラムを試行実施-「参加者理解」講師, (11月6日・7日)

社会貢献活動

日本野外教育学会理事(事務局)(2003~)

日本スキー学会理事(1993~)

日本臨床心理身体運動学会理事(2006~)

茨城県臨床心理士会理事(事務局)(2010~)

茨城県教育委員会スクールカウンセラー(2001~)

独立行政法人青少年教育振興機構: 国立妙高青少年自然の家「新しい公共」運営協議会委員(2013~)

日本キャンプ協会「グリーンキャンプ実行委員会」委員(2013~)

日本スポーツ振興センター「スポーツ指導における暴力行為等に関する第三者相談・調査委員会」委員(2013~)

独立行政法人青少年教育振興機構: 国立信州高遠青少年自然の家「信州高遠レスキューキャンプ」企画委員(2014~)

独立行政法人青少年教育振興機構: 国立阿蘇青少年交流の家「ふるさと体験活動教室」事業評価委員(2014~)

教授 佐野 淳

研究業績

1. 学会発表

中瀬雄三, 佐野 淳: バスケットボールにおける状況の場面を読み解く身体知に関する発生運動学的考

察. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

2. 学術論文

佐野 淳：発生運動学の方法論の反実証主義的性格, 筑波大学体育系紀要 37, 41-52, 2014.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

佐野 淳：シンポジウム「始原身体知」を考える (コーディネーター), 日本スポーツ運動学会大会 27 回大会, 高知 (2014 年 3 月 27 日)

競技活動

2014 東日本学生体操競技選手権大会 (部長兼女子監督として), 男子団体 4 位, 種目別ゆか優勝; 女子団体 4 位, 種目別平均台優勝

2014 全日本学生体操競技選手権大会 (部長兼女子監督として), 男子団体 5 位, 男子種目別ゆか 2 位, 女子団体 5 位, 女子個人総合 3 位, 種目別平均台 2 位

2014 全日本体操競技選手権大会 (部長として), 男子団体決勝 8 位

2014 関東甲信越大学体育大会 (体操競技) (部長兼女子監督として), 男子団体優勝, 男子個人総合優勝, 女子団体 2 位, 女子個人総合優勝

2014 関東学生新人&交流大会 (体操競技) (部長兼女子監督として), 男子新人戦-団体 7 位, 種目別鞍馬 4 位; 女子交流戦-種目別段違い平行棒, ゆか優勝

社会貢献活動

日本スポーツ運動学会常任理事兼編集委員会委員長 (平成 15 年～)

教授 関子浩二

研究業績

1. 学会発表

北崎悦子, 荻山 靖, 関子浩二：競技力と人間力から評価した高卒と大卒テニス競技者の特性. 第 26 回テニス学会, 東京, 2014. 12.

岩竹 淳, 関子浩二：国民体育大会における陸上競技天皇杯入賞モデルを用いた強化育成計画. 第 13 回日本陸上競技学会, 北海道, 2014. 11.

森実由樹, 越野忠則, 石井兼輔, 関子浩二：柔道選手のための専門的な間欠型持久力テストと競技レベルの関係. 第 27 回日本トレーニング科学学会大会, 東京, 2014. 11.

荻山 靖, 関子浩二：スプリント走に対するリバウンドジャンプを用いたプライオメトリクスの有効性：支持脚力発揮特性に着目して. 第 27 回日本トレーニング科学学会大会, 東京, 2014. 11.

林 陵平, 吉田拓矢, 荻山 靖, 関子浩二：クリーンエクササイズにおけるキャッチ動作をトレーニング指導することの重要性～地面反力と下肢 3 関節のキネティクスをエビデンスにして～. 第 27 回日本トレーニング科学学会大会, 東京, 2014. 11.

荻山 靖, 関子浩二：立位姿勢からのバウンディングにおける踏切脚の力発揮特性：跳躍歩数の相違に着目して. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 09.

- 吉田拓矢, 丸山敦夫, 大野果穂, 林 陵平, 荻山 靖, 関子浩二: ドロップジャンプにおける下肢主働筋と拮抗筋の脳皮質運動野内の興奮性に関する相違. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 09.
- 片岡悠妃, 中西康己, 藤林献明, 関子浩二: 大学女子バレーボールチームのコーチとしてのトレーニング実践過程とその成果に関するフィールドワーク研究. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 08.
- 坂口将太, 藤林献明, 吉田拓矢, 林 陵平, 関子浩二: 4 歳から 5 歳に至る幼児のリバウンドジャンプ能力と疾走能力に関する縦断的発達過程. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 08.
- 荻山 靖, 関子浩二: Stiffness 特性から見たバウンディングとリバウンドジャンプの階層構造関係に関するトレーニング学的研究. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 08.
- 吉田拓矢, 丸山敦夫, 荻山 靖, 林 陵平, 関子浩二: ドロップジャンプにおける脳皮質運動野皮質内興奮性とパフォーマンスの関係. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 08.
- 中野 瞳, 荻山 靖, 関子浩二: 女子走幅跳選手の体重管理に関するコーチング学的研究. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 08.
- Kinomura, Y., Fujibayashi, N., and Zushi K.: The changes in the long jump takeoff as increasing the number of step during the approach run. The first Asia-Pacific Conference on Coaching Science, 2014. 07.
- 廣田真也, 吉田拓矢, 関子浩二: 大学男子テニス選手の筋力・スピード・ジャンプ力を主とした体力トレーニングが各種体力要因と試合成績に及ぼす影響. コーチング学会第 25 回大会, 茨城, 2014. 03.
- 戸邊直人, 荻山 靖, 関子浩二: 男子走高跳トップ選手におけるパフォーマンスの向上とそのトレーニングに関するコーチング学的研究～オリンピック標準記録である 2m28 まで記録を向上させた男子選手の事例を手がかりにして～. コーチング学会第 25 回大会, 茨城, 2014. 03.
- 影山湧亮, 吉田拓也, 荻山 靖, 関子浩二: 棒高跳におけるポール走速度を高める要因に関する研究～ポール未保持走とポール保持走における各種パラメータの比較を手がかりにして～. コーチング学会第 25 回大会, 茨城, 2014. 03.
- 岩竹 淳, 北田耕司, 川原繁樹, 関子浩二: ステージアップ方式による縦走型スプリントトレーニング法の開発. コーチング学会第 25 回大会, 茨城, 2014. 03.
- 大枝優介, 藤林献明, 関子浩二: 日本国内の文献から得た言語データに基づく走幅跳の技術構造. コーチング学会第 25 回大会, 茨城, 2014. 03.
- 金井 瞳, 坂口将太, 関子浩二: 3～4 歳の幼児を対象としたリバウンドジャンプ能力に関するトレーニングナビリティー. コーチング学会第 25 回大会, 茨城, 2014. 03.

2. 学術論文

- 坂口将太, 藤林献明, 吉田拓矢, 林 陵平, 関子浩二: 4 歳から 5 歳に至る幼児のリバウンドジャンプ能力および疾走能力に関する縦断的变化. 体育学研究, 印刷中.
- 荻山 靖, 関子浩二: ジャンプエクササイズを用いたプライオメトリックトレーニングにおける手段および方法の構築－バイオメカニクス知見をエビデンスとして用いることの重要性－. バイオメカニクス研究, 18 (3), 176-188, 2014.
- 荻山 靖, 渡来真人, 関子浩二: サッカーのインステップキックにおけるボール速度に影響する支持脚の筋力およびジャンプ能力: 助走速度の相違に着目して. 体育学研究, 59 (2), 755-770, 2014.
- 荻山 靖, 関子浩二: 跳躍方向の異なるバウンディングにおける踏切脚の力発揮特性. 体育学研究, 59 (2), 397-411, 2014.
- Nagahara R, Matsubayashi T, Matsuo A, Zushi K.: Kinematics of transition during human accelerated sprinting.

Biology Open. 689-699, 2014.

Nagahara R, Naito H, Miyashiro K, Morin JB, Zushi K.: Traditional and ankle-specific vertical jumps as strength-power indicators for maximal sprint acceleration. The Journal of Sports Medicine and Physical Fitness, 54 (6), 691-699, 2014.

Nagahara R, Naito H, Morin JB, Zushi K. Association of acceleration with spatiotemporal variables in maximal sprinting. International Journal of Sports Medicine. 35 (9), 755-761, 2014.

藤林献明, 坂口将太, 荻山 靖, 関子浩二: リバウンドロングジャンプ指数の優劣を決定する踏切局面の技術的要因. 体育学研究, 59 (1), 175-188, 2014.

坂口将太, 藤林献明, 荻山 靖, 関子浩二: 2歳から6歳までの幼児におけるリバウンドジャンプ遂行能力と疾走能力との関係. 発育発達研究, 62, 24-33, 2014.

藤林献明, 荻山 靖, 木野村嘉則, 関子浩二: リバウンドロングジャンプテストの遂行能力からみた水平片脚跳躍において高い接地速度に対応するための踏切動作. 陸上競技学会誌, 12, 33-44, 2014.

関子浩二: コーチングモデルと体育系大学で行うべき一般コーチング学の内容. コーチング学研究, 27 (2), 149-161, 2014.

北崎悦子, 関子浩二: 女子テニス選手の育成過程に関するコーチング学的研究 - 高卒後即座に競技活動に至るタイプと大学生活を経て競技活動に至るタイプを比較して -. テニスの科学, 126-127, 2014.

5. 受賞

学会賞「藤林献明, 荻山 靖, 木野村嘉則, 関子浩二: リバウンドロングジャンプテストの遂行能力からみた水平片脚跳躍において高い接地速度に対応するための踏切動作. 陸上競技学会誌, 12, 33-44, 2014.」日本陸上競技学会, 2014. 11.

実行委員会特別賞「荻山 靖, 関子浩二: スプリント走に対するリバウンドジャンプを用いたプライオメトリクスの有効性: 支持脚力発揮特性に着目して.」第27回日本トレーニング科学学会大会, 2014. 11.

若手研究 優秀賞「荻山 靖, 関子浩二: Stiffness 特性から見たバウンディングとリバウンドジャンプの階層構造関係に関するトレーニング学的研究.」日本体育学会第65回大会, 2014. 08.

若手研究 大会委員長賞「吉田拓矢, 丸山敦夫, 荻山 靖, 林 陵平, 関子浩二: ドロップジャンプにおける大脳皮質運動野皮質内興奮性とパフォーマンスの関係.」日本体育学会第65回大会, 2014. 08.

学会大会賞「戸邊直人, 荻山 靖, 関子浩二: 男子走高跳トップ選手におけるパフォーマンスの向上とそのトレーニングに関するコーチング学的研究~オリンピック標準記録である2m28まで記録を向上させた男子選手の事例を手がかりにして~」コーチング学会第25回大会, 2014. 03.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

第5回コーチサミット 龍谷大学 2014年12月16日

横浜国立大学コミュニティカレッジ「都市とオリンピック」YY講座, 東京オリンピックが到来する新時代に向けた日本スポーツの改革とその方向性. 2014年11月8日

競技活動

・団体

天皇賜杯 第83回日本学生陸上競技対校選手権大会

女子 総合 優勝

女子 フィールド種目 優勝

女子 多種目優勝

男子 男子総合 第3位

男子 フィールド種目 第3位

男子 多種目優勝

第93回関東学生陸上競技対校選手権大会

女子 総合優勝

女子 フィールド種目 優勝

女子 多種目優勝

個人

国際大会

セイコーゴールデングラプリ陸上2014 東京

男子走高跳 第3位 2m31 戸邊直人

第1回日中韓交流陸上競技大会

男子走幅跳 第3位 7m90 嶺村鴻汰

KarlstadGrandPrix2014

男子走幅跳 第5位 7m57 嶺村鴻汰

ダイヤモンドリーグ第10戦 モナコ大会

男子走高跳 第8位 2m30 戸邊直人

ダイヤモンドリーグ最終戦 ブリュッセル大会

男子走高跳 第7位 2m31 戸邊直人

第17回アジア競技大会

男子走高跳 第5位 2m25 戸邊直人

男子走高跳 第11位 2m15 衛藤 昂

国内大会

第98回日本陸上競技選手権大会

男子走高跳 第1位 2m22 衛藤 昂

男子走高跳 第3位 2m20 戸邊直人

男子走幅跳 第1位 7m94 嶺村鴻汰

男子三段跳 第3位 15m82 米澤宏明

男子三段跳 第3位 15m56 松下翔一

天皇賜杯 第83回日本学生陸上競技対校選手権大会

男子走高跳 第1位 2m22 衛藤 昂

女子棒高跳 第1位 3m85 榎本優子

男子走幅跳 第1位 7m90 嶺村鴻汰

女子走幅跳 第1位 6m08 中野 瞳

2014年日本学生陸上競技個人選手権大会

女子棒高跳 第2位 3m80 榎本優子

女子走幅跳	第3位	6m04	中野 瞳
男子三段跳	第3位	15m25	犬井亮介
女子三段跳	第2位	12m71	剣持早紀
第93回関東学生陸上競技対校選手権大会			
男子走高跳	第3位	2m13	平 龍彦
女子棒高跳	第2位	3m30	生島弥歩
男子走幅跳	第2位	7m76	嶺村鴻汰
女子走幅跳	第3位	5m91	山田 優

社会貢献活動

日本マルチサポート事業 トレーニング部門主任（文部科学省）2010年07月～現在

日本陸上競技連盟強化育成部 U23 委員 2012年12月～2014年11月

関東学生陸上競技連盟評議委員 2012年12月～現在

チームいばらぎサポート事業 2013年9月～現在

「コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」の作成」ワーキングチーム委員 2014年6月～現在

日本オリンピック競技会強化スタッフ（コーチングスタッフ）2014年4月1日～2015年3月31日

つくば市総合運動公園基本計画策定委員会委員 2014年4月～2015年3月

日本体育学会 編集委員 2013年3月～2015年3月

日本コーチング学会 理事（編集委員長）2010年4月～現在

日本スポーツ運動学会 理事 2005年～現在

日本トレーニング科学会 役員（編集委員）2004年～現在

教授 高木英樹

研究業績

1. 学会発表

Sasaki, Y., Nishiyasu, T., Takagi, H.: Effects of breathing pattern during submaximal eggbeater kick on oxygen uptake at constant workload in competitive water polo players. XIIth International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming, Canberra, 2014. 4. 29.

Takagi, H., Nakashima, M., Ozaki, T., and Matsuuchi, K.: Unsteady hydrodynamic forces acting on a robotic arm. XIIth International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming, Canberra, 2014. 5. 1.

Tsunokawa, T., Nakashima, M., Sengoku, Y., Tsubakimoto, S. and Takagi, H.: A new method to evaluate breaststroke kicking technique using a pressure distribution analysis. XIIth International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming, Canberra, 2014. 5. 2.

高木英樹：屋内プールおよび回流水槽におけるドルフィンキック泳のキネマティクスと競泳泳者が抱く身体感覚. 147th 回流水槽研究会, 東京電機大学, 2014. 6. 10.

川合英介, 高木英樹, 椿本昇三：水中での巻き足動作時の効率に関する研究. 日本水泳水中運動学会 2014年次大会, 愛知学院大学, 2014. 11. 15.

酒井 紳, 佐藤智俊, 武田 剛, 椿本昇三, 高木英樹：トラックスタートにおけるバックプレート位置の違いがスタートパフォーマンスに与える影響. 日本水泳水中運動学会 2014年次大会, 愛知学院大学, 2014. 11. 16.

- 成田健造, 萩田 太, 高木英樹: 新たな自己推進時抵抗測定方法の信頼性と妥当性の検証. 日本水泳水中運動学会 2014 年次大会, 愛知学院大学, 2014. 11. 16.
- 下門洋文, 仙石泰雄, 三好 扶, 椿本昇三, 高木英樹: ドルフィンキックのキック頻度と泳パフォーマンスの関係性. 日本水泳水中運動学会 2014 年次大会, 愛知学院大学, 2014. 11. 16.
- 角川隆明, 川合英介, 仙石泰雄, 椿本昇三, 高木英樹: 水球選手の巻足中に発揮される流体力の推定. 日本水泳水中運動学会 2014 年次大会, 愛知学院大学, 2014. 11. 16.
- 羽二生稔大, 長谷川裕晃, 高木英樹, 下門洋文: 蹴り上げと蹴り下げ速度の異なるモノフィンの推進力. 第 92 期日本機械学会流体工学部門講演会, 富山, 2014. 10. 26.

2. 学術論文

- Takagi, H., Murase, Y., Nakashima, M., and Mastuuchi, K.: A review of experimental and numerical investigations about the unsteady flow in human swimming motions. The bulletin of Faculty of Health and Sport Sciences 37, 31-39, 2014.
- Homma M, Kawai Y, Takagi H.: Fluid Force acting on the Hand during Sculling of a World-Class Synchronized Swimmer. The bulletin of Faculty of Health and Sport Sciences 37, 159-63, 2014.
- Takagi, H., Shimada, S., Miwa, T., Kudo, S., Sanders, R., and Matsuuchi, K.: Unsteady hydrodynamic forces acting on a hand and its flow field during sculling motion. Human Movement Science, 38, 133-142, 2014.
- Takagi, H., Nakashima, M., Ozaki, T., and Matsuuchi, K.: Unsteady hydrodynamic forces acting on a robotic arm and its flow field: Application to the crawl stroke. Journal of Biomechanics, 47, 1401-1408, 2014.
- Matsuda, A., Yamashita, K., Ishikura, K., Takagi, H.: Cycling Power Optimization System Using Link Models of Lower Limbs with Cleat-shaped Biaxial Load Cells. Procedia Engineering, 72, 68-73, 2014.
- Hirofumi Shimojo, Yasuo Sengoku, Tasuku Miyoshi, Shozo Tsubakimoto, Hideki Takagi: Effect of imposing changes in kick frequency on kinematics during undulatory underwater swimming at maximal effort in male swimmers. Human Movement Science, 38, 94-105, 2014.
- Motomu Nakashima, Yuta Nakayama, Yutaka Minami, Hideki Takagi: Development of the simulation model for throwing motion in water polo. Sports Engineering, 17, 45-53, 2014.
- 下門洋文, 仙石泰雄, 椿本昇三, 高木英樹: 屋内プールおよび回流水槽におけるドルフィンキック泳のキネマティクスと競泳泳者が抱く身体感覚. 体育学研究, 59 (1), 237-249, 2014

3. その他論文

- 朝岡正雄 (研究代表者), 高木英樹 (研究分担者), 他: 「できる」を引き出す教え方の開発 (研究課題番号 233000220). 科学研究費補助金基盤研究 (B) 報告書, 2014.

6. その他

- 高木英樹: 「水泳大活やくブック」, ベネッセコーポレーション, 2014.

競技活動

- 筑波大学水泳部水球部門監督
2014 年度東日本水球リーグ優勝
2014 年度関東学生水球リーグ戦 2 位

社会貢献活動

日本体育学会体育学研究編集委員（2012年～）

日本バイオメカニクス学会バイオメカニクス研究編集委員（2012年～）

日本海洋人間学会海洋人間学雑誌編集委員（2011年～）

日本水泳水中運動学会運営委員（2013年～）

公共機関，企業等からの委託業務

「健康運動指導士」養成講習会講師 2014年1月，5月，公益財団法人健康・体力づくり事業財団

先端繊維素材シンポジウム ～未来を創る先端繊維のチカラ～招待講演 2014年10月1日，日本化学繊維協会

教授 椿本昇三

研究業績

1. 学会発表

Yasuo Sengoku, T.Tsunokawa, K.Kobayashi, S.Tsubakimoto: Comparison of the training load during high-intensity interval-resistance training programmed by different exercise duration, 12th International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming, 2014. 5.

Takaaki Tsunokawa, M.Nakashima, Y.Sengoku, S.Tsubakimoto, H.Takagi: A new method to evaluate breaststroke kicking technique using a pressure distribution analysis, 12th International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming, 2014. 5.

Koichi Kaneda, K.Ando, K.Ohyama, Y.Ohgi, S.Tsubakimoto: Effect of immersion on angle positioning at elbow joint with and without pre-instruction in trained swimmers, 12th International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming, 2014. 5.

Shin Sakai, T.Takeda, H.Takagi, S.Tsubakimoto: Calculation of lower limbs joint torque of Grab and Track start in competitive swimming, 12th International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming, 2014. 5.

Hirofumi Shimojo, Y.Sengoku, S.Tsubakimoto, H.Takagi: What differences between the role of trunk and thigh muscles during undulatory underwater swimming?, 12th International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming, 2014. 5.

Kenzo Narita, Y.Sengoku, H.Takagi, S.Tsubakimoto: Comparing whole stroke and arm stroke only in front crawl at the mechanical efficiency, 12th International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming, 2014. 5.

Keisuke Kobayashi, Y.Sengoku, H.Takagi, S.Tsubakimoto: Trunk and leg muscle activity during underwater undulatory swimming in male collegiate swimmers, 12th International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming, 2014. 5.

下門洋文，富川理充，椿浩平，佐竹弘靖，椿本昇三：モーションセンサを用いたクロール泳のストローク評価－事例報告－トップトライアスリートへの応用－，体力医学学会，長崎，2014. 9.

川合英介，高木英樹，椿本昇三：水中での巻き足動作時の効率に関する研究．日本水泳水中運動学会2014年次大会，名古屋，2014. 11.

金子雅紀，小林啓介，仙石泰雄，椿本昇三：男子競泳選手におけるバサロキックの特徴－動作と筋活動

に着目して－. 日本水泳水中運動学会 2014 年次大会, 名古屋, 2014. 11.

酒井 紳, 佐藤智俊, 武田 剛, 樫本昇三, 高木英樹: トラックスタートにおけるバックプレート位置の違いがスタートパフォーマンスに与える影響. 日本水泳水中運動学会 2014 年次大会, 名古屋, 2014. 11.

佐野公英, 仙石泰雄, 樫本昇三: 競泳選手における酸素摂取動態と心拍数動態の分析－LT 強度運動開始時と終了時の応答に着目して－. 日本水泳水中運動学会 2014 年次大会, 名古屋, 2014. 11.

下門洋文, 仙石泰雄, 三好 扶, 樫本昇三, 高木英樹: ドルフィンキックのキック頻度と泳パフォーマンスの関係性. 日本水泳水中運動学会 2014 年次大会, 名古屋, 2014. 11.

角川隆明, 川合英介, 仙石泰雄, 樫本昇三, 高木英樹: 水球選手の巻き足中に発揮される流体力の推定. 日本水泳水中運動学会 2014 年次大会, 名古屋, 2014. 11.

西山賢太郎, 小林啓介, 仙石泰雄, 樫本昇三: 疲労に伴うフラッターキックの動作と筋活動の変化について. 日本水泳水中運動学会 2014 年次大会, 名古屋, 2014. 11.

2. 学術論文

樫本昇三 他: 学校体育実技指導資料台集 水泳指導の手引 (三訂版), 文部科学省, 2014, 3.

樫本昇三, 仙石泰雄, 村瀬陽介, 酒井 紳, 高木英樹, 本間三和子, 大高敏弘, 武政 徹, 渡部厚一, 宮川俊平: 新カリキュラムにおける 2013 年臨海実習の報告. 筑波大学体育科学系紀要, 37, 179-183, 2014.

3. その他論文

川合英介, 高木英樹, 樫本昇三: 水中での巻き足動作時の効率に関する研究. 日本水泳水中運動学会 2014 年次大会, 20-23. 2014.

金子雅紀, 小林啓介, 仙石泰雄, 樫本昇三: 男子競泳選手におけるバサロキックの特徴－動作と筋活動に着目して－. 日本水泳水中運動学会 2014 年次大会, 24-29. 2014.

酒井 紳, 佐藤智俊, 武田 剛, 樫本昇三, 高木英樹: トラックスタートにおけるバックプレート位置の違いがスタートパフォーマンスに与える影響. 日本水泳水中運動学会 2014 年次大会, 名古屋, 88-93. 2014.

佐野公英, 仙石泰雄, 樫本昇三: 競泳選手における酸素摂取動態と心拍数動態の分析－LT 強度運動開始時と終了時の応答に着目して－. 日本水泳水中運動学会 2014 年次大会, 名古屋, 70-75. 2014.

下門洋文, 仙石泰雄, 三好 扶, 樫本昇三, 高木英樹: ドルフィンキックのキック頻度と泳パフォーマンスの関係性. 日本水泳水中運動学会 2014 年次大会, 106-109. 2014.

角川隆明, 川合英介, 仙石泰雄, 樫本昇三, 高木英樹: 水球選手の巻き足中に発揮される流体力の推定. 日本水泳水中運動学会 2014 年次大会, 114-117, 2014.

西山賢太郎, 小林啓介, 仙石泰雄, 樫本昇三: 疲労に伴うフラッターキックの動作と筋活動の変化について. 日本水泳水中運動学会 2014 年次大会, 20-23. 2014.

2. 学術論文

樫本昇三 他: 学校体育実技指導資料台集 水泳指導の手引 (三訂版), 文部科学省, 2014, 3 月.

樫本昇三, 仙石泰雄, 村瀬陽介, 酒井 紳, 高木英樹, 本間三和子, 大高敏弘, 武政 徹, 渡部厚一, 宮川俊平: 新カリキュラムにおける 2013 年臨海実習の報告. 筑波大学体育科学系紀要, 37, 179-183, 2014.

6. その他

椿本昇三 他：学校における体育活動中の事故防止のための映像資料，文部科学省，2014. 3.

教育活動

椿本昇三 他：NPO 法人南会津グリーンストッククラブ筑波大学共同事業「水泳の事故ゼロを目指した水泳教室－泳げない子どもをなくそう！－」.(7月27日～29日)，2014.

社会貢献活動

独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊 専門委員

茨城県水泳連盟 理事

茨城県水泳連盟 競技力向上アドバイザー

ジョイフルアスレティッククラブ筑波スポーツ科学研究所 客員研究員

春季筑波記録会研筑波記録会，茨城県水泳連盟主催，2014. 4.

公共機関，企業等からの委託業務

椿本昇三：平成26年度 安全な水泳指導のための中央講習会 講師，東京都教育委員会. 2014. 5.

椿本昇三：平成26年度「B&G 海洋性レクリエーション指導員」養成研修会，講師，沖縄県，2014. 6.

教授 中川 昭

研究業績

1. 学会発表

Suzuki, K., Arai, N., Shimazaki, T., Furukawa, T., Nakagawa, A., Tagami, K.: Staphylococcus aureus outbreak associated with nasal carriers and perspiration among rugby players. IV NSCA International Conference, Murcia, Spain 2014. 6.

2. 学術論文

嶋崎達也，古川拓生，千葉 剛，鷲谷浩輔，小柳竜太，中川 昭：筑波大学ラグビー部におけるラック様相の推移：2012年を2010年と2011年と比較して. 筑波大学体育系紀要，37，85-92，2014.

Yamada, E., Aida, H., Fujimoto, H., Nakagawa, A.: Comparison of game performance among European national women's handball teams. International Journal of Sport and Health Science, 1-10, 2014.

教育活動

3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

中川 昭，松尾彰文（座長）：大学体育における指導者養成システムの重要性とそのあり方. 高度大学体育指導者養成大学院共同学位プログラム・キックオフシンポジウム，東京，2014. 2.

競技活動

第14回 東日本大学セブンズラグビーフットボール選手権大会優勝（部長）

第51回 全国大学ラグビーフットボール選手権大会準優勝（部長）

社会貢献活動

日本コーチング学会理事（平成 15 年～）

日本体育学会代議員（平成 23 年～）

茨城体育学会理事（平成 19 年～）

教授 長谷川 聖 修

研究業績

1. 学会発表

鈴木王香, 三浦茉莉, 長谷川聖修, 亀田まゆ子, 沖田祐蔵, 鈴木幸光, 高橋靖彦: プレ (イ+トレ) ニングに関する一考察 - G ボール運動に着目して -, 日本コーチング学会第 25 回大会, 茨城, 2014. 3.

田村元延, 鈴木王香, 三浦茉莉, 長谷川聖修: 児童を対象とした安全に転ぶ動作習得に関する指導内容の試案 - G ボールの運動特性を活用して -, 日本コーチング学会第 25 回大会, 茨城, 2014. 3.

高橋靖彦, 長谷川聖修, 鈴木王香: ロデイの用具特性による子どもの移動動作の変容について, 日本コーチング学会第 25 回大会, 茨城, 2014. 3.

古屋朝映子, 本谷 聡, 長谷川聖修: 幼児を対象とした G ボールを使用した運動指導における安全管理と指導方法に関する一考察 - 保育者への質問紙・インタビュー調査の結果をもとに -, 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

檜皮貴子, 長谷川聖修, 田村元延, 鈴木王香, 武井嘉恵: 体力向上と体ほぐしの運動を融合させた「体づくり運動」教材の可能性 - 実技指導書等の文献調査をもとに -, 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

武井嘉恵, 鈴木王香, 田村元延, 檜皮貴子, 長谷川聖修: 安全な転び方習得を目指した「リズムペア体操」の試案, 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

古屋朝映子, 武井嘉恵, 小出奈実, 小山勇氣, 小島瑞貴, 長谷川聖修: 震災被災者の語りからみる体操教室参加の意味づけ, 日本体操学会第 14 回大会, 茨城, 2014. 9.

染谷典子, 沖田祐蔵, 鈴木玲子, 高橋靖彦, 大久保善郎, 長谷川聖修, 田中喜代次: 被災地在住高齢者の健康づくりを目指したソフトジム体操の検討, 日本体操学会第 14 回大会, 茨城, 2014. 9.

小山勇氣, 武井嘉恵, 小出奈美, 田村元延, 鈴木王香, 長谷川聖修: 小学校低学年における遊戯的体操の試案と保護者に対する意識調査, 日本体操学会第 14 回大会, 茨城, 2014. 9.

武井嘉恵, 鈴木王香, 田村元延, 檜皮貴子, 古屋朝映子, 本谷 聡, 長谷川聖修: 安全な転び方習得を目指した「ペア・リズム体操」の考案と転び方動作の変容に関する実践的研究, 日本体操学会第 14 回大会, 茨城, 2014. 9.

佐々岡慧, 本谷 聡, 長谷川聖修, 古屋朝映子, 武井嘉恵, 小島瑞貴: パソボードを活用した運動誘発システムに関する研究, 日本体操学会第 14 回大会, 茨城, 2014. 9.

高橋靖彦, 長谷川聖修, 大塚 隆: 多様な動きを引き出す器具や用具の工夫 - デンマーク・Ringsted の体操教室を事例として -, 日本体操学会第 14 回大会, 茨城, 2014. 9.

2. 学術論文

田村元延, 古屋朝映子, 高橋靖彦, 鈴木王香, 長谷川聖修: 小学校中学年を対象とした「体づくり運動」教材の検討 - G ボールを用いた運動指導に着目して -, 体操研究, 11 (1), <http://gym.tsukubauniv>.

3. その他論文

田村元延, 長谷川聖修, 檜皮貴子: プレ (イ+トレ) ニングのすゝめ. 体育科教育学研究, 30 (1), 85, 2014. 3.

教育活動

筑波大学社会貢献プロジェクト「う・つく (ば+ふく) しま体操教室」(1月-12月毎週月曜日, 延べ34日)

被災地在住高齢者の健康づくり指導者講習会, 宮城県石巻市, 名取市, 9月4日~5日

北茨城市・筑波大学: 「第4回元気アップ教室」(11月-12月, 延べ2日)

茨城県教育委員会: 生涯スポーツ指導員兼茨城県スポーツリーダーバンク登録指導者講習会

「高齢者および中高年の健康・体力づくり」指導 (茨城県笠間市, 7月19日)

厚労省: 健康運動実践指導者養成講習会「ウォーミングアップとクーリングダウン」(埼玉県越谷市, 9月)

つくば市スポーツ振興課: 「マリオと遊ぶ運動教室」(2月~7月 延べ10日)

(公財) 日本体操協会: 一般体操指導者養成講習会「体操の特性」「体操の分類と各種体操」「対象別指導法」(東京都, 8月延べ3日)

(公財) 日本スポーツクラブ協会: 介護予防運動スペシャリスト養成講習会「調整力及び柔軟性の向上に関する運動の実践」(東京都, 12月)

社会貢献活動

(公財) 日本体操協会一般体操委員 (1995年~)

(NPO法人) 日本Gボール協会理事長 (2003年~)

日本ラート協会理事 (1990年~)

日本体育学会代議員 (2012年~)

日本体操学会副会長 (2010年~)

日本コーチング学会理事 (2010年~)

公共機関, 企業等からの委託業務

一般社団法人日本子どもフィットネス協会: 握力向上プログラム

教授 本間 三和子

研究業績

1. 学会発表

Miwako Homma, Kanako Nakagawa, Koji Ito: Sculling and unroll-body-action techniques in the thrust movement of synchronized swimming based on three-dimensional motion analysis. XIIth International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming, Canberra, Australia, 2014. 4.

Motomu Nakashima, Go Hatakeyama, Miwako Homma, Koji Ito: Effect of jumping timing on resultant height for lift by four swimmers in synchronized swimming. XIIth International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming, Australia, 2014. 4.

本間三和子: シンクロナイズドスイミング選手の浮力と基本姿勢時の水上荷重負荷, 日本体育学会第65

回大会, 岩手, 2014. 8.

本間三和子: シンクロナイズドスイミングを科学する - 驚愕, 感動, 歓喜 -. 大分県スポーツ学会第6回学術集会, 大分, 2014. 12.

2. 学術論文

本間三和子: シンクロナイズド・スイミングにおける身体組成のとらえ方. 体育の科学, 杏林書院, 64-3, 194-198, 2014.

HOMMA Miwako, KAWAI Yuma and TAKAGI Hideki: Fluid Force Acting on the Hand during Sculling of a World-Class Synchronized Swimmer. 筑波大学体育系紀要 Bull. Facul. Health & Sci., Univ. of Tsukuba, 37, 159-163, 2014.

Miwako Homma, Kanako Nakagawa, Koji Ito: Sculling and unroll-body-action techniques in the thrust movement of synchronised swimming based on three-dimensional motion analysis. Proceedings of the XIIth International Symposium for Biomechanics and Medicine in Swimming, Dr Bruce Mason (Editor in Chief), Australian Institute of Sport, Canberra, 147-152, 2014.

Motomu Nakashima, Go Hatakeyama, Miwako Homma, Koji Ito: Effect of jumping timing on resultant height for lift by four swimmers in synchronized swimming. Proceedings of the XIIth International Symposium for Biomechanics and Medicine in Swimming, Dr Bruce Mason (Editor in Chief), Australian Institute of Sport, Canberra, 368-373, 2014.

4. 著書

Miwako Homma: Figures. FINA SYNCHRONISED SWIMMING MANUAL FOR JUDGES, COACHES & REFEREES. FINA Office, Lausanne, 24-88, 2014.

本間三和子, 伊藤浩志: シンクロナイズドスイミングの科学, 第5章シンクロナイズドスイミング, 水泳コーチ教本第3版, 大修館書店, 390-393, 2014.

本間三和子: シンクロナイズドスイミングのコーチング, 第5章シンクロナイズドスイミング, 水泳コーチ教本第3版, 大修館書店, 413-417, 2014.

本間三和子, 伊藤浩志: シンクロナイズドスイミングのトレーニング, 第5章シンクロナイズドスイミング, 水泳コーチ教本第3版, 大修館書店, 428-443, 2014.

教育活動

1. 受賞

国際水泳殿堂「2014 Paragon 賞」受賞, 2014 Paragon Award from the International Swimming Hall of Fame (フォートローダーデール, 6月13日)

2. 一般向け著書等

本間三和子: シンクロ・ナショナルトライアル 2014. 月刊水泳, 2 (vol.451), 10-11, 2014.

本間三和子: シンクロジャンパー育成プロジェクト. 月刊水泳, 12 (vol.461), 34-35, 2014.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

第90回日本選手権水泳競技大会シンクロナイズドスイミング競技 (NHK テレビ解説) (尼崎, 6月5日)
シンクロナイズドスイミングルールセミナー講師 (東京, 5月)

SPEEDI Synchronised Swimming Training Camp 講師 (シンガポール, 1月2日-6日)

Synchro Clinic 講師（韓国, Jincheon, 1月20日-21日）
International Seminar 講師（ブラジル, リオデジャネイロ, 2月3日-6日）
FINA Synchronised Swimming Judges School 講師（中国, 北京, 2月18日-21日）
FINA Synchronised Swimming Judges School 講師（カザフスタン, アルマティ, 3月28日-31日）
公益財団法人日本水泳連盟シンクロ国際審判研修会講師（東京, 5月17-18日）
公益財団法人日本水泳連盟シンクロ審判勉強会講師（尼崎, 6月5日）
公益財団法人日本水泳連盟シンクロコーチキャンプ講師（東京, 11月3日）

社会貢献活動

公益財団法人日本水泳連盟理事・シンクロ委員長（2009年～）
国際水泳連盟シンクロ委員（2000年～）
アジア水泳連盟シンクロ委員長（2000年～）
公益財団法人日本体育協会スポーツ医・科学専門委員（2003年～）
公益財団法人日本オリンピック委員会選手強化本部「情報・医・科学専門部会」部会員（2013年～）
公益財団法人日本オリンピック委員会強化スタッフ（医・科学スタッフ）（2002年～）
公益財団法人日本オリンピック委員会強化スタッフ（情報・戦略スタッフ）（2003年～）
公益財団法人日本オリンピック委員会強化スタッフ（コーチングスタッフ）（2005年～）
公益財団法人日本オリンピック委員会強化スタッフ（マネジメントスタッフ）（2009年～）
第39回スイスオープンシンクロナイズドスイミング選手権 国際大会帯同審判員（スイス, モントルー, 6月）
第2回東南アジア水泳選手権シンクロナイズドスイミング競技 レフリー兼テクニカルデレゲート（シンガポール, 6月）
第17回アジア競技大会シンクロナイズドスイミング競技 テクニカルデレゲート（韓国, 仁川, 9月）
第13回FINAシンクロナイズドスイミングワールドカップ アシスタントレフリー（カナダ, ケベックシティ, 10月）
第69回国民体育大会シンクロナイズドスイミング競技 レフリー（長崎, 9月）

教授 村田 芳子

研究業績

1. 学会発表

朴 京眞, 村田芳子: 日本と韓国の体育科におけるダンスに関する内容の比較研究 - 日本の「2008年学習指導要領」と韓国の「2007年改訂教育課程」を中心に-. (公社)日本女子体育連盟第57回未来世代の研究発表会/博論発表, 東京, 2014. 2.
伊藤茉野, 村田芳子: ダンス学習における「他者との関わり」に関する研究 - 2人組の関係性に着目して-. 日本スポーツ教育学会第34回大会, 愛媛, 2014. 10.
田島正浩, 村田芳子: 即興的な交流を取り入れたボールルームダンスの指導法に関する研究. 日本スポーツ教育学会第34回大会, 愛媛, 2014. 10.
朴 京眞, 村田芳子, 山崎朱音, 伊藤茉野: 教員養成課程におけるダンス授業のあり方 - T大学の「ダンス実技」の授業を事例に-. 日本スポーツ教育学会第34回大会, 愛媛, 2014. 10.
中島由梨, 村田芳子: 創作ダンスにおける「ものを使った表現」に関する指導法の検討. 日本スポーツ

教育学会第 34 回大会, 愛媛, 2014. 10.

2. 学術論文

山崎朱音, 村田芳子, 朴 京眞: 創作ダンスの指導における指導言語の意味と動きを見る観点: 教材「新聞紙を使った表現」を対象に. 体育学研究, 59 (1), 203-226, 2014.

3. その他論文

村田芳子: <日本の舞踊教育・ダンス> 小学校におけるダンス (表現運動系) 指導 - 過去・現在・未来 -. 女子体育, 56 (8・9), 76-81, 2014.

4. 著 書

村田芳子: 踊りは文化! 踊るも文化! - 踊る楽しさと身体表現の魅力, 今こそ面白い表現運動の授業を! -. 『表現運動の授業づくり』(鈴木直樹, 細川江利子他編), 教育出版, 4-5, 2014.

村田芳子: モダンダンス, リズム系ダンス. 「21 世紀スポーツ大事典」(中村敏雄, 高橋健夫, 寒川恒夫, 友添秀則編), 大修館書店, 2014.

6. その他

「学校体育実技指導資料 第 9 集『表現運動系及びダンス指導の手引』映像資料の作成」(文部科学省)

「ダンス領域の必修化に対応した指導の実施状況と工夫改善の検討」(文部科学省)

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

(公社) 日本女子体育連盟 ダンスムーブメントセミナー 2014 in 宮城 ダンス実技講師 (2 月 15・16 日)

兵庫県女子体育連盟主催 表現運動・ダンス実技研修会講師 (4 月 13 日)

葛飾区立水元小学校 体育授業研究会「表現・リズムダンスの授業づくり」の指導助言及び公開研究会講師 (5 月から 11 月, 延べ 5 日間, 公開 11 月 20 日)

習志野市立屋敷小学校 体育授業研究会及び公開研究会全体講師 (6 月から 9 月事前指導 2 回, 公開 10 月 8 日)

新潟県高校ダンス発表会 創作コンクール審査員 (審査委員長) (6 月 1 日)

東京私立中学高等学校協会「第 39 回創作ダンス発表会」創作コンクール審査員 (6 月 22 日)

つくば市立吾妻小学校 親子での体ほぐしの指導 (6 月 28 日)

福岡県体育研究所 研修講座『表現運動・ダンス』講師 (7 月 1・2 日, 2 日間)

草加市小学校体育研究会 表現運動の指導力向上実技研修 (6 月 10 日)

仙台市教育委員会 学校体育実技研修会「表現運動・ダンス」講師 (7 月 30 日)

第 27 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル (神戸) 大会役員 (8 月 6 日)

(公社) 日本女子体育連盟 創立 60 周年記念全国女子体育研究大会 シンポジウム演者及びダンス実技講習「ダンス必修化に対応した指導」講師 (8 月 19・20 日)

広島県教育委員会 学校体育実技・指導実践講座「表現運動系・ダンス」講師 (10 月 30 日)

筑波大学附属中学校研究協議会 保健・体育公開授業及び研究協議 (ダンス) 指導助言者 (11 月 8 日)

つくば市レインボーカップ (ダンスコンクール) 審査員 (審査委員長) (11 月 24 日)

競技活動

第 27 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル (神戸) 創作コンクール部門 NHK 賞受賞 作品指導

顧問（8月24日NHK教育全国放映）

第17回アーティスティックムーブメント in トヤマ 北日本新聞社賞受賞（群舞最優秀賞） 作品指導

社会貢献活動

（公財）日本スポーツ安全協会 副会長（平成22年～）

（公財）日本体育協会 監事（平成23年～）

（公社）日本女子体育連盟 顧問（平成25年4月～）

日本教育大学協会全国保健体育・保健研究部門 舞踊研究会 会長（平成26年4月～）

舞踊学会理事（平成17年～）

第74回国民体育大会茨城県準備委員会 式典専門委員会委員（副委員長）（平成25年12月～）

教授 森 俊 男

教育活動

3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

筑波大学公開講座 スポーツ教室「弓道」（5，6月，延べ8日間）

競技活動

指導業績（部長）

全関東学生弓道女子選手権大会 団体3位（6月 東京）

全日本学生女子弓道選手権大会 団体ベスト4（8月 神戸）

関東学生女子弓道選手権大会 団体優勝（11月 東京）

全日本学生女子弓道王座選手権大会 団体ベスト4（11月 伊勢神宮）

社会貢献活動

公共機関あるいは私企業等の委員，役員（平成25年度だけでなく継続中のものも含む）

ドイツ弓道連盟主催 指導者講習会講師（7月 於：シュトゥットガルト）

ドイツ弓道連盟主催 指導者講習会講師（7月 於：ロットバイル）

イタリア弓道連盟主催弓道講習会講師（8月 於：パランツァ）

ドイツ弓道連盟主催 講習会講師（8月 於：ドレーズデン）

教授 山 田 幸 雄

研究業績

2. 学術論文

金堀哲也，山田幸雄，會田 宏，島田一志，川村 卓：野球の打撃における指導者の主観的評価に対するキネマティクスの研究：下肢および体幹部に着目して．体育学研究，59-1，133-147，2014.

6. その他

窪田辰政，井上愛美，亀川かすみ，山田幸雄：運動とメンタルヘルスー心の健康に運動はどう関わるかー．

大学体育研究（筑波大学体育センター），36，91-92，2014.

教育活動

山田幸雄：テニスボールが遠くへ飛ぶ仕組みについて（日本全国ご自慢列島ジマング），フジテレビ，2014. 7.（取材協力）

山田幸雄：狙ったところにサーブを打ちたい！（すイエんサー），NHK 教育テレビ，2014. 11.（取材協力）

社会貢献活動

筑波大学国際テニストーナメント（ITF 主催），実行委員長，2014. 4.

ラチャパット・ウドンターニ大学でのコーチングに関する講義（タイ），2014. 3.

カセサート大学でのテニス授業に関する指導（タイ），2014. 3.

ラオステニス協会でのトップジュニアの指導（ラオス），2014. 3.

日本スポーツ運動学会理事

教授 渡 辺 良 夫

研究業績

2. 学術論文

渡辺良夫：実践に定位した発生運動学，スポーツ運動学研究，27，47-59，2014.

准教授 有 田 祐 二

研究業績

1. 学会発表

木村悠生，香田郡秀，鍋山隆弘，有田祐二：剣道選手の標準的 3 次元動作モデルを用いた打突動作に関する一考察 - 実践的な正面打突動作に着目して -，日本武道学会第 47 回大会，福山，2014. 9.

4. 著 書

有田祐二：学校体育における武道（剣道）授業をとりまく最新事情～指導法を視野に入れて～，杏林書院，体育の科学，64-9，617-621，2014.

教育活動

2. 一般向け著書等

松永政美，福本修二，百鬼史訓，網代忠宏，有田祐二，氏家道男，軽米満世，小久保昇治，末平佑二，増田知幸，矢部勇介，吉田泰将：安全で効果的な剣道授業の展開（ダイジェスト版第 2 版），全日本剣道連盟，共著，2014.

3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

文部科学省委託事業「平成 26 年度武道等指導推進事業」講師中央オリエンテーション講師，全日本剣道連盟，勝浦，2014. 7.

文部科学省委託事業「平成 26 年度武道等指導推進事業」コーディネーターオリエンテーション講師。
全日本剣道連盟，東京，2014. 6.

平成 26 年度第 4 回全国剣道指導者研修会－中学校武道必修化に伴う指導法－（東北ブロック）講師。
主催：日本武道館・全日本剣道連盟・全日本学校剣道連盟，後援：文部科学省，弘前，2014. 11.

平成 26 年度第 4 回全国剣道指導者研修会－中学校武道必修化に伴う指導法－（関東ブロック）講師。
主催：日本武道館・全日本剣道連盟・全日本学校剣道連盟，後援：文部科学省，熊谷，2014. 10.

平成 26 年度第 4 回全国剣道指導者研修会－中学校武道必修化に伴う指導法－（東海ブロック）講師。
主催：日本武道館・全日本剣道連盟・全日本学校剣道連盟，後援：文部科学省，岐阜，2014. 9.

平成 25 年度第 3 回全国剣道指導者研修会－中学校武道必修化に伴う指導法－（関東ブロック）講師。
主催：日本武道館・全日本剣道連盟・全日本学校剣道連盟，後援：文部科学省，横浜，2014. 2.

平成 25 年度第 3 回全国剣道指導者研修会－中学校武道必修化に伴う指導法－（九州ブロック）講師。
主催：日本武道館・全日本剣道連盟・全日本学校剣道連盟，後援：文部科学省，長崎，2014. 2.

筑波大学公開講座 スポーツ教室「剣道」（春季・秋季，延べ 16 回）

競技活動

指導業績（筑波大学剣道部・女子監督）

第 62 回全日本剣道選手権大会，優勝・竹ノ内佑也（3 年・福岡県代表）。日本武道館，2014. 11. 3.

第 62 回全日本学生剣道優勝大会，第 3 位。BODYMAKER コロシウム（大阪府立体育会館），2014. 11. 16.

第 33 回全日本女子学生剣道優勝大会，準優勝。春日井市総合体育館，2014. 11. 9.

第 63 回関東学生剣道優勝大会，優勝。日本武道館，2014. 9. 14.

第 60 回関東学生剣道選手権大会，優勝・林田匡平（3 年）。日本武道館，2014. 5. 11.

第 40 回関東女子学生剣道優勝大会，準優勝。東京武道館，2014. 9. 20

社会貢献活動

日本武道学会評議員（2011 年～）

身体運動文化学会常任理事（2009 年～）・編集委員（2009 年～）

全日本剣道連盟普及委員会学校教育部会委員兼幹事（2009 年～）

文部科学省委託事業：全日本剣道連盟平成 26 年度武道等指導支援強化委員会委員（2014 年度）

准教授 大山 卞 圭 悟

研究業績

1. 学会発表

上田美鈴，前田 奎，衛藤 昂，Hoang The Nguyen，関慶太郎，山元康平，大山卞圭悟：女子 100m ハードル走におけるアプローチ区間の動作の特徴。日本体育学会第 65 回大会。

衛藤 昂，Hoang The Nguyen，前田 奎，関慶太郎，上田美鈴，山元康平，大山卞圭悟：走高跳スパイクシューズの補強が足部変形と地面反力に及ぼす影響。日本体育学会第 65 回大会。

衛藤 昂，仲谷政剛，前田 奎，Hoang The Nguyen，水島 淳，廣瀬健一，大山卞圭悟：障害予防を考慮した走高跳スパイクシューズの構造。日本陸上競技学会第 13 回大会。

廣瀬健一，大山卞圭悟，尾縣 貢：ハンマー投におけるレジステッドトレーニングの有効性の検討。日

本体育学会第 65 回大会.

廣瀬健一, 大山卞圭悟, 尾縣 貢: ハンマー投における高重量ハンマーによる投てきの負荷特性. 日本陸上競技学会第 13 回大会.

Hoang The Nguyen, 衛藤 昂, 前田 奎, 水島 淳, 廣瀬健一, 中野美沙, 大山卞圭悟: 男子やり投競技者の体力水準. 日本陸上競技学会第 13 回大会.

前田 奎, 衛藤 昂, Hoang The Nguyen, 関慶太郎, 上田美鈴, 山元康平, 大山卞圭悟: 男子円盤投げにおける日本学生記録保持者と学生競技者の動作の比較. 日本体育学会第 65 回大会.

前田 奎, 衛藤 昂, 水島 淳, Hoang The Nguyen, 廣瀬健一, 山元康平, 大山卞圭悟: 男子円盤投における学生上位競技者と中位競技者の動作の比較. 日本陸上競技学会第 13 回大会.

水島 淳, 柴田篤志, 小山宏之, 大山卞圭悟: シューズ着用の有無が児童の走運動に及ぼす影響. 日本陸上競技学会第 13 回大会.

大山卞圭悟: シンポジウム「北海道におけるジュニア選手のタレント発掘と育成」コーディネーター. 日本陸上競技学会第 13 回大会.

2. 学術論文

大谷 亮, 藤井宏明, 小林志郎, 大橋千里, 小山裕三, 大山卞圭悟: 砲丸投のグライド投法と回転投法における右下肢動作の相違. 陸上競技研究, 99, 36-47, 2014.

山元康平, 宮代賢治, 内藤 景, 木越清信, 谷川 聡, 大山卞圭悟, 宮下 憲, 尾縣 貢: 陸上競技男子 400m 走におけるレースパターンとパフォーマンスとの関係. 体育学研究, 59 (1), 159-173. 2014.

山元康平, 宮代賢治, 内藤 景, 木越清信, 大山卞圭悟, 宮下 憲: 陸上競技男子 400m 走におけるスピード低下量からみたタイプを考慮したモデルレースパターン作成の試み. スプリント研究, 23, 85-87. 2014.

4. 著 書

大山卞圭悟 共著: ステップアップ高校スポーツ 2014 (陸上競技), 大修館書店, 54-83, 2014.

大山卞圭悟 共著: ステップアップ中学体育 2014 (陸上競技), 大修館書店, 61-86, 2014.

大山卞圭悟, 福田 崇: 日本トレーニング指導者協会/編著: トレーニング指導者テキスト改訂版 理論編. 2 章 機能解剖学. 1 節 上肢. 24-39, 大修館書店, 2014.

大山卞圭悟, 福田 崇: 日本トレーニング指導者協会/編著: トレーニング指導者テキスト改訂版 理論編. 2 章 機能解剖学. 2 節 脊柱と胸郭. 40-47, 大修館書店, 2014.

福田 崇, 大山卞圭悟: 日本トレーニング指導者協会/編著: トレーニング指導者テキスト改訂版 理論編. 2 章 機能解剖学. 3 節 下肢. 48-62, 大修館書店, 2014.

大山卞圭悟 共著: 競技種目特性からみたりハビリテーションとリコンディショニングーリスクマネジメントに基づいたアプローチ. 投擲・跳躍. 235-244, 文光堂, 2014.

5. 受 賞

優秀発表賞. 衛藤 昂, 仲谷政剛, 前田 奎, Hoang The Nguyen, 水島 淳, 廣瀬健一, 大山卞圭悟: 障害予防を考慮した走高跳スパイクシューズの構造. 日本陸上競技学会第 13 回大会.

6. その他

大山卞圭悟: 現場で使える機能解剖学「筋は無くとも関節は動く?」. JATI EXPRESS 44, 36-37, 2014.

大山卞圭悟：日本陸上競技連盟トレーナーセミナーテキスト バイオメカニクス：58-64, 2014.

大山卞圭悟：日本陸上競技連盟トレーナーセミナーテキスト コンディショニング：80-91, 2014.

教育活動

長崎県国体強化スタッフ研修会 基調講演. スポーツコンディショニングの理論と実際
～傷害の予防と適切な対処のために～ (長崎市 1月 18日)

日本陸上競技連盟トレーナーセミナー「バイオメカニクス 講師」3月 30日

日本陸上競技連盟トレーナーセミナー「コンディショニング 講師」3月 30日

日本トレーニング指導者協会 (JATI) 養成講習会「機能解剖学」講師. 8月 3日

日本陸上競技連盟トレーナー研修会「足部・足関節の機能解剖 講師」8月 24日

茨城県ジュニア選手育成強化プログラム「コンディショニング実践」9月 27日

茨城県立日立第一高等学校 健康教育講座 講師 11月 6日

宮崎県スポーツ指導者グローアップ事業 科学的視点から考えるコーチング. (宮崎市 12月 2日)

日本体育協会 公認コーチ養成講習会「投擲」講師 12月 24日

日本体育協会 公認コーチ養成講習会「コンディショニング」講師 12月 24日

平成 26 年度日本陸上競技連盟ジュニア選抜強化合宿 砲丸投 コーチ, 熊谷. 12月 25-28

競技活動

指導業績 (陸上競技 コーチ)

● IAAF WORLD JUNIOR CHAMPIONSHIPS 2014

女子やり投 予選 13位 久世生宝

● 第 98 回日本陸上競技選手権大会

男子

ハンマー投 3位 保坂雄志郎

女子

円盤投 2位 高橋亜弓 8位 辻川美乃利

ハンマー投 2位 勝山眸美

● 第 69 回国民体育大会

成年女子ハンマー投 5位 勝山眸美 7位 大崎かな

成年女子やり投 6位 久世生宝

● 天皇賜杯 第 83 回日本学生陸上競技対校選手権大会

男子

砲丸投 6位 森下大地

ハンマー投 1位 保坂雄志郎

やり投 2位 中嶋善寛 3位 園田健太 6位 眞里谷健司

女子

円盤投 4位 辻川美乃利 8位 知念莉子

ハンマー投 1位 勝山眸美 関東学生新記録 5位 大崎かな

やり投 1位 久世生宝 大会新記録

● 2014 日本学生陸上競技個人選手権大会

男子

砲丸投 4位 森下大地

円盤投	3位	前田 奎	
やり投	4位	中嶋善寛	6位 眞里谷健司
女子			
円盤投	7位	知念莉子	
ハンマー投	2位	勝山眸美	7位 大崎かな
やり投	6位	久世生宝	

●第30回日本ジュニア陸上競技選手権大会

男子

砲丸投	1位	赤間祐一
ハンマー投	6位	齋藤淳平

女子

円盤投	3位	辻川美乃利
やり投	2位	前野 舞

社会貢献活動

- 日本陸上競技連盟トレーナー部 委員（平成11年～）
- 関東学生陸上競技連盟 評議員（平成23年～）
- 関東学生陸上競技連盟 強化委員（平成23年～）
- 日本学生陸上競技連合 医事副委員長・トレーナー部長（平成22年～）
- 日本陸上競技学会 理事（平成21年～）
- JOC 強化スタッフ（医科学スタッフ）
- 茨城陸上競技協会 理事（平成24年～）

公共機関，企業等からの委託業務

ジュニア選手育成強化プログラム事業における体力測定・分析等に関する学術指導：茨城県教育委員会

准教授 岡田弘隆

研究業績

1. 学会発表

- Yamamoto S, Suzuki K, Tagami K, Komata K, Masuchi K, Kiryu S, Yamaguchi K, Okada H: Survival of staphylococcus aureus in tatami mats and judo-gi. 3rd World Scientific Congress of Combat Sport and Martial Arts, University of Rzeszow, Poland, 2014. 10. 15-17.
- 菅藤俊樹，増地克之，岡田弘隆：男子柔道選手における肩関節の柔軟性評価. 第47回日本武道学会大会，福山市立大学，広島，2014. 9. 11.
- 齊藤昌幸，柳澤 久，射手矢岬，増地千代里，岡田弘隆，木村昌彦：ドスコイバーを用いた押しパワーの発揮－床班力との関係に着目して－. 第47回日本武道学会大会，福山市立大学，広島，2014. 9. 11.
- 鈴木なつ未，渡辺涼子，増地克之，福見友子，平岡拓晃，杉本美香，岡田弘隆，目崎 登：大学柔道選手における合宿時のコンディション評価－心理的コンディションに着目して－. 第47回日本武道学会大会，福山市立大学，広島，2014. 9. 11.

山本小百合, 鈴木耕太郎, 田神一美, 桐生習作, 増地克之, 山口 香, 小俣幸嗣, 岡田弘隆: 柔道衣及び畳に付着した黄色ブドウ球菌の生残性. 第47回日本武道学会大会, 福山市立大学, 広島, 2014. 9. 11.

2. 学術論文

岡田弘隆: 平成22年度にSS評価された「教育／社会貢献・学内運営」について; 柔道指導および柔道を通じた社会貢献に関する活動報告. 筑波大学体育系紀要, 37, 13-15, 2014. 3.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

つくばユナイテッド柔道代表として少年柔道教室における指導 (週2日, 延べ約60日)

東海ブロック少年 (小学生) 柔道強化合宿 講師 (豊田市, 7月19～21日)

茨城県柔道連盟審判講習会 講師 (下館市, 9月21日)

群馬県少年柔道強化練習会 講師 (ぐんま武道館, 3月1日)

群馬県少年柔道強化練習会 講師 (ぐんま武道館, 5月17日)

群馬県少年柔道強化練習会 講師 (ぐんま武道館, 7月17日)

国際交流基金柔道使節団ロシア派遣 副団長 (ロシア・ウラジオストク, ハバロフスク, ユジノサハリンスク, モスクワ, 11月11～25日)

競技活動

平成26年度全日本学生柔道団体優勝大会 3位 (柔道部・総監督)

全日本選抜柔道体重別選手権大会 男子81kg級優勝 (永瀬貴規)

チェリヤビンスク世界柔道選手権大会 柔道男子81kg級5位 (永瀬貴規), 男子団体金メダル (永瀬貴規)

柔道グランドスラム東京 男子81kg級金メダル (永瀬貴規)

全日本ジュニア体重別選手権大会 女子52kg級優勝 (内尾真子)

マイアミ世界ジュニア柔道選手権大会 女子52kg級3位 (内尾真子)

社会貢献活動

全日本柔道連盟強化委員会男子強化委員 (平成20年～平成26年10月)

全日本柔道連盟審判委員会副委員長 (平成22年～平成26年3月)

全日本柔道連盟国際委員会特別委員 (平成22年～)

茨城県柔道連盟理事 (平成12年～)

ヨーロッパ柔道連盟 (EJU) エキスパート (2013～)

つくばユナイテッド柔道代表として各種少年柔道大会引率 (約15回)

准教授 金 谷 麻理子

研究業績

1. 学会発表

Mariko Kanaya: A study on the evaluation methods of the skill acquirement in artistic gymnastics, APCOCS 2014 (Asia-Pacific conference on Coaching), Sapporo, Japan, 2014. 7.

奈良隆章, 金谷麻理子, 嵯峨 寿, 松元 剛: 大学体育における学修成果に関する研究, 日本体育学会
第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

2. 学術論文

金谷麻理子, 小山宏之, 富川理充, 向後佑香, 相羽美幸, 吉松 梓, 桐生習作, 松田裕雄, 吹田真士,
吉岡利貢, 宮下 憲: 「大学体育」のカリキュラムの違いが長期的な教育効果に及ぼす影響. 大
学体育研究, 36, 17-28, 2014.

3. その他論文

榎本靖士, 松元 剛, 吹田真士, 鍋山隆弘, 金谷麻理子, 奈良隆章: 共通体育における成績評価に関連
する問題の検討. 大学体育研究, 36, 87-90, 2014.

4. 著 書

小笠原正・諏訪伸夫編, 金谷麻理子 (分担執筆): 体育・部活のリスクマネジメント (第 2 章 1. 各運動
領域の授業と部活の安全 1: 43-45 担当) 器械運動, 信山社, 2014. 3.

競技活動

第 45 回世界体操競技選手権大会 (日本代表) 女子団体総合第 8 位 日本 井上和佳奈 (コーチ)

2014 豊田国際体操競技大会 段違い平行棒優勝 井上和佳奈 (コーチ)

第 68 回全日本体操個人総合選手権大会 個人総合第 4 位 井上和佳奈 (コーチ)

第 53 回 NHK 杯体操 個人総合第 3 位 井上和佳奈 (コーチ)

第 68 回全日本体操種目別選手権大会 平均台第 3 位 井上和佳奈, ゆか第 3 位 井上和佳奈 (コーチ)

第 68 回全日本学生体操競技選手権大会 団体総合第 5 位, 個人総合第 3 位 井上和佳奈, 同第 8 位
小山愛, 跳馬 5 位 井上和佳奈, 段違い平行棒第 4 位 井上和佳奈, 同第 7 位 小山愛, 平均台
第 2 位 小山愛, ゆか第 5 位 井上和佳奈 (コーチ)

社会貢献活動

日本体育学会理事 (平成 25 年～)

日本体操競技・器械運動学会常務理事 (平成 24 年～)

茨城県教育委員会体育学習アドバイザー (平成 23 年～)

つくば市スポーツ振興審議会委員 (平成 21 年～)

日本オリンピック委員会強化スタッフ (コーチングスタッフ) (平成 26 年～)

公共機関, 企業等からの委託業務

文部科学省委託事業 マルチサポート事業 研究開発担当者 (平成 22 年～)

准教授 河 合 季 信

研究業績

1. 学会発表

高橋 佑, 香山瑞恵, 橋本昌巳, 大谷 真, 河合季信, 二上貴夫: スピードスケート滑走における滑走

速度の特徴に関する考察. 第 22 回知識・技術・技能の伝承支援研究会 (SIG-KST), 東京, 2014. 7.

2. 学術論文

高橋 佑, 香山瑞恵, 橋本昌巳, 大谷 真, 河合季信, 二上貴夫: スピードスケート滑走における滑走速度の特徴に関する考察. 第 22 回知識・技術・技能の伝承支援研究会 (SIG-KST) 人工知能学会第 2 種研究会資料, 2014.

http://www.sigkst.org/index.php?site_id=&page=%C2%E822%B2%F3%B8%A6%B5%E6%B2%F1

4. 著 書

河合季信, 和久貴洋: 世界の頂点を目指すアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割. (公財) 日本体育協会編, 公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅲ, (公財) 日本体育協会, 25-31, 2014.

衣笠泰介, 河合季信: 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けたアスリートの育成・強化の展望. (株) 東和編, 進化する運動科学の研究最前線, (株) エヌ・ティー・エヌ, 399-406, 2014.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

スポーツアナリティクスジャパン 2014「アナリティクスを用いたチームジャパン強化戦略」(12月21日)
SPORTEC 2014「メダル獲得に向けたマルチサポート戦略事業～マルチサポート戦略事業の背景と概略」
(12月4日)

進研ゼミ「未来! 発見 BOOK4 年生 (11月号)」(11月1日発行)

社会貢献活動

(公財) 日本オリンピック委員会 情報・医・科学専門部会委員 (平成 23 年～)

(公財) 日本オリンピック委員会 情報戦略部門 副部門長 (平成 15 年～)

(公財) 日本体育協会 生涯スポーツ推進専門委員会委員 (平成 23 年～)

(公財) 長野県体育協会 SWAN プロジェクト 検証部会委員 (平成 25 年～)

准教授 川 村 卓

研究業績

1. 学会発表

横山勇大, 川村 卓, 奈良隆章: 体幹トレーニングが打球速度に及ぼす即時効果. 第 2 回日本野球科学研究会大会, 国立スポーツ科学センター (東京), 2014. 12.

梶田和宏, 川村 卓, 奈良隆章: 投手のバント処理に関する一考察・バント時のセカンド送球における異なる捕球方法の比較. 第 2 回日本野球科学研究会大会, 国立スポーツ科学センター (東京), 2014. 12.

吉井理人, 奈良隆章, 川村 卓: 野球のバッテリー間のコミュニケーションについて・捕手のジェスチャーに着目して. 第 2 回日本野球科学研究会大会, 国立スポーツ科学センター (東京), 2014. 12.

仁志敏久, 奈良隆章, 川村 卓: バットの握り方の違いよるスイングスピードおよびスイング軌道. 第

- 2 回日本野球科学研究会大会, 国立スポーツ科学センター (東京), 2014. 12.
- 大島 健, 奈良隆章, 川村 卓: 野球の逆傾斜を利用したピッチングドリルの即時効果について. 第 2 回日本野球科学研究会大会, 国立スポーツ科学センター (東京), 2014-12.
- 小倉 圭, 川村 卓: 野球初心者の小学生を対象としたゴロ捕球指導の事例報告. 第 2 回日本野球科学研究会大会, 国立スポーツ科学センター (東京), 2014. 12.
- 八木 快, 松尾知之, 田中ゆふ, 高橋佐江子, 金堀哲也, 中山正剛, 島田一志, 川村 卓, 平野裕一: 女子野球の国際大会における計測活動・第 6 回 IBAF 女子ワールドカップ宮崎大会についての報告及び検討. 第 2 回日本野球科学研究会大会, 国立スポーツ科学センター (東京), 2014. 12.
- 井上龍人, 川村 卓, 島田一志: 野球の投手におけるリリースのばらつきについて・日本投手と外国投手の比較. 第 2 回日本野球科学研究会大会, 国立スポーツ科学センター (東京), 2014. 12.
- 片山知博, 川村 卓: パラボリックスローが中学野球選手の制球力に及ぼす長期的効果. 第 2 回日本野球科学研究会大会, 国立スポーツ科学センター (東京), 2014. 12.
- 野本亮希, 川村 卓: 野球指導者の社会的勢力と選手の適応間の関係. 第 2 回日本野球科学研究会大会, 国立スポーツ科学センター (東京), 2014. 12.
- 野本亮希, 川村 卓: 野球競技の打者における個人戦術の形成プロセスモデル. 日本コーチング学会第 25 回大会, 筑波大学 (茨城), 2014. 3.
- 川村 卓, 島田一志, 奈良隆章, 金堀哲也: 野球の制球力向上を目指したパラボリックスローの即時効果. 日本コーチング学会第 25 回大会, 筑波大学 (茨城), 2014. 3.
- 星野健太郎, 奈良隆章, 川村 卓: 野球のバントにおけるシャッターゴーグルを用いたトレーニングの有効性について. 日本コーチング学会第 25 回大会, 筑波大学 (茨城), 2014. 3.
- 名古屋光彦, 川村 卓, 島田一志, 金堀哲也: 野球の打撃における左右打席間のキネマティクスの相違 - 右投げ左打ちに着目して -. 日本コーチング学会第 25 回大会, 筑波大学 (茨城), 2014. 3.
- 小倉 圭, 川村 卓: 野球の内野手におけるゴロ捕球動作に関する研究 - レギュラーバウンドの捕球に着目して -. 日本コーチング学会第 25 回大会, 筑波大学 (茨城), 2014. 3.

2. 学術論文

- 金堀哲也, 山田幸雄, 會田 宏, 島田一志, 川村 卓: 野球の打撃における指導者の主観的評価に対するキネマティクスの研究: 下肢および体幹部に着目して. 体育学研究, 59 (1), 133-147, 2014.
- 奈良隆章, 島田一志, 永森久士, 杉林孝法, 川村 卓: 野球のティー打撃におけるコース間でのインパクトパラメータの相違. いばらき健康・スポーツ科学, 31, 1-8, 2014.
- 阿江数通, 小池関也, 川村 卓: 打点高の異なる野球ティー打撃動作における左右上肢のキネティクスの分析. 体育学研究, 59 (2), 431-452, 2014.

4. 著 書

- 川村 卓: バッティングの科学. 洋泉社 MOOK, 洋泉社, 東京, 2014.
- 川村 卓: ピッチングの科学. 洋泉社 MOOK, 洋泉社, 東京, 2014.
- 川村 卓: トレーニングと野球. 動画で学ぶ監督術 12 月テーマ, JLC オンデマンド, 東京, 2014.
- 川村 卓: 準備 (オフ) 期の過ごし方. 動画で学ぶ監督術 11 月テーマ, JLC オンデマンド, 東京, 2014.
- 川村 卓: 障害, コンディショニング, 食事を考える. 動画で学ぶ監督術 10 月テーマ, JLC オンデマンド, 東京, 2014.
- 川村 卓: 秋の試合期間の考え方. 動画で学ぶ監督術 9 月テーマ, JLC オンデマンド, 東京, 2014.

- 川村 卓：新チームの基本方針. 動画で学ぶ監督術 8月テーマ, JLC オンデマンド, 東京, 2014.
- 川村 卓：夏に向けた準備. 動画で学ぶ監督術 7月テーマ, JLC オンデマンド, 東京, 2014.
- 川村 卓：パターン別ケーススタディ. 動画で学ぶ監督術 6月テーマ, JLC オンデマンド, 東京, 2014.
- 川村 卓：投手 VS 打者の駆け引きを知る. 動画で学ぶ監督術 5月テーマ, JLC オンデマンド, 東京, 2014.
- 川村 卓：格上との戦い方を考える. 動画で学ぶ監督術 4月テーマ, JLC オンデマンド, 東京, 2014.
- 川村 卓：試合期に向けた練習試合の戦い方. 動画で学ぶ監督術 3月テーマ, JLC オンデマンド, 東京, 2014.
- 川村 卓：監督が知っておきたい試合の仕組み. 動画で学ぶ監督術 2月テーマ, JLC オンデマンド, 東京, 2014.
- 川村 卓：指導者なら知っておきたい“ポジション別”コーチング～意外と陥りやすい守備の「落とし穴」～ (DVD). ジャパンライム, 東京, 2014.

教育活動

2. 一般向け著書等

- 川村 卓：前田健太に「理想のフォーム」を見た. 週間現代 (10月18日号), 講談社, 東京, 2014.
- 川村 卓：2年目の覚醒・大谷翔平. 週間フライデー (7月25日号), 講談社, 東京, 2014.
- 川村 卓：トップアスリートの肉体とそのメカニズム. 週間現代 Special (8月5日号), 講談社, 東京, 2014.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

TSA 星空野球教室 (小中学生向け野球教室・週2回通年)

投球動作とコーチング (講演). 野球力指導アカデミー②, BSIP 事務局, 電通本社ビル (東京), 2014. 12. 17.

打撃分析. 二刀流続進化論・下. 北海道新聞 (12月4日紙面), 北海道新聞社, 2014 投球分析. 二刀流続進化論・中, 北海道新聞 (12月3日紙面), 北海道新聞社, 2014.

「マサに一流の秘密」. クローズアップ, 中日新聞 (11月29日紙面), 中日新聞社.

科学の眼からみた野球のコーチング (講演). 千葉県小中体連東総支部研修会, 黄鶴 (千葉), 2014-11-28

「打撃解説監修・球辞苑『流し打ち』(NHK-BS1, 球辞苑)」(11月14日放送)

野球の歴史 (講演). 野球力指導アカデミー①, BSIP 事務局, 電通本社ビル (東京), 2014. 11. 19.

「打撃解析・球速 240 キロ! 怪物バッティングマシン vs 全身筋肉 76 才 (NHK 総合・突撃アツとホーム)」(11月8日放送)

投球・打撃のバイオメカニクス (講演). 公認コーチ養成専門科目講習会, 全日本軟式野球連盟, ホテルワイナリーヒル (静岡), 2014. 11. 4.

「2年目進化の秘密」. スポーツニッポン (8月27日紙面), スポーツニッポン新聞社, 2014.

「大谷翔平動作分析・真の凄味 (北海道テレビ, Fファイブ)」(8月2日放送)

「大谷翔平選手すごさの秘密」, 続報真相, 毎日新聞夕刊 (8月1日紙面), 毎日新聞社, 2014.

「投球解説・大谷翔平の今年のフォーム (TV 朝日, グッド! モーニング)」(7月18日放送)

「さえる二刀流・大谷翔平選手 2年目」. 朝日小学生新聞 (7月18日紙面), 朝日学生新聞社, 2014.

中学までに備えるべき身体と技術. 野球力指導アカデミー, BSIP 事務局, 電通本社ビル (東京), 2014. 7. 16.

科学の眼からみた野球のコーチング(講演). IBA 茨城野球指導者講習会, IBA 茨城事務所(茨城), 2014. 2. 23.
科学の眼からみた野球のコーチング(講演). リトルシニア北海道連盟講演会, 札幌きょうさいサロン(北海道), 2014. 2. 16.
科学の眼から見た野球のコーチング(講演). 如月会講演会, 湘南グランドホテル(神奈川), 2014. 2. 8.
野球の科学(講演). JR 東日本野球部講演会. JR 東日本野球グランド(千葉県), 2014. 1. 27.
バッティングの科学(講演). 日本野球連盟指導者講習会, 熱海後楽園ホテル(静岡), 2014. 1. 12.

競技活動

2014 年首都大学野球春季リーグ 6 位(監督)
2014 年首都大学野球秋季リーグ戦 3 位(監督)
2014 年横浜市長杯関東地区大学野球選手権大会出場(監督)
2014 年関東甲信越国立大会(野球・優勝)

社会貢献活動

日本野球連盟競技力向上委員会オブザーバー
日本コーチング学会編集委員
全日本大学野球連盟監督会常任委員
首都大学野球連盟理事・評議員
首都大学野球連盟監督会会長
日本野球科学研究会世話人
つくば野球研究会幹事
星空野球教室(週 2 回, 通年)主催
BSIP 野球力測定監修

公共機関, 企業等からの委託業務

動作分析測定・ゲームアナライズ(東京ガス野球部)
動作分析・体力測定・ゲームアナライズ(日立製作所野球部)
BSIP 野球力測定(F クレスト)

准教授 谷川 聡

研究業績

1. 学会発表

Tanigawa, S, Hattori S, Naito, S, Kuki S, Okano K, Yoshida K: Long-Term Training-Induced Changes in Jump and Sprint Performance in College Basketball Players, 9th Coaching and Sport Science College, Tennessee, USA 2014. 12. (Sports Science 部門 2 位)
内藤 景, 荻山 靖, 谷川 聡: 専門的準備期から試合期への加速局面における疾走能力と走動作の縦断的变化. 日本体育学会 第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.
九鬼靖太, 内藤 景, 谷川 聡: 上り坂走が平地走に及ぼす即時的效果. 日本コーチング学会 第 25 回大会, 茨城, 2014. 3.

渡邊 諒, 内藤 景, 谷川 聡: 男子 400m ハードル走における発達段階の違いによるレースパターンの違い. 日本コーチング学会 第 25 回大会, 茨城, 2014. 3.

佐野布由実, 内藤 景, 谷川 聡: 100m スプリンターのパフォーマンス発達過程. 日本コーチング学会 第 25 回大会, 茨城, 2014. 3.

田宮尚明, 内藤 景, 谷川 聡: サッカー選手の疾走能力に関する研究. 日本コーチング学会 第 25 回大会, 茨城, 2014. 3.

桑原朋亮, 内藤 景, 谷川 聡: 第 95 回全国高等学校や旧選手権大会の勝因と敗因～「流れ」という観点から～. 日本コーチング学会 第 25 回大会, 茨城, 2014. 3.

土屋智寛, 内藤 景, 谷川 聡: サッカー日本代表と育成年代のセレクションに関する研究. 日本コーチング学会 第 25 回大会, 茨城, 2014. 3.

2. 学術論文

谷川 聡, 内藤 景: スプリント・ハードルトレーニングのためのバイオメカニクス知見の活かし方. バイオメカニクス研究, 18 (3), 157-169, 2015.

内藤 景, 山元康平, 荻山 靖, 谷川 聡: 専門的準備期から試合期への加速局面におけるスプリント走パフォーマンスの縦断的变化. 陸上競技研究, 98, 16-27, 2014.

5. 受賞

9th Coaching and Sport Science College, Tennessee, USA 2014. 12. (Sports Science 部門 2 位)

社会貢献活動

日本陸上競技連盟ハードル部強化部長 (平成 25 年～)

公共機関, 企業等からの委託業務

森永エンゼルカレッジ「競泳日本代表 平井伯昌ヘッドコーチに聞く」

准教授 寺 山 由 美

研究業績

1. 学会発表

Yumi Terayama: Consideration of learning contents for dance in the Japanese Physical Education Curriculum. The 2014 International Association for the Philosophy of Sport Conference, Brazil(Natal), 2014. 9.

4. 著 書

寺山由美 (共著): 4-1「表現運動」はこうやって観察する, 動きの「感じ」と「気づき」を大切にしたい表現運動の授業づくり (細江文利他編). 教育出版, 110-115, 2014.

社会貢献活動

日本女子体育連盟常務理事 (2013 年～)

舞踊研究会理事 (2002 年～)

日本スポーツコーチング学会理事 (2013 年～)

舞踊学会監事（2011年～）

准教授 中西 康 己

研究業績

2. 学術論文

折笠 愛, 中西康己, 秋山 央, 加藤陽一: バレーボールにおける映像デバイスを用いたフィードバックに関する研究. バレーボール研究, 6, 20-24, 2014.

准教授 中 村 剛

研究業績

1. 学会発表

Nakamura T, Sato M: Die Lehrmethode zur Förderung des Herausbekommens des Kniffs. Tagung der dvs (Deutsche Vereinigung für Sportwissenschaft) -Kommission "Gerätturnen", Deutschland (Stiftung Universität Hildesheim), 2014. 9.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

東京都教職員研修センター専門性向上研修 体育ⅡA 講師 (2014年8月)

社会貢献活動

日本スポーツ運動学会 常任理事 (2010年～)

日本体操競技・器械運動学会 常務理事 (2009年～)

准教授 中 山 雅 雄

研究業績

1. 学会発表

森 政憲, 田村達也, 堀野博幸, 中山雅雄, 浅井 武: 日本女子サッカートップレベルにおけるシュート傾向に関する研究. 日本コーチング学会第25回大会, 筑波 2014. 3.

Mori Masanori, Tamura Tatsuya, Horino Hiroyuki, Nakayama Masao, Asai Takeshi: The Trend Analysis of Shooting in Women's National Football Tournaments JAPAN 2013. The 1st Asia-Pacific Conference on Coaching Science, Sapporo, 2014. 7.

沼津直樹, 藤井範久, 中山雅雄, 松倉啓太: 準備動作後の股関節外転動作がゴールキーパーのセービング動作に与える影響. 日本体育学会第65回大会, 盛岡, 2014. 8.

坂本慶子, 中山雅雄, 浅井 武: サッカー選手のインステップキック動作における順動力学解析によるスイングの検討. 日本体育学会第65回大会, 盛岡, 2014. 8.

原仲 碧, 森 政憲, 小井土正亮, 中山雅雄, 浅井 武: 育成年代サッカーコーチ (指導者) のライフストーリー研究. 日本質的心理学会第11回大会, 松山, 2014. 10.

2. 学術論文

平嶋裕輔, 中山雅雄, 内藤清志, 浅井 武: サッカーにおけるゴールキーパーのシュートストップ難易度の定量化. 体育学研究, Vol.59, No.2, 805-816, 2014.

Sungchan Hong*, Keiko Sakamoto, Yudai Washida, Masao Nakayama, Takeshi Asai.: The influence of panel orientation on the aerodynamics of soccer balls. Procedia Engineering, 72, 786-791, 2014.

Sakamoto K, Hong S, Sasaki R, Nakayama, M, Asai, T: Comparison of kicking speed between female and male soccer players. Procedia Engineering 72, 50-55, 2014.

Sasaki R, Hong S, Sakamoto K., Nakayama M, Asai T: The friction force between the soccer ball and the goalkeeper gloves. Procedia Engineering 72, 654-659, 2014.

教育活動

2. 一般向け著書等

浅井 武, 中山雅雄 監修: 最速上達サッカー, 成美堂出版, 2014.

中山雅雄: サッカー心育論 たくましい心を育むコーチング. JFA news 2月号, 公益財団法人日本サッカー協会, 2014.

中山雅雄: サッカー心育論 たくましい心を育むコーチング. JFA news 4月号, 公益財団法人日本サッカー協会, 2014.

中山雅雄: サッカー心育論 たくましい心を育むコーチング. JFA news 6月号, 公益財団法人日本サッカー協会, 2014.

中山雅雄: サッカー心育論 たくましい心を育むコーチング. JFA news 8月号, 公益財団法人日本サッカー協会, 2014.

中山雅雄: サッカー心育論 たくましい心を育むコーチング. JFA news 10月号, 公益財団法人日本サッカー協会, 2014.

中山雅雄: サッカー心育論 たくましい心を育むコーチング. JFA news 12月号, 公益財団法人日本サッカー協会, 2014.

競技活動

筑波大学蹴球部 監督

関東大学サッカーリーグ 11位

天皇杯 全日本サッカー選手権 1回戦

社会貢献活動

日本サッカー協会 指導者養成サブダイレクター

青年海外協力協会 (JOCA) 技術専門委員

准教授 鍋山隆弘

研究業績

1. 学会発表

木村悠生, 香田郡秀, 鍋山隆弘, 有田祐二: 剣道選手の標準的3次元動作モデルを用いた打突動作に関する一考察-実践的な正面打突動作に着目して-. 日本武道学会47回大会. 福山. 2014. 9. 9.

教育活動

鍋山隆弘：新・剣道の技術第2弾。攻め込んで打つ，引き出して打つ。月刊剣道時代。2014. 1. 118-119.
第9回関東学生剣道セミナー。シンポジウム。国立オリンピック記念青少年総合センター。2014. 2. 23.
筑波大学公開講座 剣道教室（春・秋，延べ16日間）
平成26年度筑波大学重点公開講座。最新スポーツ科学を剣道に活かそう！中学生・高校生のための剣道教室。南会津町立檜沢中学校。2014. 10. 11-12.
オランダ剣道連盟主催剣道サマーセミナー 2014. 8.
平成26年度中央コーチ招聘事業（平成27年度国体候補選手第2回強化会・中高合同合宿）。茨城県立境高等学校。2014. 12. 7.

競技活動

第60回全日本剣道東西対抗試合。優秀選手。鳥根県。浜山体育館。2014. 9. 16.
第62回全日本剣道選手権大会，優勝・竹ノ内佑也（3年・福岡県代表）。日本武道館，2014. 11. 3.
第62回全日本学生剣道優勝大会，第3位。BODYMAKER コロシウム（大阪府立体育会館），2014. 11. 16.
第33回全日本女子学生剣道優勝大会，準優勝。春日井市総合体育館，2014. 11. 9.
第63回関東学生剣道優勝大会，優勝。日本武道館，2014. 9. 14.
第60回関東学生剣道選手権大会，優勝・林田匡平（3年）。日本武道館，2014. 5. 11.
第40回関東女子学生剣道優勝大会，準優勝。東京武道館，2014. 9. 20.

社会貢献

身体運動文化学会。常任理事
茨城県剣道連盟強化委員
オランダ剣道連盟外部講師
関東学生剣道連盟審判委員

准教授 古川 拓 生

研究業績

1. 学会発表

柴田 麗，清水和弘，石原真由美，田村 明，花岡裕吉，鷺谷浩輔，竹村雅裕，古川拓生，赤間高雄：学生アスリートにおける栄養介入のコンディション維持への有用性。第69回日本体力医学会大会，長崎，2014. 9.
花岡裕吉，清水和弘，鷺谷浩輔，田村 明，柴田 麗，石原真由美，竹村雅裕，古川拓生，宮本俊和，渡部厚一，赤間高雄：乳酸菌の摂取が強化練習期間におけるアスリートの唾液中の分泌型免疫グロブリンAに及ぼす影響。第69回日本体力医学会大会，長崎，2014. 9.
大垣 亮，竹村雅裕，古川拓生，芋生祥之，永井 智，高木 祥，千葉 剛，岩井浩一：ラグビー競技における筋力測定を指標とした肩関節外傷リスクの評価。第3回日本アスレティックトレーニング学会，愛知，2014. 7.

2. 学術論文

嶋崎達也, 古川拓生, 千葉 剛, 鷺谷浩輔, 小柳竜太, 中川 昭: 筑波大学ラグビー部におけるラック様相の推移-2012年を2010年と2011年と比較して-. 筑波大学体育系紀要, 37, 85-92, 2014. (審査有)

教育活動

関東地区高校ラグビー合同チーム講習会講師 (水戸市, 3月23日)

競技活動

第51回日本ラグビーフットボール選手権大会 出場 (監督)

第51回全国大学ラグビーフットボール選手権大会 準優勝 (監督)

第15回東日本大学セブンズ選手権大会 優勝 (監督)

社会貢献活動

日本オリンピック委員会 強化スタッフ情報・戦略スタッフ (2012年～)

日本ラグビーフットボール協会代表委員会オリンピック・セブンズ部門委員 (2010年～)

日本ラグビーフットボール協会普及・競技力向上委員会情報・科学部門委員 (1995年～)

茨城県ラグビーフットボール協会理事 (2012年～)

准教授 増地克之

研究業績

1. 学会発表

菅藤俊樹, 増地克之, 岡田弘隆: 男子柔道選手における肩関節の柔軟性評価. 日本武道学会第47回大会, 広島, 2014. 9.

山本小百合, 鈴木耕太郎, 田神一美, 桐生習作, 増地克之, 山口 香, 小俣幸嗣, 岡田弘隆: 柔道衣及び畳に付着した黄色ブドウ球菌の生残性. 日本武道学会第47回大会, 広島, 2014. 9.

鈴木なつ未, 渡辺涼子, 増地克之, 福見友子, 平岡拓晃, 杉本美香, 岡田弘隆, 目崎 登: 大学柔道選手における合宿時のコンディション評価-心理的コンディションに着目して-. 日本武道学会第47回大会, 広島, 2014. 9.

Yamamoto S, Suzuki K, Tagami K, Komata K, Masuchi K, Kiryu S, Yamaguchi K, Okada H: Survival of staphylococcus aureus in tatami mats and judo-gi. 3rd World Scientific Congress of Combat Sport and Martial Arts, University of Rzeszow, Poland, 2014. 10. 15-17.

2. 学術論文

佐藤伸一郎, 渡辺直勇, 増地克之, 仲田直樹, 竹澤稔裕, 佐藤武尊, 三宅恵介, 林 弘典: 柔道の競技レベルが投技評価における異見発生に及ぼす影響について. 武道学研究, 47 (1), 47-60, 2014.

3. その他論文

増地克之: 第15回全日本学生柔道体重別団体優勝大会優勝までの軌跡. 筑波大学体育系紀要, 37, 1-3, 2014.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

筑波大学出前講座:「佐賀県柔道教室」9月

競技活動

平成26年全日本柔道形競技大会 五の形 優勝

平成26年全日本柔道選抜体重別選手権大会 81kg級 永瀬貴規 優勝(監督)

世界柔道選手権大会 81kg級 永瀬貴規 5位(監督)

グランドスラム・東京 81kg級 永瀬貴規 優勝(監督)

社会貢献活動

日本武道学会評議委員(平成23年～)

筑波大学社会貢献プロジェクト:「柔道の再興と武道必修化を支援する東北3県柔道指導キャラバン」(平成24年度～)

准教授 松元 剛

研究業績

1. 学会発表

Eishin TERAOKA, Tsuyoshi MATSUMOTO: CURRENT STATUS OF COACHING IN CLUB ACTIVITY AT JAPANESE JUNIOR HIGH SCHOOLS. AIESEP WORLD CONGRESS 2014, University of Auckland (Auckland, New Zealand), 2014, 2.

近藤喜成, 寺岡英晋, 松尾博一, 青山彰吾, 松元 剛: 大学生指導者の少年サッカーにおける指導実態に関する研究. 日本コーチング学会第25回大会, 筑波大学, 2014, 3.

前原拓哉, 寺岡英晋, 松尾博一, 青山彰吾, 松元 剛: サッカーの「パスを受ける」技能に関する戦術的知識とパフォーマンスについて. 日本コーチング学会第25回大会, 筑波大学, 2014, 3.

八田康平, 寺岡英晋, 松尾博一, 青山彰吾, 松元 剛: サッカーにおけるパス選択時の戦術的知識とパフォーマンスについて. 日本コーチング学会第25回大会, 筑波大学, 2014, 3.

奈良隆章, 金谷麻理子, 嗟峨 寿, 松元 剛: 大学体育における学修成果に関する研究. 日本体育学会第65回大会, 岩手大学, 2014, 8.

2. 学術論文

松元 剛, 春山圭佑, 福田 崇, 森慎太郎, 宮川俊平: 騎手のフィジカルトレーニングおよびコンディショニングに関する研究. 日本臨床スポーツ医学会誌, 22(1), 152-159, 2014.

3. その他論文

桐生習作, 小林優希, 中野勝司, 藤田湧平, 松元 剛, 三木ひろみ: Tsukuba Summer Institute for Physical Education and Sport 2013 柔道実習報告. 大学体育研究, 36, 63-71, 2014.

榎本靖士, 松元 剛, 吹田真士, 鍋山隆弘, 金谷麻理子, 奈良隆章: 共通体育における成績評価に関連する問題の検討. 大学体育研究 36, 87-90, 2014.

4. 著 書

松元 剛：フラッグフットボール、『中学体育実技』, 164-165, 学習研究社, 2014.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

一般社団法人日米アスリートライフ支援協会主催 アサヒ共済研修会「アスリートライフのすすめ アスリートから学ぶ従業員のトレーニングとコンディショニング」(アサヒビール葉山研修センター 3月25日)

岩国市・和木町小学校教育研究会主催 夏季実技研修会「フラッグフットボール」(山口県和木小学校 7月30日)

財団法人競馬共助会主催 「騎手のためのコンディショニング・フィジカルトレーニング」講演 (JRA 美浦トレーニングセンター 9月11日)

財団法人競馬共助会主催 「騎手のためのコンディショニング・フィジカルトレーニング」講演 (JRA 栗東トレーニングセンター 9月18日)

財団法人競馬共助会主催 「騎手のためのコンディショニング・フィジカルトレーニング」講演 (JRA 競馬学校 12月2日)

競技活動

筑波大学アメリカンフットボール部 部長 (関東大学アメリカンフットボール連盟・リーグ戦2部)

社会貢献活動

日本フットボール学会理事 (平成21年～)

一般社団法人日本体育学会大学体育特別委員会委員 (平成25年～)

一般社団法人日本体育学会「体罰・暴力根絶特別委員会」協力委員 (平成26年～)

公益財団法人日本フラッグフットボール協会理事 (平成22年～)

一般社団法人日米アスリートライフ支援協会理事 (平成26年～)

准教授 三 橋 大 輔

研究業績

3. その他論文

三橋大輔：U-Team Invitation に参加して. 大学体育研究 (体育センター), 36, 79-82, 2014.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

茨城国体強化練習会 (つくば市, 3月16日, 11月11日～12日)

筑波大学国際テニストーナメントイベント「シニア・ベテランテニス講座」(つくば市, 4月4日)

関東テニス協会関東ジュニア強化合宿I (つくば市, 11月29日～30日)

競技活動

硬式テニス部監督

2014 筑波大学国際テニストーナメント 男子シングルスベスト8 豊野潤也
2014 関東学生テニス選手権大会 男子ダブルス優勝 吉開健太・豊野潤也
2014 全日本学生テニス選手権 女子シングルスベスト8 菅村恵里香
2014 長崎がんばらんば国体 成年女子準優勝 古川鈴夏
2014 The 1st SWU Tennis Relationship 2014 (バンコク, 11月19日～21日)
2014 全日本学生室内テニストーナメント 男子ダブルス第3位 吉開健太・豊野潤也

社会貢献活動

筑波大学国際テニストーナメント トーナメントディレクター (平成25年4月～)
スポーツ運動学会理事 (平成24年～)
全日本学生テニス連盟部長監督会理事 (平成26年～)

准教授 山口 香

研究業績

1. 学会発表

山口 香, 松田基子, 小林好信, 橋本佐由理, 高野 修: 女子柔道選手の競技成績の変化と自己イメージや心理的競技能力との関連, 日本体育学会, 2014. 8. 28.
小林好信, 山口 香, 松田基子, 橋本佐由理: 柔道選手のスポーツ障害に関する心理的要因と心理的成長の可能性について, 日本体育学会, 2014. 8. 28.
橋本佐由理, 小林好信, 松田基子, 山口 香: 柔道選手の自己イメージやレジリエンスが心理的競技能力やスポーツ競技特性不安に与える影響, 日本体育学会, 2014. 8. 28.
山本小百合, 鈴木耕太郎, 田神一美, 桐生習作, 増地克之, 山口 香, 小俣幸嗣, 岡田弘隆: 柔道衣及び畳に付着した黄色ブドウ球菌の生残性, 第47回日本武道学会大会, 福山市立大学, 広島, 2014. 9. 11. (国際会議発表)
Yamamoto S, Suzuki K, Tagami K, Komata K, Masuchi K, Kiryu S, Yamaguchi K, Okada H: Survival of staphylococcus aureus in tatami mats and judo-gi. 3rd World Scientific Congress of Combat Sport and Martial Arts, University of Rzeszow, Poland, 2014. 10. 15-17.

3. その他論文

山口 香, Dieter TEIPEL, Reinhild KEMPER, 浦井孝夫, 市村操一: ドイツにおける柔道の技のイメージ研究がわが国の柔道指導研究に与える示唆, 筑波大学体育系紀要, 第37巻, 101-112, 2014. 3.
山口 香: 研究レポート「女性アスリートのセカンドキャリアを考えるー現状の課題, 今後の取り組み」月刊ウィラード 8月号 6-9, 公益財団法人 日本女性学習財団.

4. 著書

山口 香: 第7章嘉納治五郎と女子柔道, 現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのかーオリンピック・体育・柔道の新たなビジョン, 財団法人日本体育協会監修, ミネルヴァ書房, 191-206, 2014. 9.
山口 香, 溝口紀子: 第8章嘉納治五郎が理想とした柔道ー女子柔道に託したものー, 第10章女性スポーツの競技化とその課題ー女子柔道競技の歴史と強化を例としてー, 現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのかーオリンピック・体育・柔道の新たなビジョン, 財団法人日本体育協会監修, ミ

教育活動

1. 受賞

筑波大学 Best Faculty Member Award

2. 一般向け著書等

山口 香:「スポーツに求められるもの～暴力からの脱却」みんなのスポーツ 6月号, 12-14, 日本体育社.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

平成 25 年度横須賀市運動部活動指導者研修会 講演「これからのスポーツ・運動部活動指導で大切なこと」2014. 1. 6.

生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2014 基調講演「スポーツの力ーコーチングの義と可能性」2014. 2. 7.

2014 北区男女共同参画習慣講演「柔道一直線～選手として, そして指導者として～」2014. 6. 28.

茨城県歴史館テーマ展「いばらきスポーツものがたり」講演:「わたしの柔道ものがたり」2014. 7. 21.

平成 26 年度神栖市教育講演会 (神栖市教育委員会) 講演「コーチングの力」2014. 8. 18.

第 29 回日本女性医学学会学術集会シンポジウム「女性アスリートのヘルスケアとその指針」特別シンポジスト「女性アスリートの育成, 支援における課題」2014. 11. 1.

第 39 回全国高等学校校長協会体育部会記念講演「スポーツの力～時代にあった人材の育成～」2014. 11. 7.

平成 26 年度足立区男女参画プラザ主催講座「女性アスリートの心とからだ～過去・現在・未来～」2014. 11. 19.

社会貢献活動

株式会社ニッポン放送 番組審議委員 (2009 年～)

一般財団法人上月財団 評議員 (2010 年～)

公益財団法人日本オリンピック委員会 理事 (2011 年～)

独立行政法人日本スポーツ振興センター・国立スポーツ科学センター業績評価委員会委員 (2013 年～)

東京都教育会委員 (2013 年～)

公益財団法人 全日本柔道連盟 監事 (2013 年～)

公益財団法人 日本バレーボール協会 理事 (2013 年～)

コナミ株式会社 社外取締役 (2014 年～)

准教授 吉田 健 司

研究業績

1. 学会発表

池田英治, 岩井浩一, 吉田健司, 内山治樹: バスケットボール版 “Collective Efficacy” 尺度の変容に影響を及ぼす要因の横断的検証. 日本コーチング学会第 25 回大会, 茨城, 2014. 3.

池田英治, 内山治樹, 吉田健司, 岩井浩一: バスケットボール版 “Collective Efficacy” 尺度と凝集性および楽観性尺度との関係. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

「関東大学バスケットボール連盟主催強化練習会」指導（東京, 4月, 6月, 7月 延べ12日間）

Shu's Basketball Camp 講習（東京, 7月19日-20日）

「和歌山県バスケットボール協会強化講習会」指導（和歌山市, 12月19日）

競技活動

第63回関東大学バスケットボール選手権大会（監督） 2位

第90回関東大学バスケットボールリーグ戦（監督） 3位

第66回全日本大学バスケットボール選手権大会（監督） 優勝

第18回日本男子学生バスケットボール選抜大会（総括） 優勝

社会貢献活動

日本体育学会理事（平成15年～）

日本バスケットボール協会 ナショナル委員会（平成26年～）

日本バスケットボール協会 テクニカル委員会 男子U-24強化委員（平成22年～）

日本バスケットボール協会 テクニカル委員会 エンデバー委員（平成22年～）

全日本大学バスケットボール連盟 理事・強化副部長（平成25年～）

関東大学バスケットボール連盟 常任理事・強化部長（平成25年～）

講 師 安 藤 真太郎

競技活動

筑波大学卓球部顧問教員, 監督

2014年国民体育大会成年女子 優勝

講 師 本 谷 聡

研究業績

1. 学会発表

古屋朝映子, 本谷 聡, 長谷川聖修: 幼児を対象としたGボールを使用した運動指導における安全管理と指導方法に関する一考察-保護者への質問紙・インタビュー調査の結果をもとに-, 日本体育学会第65回大会, 岩手, 274, 2014.8.

本谷 聡, 古屋朝映子, 高橋靖彦, 武井嘉恵: 世界チームカップ・ラート競技選手権2014における有力選手の演技構成に関する研究, 日本体育学会第65回大会, 岩手, 278, 2014.8.

小島瑞貴, 本谷 聡, 古屋朝映子, 武井嘉恵, 佐々岡慧: Gボールを用いたペア体操の考案とその効果に関する実践的研究, 日本体操学会第14回大会, 茨城, 22, 2014.9.

佐々岡慧, 本谷 聡, 長谷川聖修, 古屋朝映子, 武井嘉恵, 小島瑞貴: パンボードを活用した運動誘発システムに関する研究, 日本体操学会第14回大会, 茨城, 23, 2014.9.

武井嘉恵, 鈴木玉香, 田村元延, 檜皮貴子, 古屋朝映子, 本谷 聡, 長谷川聖修: 安全な転び方習得を

目指した「ペア・リズム体操」の考案と転び方動作の変更に関する実践的研究, 日本体操学会第14回大会, 茨城, 24, 2014. 9.

4. 著書

本谷 聡 他: 2014 中学実技 体づくり運動, 学習研究社, 5-28, 2014.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

カレッジスポーツ (フジテレビラート解説) (5月26日)

平成26年度体操ゼミナール夏期研修会「体づくり運動における教材の提案」(8月24日)

平成26年度学校体育担当教員実技指導者研修会「実技指導法 (体づくり運動)」(11月4日)

日本ラート協会主催2014年度採点規則講習会「日本ラート競技選手権2014 競技規則」(11月8, 9日)

平成26年度つくば市竹園東小学校親子行事「ラート運動」(11月27日)

競技活動

Motoya S: 7th Team World Cup Wheel Gymnastics 2014 日本団体優勝 (日本代表監督), Germany/Berlin, 2014. 4. 20-4. 29.

本谷 聡 他: 2014 一般体操ジャパンチャレンジ 銀賞 (演技指導), 2014. 6. 22.

本谷 聡 他: 日本体操祭2014 出場 (演技指導), 2014. 11. 23.

本谷 聡: (公財) 日本体操協会一般体操指導員資格取得, 2014. 8. 8-8. 10.

「第20回全日本ラート競技選手権大会 (監督)」, 2014. 12. 13-12. 14.

男子 個人総合 2位 田村元延

直転部門 2位 田村元延

跳躍部門 2位 田村元延

女子 個人総合 優勝 松浦佑希 3位 小出奈実

直転部門 2位 松浦佑希

斜転部門 2位 松浦佑希

跳躍部門 優勝 松浦佑希 3位 小出奈実

社会貢献活動

Motoya S: 7th Team World Cup Wheel Gymnastics 2014 (国際審判員), Germany/Berlin, 2014. 4. 20-4. 29.

本谷 聡: 第20回全日本ラート競技選手権大会 (審判員 (主審)), 2014. 12. 13-12. 14.

本谷 聡: 第14回全日本ちゃんGボール大会 (審判員), 2014. 12. 21.

日本体操学会・常任理事 (2002年～), ジャーナル委員会委員長 (2013年～)

日本ラート協会・副会長 (2013年～), 技術・国際部委員 (1999年～)

助 教 秋 山 央

研究業績

2. 学術論文

折笠 愛, 中西康己, 秋山 央, 加藤陽一: バレーボールにおける映像デバイスを用いたフィードバックに関する研究. バレーボール研究, 16 (1), 20-24, 2014.

競技活動

2014 年度 春季関東大学男子 1 部バレーボールリーグ戦 12 位 (監督)

2014 年度 第 32 回東日本バレーボール大学選手権大会 ベスト 16 (監督)

2014 年度 秋季関東大学男子 1 部バレーボールリーグ戦 10 位 (監督)

2014 年度 第 66 回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会 ベスト 32 (監督)

社会貢献活動

全日本大学バレーボール連盟科学研究委員 (平成 24 年～)

全日本大学バレーボール連盟男子強化委員 (平成 26 年～)

山形県置賜地区バレーボール教室 7 月 27・28 日

公共機関, 企業等からの委託業務

全日本男子バレーボールチームコーチ (財団法人日本バレーボール協会)

助 教 木 越 清 信

研究業績

2. 学術論文

木越清信, 関慶太郎, 近江秀明, 山元康平, 尾縣 貢: 小学生における腕振り動作が疾走速度に及ぼす影響. 陸上競技研究, 97, 9-16, 2014.

加藤彰浩, 向井文昭, 遠藤俊典, 木越清信, 杉本和那美, 安井年文: 小学生における疾走能力と垂直跳およびリバウンドジャンプの遂行能力との関係. 99, 14-20, 2014.

6. その他

「上肢用及び下肢用疾走練習用具に関する研究」(ミズノ株式会社)

教育活動

木越清信: 陸上競技におけるタレント発掘. 中学校教育フォーラム春号. 大日本図書, 34-35, 2014.

木越清信: オリンピック招致を契機とした学校における体育・スポーツ関連の施策を考える. 中学校教育フォーラム春号. 大日本図書, 34-35, 2014.

木越清信: 再考 ドリル運動による動きの修正. 中学校教育フォーラム冬号. 大日本図書, 34-35, 2014.

競技活動

2014年 日本学生上競技対校選手権大会 女子7種競技優勝 松原 恵 コーチ

2014年 日本学生陸上競技対校選手権大会 女子4×400mリレー優勝 筑波大学 コーチ

社会貢献活動

日本陸上競技連盟強化委員（平成24年～）

助 教 小井土 正 亮

研究業績

1. 学会発表

原仲 碧, 森 政憲, 小井土正亮, 中山雅雄, 浅井 武: 育成年代サッカーコーチ（指導者）のライフストーリー研究, 日本質的心理学会第11回大会, 愛媛, 2014. 10. (ポスター)

教育活動

2. 一般向け著書等

小井土正亮: 少年サッカーから使える 超・ゲーム分析. ベースボールマガジン社, 2014.

競技活動

筑波大学蹴球部ヘッドコーチ

第88回 関東大学リーグ戦 11位

第94回 天皇杯 全日本サッカー選手権 出場

助 教 斎 藤 卓

研究業績

2. 学術論文

遠藤正紘, 斎藤 卓: 跳馬における＜側転とび1/4ひねり後転とび後方宙返り＞の着手技術に関する発生運動学的研究. 体操競技・器械運動研究 22号, 11-18, 日本体操競技・器械運動学会, 2014.

競技活動

第32回 DTB カップ（チームチャレンジ）（日本代表） 男子団体 優勝 星野力維（コーチ）

社会貢献活動

日本体操協会オリンピック強化部委員（平成26年～）

助 教 嶋 崎 達 也

研究業績

1. 学会発表

鈴木耕太郎, 嶋崎達也, 古川拓生, 中川 昭, 田神一美: 大学ラグビー部における創傷感染の要因. 第69回日本体力医学学会, 長崎, 2014. 9.

嶋崎達也, 古川拓生, 鷺谷浩輔, 千葉 剛, 中川 昭: 筑波大学ラグビー部におけるラック様相の推移. 日本コーチング学会第25回学会大会, 筑波大学, 2014. 3.

鷺谷浩輔, 古川拓生, 嶋崎達也, 千葉 剛, 大垣 亮, 小柳竜太, 中川 昭: 国内トップレベルのラグビー選手が望む理想のコーチ像に関する研究. 日本コーチング学会第25回学会大会, 筑波大学, 2014. 3.

2. 学術論文

廣瀬恒平, 田中大雄, 千葉 剛, 嶋崎達也, 安ヶ平浩: コーチングの評価に関する事例研究(Ⅱ) - I 大学ラグビー部の防御局面に着目して -. 国際武道大学紀要, 第29号, 21-27, 2013. (査読有)

廣瀬恒平, 田中大雄, 千葉 剛, 嶋崎達也, 安ヶ平浩, 加部恭史, 矢田勝也: ラグビーにおけるキック使用戦術に関する有効性の検証, 千葉体育学研究, 第36号, 9-19, 2014. (査読有)

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

高校生セブンスクリニック 講師として参加 (2014. 3. 18)

アシックスカップ セブンスクリニック 講師として参加 (2014. 7. 20)

競技活動

筑波大ラグビー部

第15回 東日本大学セブンズ選手権大会 優勝 (コーチ)

第50回 全国大学ラグビーフットボール選手権 準優勝 (ヘッドコーチ)

学生

2014年 日本代表選出 福岡堅樹 (3年生)

2014年 U20日本代表選出 山沢拓也 (2年生), 米村龍二 (1年生)

2014年 HSBCセブンズワールドシリーズ2013-2014第6戦・日本大会「東京セブンズ」日本代表選出 山本浩輝 (4年生), 福岡堅樹 (3年生)

2014年 HSBCセブンズワールドシリーズ2014-2015コアチーム昇格決定大会 (香港セブンズ) 日本代表選出 山本浩輝 (4年生), 福岡堅樹 (3年生)

2014年 男子セブンズ学生日本代表「第6回世界学生選手権」選出 本村直樹 (3年生)

助 教 吹 田 真 士

研究業績

3. その他論文

榎本靖士, 松元 剛, 吹田真士: 共通体育における成績評価に関する諸問題の検討, 大学体育研究,

4. 著 書

吹田真士：バドミントン。ステップアップ中学体育 2014。大修館書店：216-227, 2014.

吹田真士：バドミントン。ステップアップ高校スポーツ 2014。大修館書店：236-247, 2014.

教育活動

日本バドミントン協会公認 資格更新のための義務研修会講師 2014年1月

日本バドミントン協会公認 公認コーチ養成講習会講師 2014年2月

JFBC バドミントン・コーチング・キャンプ 2013つくば 講師 2014年3月

栃木県バドミントン協会 3・4級指導員養成講習会講師 2014年2月

日本バドミントン協会公認 コーチ養成講習会講師 2014年12月

茨城県国体強化事業（バドミントン競技） 2013年～

競技活動

筑波大学バドミントン部顧問・監督

第65回全日本学生バドミントン選手権大会（女子団体）優勝 2014年10月

第65回全日本学生バドミントン選手権大会（女子シングルス）第3位 漆崎真子 2014年10月

第65回全日本学生バドミントン選手権大会（女子ダブルス）第3位 加藤・柏原組 2014年10月

第57回東日本学生バドミントン選手権大会（女子団体）準優勝 2014年8～9月

第57回東日本学生バドミントン選手権大会（女子ダブルス）準優勝 加藤・柏原組 2014年8～9月

社会貢献活動

日本バドミントン協会普及指導開発部部員（2003年～）

日本バドミントン協会競技力向上コーチ養成講習会スタッフ（2003年～）

助 教 仙 石 泰 雄

研究業績

1. 学会発表

Sengoku Y, Tsunokawa T, Kobayashi K, Tsubakimoto S: Comparison of the training load during High Intensity Interval Resisted Training programed by different exercise duration. Biomechanics and Medicine in Swimming XII, Australia, 2014. 4.

Kobayashi K, Sengoku Y, Takagi H, Tsubakimoto S: Trunk and leg muscle activity during underwater undulatory swimming in male collegiate swimmers. Biomechanics and Medicine in Swimming XII, Australia, 2014. 4.

Shimoyama Y, Ito S, Nara R, Baba T, Sengoku Y, Ichikawa H, Sato D: Effects of active and passive recovery on muscle oxygenation during interval swimming. Biomechanics and Medicine in Swimming XII, Australia, 2014. 4.

Tsunokawa T, Nakashima M, Sengoku Y, Tsubakimoto S, Takagi H: A new method to evaluate breaststroke kicking technique using a pressure distribution analysis, Biomechanics and Medicine in Swimming XII, Australia, 2014. 4.

- Narita K, Takagi H, Sengoku Y, Tsubakimoto S: A case study for effects of using the lower limbs to the swimming efficiency in front crawl swimming -Comparing whole stroke and arm only-. *Biomechanics and Medicine in Swimming XII, Australia, 2014.* 4.
- Shimojo H, Sengoku Y, Tsubakimoto S, Takagi H: What differences between the role of trunk and thigh muscles during underwater undulatory swimming? *Biomechanics and Medicine in Swimming XII, Australia, 2014.* 4.
- 藤本知臣, 佐々木洋輔, 仙石泰雄, 椿本昇三, 西保 岳: 水温の違いが水中での漸増負荷運動時の呼吸循環応答及び体温・パフォーマンスに及ぼす影響. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 10.
- 西山賢太郎, 小林啓介, 仙石泰雄, 椿本昇三: 疲労に伴うフラッターキックの動作と筋活動の変化について. 2014 年日本水泳・水中運動学会年次大会, 愛知, 2014. 11.
- 金子雅紀, 小林啓介, 仙石泰雄, 椿本昇三: 男子大学競泳選手におけるバサロキックの特徴－動作と筋活動に着目して－. 2014 年日本水泳・水中運動学会年次大会, 愛知, 2014. 11.
- 佐野公英, 仙石泰雄, 椿本昇三: 競泳選手における酸素摂取動態と心拍数動態の分析－LT 強度運動開始時と終了後の応答に着目して－. 2014 年日本水泳・水中運動学会年次大会, 愛知, 2014. 11.
- 角川隆明, 川合英介, 仙石泰雄, 椿本昇三, 高木英樹: 水球選手の巻き足中に発揮される竜体力の推定. 2014 年日本水泳・水中運動学会年次大会, 愛知, 2014. 11.
- 大澤瑞樹, 岡田 明, 渡辺一志, 仙石泰雄: 激運動後のコンディショニング活動としての水中運動と陸上運動の効果の比較. 2014 年日本水泳・水中運動学会年次大会, 愛知, 2014. 11.
- 下門洋文, 仙石泰雄, 三好 扶, 椿本昇三, 高木英樹: ドルフィンキックのキック頻度と泳パフォーマンスの関係性. 2014 年日本水泳・水中運動学会年次大会, 愛知, 2014. 11.

2. 学術論文

- 下門洋文, 仙石泰雄, 椿本昇三, 高木英樹: 屋内プールおよび回流水槽におけるドルフィンキック泳のキネマティクスと競泳泳者が抱く身体感覚, *体育学研究*, 59, 237-249, 2014.
- Sengoku Y, Tsunokawa T, Kobayashi K, Tsubakimoto S: Comparison of the training load during High Intensity Interval Resisted Training programmed by different exercise duration, In: Mason B (eds.), *Biomechanics and Medicine in Swimming XII, Australian Institute of Sports*, 328-332, 2014.
- Tsunokawa T, Nakashima M, Sengoku Y, Tsubakimoto S, Takagi H: A new method to evaluate breaststroke kicking technique using a pressure distribution analysis, In: Mason B (eds.), *Biomechanics and Medicine in Swimming XII, Australian Institute of Sports*, 263-269, 2014.
- Shimojo H, Sengoku Y, Miyoshi T, Tsubakimoto S, Takagi H: Effect of imposing changes in kick frequency on kinematics during undulatory underwater swimming at maximal effort in male swimmers. *Human Movement Science*, 38, 94-105, 2014.

3. その他論文

- 角川隆明, 仙石泰雄, 椿本昇三, 高木英樹: トレーニング進行に伴う圧力分布から推定した平泳ぎ中の足部流体力の変化. *トレーニング科学*, 25, 311-318, 2014.

4. 著 書

- (公) 健康・体力づくり事業団編: 健康運動指導士養成講習会テキスト (仙石泰雄: 水泳・水中運動 (1) (2), 483-490), 南江堂, 東京, 2014.

6. その他

「速く泳ぐための競泳用水着に関する研究」共同研究（株式会社デサント）

教育活動

3. 一般向け教室、講演、マスコミ出演等

茨城県コーチ研修会「ジュニア期におけるスプリントトレーニングの位置づけ」（水戸，2月9日）

日本水泳連盟学生委員会中四国支部競泳クリニック「スプリントトレーニングの位置づけの再考・ドルフィンキックの科学的分析」（岡山大学，3月22日）

日本スイミングクラブ協会全国水泳指導者特別研修会（競泳）「最新の競泳トレーニング法について」（東京，11月9日）

日本スイミングクラブ協会東北支部・水泳指導者研修会（競泳）「最新の競泳トレーニング法について・ドルフィンキックの科学・持久力を高めるスプリントトレーニング」（福島，12月21日）

競技活動

指導業績：体育会水泳部競泳部門監督兼ヘッドコーチ

第55回日本選手権（25m）水泳競技大会

- 男子 50m 自由形 佐藤智俊 7位
- 男子 100m 背泳ぎ 金子雅紀 優勝
- 男子 200m 背泳ぎ 金子雅紀 優勝 短水路日本新記録
- 男子 200m 背泳ぎ 鏡味卓也 5位
- 男子 50m 平泳ぎ 林佑樹 3位
- 男子 200m 平泳ぎ 川合慧卓 8位
- 男子 50m バタフライ 佐藤智俊 3位
- 男子 100m バタフライ 金子雅紀 4位
- 男子 100m 個人メドレー 浦瑠一郎 7位
- 男子 400m 個人メドレー 村川 諒 5位
- 女子 50m 背泳ぎ 諸貫瑛美 2位
- 女子 100m 背泳ぎ 諸貫瑛美 2位
- 女子 50m 平泳ぎ 小林明日香 優勝
- 女子 100m 平泳ぎ 小林明日香 6位
- 女子 100m バタフライ 三輪彩奈 6位
- 女子 200m バタフライ 三輪彩奈 3位

第37回 関東学生冬季公認記録会（千葉国際）

男子 200m メドレーリレー（金子・林・佐藤・鏡味） 1.35.55 短水路日本新記録

第89回 日本選手権水泳競技大会

- 男子 100m 背泳ぎ 金子雅紀 5位 インターナショナル強化標準記録D突破
- 男子 200m 背泳ぎ 金子雅紀 5位 インターナショナル強化標準記録D突破
- 女子 50m 背泳ぎ 諸貫瑛美 3位
- 女子 100m 背泳ぎ 諸貫瑛美 4位
- 女子 200m バタフライ 三輪彩奈 8位
- 女子 50m 平泳ぎ 小林明日香 8位

第90回 日本学生選手権水泳競技大会

男子 50 自由形 関谷斗武 8 位
男子 1500m 自由形 斉藤匠海 8 位
男子 100m バタフライ 鏡味卓也 7 位
男子 400m 個人メドレー 村川 諒 5 位
男子 400m リレー (鏡味・一法師・石井・三浦) 7 位
男子 800m フリーリレー (一法師・石井・三浦・鏡味) 8 位
女子 100m バタフライ 平山友貴奈 8 位
女子 100m 背泳ぎ 諸貫瑛美 2 位
女子 200m 平泳ぎ 中山美月 7 位
女子 200m 個人メドレー 渡辺 彩 8 位
女子 400m 個人メドレー 渡辺 彩 8 位
女子 400m メドレーリレー (諸貫・小林・平山・田浦) 4 位

第 69 回 国民体育大会水泳競技大会

男子 400m 自由形 西山賢太郎 8 位
男子 100m 背泳ぎ 金子雅紀 2 位
男子 200m 個人メドレー 村川諒 7 位
女子 100m 背泳ぎ 諸貫瑛美 優勝 インターナショナル強化標準記録D突破
女子 100m 平泳ぎ 小林明日香 5 位

FINA 競泳ワールドカップ - アジアシリーズ北京大会

男子 50m 背泳ぎ 6 位, 100m 背泳ぎ 4 位, 200m 背泳ぎ 3 位, 200m バタフライ 6 位 金子雅紀

FINA 競泳ワールドカップ - アジアシリーズ東京大会

男子 100m 背泳ぎ 5 位, 100m 背泳ぎ 7 位, 200m 背泳ぎ 4 位 金子雅紀
男子 400m 個人メドレー 7 位 村川諒
女子 50m 背泳ぎ 8 位, 100m 背泳ぎ 7 位 諸貫瑛美
女子 50m 平泳ぎ 6 位 小林明日香

FINA 競泳ワールドカップ - アジアシリーズシンガポール大会

男子 100m 背泳ぎ 6 位, 100m 背泳ぎ 4 位, 200m 背泳ぎ 優勝 金子雅紀

社会貢献活動

日本水泳連盟科学委員 (平成 24 年～)
日本スイミングクラブ協会理事 (平成 25 年～)
日本水泳・水中運動学会運営委員 (平成 25 年～)
茨城県水泳連盟水泳競技力向上アドバイザー (平成 23 年～)

助 教 奈 良 隆 章

研究業績

1. 学会発表

大島 建, 奈良隆章, 川村 卓: 野球の逆傾斜を用いたピッチングドリルの即時効果について. 日本野球科学研究会第 2 回大会, 東京, 2014. 11.
梶田和宏, 川村 卓, 奈良隆章: 投手のバント処理に関する一考察. 日本野球科学研究会第 2 回大会,

東京, 2014. 11.

仁志敏久, 奈良隆章, 川村 卓: バットの握り方の違いによるスイングスピードおよびスイング軌道.
日本野球科学研究会第2回大会, 東京, 2014. 11.

横山勇大, 川村 卓, 奈良隆章: 体幹トレーニングが打球速度に及ぼす即時効果. 日本野球科学研究会
第2回大会, 東京, 2014. 11.

吉井理人, 奈良隆章, 川村 卓: 野球におけるバッテリー間のコミュニケーションについて. 日本野球
科学研究会第2回大会, 東京, 2014. 11.

奈良隆章, 金谷麻理子, 嵯峨 寿, 松元 剛: 大学体育における学修成果に関する研究. 日本体育学会
第65回大会, 岩手, 2014. 8.

2. 学術論文

奈良隆章, 島田一志, 永森久士, 杉林孝法, 川村 卓: 野球のティー打撃におけるコース間でのインパ
クトパラメータの相違. いばらき健康・スポーツ科学, 31, 1-8, 2014.

森本吉謙, 伊藤浩志, 川村 卓, 奈良隆章: 投球運動における高強度領域での主観的努力度の変化がボー
ルスピードに及ぼす影響とその再現性. コーチング学研究, 27 (2), 195-202, 2014.

教育活動

1. 受賞

つくば・地域連携推進賞 (特別賞) 復興作業およびスポーツ振興を通じた被災地での支援活動

競技活動

2014年首都大学野球秋季リーグ戦3位 (コーチ)

第10回関東地区大学野球選手権大会出場 (コーチ)

社会貢献活動

平成26年度筑波大学社会貢献プロジェクト 復興作業およびスポーツ振興を通じた被災地での支援活
動

助 教 ネメシュ ローランド

研究業績

1. 学会発表

藤本 元, ネメシュ・ローランド: 男子ハンドボール競技における5対6の数的不利な状況での攻撃に
ついて-学生レベルと世界レベルとを比較して-. 日本体育学会第65回大会, 岩手, 2014. 8.

永野翔太, ネメシュ・ローランド, 藤本 元, 會田 宏: ハンガリーにおけるハンドボールの一貫指導
プログラム-13歳から16歳までのフィジカル, コーディネーション, 人格形成指導プログラム
に着目して-. 日本体育学会第65回大会, 岩手.

ネメシュ・ローランド: ヨーロッパと日本におけるハンドボールコーチング. 日本コーチング学会第25
回学会大会, 筑波大学.

2. 学術論文

藤本 元, 山手就策, ネメシュ・ローランド, 山田永子: 男子ハンドボール競技における 5 対 6 の数的不利な状況での攻撃について - 学生レベルと世界レベルとを比較して -, ハンドボールリサーチ, 3, 23-28, 2014.

Roland Nemes: Scoring efficiency development of two Japanese U21 national players, regarding 1:1 with the goalkeeper. European Handball Federation Master Coach thesis, http://cms.eurohandball.com/PortalData/1/Resources/4_activities/3_pdf_act/Final_Version-_MC_Theses.pdf

3. その他論文

古橋幹夫, ネメシュ・ローランド, 藤本 元: 未来のハンドボールを担う子どもたちに, 私たちは何をどのように教えたらいのか. ハンドボールリサーチ, 3, 49-55, 2014.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

東北地区大学ハンドボール研修会

小学生・一般指導者講習会ゲームのルール変更によって得られる効果 (秋田県, 3月23日)

競技活動

2014 関東学生ハンドボール春季リーグ戦 2位 コーチ

2014 関東学生ハンドボール秋季リーグ戦 3位 コーチ

全日本学生ハンドボール選手権大会出場 コーチ

社会貢献活動

財団法人日本ハンドボール協会参事 (平成 21 年～)

助 教 藤 本 元

研究業績

1. 学会発表

藤本 元, ネメシュ・ローランド: 男子ハンドボール競技における 5 対 6 の数的不利な状況での攻撃について - 学生レベルと世界レベルとを比較して -, 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

永野翔太, ネメシュ・ローランド, 藤本 元, 會田 宏: ハンガリーにおけるハンドボールの一貫指導プログラム - 13 歳から 16 歳までのフィジカル, コーディネーション, 人格形成指導プログラムに着目して -, 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

栗山雅倫, 田村修治, 藤本 元, 横山克人: ハンドボール競技における戦術的能力のトレーナビリティについて - 攻撃局面に着目して -, 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 8.

2. 学術論文

藤本 元, 山手就策, ネメシュ・ローランド, 山田永子: 男子ハンドボール競技における 5 対 6 の数的不利な状況での攻撃について - 学生レベルと世界レベルとを比較して -, ハンドボールリサーチ, 3, 23-28, 2014.

藤本 元, 山田永子, 會田 宏: ハンドボール競技者における高校時代の練習時間と競技力との関係に対する意識－男女差に着目して－. いばらき健康・スポーツ科学, 31, 17-21, 2014.

Eiko Yamada, Hiroshi Aida, Hajime Fujimoto, Akira Nakagawa T: T Comparison of Game Performance among European National Women's Handball Teams. International Journal of Sport and Health Science, 12, 1-10, 2014.

3. その他論文

古橋幹夫, ネメシュ・ローランド, 藤本 元: 未来のハンドボールを担う子どもたちに, 私たちは何をどのように教えたらいのか. ハンドボールリサーチ, 3, 49-55, 2014.

教育活動

2. 一般向け著書等

藤本 元: 次世代ハンドボールの“戦術的思考トレーニング”. ジャパンライム株式会社, 2014.

笹倉清則, 藤本 元 (監修): トップコーチセミナー 2014「世界における攻撃のトレンドとそのトレーニング方法」－ジュニア世代での攻撃戦術能力の獲得を目指して－. 財団法人日本ハンドボール協会指導委員会, 2014.

藤本 元 (編集): ナショナルトレーニングシステム 2014. 財団法人日本ハンドボール協会, 2014.

藤本 元: ハンドボールスキルアップシリーズ 目からウロコのシュート術. スポーツイベントハンドボール編集部, 10-63, 2014.

藤本 元: コンタクトプレーを取り入れた機能的練習法～攻撃のポジションプレー &6, 0 ゾーン DF の完成 Vol.3～・スポーツイベントハンドボール 12月号. 株式会社スポーツイベント, 10-63, 2014.

藤本 元: コンタクトプレーを取り入れた機能的練習法～攻撃のポジションプレー &6, 0 ゾーン DF の完成 Vol.2～・スポーツイベントハンドボール 11月号. 株式会社スポーツイベント, 128-131, 2014.

藤本 元: コンタクトプレーを取り入れた機能的練習法～攻撃のポジションプレー &6, 0 ゾーン DF の完成 Vol.1～・スポーツイベントハンドボール 10月号. 株式会社スポーツイベント, 98-101, 2014.

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

愛媛県ハンドボール協会アドバイザーコーチ事業 (愛媛県, 1～3月, 延べ6日間)

小・中・高等学校・一般指導者講習会「攻撃における判断力を養うトレーニング～1対1から・体罰防止について」(熊本県, 2月22日)

競技活動

2014 関東学生ハンドボール春季リーグ戦 2位 監督

2014 関東学生ハンドボール秋季リーグ戦 3位 監督

全日本学生ハンドボール選手権大会出場 監督

社会貢献活動

財団法人日本ハンドボール協会指導委員会中央委員 (平成 25 年～)

財団法人日本ハンドボール協会 NTS 技術指導副委員長 (平成 26 年～)

財団法人日本ハンドボール協会 NTS 指導内容策定委員（平成 23 年～）
財団法人日本ハンドボール協会 U-12 ゲーム様式検討委員（平成 24 年～）
日本ハンドボール学会理事（平成 24 年～）
日本ハンドボール学会大会実行委員（平成 24 年～）

助 教 山 田 永 子

研究業績

1. 学会発表

山田永子：ヨーロッパにおけるジュニア・アスリートを取り巻くトレーニング環境－ノルウェー，オランダ，デンマークを例に－. 日本ハンドボール学会第 2 回大会，東京，2014. 2.
伊東裕希，山田永子：男子ハンドボール競技における世界トップレベルのセンタープレイヤーの得点能力に関する研究－ニコラ・カラバティッチ，ダリボー・ドイデアアの 2 選手に着目して－. 日本ハンドボール学会第 2 回大会，東京，2014. 2.
Yamada Eiko: Evaluation of attack-contribution in collegiate women's handball. 7th International Scientific Conference on Kinesiology, Croatia, 2014, 5.
Yamada Eiko: Comparison of Trainings for Young Players in European Handball. 1st Asia-Pacific Conference on Coaching Science, Japan, 2014, 7.

2. 学術論文

Yamada E., Aida H., Fujimoto H., Nakagawa A.: Comparison of game performance among European national women's handball teams. International Journal of Sport and Health Science, 12, 1-10, 2014.
Yamada E.: Evaluation of attack-contribution in collegiate women's handball. 7th International Scientific Conference on Kinesiology Proceedings, 422-424, 2014.
藤本 元，山手就策，ネメシュ・ローランド，山田永子：男子ハンドボール競技における 5 対 6 の数的不利な状況での攻撃について－学生レベルと世界レベルとを比較して－. ハンドボールリサーチ，3，23-28，2014.
藤本 元，山田永子，會田 宏：ハンドボール競技者における高校時代の練習時間と競技力との関係に対する意識－男女差に着目して－. いばらき健康・スポーツ科学，31，17-21，2014.

4. 著 書

山田永子，會田 宏，中原麻衣子，原 史織：小学校におけるハンドボールの授業＜ゲームでまなぶ楽しいハンドボール＞. イセブ，2014.

競技活動

2014 関東学生ハンドボール連盟春季リーグ戦 女子 1 部 優勝 監督
2014 関東学生ハンドボール連盟秋季リーグ戦 女子 1 部 3 位 監督
2014 長崎がんばらんば国体 茨城県成年女子ハンドボール 5 位 監督
2014 高松宮記念杯女子第 50 回全日本学生ハンドボール選手権大会 3 位 監督

社会貢献活動

公益財団法人日本ハンドボール協会 ナショナルアカデミー強化スタッフ
世界ハンドボール連盟 Handball at school 講師
日本ハンドボール学会理事
日本ハンドボール学会編集委員
日本体育協会モデル・コア・カリキュラム作成ワーキングチーム

助 教 渡 邊 仁

研究業績

1. 学会発表

佐藤冬果, 渡邊 仁, 向後佑香: 南会津アドベンチャーキャンプの事業評価と地域連携. 第 18 回日本キャンプ会議, 東京, 2014. 5.
藤田花子, 井村 仁, 渡邊 仁: 国際ワークキャンプ参加報告と参加動機に関する調査. 第 18 回日本キャンプ会議, 東京, 2014. 5.
坂本昭裕, 向後佑香, 吉松 梓, 渡邊 仁, 杉岡品子: 野外教育における心理臨床的アプローチ事例に学ぶ V -. 日本野外教育学会第 17 回大会, 東京, 2014. 6.

2. 学術論文

渡邊 仁: 野外教育は危険を冒すに値するかー冒険の意義と安全教育ー. 野外教育情報, 22, 40-48, 2014.
佐藤冬果, 渡邊 仁, 向後佑香: 南会津アドベンチャーキャンプの実践と地域連携の可能性. キャンプ研究, 17, 15-21, 2014.

3. その他論文

渡邊 仁: カラダ (身体性) をとりもどす. 日本野外教育学会ニュースレター, 67, 2, 2014.
渡邊 仁: 南会津アウトドアフィールド開拓誌 (福島県地域づくり総合支援事業). NPO 法人みなみあいつ森林ネットワーク, 2014.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

大学スキー研究会「平成 25 年度大学体育スキー指導者研究集会 テレマークスキー」講師 (1 月 5 日)
立正大学サッカー部「野外研修プログラム」講師 (3 月 10 日)
栃木 SC ユース「野外研修プログラム」講師 (3 月 21 日)
Tsukuba Outdoor Education Lab. 「南会津スキーキャンプ」実施責任者 (3 月 27 日～ 30 日)
下條整形外科「野外研修プログラム」講師 (4 月 10 日)
財団法人日本サッカー協会「公認 S 級コーチ養成講習会野外研修」講師 (5 月 18 日)
東京外国語大学端艇部「野外研修プログラム」講師 (5 月 31 日)
鹿嶋市市民会議高校生会「しゃべり場」講師 (6 月 28 日～ 29 日)
筑波大学芸術専門学群「フレッシュマンセミナー: コミュニケーションプログラム」指導責任者 (7 月 6 日)
柏レイソルアライアンスアカデミー野田「野外研修プログラム」講師 (7 月 26 日)

Tsukuba Outdoor Education Lab. 「南会津アドベンチャーキャンプ」実施責任者（8月3日～8日）

茨城県ジュニア選手育成強化プログラム「チームワークコミュニケーションスキル」講師（11月8日）

競技活動

筑波大学カヌークラブ（スラローム部門）顧問

社会貢献活動

日本野外教育学会理事（2012年～）

日本スキー学会理事（2012年～）

大学スキー研究会全国幹事（2011年～）

公益社団法人日本キャンプ協会運営委員（2012年～）

公共機関、企業等からの委託業務

公益社団法人日本キャンプ協会 Camp Meeting in Japan 2014 企画運営

日本野外教育学会第17回大会実行委員

特任助教 折 笠 愛

研究業績

2. 学術論文

折笠 愛, 中西康己, 秋山 央, 加藤陽一: バレーボールにおける映像デバイスを用いたフィードバックに関する研究. バレーボール研究, 16, 20-24, 2014.

松田裕雄, 小俣よしのぶ, 渡 和由, 高橋義雄, 岡田幸彦, 折笠 愛, 濱崎元直, 武田丈太郎, 相原正道: スポーツ産業市場を活性化する起業家的人材育成プログラムの開発と実践－筑波大学未来構想大学講座「プロフェッショナルマネジメント－スポーツで学ぶビジネスとキャリア」(全16単位)より－. VENTURE REVIEW, 25, 67-72, 2015.

特任助教 荻 山 靖

研究業績

1. 学会発表

北崎悦子, 荻山 靖, 関子浩二: 競技力と人間力から評価した高卒と大卒テニス競技者の特性. 第26回テニス学会, 東京, 2014. 12.

荻山 靖, 関子浩二: スプリント走に対するリバウンドジャンプを用いたプライオメトリクスの有効性: 支持脚力発揮特性に着目して. 第27回日本トレーニング科学学会大会, 東京, 2014. 11.

林 陵平, 吉田拓矢, 荻山 靖, 関子浩二: クリーンエクササイズにおけるキャッチ動作をトレーニング指導することの重要性～地面反力と下肢3関節のキネティクスをエビデンスにして～. 第27回日本トレーニング科学学会大会, 東京, 2014. 11.

荻山 靖, 関子浩二: 立位姿勢からのバウンディングにおける踏切脚の力発揮特性: 跳躍歩数の相違に着目して. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 09.

- 吉田拓矢, 丸山敦夫, 大野果穂, 林 陵平, 苅山 靖, 関子浩二: ドロップジャンプにおける下肢主働筋と拮抗筋の大脳皮質運動野内の興奮性に関する相違. 第 69 回日本体力医学会大会, 長崎, 2014. 09.
- 苅山 靖, 関子浩二: Stiffness 特性から見たバウンディングとリバウンドジャンプの階層構造関係に関するトレーニング学的研究. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 08.
- 吉田拓矢, 丸山敦夫, 苅山 靖, 林 陵平, 関子浩二: ドロップジャンプにおける大脳皮質運動野皮質内興奮性とパフォーマンスの関係. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 08.
- 中野 瞳, 苅山 靖, 関子浩二: 女子走幅跳選手の体重管理に関するコーチング学的研究. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 08.
- 内藤 景, 苅山 靖, 谷川 聡: 専門的準備期から試合期への疾走能力と走動作の縦断的变化. 日本体育学会第 65 回大会, 岩手, 2014. 08.
- 戸邊直人, 苅山 靖, 関子浩二: 男子走高跳トップ選手におけるパフォーマンスの向上とそのトレーニングに関するコーチング学的研究～オリンピック標準記録である 2m28 まで記録を向上させた男子選手の事例を手がかりにして～. コーチング学会第 25 回大会, 茨城, 2014. 03.
- 影山湧亮, 吉田拓也, 苅山 靖, 関子浩二: 棒高跳におけるポール走速度を高める要因に関する研究～ポール未保持走とポール保持走における各種パラメータの比較を手がかりにして～. コーチング学会第 25 回大会, 茨城, 2014. 03.

2. 学術論文

- 苅山 靖, 関子浩二: ジャンプエクササイズを用いたプライオメトリックトレーニングにおける手段および方法の構築－バイオメカニクス知見をエビデンスとして用いることの重要性－. バイオメカニクス研究, 18 (3), 176-188, 2014.
- 苅山 靖, 渡来真人, 関子浩二: サッカーのインステップキックにおけるボール速度に影響する支持脚の筋力およびジャンプ能力: 助走速度の相違に着目して. 体育学研究, 59 (2), 755-770, 2014.
- 苅山 靖, 関子浩二: 跳躍方向の異なるバウンディングにおける踏切脚の力発揮特性. 体育学研究, 59 (2), 397-411, 2014.
- 内藤 景, 山元康平, 苅山 靖, 谷川 聡: 専門的準備期から試合期への加速局面におけるスプリント走パフォーマンスの縦断的变化. 陸上競技研究, 98 (3), 24-33, 2014.
- 藤林献明, 坂口将太, 苅山 靖, 関子浩二: リバウンドロングジャンプ指数の優劣を決定する踏切局面の技術的要因. 体育学研究, 59 (1): 175-188, 2014.
- 坂口将太, 藤林献明, 苅山 靖, 関子浩二: 2 歳から 6 歳までの幼児におけるリバウンドジャンプ遂行能力と疾走能力との関係. 発育発達研究, 62, 24-33, 2014.
- 藤林献明, 苅山 靖, 木野村嘉則, 関子浩二: リバウンドロングジャンプテストの遂行能力からみた水平片脚跳躍において高い接地速度に対応するための踏切動作. 陸上競技学会誌, 12, 33-44, 2014.

5. 受賞

- 学会賞 (共同)「藤林献明, 苅山 靖, 木野村嘉則, 関子浩二: リバウンドロングジャンプテストの遂行能力からみた水平片脚跳躍において高い接地速度に対応するための踏切動作. 陸上競技学会誌, 12, 33-44, 2014.」日本陸上競技学会, 2014. 11.
- 実行委員会特別賞 (筆頭・共同)「苅山 靖, 関子浩二: スプリント走に対するリバウンドジャンプを用いたプライオメトリクスの有効性: 支持脚力発揮特性に着目して.」第 27 回日本トレーニング

科学大会, 2014. 11.

若手研究 優秀賞 (筆頭・共同) 「**荻山 靖**, 関子浩二: Stiffness 特性から見たバウンディングとリバウンドジャンプの階層構造関係に関するトレーニング学的研究。」日本体育学会第 65 回大会, 2014. 08.

若手研究 大会委員長賞 (共同) 「**吉田拓矢**, **丸山敦夫**, **荻山 靖**, **林 陵平**, 関子浩二: ドロップジャンプにおける大脳皮質運動野皮質内興奮性とパフォーマンスの関係。」日本体育学会第 65 回大会, 2014. 08.

学会大会賞 (共同) 「**戸邊直人**, **荻山 靖**, 関子浩二: 男子走高跳トップ選手におけるパフォーマンスの向上とそのトレーニングに関するコーチング学的研究～オリンピック標準記録である 2m28 まで記録を向上させた男子選手の事例を手がかりにして～」コーチング学会第 25 回大会, 2014. 03.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

平成 26 年度茨城県ジュニア選手育成強化プログラム事業講師 体力を効果的に高めるには (9 月 27 日)

社会貢献活動

日本体育学会 茨城地域 幹事 (総務担当) (2014 年～)

特任助教 クラリク アンドレア

競技活動

第 62 回全日本大学生弓道選手権大会 女子 3 位 監督

第 38 回全日本学生弓道女子王座決定戦 ベスト 4 監督

特任助教 向 後 佑 香

研究業績

1. 学会発表

佐藤冬果, 渡邊 仁, 向後佑香: 南会津アドベンチャーキャンプの事業評価と地域連携. 日本キャンプ協会第 18 回キャンプ会議, 東京, 2014. 5.

向後佑香, 坂本昭裕: キャンプにおける自己概念の変容に関するメタ分析. 日本野外教育学会第 17 回大会, 東京, 2014. 6.

Sakamoto A, Kogo Y: Using the Landscape Montage Technique on Adolescents with Developmental Disorder in Outdoor Adventure Therapy. Association for Experiential Education's 2014 Annual International Conference, Tennessee, 2014. 10.

2. 学術論文

金谷麻理子, 小山宏之, 富川理充, 向後佑香 他: 「大学体育」のカリキュラムの違いが長期的な教育効果に及ぼす影響 - T 大学卒業生を対象としたアンケート調査に基づいて -. 大学体育研究,

36, 17-28, 2014.

村瀬洋介, 長岡裕里子, 橋富達也, 酒井 紳, 下門洋文, 安藤邦彬, 向後佑香 他: 集中実技「マリンスポーツ」における学習目標の達成度と授業満足度に影響を与える要因の検討～海への入水時間と学生の体調について～. 大学体育研究, 36, 29-37, 2014.

3. その他論文

佐藤冬果, 渡邊 仁, 向後佑香: 南会津アドベンチャーキャンプの実践と地域連携の可能性. キャンプ研究, 17, 15-21, 2014.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

「とわの森三愛高校野外研修」指導 (2014年10月, 筑波大学)

「Tsukuba Outdoor Education Lab. “南会津アドベンチャーキャンプ”」指導 (2014年8月, 福島県)

筑波大学芸術専門学群フレッシュマンセミナーコミュニケーションプログラム指導 (2014年7月, 山梨県)

筑波大学人間総合科学研究科グループワーク指導 (2014年7月, 筑波大学)

「NEC グリーンロケットチームビルディング」指導 (2014年7月, 筑波大学)

「JOC ナショナルコーチアカデミー野外研修」指導 (2014年6月, 筑波大学)

「東京外国語大学端艇部野外研修プログラム」指導 (2014年5月, 筑波大学)

「JFA S級コーチ養成講習会野外研修」指導 (2014年5月, 筑波大学)

「JFA アカデミー福島アウトドアトレーニングプログラム」指導 (2014年4月, 筑波大学)

「クーバーアカデミーグループワーク」指導 (2014年4月, 筑波大学)

「函館工業高校サッカー部野外研修」指導 (2014年3月, 筑波大学)

「栃木 SC ユース野外研修プログラム」指導 (2014年3月, 筑波大学)

「ロアッソ熊本グループワークトレーニング」指導 (2014年1月, 熊本県)

社会貢献活動

日本野外教育学会第17回大会実行委員会 (2014年)

特任助教 角 川 隆 明

研究業績

1. 学会発表

角川隆明, 川合英介, 仙石泰雄, 椿本昇三, 高木英樹: 水球選手の巻き足中に発揮される流体力の推定.

日本水泳・水中運動学会 2014年次大会, 愛知, 2014. 11.

角川隆明: パネルディスカッション「平泳ぎを科学する」2020年東京オリンピックセンターポールに日の丸を. 日本水泳・水中運動学会 2014年次大会, 愛知, 2014. 11.

Tsunokawa T, Nakashima M, Sengoku Y, Tsubakimoto S, Takagi H: A new method to evaluate breaststroke kicking technique using a pressure distribution analysis. 12th International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming, Australia, 2014. 5.

2. 学術論文

角川隆明, 仙石泰雄, 椿本昇三, 高木英樹: トレーニング進行に伴う圧力分布から推定した平泳ぎ中の足部流体力の変化. トレーニング科学, 25, 311-318, 2014.

5. 受賞

12th International Symposium on Biomechanics and Medicine in Swimming, Archimedes Award (若手最優秀賞) 受賞. Australia, 2014. 5.

特任助教 中野美沙

研究業績

1. 学会発表

Hoang The Nguyen, 衛藤 昂, 前田 奎, 水島 淳, 廣瀬健一, 中野美沙, 大山卞圭悟: 男子やり投競技者の体力水準. 日本陸上競技学会第13回大会, 北海道, 2014. 11.

3. その他論文

中野美沙, 大山卞圭悟, 尾縣 貢: 女子やり投げ競技者における下肢のトレーニングが跳躍運動の遂行能力に与える影響. いばらき健康・スポーツ科学, 31, 55-58, 2014.

6. その他

平成26年度茨城体育学会研究奨励金

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

茨城県立日立第一高等学校健康教育講座「スポーツ選手のための機能向上トレーニング」(11月6日)

競技活動

指導業績 (陸上競技部アシスタントコーチ)

● IAAF WORLD JUNIOR CHAMPIONSHIPS 2014

女子やり投 予選 13位 久世生宝

● 第98回日本陸上競技選手権大会

男子

ハンマー投 3位 保坂雄志郎

女子

円盤投 8位 辻川美乃利

ハンマー投 2位 勝山眸美

● 第69回国民体育大会

成年女子ハンマー投 5位 勝山眸美

7位 大崎かな

成年女子やり投 6位 久世生宝

● 天皇賜杯 第83回日本学生陸上競技対校選手権大会

男子

砲丸投	6位	森下大地
ハンマー投	1位	保坂雄志郎
やり投	2位	中嶋善寛
	3位	園田健太
	6位	眞里谷健司
男子総合得点	3位	

女子

円盤投	4位	辻川美乃利
	8位	知念莉子
ハンマー投	1位	勝山眸美 関東学生新記録
	5位	大崎かな
やり投	1位	久世生宝 大会新記録
女子総合得点	1位	

● 2014 日本学生陸上競技個人選手権大会

男子

砲丸投	4位	森下大地
円盤投	3位	前田 奎
やり投	4位	中嶋善寛
	6位	眞里谷健司

女子

円盤投	7位	知念莉子
ハンマー投	2位	勝山眸美
	7位	大崎かな
やり投	6位	久世生宝

● 第30回日本ジュニア陸上競技選手権大会

男子

砲丸投	1位	赤間祐一
ハンマー投	6位	齋藤淳平

女子

円盤投	3位	辻川美乃利
やり投	2位	前野 舞

社会貢献活動

日本陸上競技学会幹事（平成26年4月～）

特任助教 濱崎裕介

競技活動

第68回全日本体操競技団体選手権大会 8位 コーチ

社会貢献活動

- 第 68 回全日本学生体操競技選手権大会 審判員
第 47 回東日本学生体操競技選手権大会 審判員
平成 26 年度関東学生体操競技新人大会 審判員

特任助教 朴 京 眞

研究業績

1. 学会発表

- 朴 京眞, 村田芳子, 山崎朱音, 伊藤茉野: 教員養成課程におけるダンス授業のあり方 - T 大学の「ダンス実技」の授業を事例に - . スポーツ教育学研究第 34 回大会号, 愛媛県, 2014. 10.
Park K., Murata Y., Yamazaki A.: A method to indicate the value of dance in the education content of physical education: a comparison between Japan and Korea, 19th Annual Congress of the European College of Sport Science, Amsterdam, 2014. 7.

2. 学術論文

- 山崎朱音, 村田芳子, 朴 京眞: 創作ダンスの指導における指導言語の意味と動きをみる観点: 教材「新聞紙を使った表現」を対象に. 体育学研究, 59 (1), 203-226, 2014.

4. 著 書

- 朴 京眞: 韓国における「身体活動の価値」を中心として教育課程. 体育科教育, 62 (9), 34-37, 2014.
朴 京眞, 村田芳子: 日本と韓国の体育科におけるダンスに関する内容の比較研究 - 日本の「2008 年学習指導要領」と韓国の「2007 年改訂教育課程」を中心に - . 女子体育, 56 (6・7), 56-57, 2014.

6. その他

- 「武道等指導推進事業（武道等の指導成果の検証）：教員養成課程におけるダンス授業の現状と改善法の検討」（文部科学省委託事業）

教育活動

2. 一般向け著書等

- 朴 京眞: 日本の大学スポーツ. ソウルスポーツ 10 月号, 2014. 10.

社会貢献活動

- 日本女子体育連盟発刊雑誌「女子体育」編集委員（平成 26 年～）

特任助教 古 屋 朝映子

研究業績

1. 学会発表

- 古屋朝映子, 田村元延, 鈴木王香, 長谷川聖修: 乳幼児を持つ母親における子どもの運動遊びに関する

危険認識についての一考察. 日本コーチング学会第 25 回大会, 茨城, 2014. 3.

古屋朝映子, 本谷 聡, 長谷川聖修: 幼児を対象とした G ボールを使用した運動指導における安全管理と指導方法に関する一考察～保護者への質問紙・インタビュー調査の結果をもとに～. 第 65 回日本体育学会, 岩手, 2014. 8.

本谷 聡, 古屋朝映子, 高橋靖彦, 武井嘉恵: 世界チームカップ・ラート競技選手権 2014 における有力選手の演技構成に関する研究. 第 65 回日本体育学会, 岩手, 2014. 8.

古屋朝映子, 武井嘉恵, 小出奈実, 小山勇氣, 小島瑞貴, 長谷川聖修: 震災被災者の語りからみる体操教室参加の意味づけ. 日本体操学会第 14 回大会, 茨城, 2014. 9.

武井嘉恵, 鈴木王香, 田村元延, 檜皮貴子, 古屋朝映子, 本谷 聡, 長谷川聖修: 安全な転び方習得を目指した「ペア・リズム体操」の考案と転び方動作の変容に関する実践的研究. 日本体操学会第 14 回大会, 茨城, 2014. 9.

小島瑞貴, 本谷 聡, 古屋朝映子, 武井嘉恵, 佐々岡慧: G ボールを用いたペア体操の考案とその効果に関する実践的研究. 日本体操学会第 14 回大会, 茨城, 2014. 9.

佐々岡慧, 本谷 聡, 長谷川聖修, 古屋朝映子, 武井嘉恵, 小島瑞貴: パソボードを活用した運動誘発システムに関する研究. 日本体操学会第 14 回大会, 茨城, 2014. 9.

2. 学術論文

古屋朝映子, 田村元延: 幼児の自発的な動きを引き出す用具に関する事例研究～使用方法を示さない遊具「ビリボ」に着目して. 体操研究, 1-9, 2014.

田村元延, 古屋朝映子, 高橋靖彦, 鈴木王香, 長谷川聖修: 小学校中学年を対象とした「体づくり運動」教材の検討～G ボールを用いた運動指導に着目して～. 体操研究, 10-19, 2014.

3. その他論文

古屋朝映子: 幼児の自発的な動きを引き出す用具「ビリボ」に関する事例研究～幼児の遊び方の特徴に着目して～. 筑波大学体育系紀要第 37 巻, 145-148, 2014.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

「うつくしま体操教室」指導補助

競技活動

筑波大学体操部コーチ

第 20 回全日本ラート競技選手権大会 審判員

特任助教 松 倉 啓 太

研究業績

1. 学会発表

Keita, Matsukura; Takeshi, Asai; Keiko, Sakamoto: Characteristics of Movement and Force Exerted by Soccer Goalkeepers During Diving Motion. The 2014 Conference of the International Sports Engineering Association, Sheffield Hallam University, 2014. 7.

沼津直樹, 藤井範久, 中山雅雄, 松倉啓太: 準備動作後の股関節外転動作がゴールキーパーのセービング動作に与える影響. 日本体育学会 65 回大会, 岩手大学, 2014. 8.

3. その他論文

Keita Matsukura; Takeshi Asai; Keiko Sakamoto: Characteristics of Movement and Force Exerted by Soccer Goalkeepers During Diving Motion. *Procedia Engineering (The Engineering of Sport 10)*, 44-49, 2014.

5. 受賞

第 28 回筑波大学河本体育科学研究奨励賞 「サッカーゴールキーパーにおけるダイビング動作の力発揮特性」

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

「ザ・データマン～スポーツの真実は数字にあり～ゴールキーパーが攻撃の要!? (NHK BS1)」(5月25日放送)

索引

体育・スポーツ学

氏名	頁
岡出美則	1
菊幸一	2
齋藤健司	4
酒井利信	5
坂入洋右	6
真田久	8
清水諭	10
清水紀宏	11
藤堂良明	12
中込四郎	12
松村和則	14
柳沢和雄	15
大石純子	16
齊藤まゆみ	17
嵯峨寿	19
澤江幸則	20
高橋義雄	23
仲澤眞	24
長谷川悦示	25
深澤浩洋	26
三木ひろみ	27
三田部勇	28
宮崎明世	29
國部雅大	30
成瀬和弥	30
山口拓	31
李燦雨	32
荒牧亜衣	33
桐生習作	34
松畑尚子	35
村上祐介	35
笠野英弘	36

健康体力学

氏名	頁
阿江通良	37
大森肇	39
木塚朝博	40
久野譜也	42
白木仁	47
征矢英昭	48
田神一美	53
武田文	53
武政徹	55
田中喜代次	56
徳山薫平	64
鍋倉賢治	65
西嶋尚彦	67
西平賀昭	68
西保岳	69
野津有司	70
藤井範久	71
本田靖	74
前田清司	77
水上勝義	81
宮川俊平	82
足立和隆	85
榎本靖士	85
大藏倫博	87
麻見直美	90
小池関也	94
柴田愛	97
竹村雅裕	98
橋本佐由理	101
向井直樹	105
渡部厚一	106
岡本正洋	107
赤澤暢彦	108
片岡千恵	109
福田崇	110
久保大輔	111

鈴木耕太郎	112
山元勇樹	112

コーチング学

氏名	頁
會田宏	115
浅井武	117
井村仁	117
内山治樹	118
大高敏弘	119
尾縣貢	119
木内敦詞	121
香田郡秀	123
小俣幸嗣	124
坂本昭裕	125
佐野淳	126
関子浩二	127
高木英樹	131
椿本昇三	133
中川昭	135
長谷川聖修	136
本間三和子	137
村田芳子	139
森俊男	141
山田幸雄	141
渡辺良夫	142
有田祐二	142
大山卞圭悟	143
岡田弘隆	146
金谷麻理子	147
河合季信	148
川村卓	149
谷川聡	152
寺山由美	153
中西康己	154
中村剛	154
中山雅雄	154
鍋山隆弘	155

古川拓生	156
増地克之	157
松元剛	158
三橋大輔	159
山口香	160
吉田健司	161
安藤真太郎	162
本谷聡	162
秋山央	164
木越清信	164
小井土正亮	165
斎藤卓	165
嶋崎達也	166
吹田真士	166
仙石泰雄	167
奈良隆章	170
ネメシュ ローランド	171
藤本元	172
山田永子	174
渡邊仁	175
折笠愛	176
荻山靖	176
クラリク アンドレア	178
向後佑香	178
角川隆明	179
中野美沙	180
濱崎裕介	181
朴京眞	182
古屋朝映子	182
松倉啓太	183

平成 27 年 3 月発行

発行者 筑波大学体育系長 中川 昭
〒 305-8574 茨城県つくば市天王台 1-1-1
電 話 029-853-2590

印 刷 株式会社 イ セ ブ
〒 305-0005 茨城県つくば市天久保 2-11-20
電 話 029-851-2515

